1　治療状況

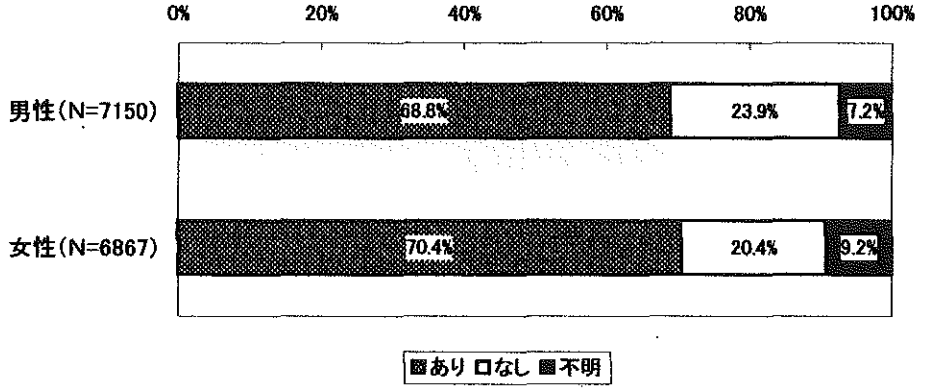
(1)治療中の疾病

現在治療中の疾病を持つのは9,750人(69.6%)であった。

＜性別比較―治療中の疾病＞

男性7,145人のうち4,918人(68.8%)が、女性6,867人のうち4,832人(70.4%)が治療中の疾病を持っていた。不明は男性517人(7.2%)、女性は632人(9.2%)であった(P<0.01)(図1(1)-1)。

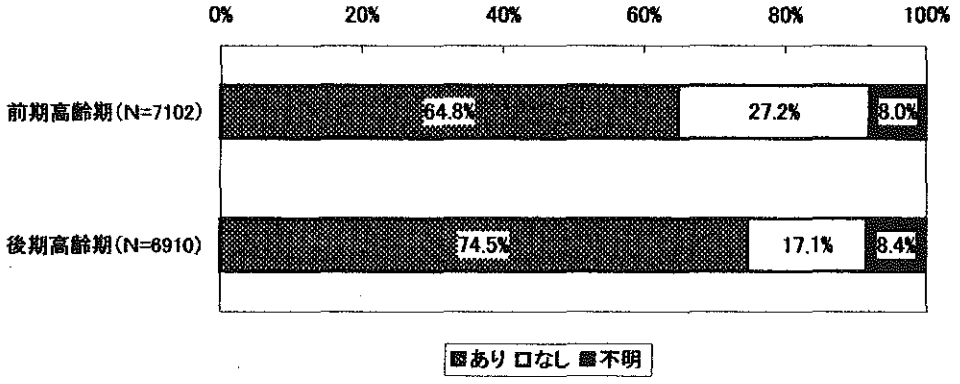
図1(1)治療中の疾病―性別



＜年齢階級別比較―治療中の疾病＞

治療中の疾病があるのは、前期高齢期7,102人のうち4,599人(64.8%)が、後期高齢期6,910人のうち5,151人(74.5%)であった。不明は前期高齢期は570人(8.0%)、後期高齢期は579人(8.4%)であった(P<0.01)(図1(1)-2)。

図1(1)-2治療中の疾病―年齢階級別



＜性別年齢階級別比較—治療中の疾病＞

男性の前期高齢期3,566人のうち治療中の疾病があるのは2,299人(64.5%)であり、後期高齢期3,579人のうち2,619人(73.2%)であった(図1(1)-3)。

女性で治療中の疾病があるは前期高齢期3,536人のうち2,300人(65.0%)が、後期高齢期では3,331人のうち2,532人(76.0%)であった(図1(1)-4)。

不明は男性が前期高齢期は241人(6.8%)、後期高齢期は276人(7.7%)、女性は前期高齢期は329人(9.3%)、後期高齢期は303人(9.1%)であった。

男女とも後期高齢期になると治療中の疾病が増加していた(P<0.01)。

図1(1)-3治療中の疾病—男性年齢階級別

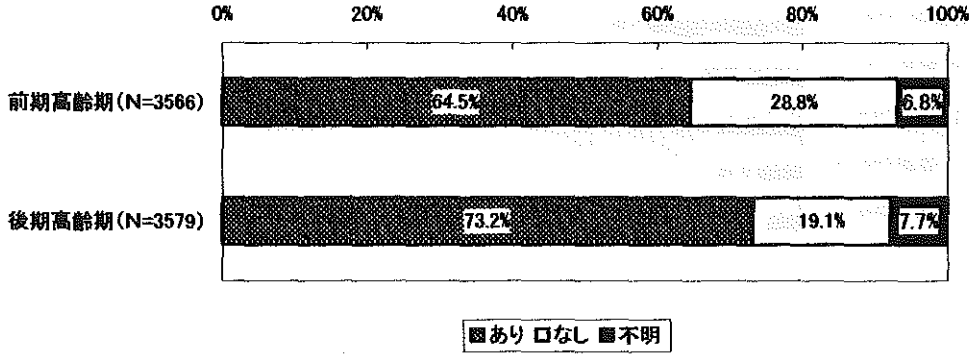
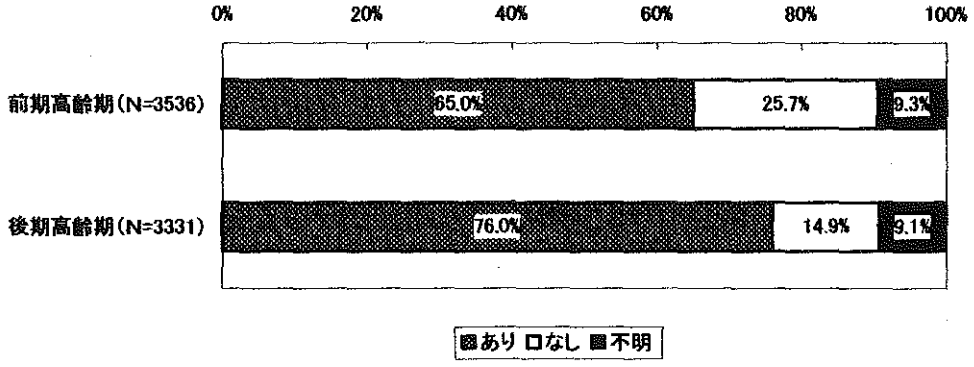


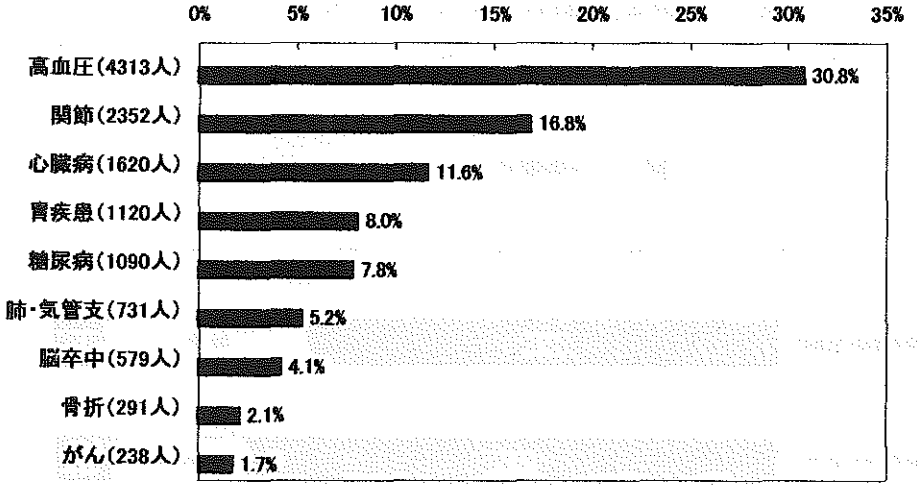
図1(1)-4治療中の疾病—女性年齢階級別



(2) 治療中の疾病の内訳

治療中の疾病で多いのは高血圧で4,313人(30.8%)、関節関連疾患2,352人(16.8%)、心臓病1,620人(11.6%)、胃疾患1,120人(8.0%)、糖尿病1,090人(7.8%)等であった(図1(2)-1)。

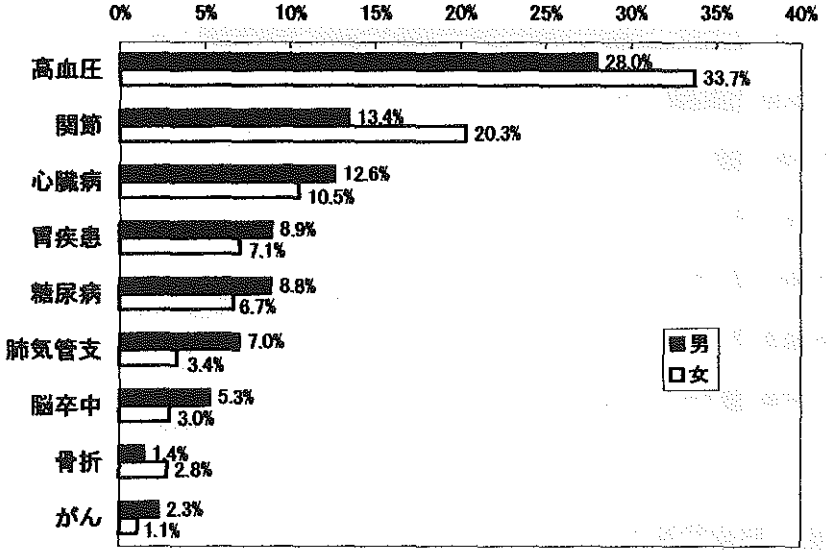
図1(2)-1治療中の疾病割合(N=14,012)



＜性別比較―治療中の疾病の内訳＞

高血圧は男性1,999人(28.0%)で、女性は2,314人(33.7%)であり、関節関連疾患も男性959人(13.4%)、女性1,393人(20.3%)、肺・気管支疾患では男性499人(7.0%)、女性232人(3.4%)であった。その他、心臓病、胃疾患、糖尿病、脳卒中、がんは男性に、骨折は女性に割合が高かった(P<0.01)(図1(2)-2)。

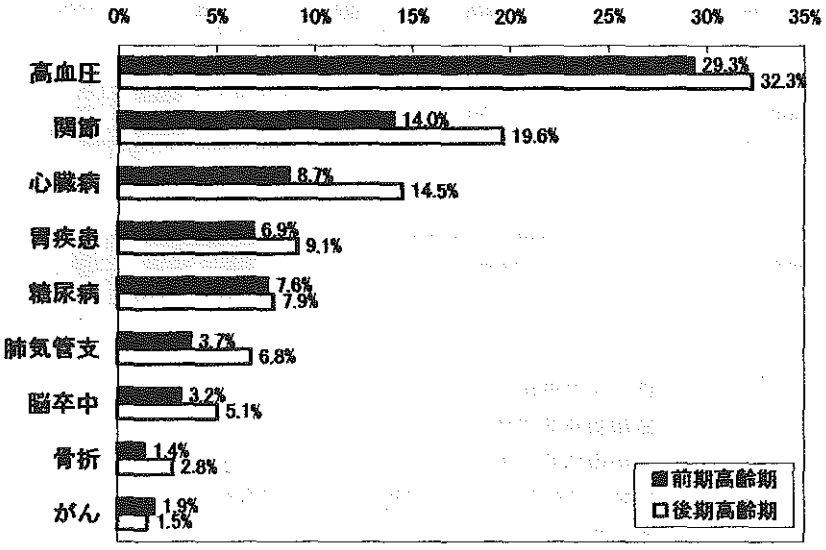
図1(2)-2治療中の疾患の内訳―性別
(男性7,145人、女性6,867人)



＜年齢階級別比較―治療中の疾病の内訳＞

がん、糖尿病以外の疾病は前期高齢期より後期高齢期に有意に増加していた。中でも、心臓病は前期高齢期では618人(8.7%)で後期高齢期では1,002人(14.5%)であった。関節関連疾患も前期は996人(14.0%)が、後期は1,356人(19.6%)であった(P<0.01)(図1(2)-3)。

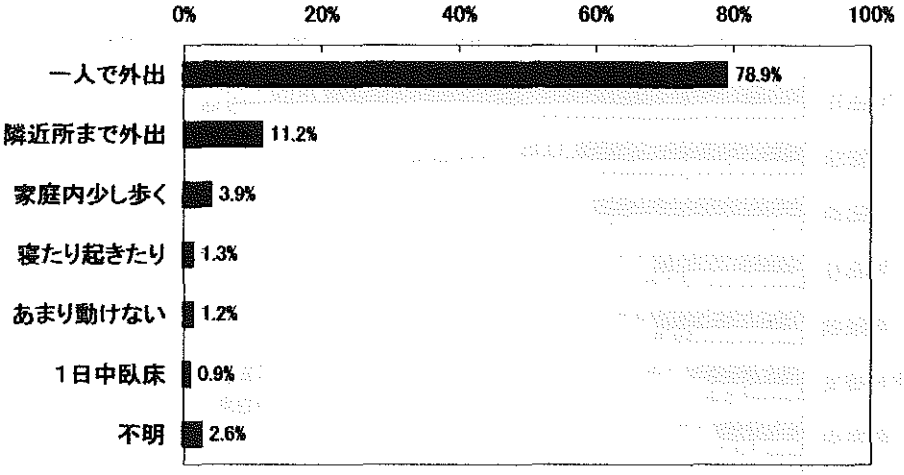
図1(2)-3治療中の疾病―年齢階級別
(前期高齢期7,102人、後期高齢期6,910人)



2　移動状況

移動状況は一人で外出できるのが総数14,012人のうち11,059人(78.9%)、隣近所まで外出するのは1,567人(11.2%)であった。その他は家庭内を少し歩く548人(3.9%)、寝たり起きたり184人(1.3%)、起きているがあまり動けない170人(1.2%)、1日中臥床は122人(0.9%)であった。不明は362人(2.6%)であった(図2-1)。

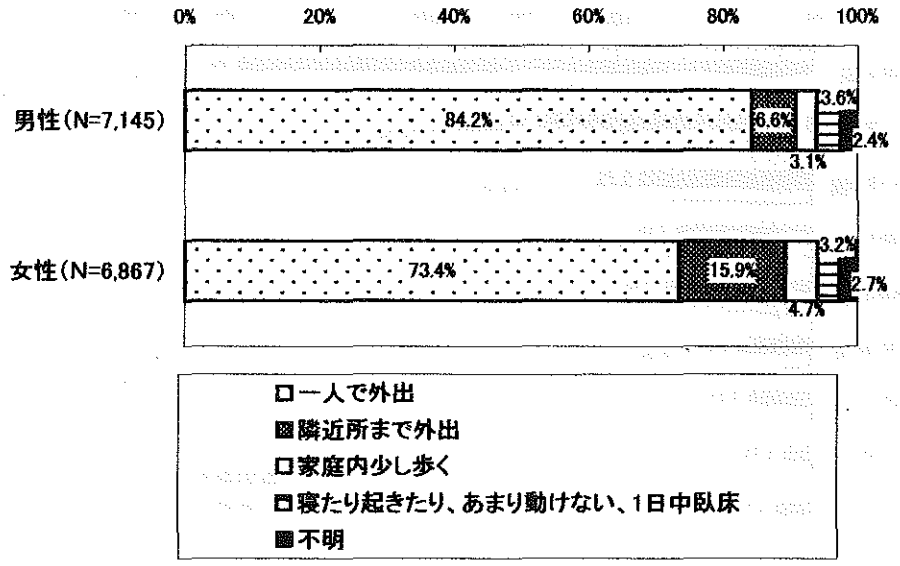
図2-1移動状況(N=11059)



＜性別比較―移動状況＞

男性7,145人のうち一人で外出できるのが6,019人(84.2%)、隣近所まで外出するのは472人(6.6%)、家庭内を少し歩く223人(3.1%)であった。女性6,867人のうち一人で外出できるのが5,040人(73.4%)、隣近所まで外出するのは1,095人(15.9%)、家庭内を少し歩く325人(4.7%)であった。寝たり起きたり・あまり動けない・1日中臥床は、男性256人(3.6%)、女性220人(3.2%)であった。不明は男性175人(2.4%)、女性は187人(2.7%)であった。移動状況には性による違いが見られた(P<0.01)。(図2-2)

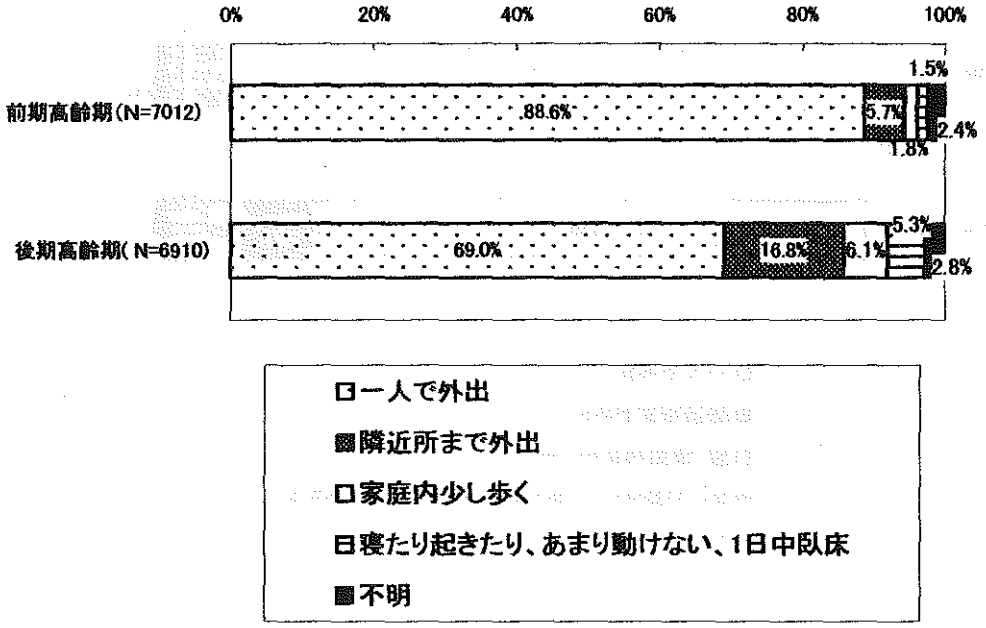
図2-2移動状況―性別比較



＜年齢階級別比較―移動状況＞

前期高齢期7,012人のうち一人で外出できるのが6,292人(88.6%)、隣近所まで外出するのは407人(5.7%)、家庭内を少し歩くは127人(1.8%)であった。後期高齢期では6,910人のうち一人で外出できるのが4,767人(69.0%)、隣近所まで外出するのは1,160人(16.8%)、家庭内を少し歩くのは421人(6.1%)であった。寝たり起きたり・あまり動けない・1日中臥床は、前期高齢期107人(1.5%)、後期高齢期は369人(5.3%)であった。不明は前期高齢期は169人(2.4%)、後期高齢期は193人(2.8%)であった。移動状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)。(図2-3)

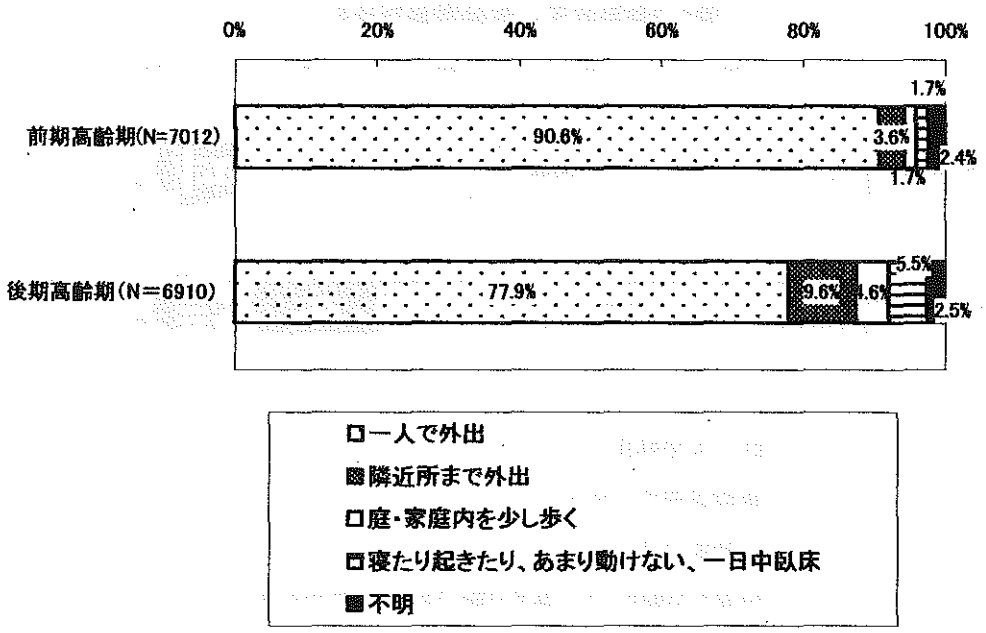
図2-3移動状況―年齢階級別比較



＜男性年齢階級別比較―移動状況＞

男性の前期高齢期3,566人のうち一人で外出できるのは3,231人(90.6%)、隣近所まで外出するのは130人(3.6%)、家庭内を少し歩くは59人(1.7%)であった。後期高齢期では3,579人のうち一人で外出できるのが2,788人(77.9%)、隣近所まで外出するのは342人(9.6%)、家庭内を少し歩くのは164人(4.6%)であった。寝たり起きたり・あまり動けない・1日中臥床は、前期高齢期60人(1.7%)、後期高齢期は196人(5.5%)であった。不明は前期高齢期は86人(2.4%)、後期高齢期は89人(2.5%)であった。男性の移動状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図2-4)。

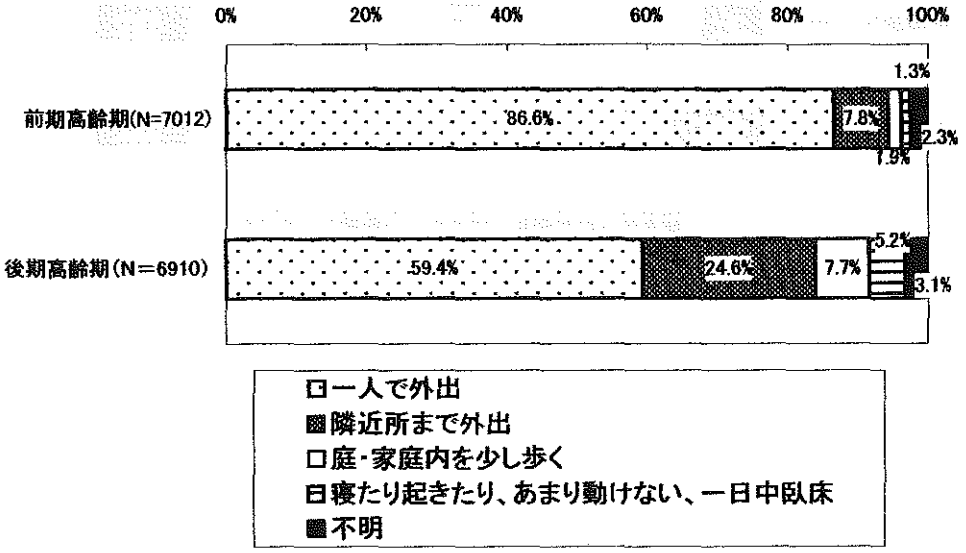
図2-4移動状況―男性年齢階級別比較



＜女性年齢階級別比較―移動状況＞

女性の前期高齢期3,536人のうち一人で外出できるのは3,061人(86.6%)、隣近所まで外出するのは277人(7.8%)、家庭内を少し歩くは68人(1.9%)であった。後期高齢期では3,331人のうち一人で外出できるのが1,979人(59.4%)、隣近所まで外出するのは818人(24.6%)、家庭内を少し歩くのは257人(7.7%)であった。寝たり起きたり・あまり動けない・1日中臥床は、前期高齢期47人(1.3%)、後期高齢期は173人(5.2%)であった。不明は前期高齢期は83人(3.1%)、後期高齢期は187人(2.7%)であった。女性の移動状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図2-5)。

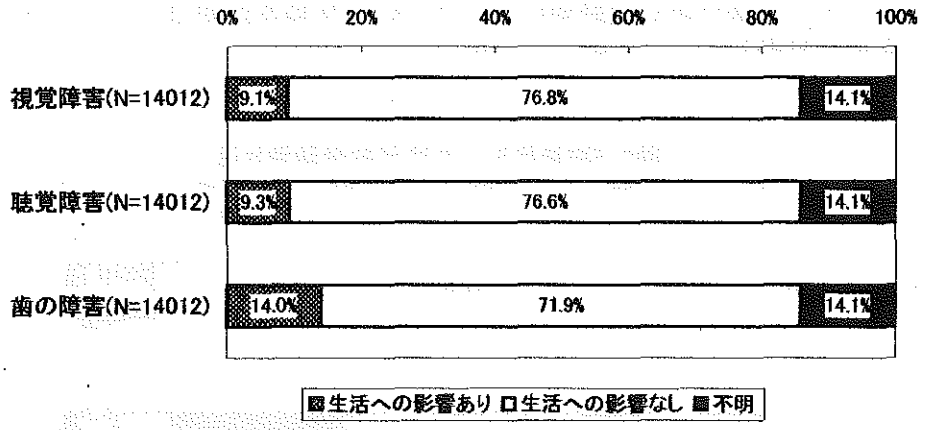
図2-5移動状況―女性年齢階級別比較



3　視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響

視覚障害で、生活に影響があるとするのは、14,012人のうち1,274人(9.1%)、聴覚障害は1,037人(9.3%)、歯の障害は1,968人(14.0%)であった(図3-1)。

図3-1視覚・聴覚・歯の障害の生活への影響



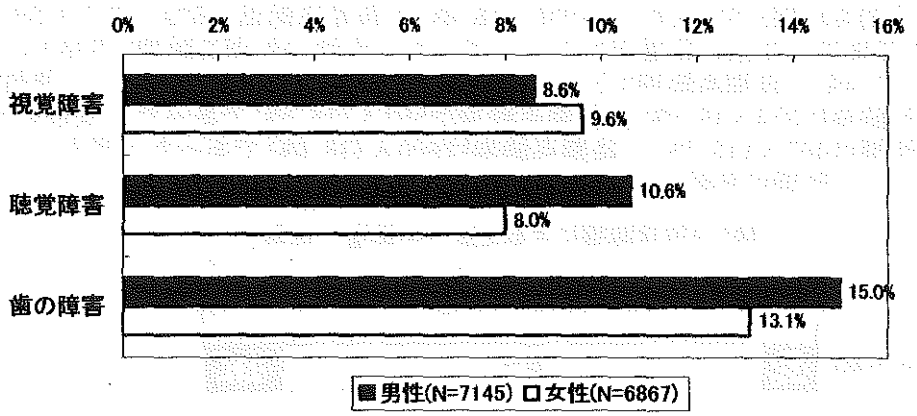
＜性別比較―視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響＞

視覚障害については男性7,145人のうち616人(8.6%)が、女性では6,867人のうち658人(9.6%)が生活に影響を及ぼすとしていた。(P<0.05)。

聴覚障害では男性760人(10.6%)、女性547人(8.0%)であった(P<0.01)。

歯に関しては男性1,071人(15.0%)、女性897人(13.1%)であった(P<0.01)(図3-2)。

図3-2性別視覚・聴覚・歯の障害の生活への影響



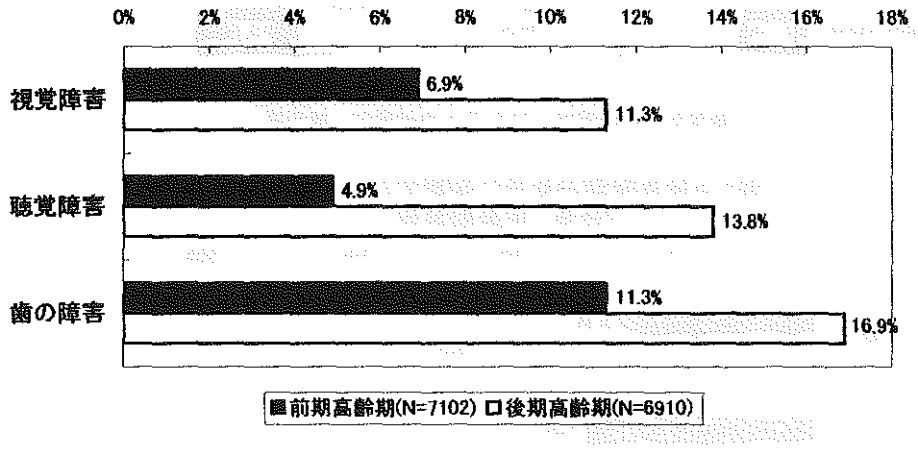
＜年齢階級別比較―視覚・聴覚・歯の障害による生活への影響＞

視覚障害については前期高齢期7,102人のうち4901人(6.9%)が、後期高齢期6,910人のうち784人(11.3%)が生活に影響を及ぼすとしていた。

聴覚障害では前期高齢期では351人(4.9%)が後期高齢期では956人(13.8%)、歯に関しては前期高齢期で801人(11.3%)、後期高齢期で1,167人(16.9%)が生活に影響があるとしていた。

どの障害も後期高齢期になると生活への影響は年齢により違いがみられた(P<0.01)(図3-3)。

図3-3年齢階級別視覚・聴覚・歯の障害の生活への影響



＜性年齢階級別比較―視覚障害による生活への影響＞

男性7,145人のうち616人(8.6%)が視覚障害が生活に影響があるとし、女性6,867人のうちでは658人(9.6%)であった。不明は男性905人(12.7%)、女性は1,067人(15.5%)であった。性による違いがみられた(P<0.05)(図3-4)。

前期高齢期7,102人のうち490人(6.9%)、後期高齢期6,910人のうち784人(11.3%)が視覚障害による生活への影響があるとしており、年齢による違いがみられた。不明は前期高齢期は819人(11.5%)、後期高齢期は1,153人(16.7%)であった。(P<0.01)(図3-5)

男性の前期高齢期3,566人のうち230人(6.4%)が後期高齢期3,579人のうち386人(10.8%)視覚障害が生活に影響があるとしており、女性の前期高齢期3,536人のうちでは260人(7.4%)、後期高齢期3,331人のうちでは398人(11.9%)であった。男性の不明は前期高齢期は354人(9.9%)、後期高齢期は553人(15.5%)であった。女性の不明は前期高齢期は467人(13.2%)、後期高齢期は600人(18.0%)であった。男女とも視覚障害の生活への影響は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図3-6)。

図3-4視覚障害による生活への影響―性別

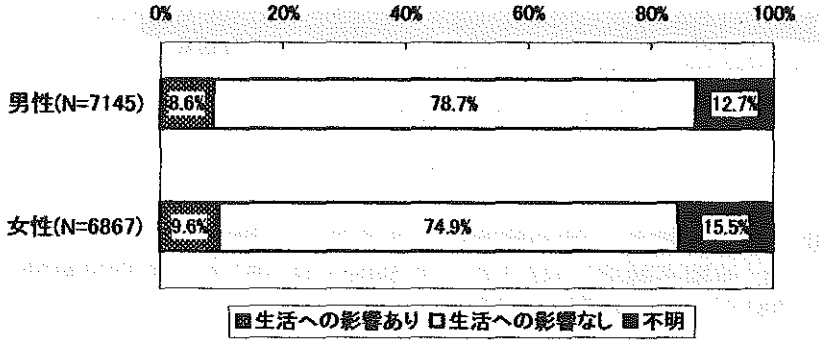


図3-5視覚障害の生活への影響―年齢階級別

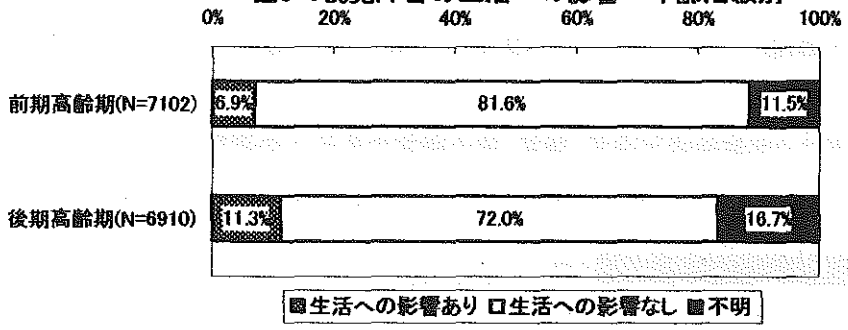
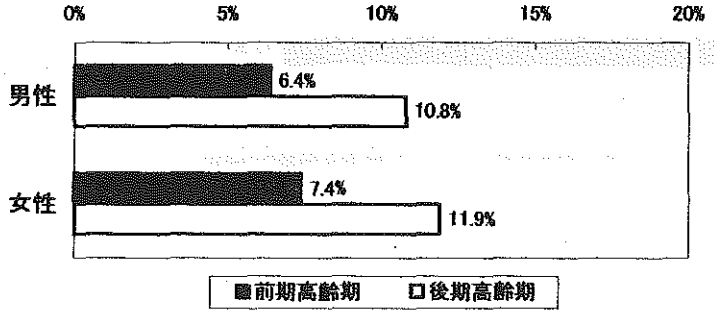


図3-6視覚障害が生活に影響する割合の比較
(性別、年齢階級別)



＜性年齢階級別比較―聴覚障害による生活への影響＞

聴覚障害が生活に影響があるとするのは性別には男性7,145人のうち760人(10.6%)、女性6,867人のうち547人(8.0%)で性による違いがあった(P<0.01)(図3-7)。

前期高齢期7,102人のうち351人(4.9%)、後期高齢期6,910人のうち956人(13.8%)が聴覚障害による生活への影響があるとしており、年齢による違いがみられた(P<0.01)(図3-8)。

男性の前期高齢期3,566人中216人(6.1%)、後期高齢視3,579人中544人(15.2%)が聴覚障害が生活に影響を及ぼすとしており、女性の前期高齢期3,536人のうちでは135人(3.8%)、後期高齢期3,331人のうちでは412人(12.4%)であった。男女とも聴覚障害の生活への影響には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図3-9)。

図3-7聴覚障害の生活への影響―性別

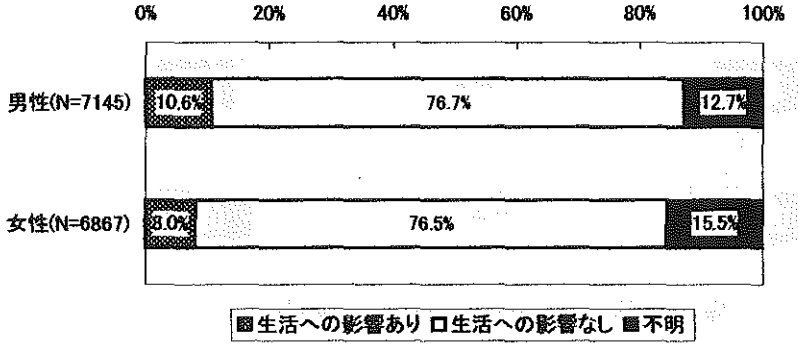


図3-8聴覚障害の生活への影響―年齢階級別

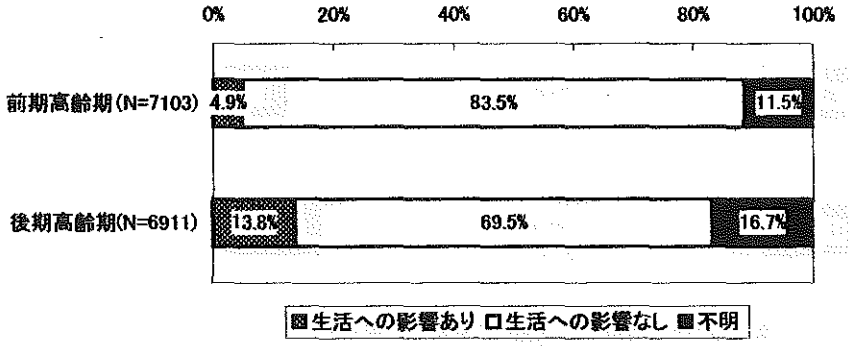
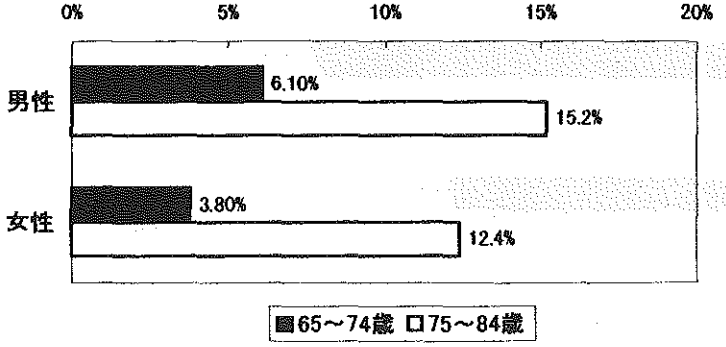


図3-9聴覚障害が生活に影響がある割合の比較
(性別、年齢階級別)



＜性年齢階級別比較―歯の障害による生活への影響＞

男性7,145人のうち1,071人(15.0%)、女性6,867人のうち897人(13.1%)が歯の障害が生活に影響があるとしており、性による違いがみられた(P<0.01)(図3-10)。

前期高齢期7,102人のうち801人(11.3%)、後期高齢期6,910人のうち1,167人(16.9%)が歯の障害が生活に影響があるとしており、年齢による違いがみられた(P<0.01)(図3-11)。

男性の前期高齢期3,566人中475人(13.3%)、後期高齢視3,579人中544人(15.2%)が歯の障害が生活に及ぼす影響があるとしており。女性の前期高齢期3,536人のうちでは326人(9.2%)、後期高齢期3,331人のうちでは571人(17.1%)であり、男女とも年齢による違いがみられた(P<0.01)(図3-12)。

図3-10歯の障害の生活への影響―性別

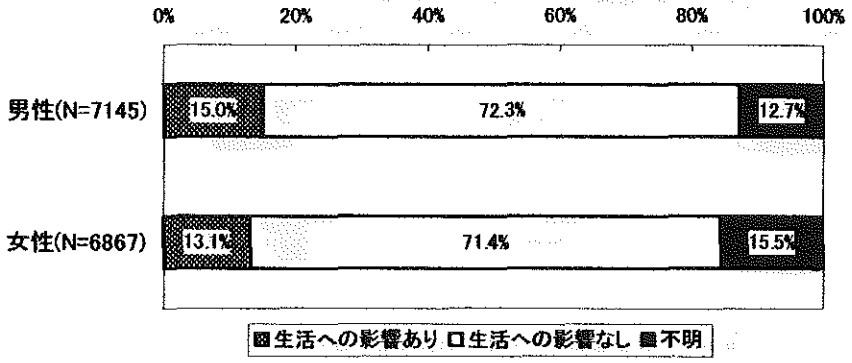


図3-11歯の障害の生活習慣への影響―年齢階級別

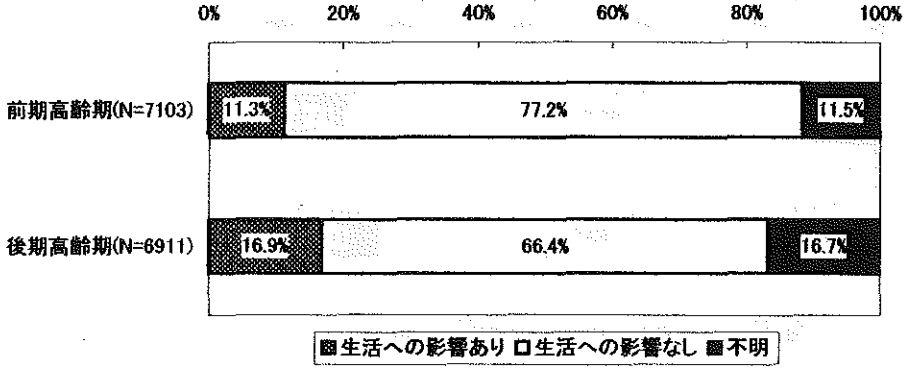
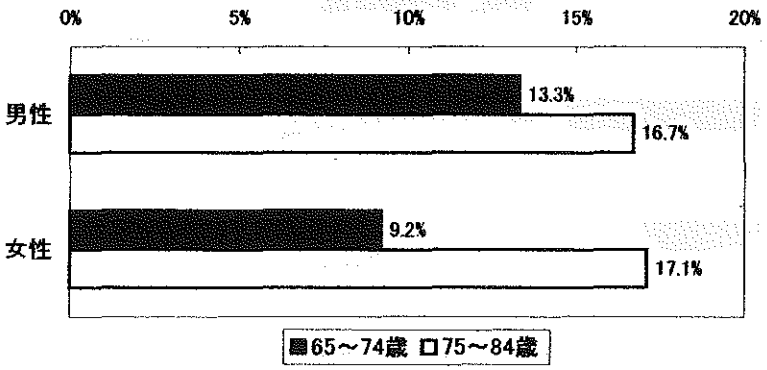


図3-12歯の障害が生活に影響する割合の比較
(性別、年齢階級別)



4　健康診断の状況

健康診断の受診状況は、14,012人のうち毎年1回以上が10,707人(76.4%)と多かった。数年に1回は1,238人(8.8%)、受けていないは997人(7.1%)、わからない及び不明は790人であった(図4-1)。

男性7,145人のうちで毎年1回以上受診者は5,412人(75.7%)、女性6,867人のうちでは5,295人(77.1%)であった(図4-2)。

年齢階級別では前期高齢期7,102人のうち毎年1回以上の受診者は,5,537人(78.0%)で、後期高齢期6,910人のうち5,170人(74.8%)であった(図4-3)。

但し、ここでの健康診断については定義を限定していないので、通常の受診も含まれている可能性が高いことに注意が必要である。

図4-1健康診断の受診状況

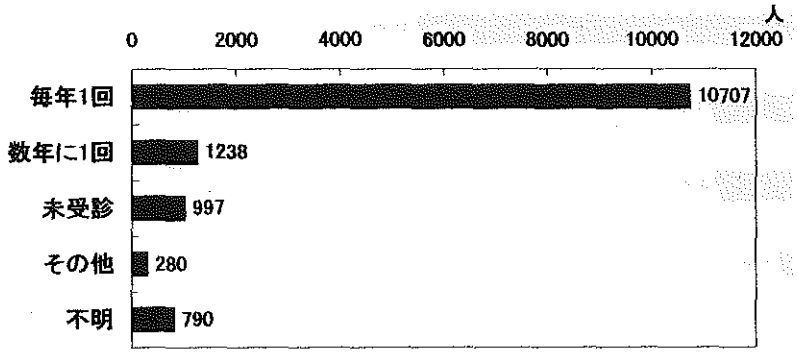


図4-2健康診断の受診状況-性別

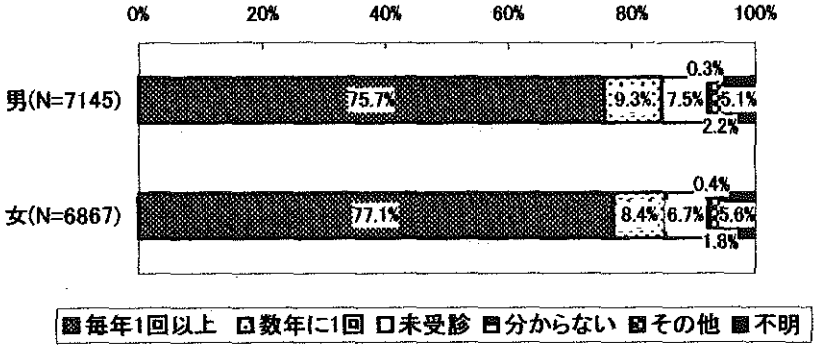
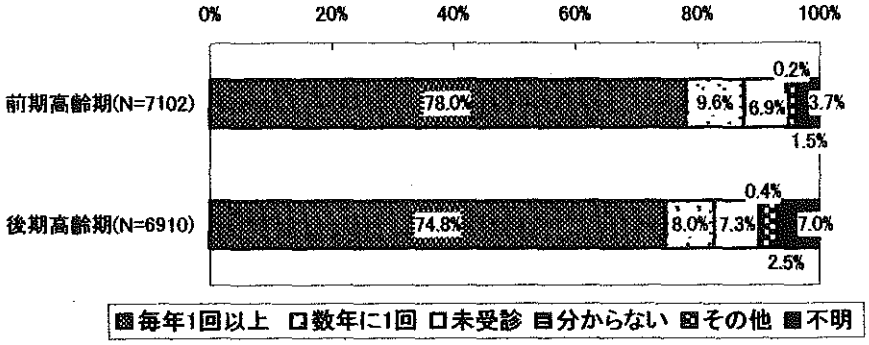


図4-3健康診断の受診状況—年齢階級別

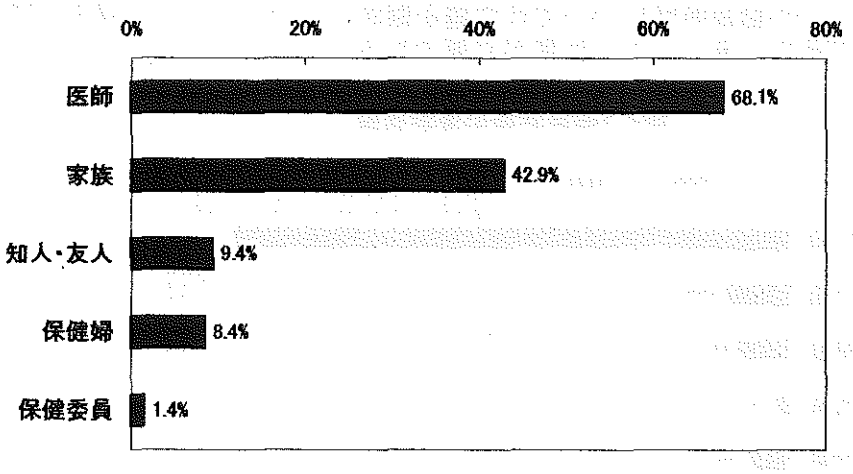


5　健康に関する相談者

誰かしら健康に関する相談者がいるのは14,012人のうち、13,229人(94.4%)とほとんどであった。

相談者の内訳は、医師が最も多く9,542人(68.1%)で、次は家族が6,005人(42.9%)であった。知人・友人は1,314(9.4%)であった。また保健婦は1,182人 (8.4%)、保健委員は194人(1.4%)であった(図5-1)。

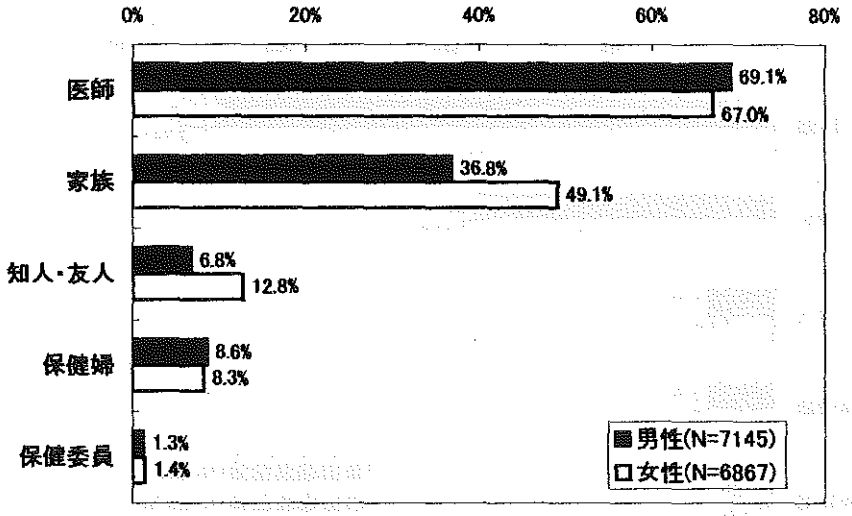
図5-1健康に関する相談者の内訳(N=14,012)



＜性別比較―健康に関する相談者＞

男女とも医師、家族への相談が多かった。医師は男性7,145人のうち4,939人(69.1%)で、女性6,867人のうち4,603人(67.0%)であった。家族は男性2,631人(36.8%)、女性3,374人(49.1%)であった。知人・友人では男性488人(6.8%)、女性826人(12.0%)であった。医師・家族・友人・知人を健康の相談者とする割合は性別に違いがみられた(P<0.01)(図5-2)。

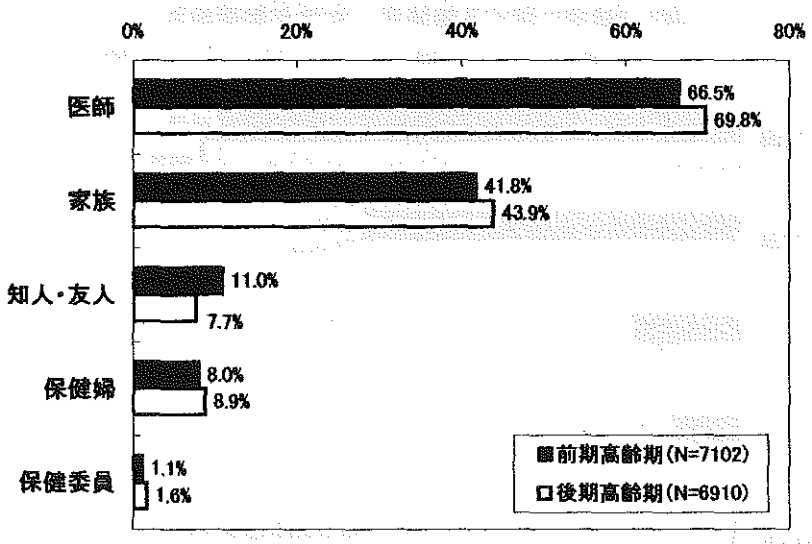
図5-2健康に関する相談者―性別



＜年齢階級別比較―健康に関する相談者＞

前期高齢期7,102人のうち医師に相談するのは4,722人(66.5%)、後期高齢期6,910人のうちでは4,820人(69.8%)であった。家族への相談は前期高齢期は2,970人(41.8%)であった。後期後期高齢期は3,035人(43.9%)であり、友人・知人への相談は前期高齢期には779人(110.%)、後期高齢期535人(7.7%)であった。医師・家族・友人・知人を健康に関する相談者とする割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図5-3)。

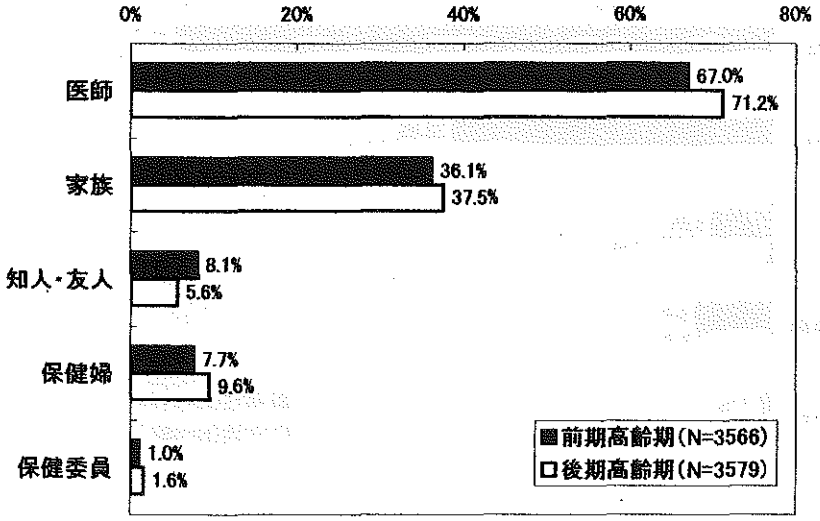
図5-3健康に関する相談者―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較—健康に関する相談者＞

男性の前期高齢期3,566人のうちに医師に相談するのは2,390人(67.0%)、後期高齢期3,579人では2,549人(71.2%)であり、家族への相談は前期高齢期は1,288人(36.1%)、後期高齢期は1,343人(37.5%)、友人・知人への相談は前期高齢期には288人(8.1%)、後期高齢期では200人(5.6%)であった(図5-4)。

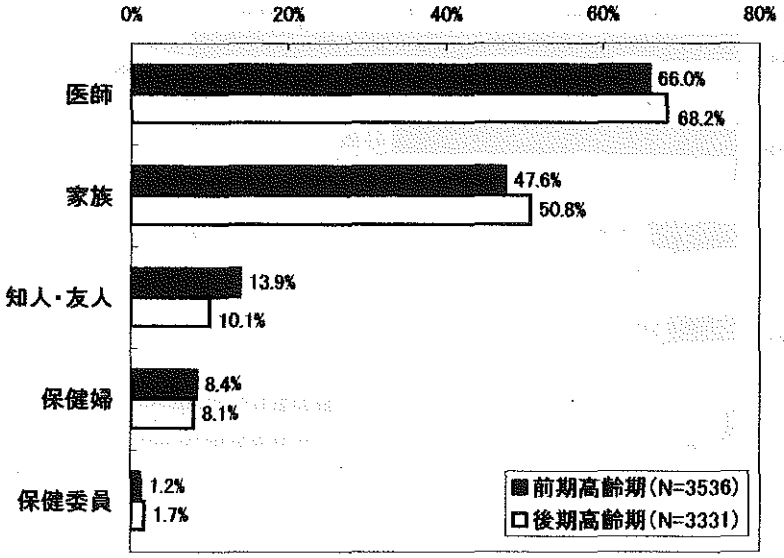
図5-4健康に関する相談者—男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較—健康に関する相談者＞

女性の前期高齢期3,536人のうち医師に相談するのは2,332人(66.0%)、後期高齢期3,331人のうちでは2,271人(68.2%)であり、家族への相談も前期高齢期は1,682人(47.6%)、後期高齢期には1,692人(50.8%)であった。友人・知人への相談は前期高齢期では491人(13.9%)、後期高齢期では331人(10.1%)であった(図5-5)。

図5-5健康に関する相談者—女性年齢階級別



6　健康情報

(1) 健康情報を得る機会

回答者14,012人のうち13,301人が何らかの健康情報を得る機会があるとしていた。

性別には健康情報を得る機会があるのは男性7,145人のうち3,412人(95.7%)、女性6,867人のうち6,542人(95.3%)であった(図6(1)-1)。

年齢階級別には前期高齢期7,102人のうち6,818人(96.0%)、後期高齢期6,910人のうち6,483人(93.8%)が、健康情報を得る機会があるとしていた(図6(1)-2)。

健康情報を得る機会の内訳は診察時が一番多く8,824人(63.0%)、テレビ7,829人(55.9%)、知人6,573人(46.9%)、講演会2,082人(14.9%)の順であった(図6(1)-3)。

図6(1)-1健康情報を得る機会—性別

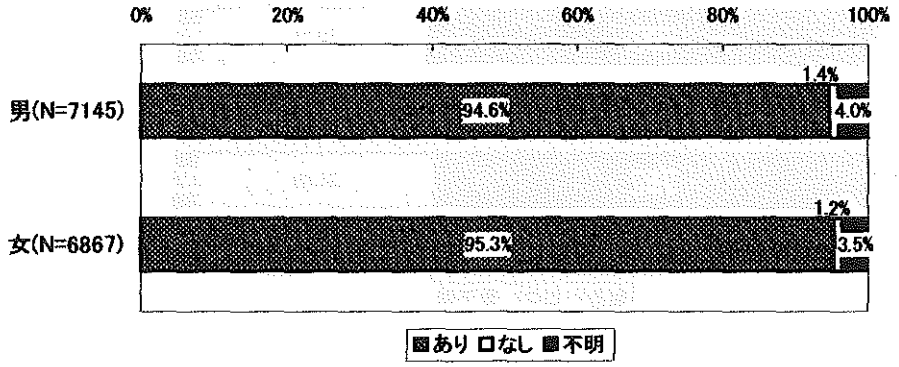


図6(1)-2健康情報を得る機会—年齢階級別

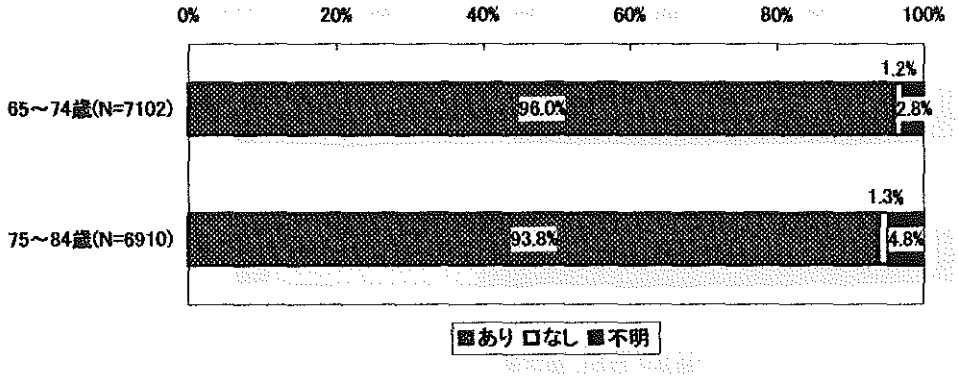
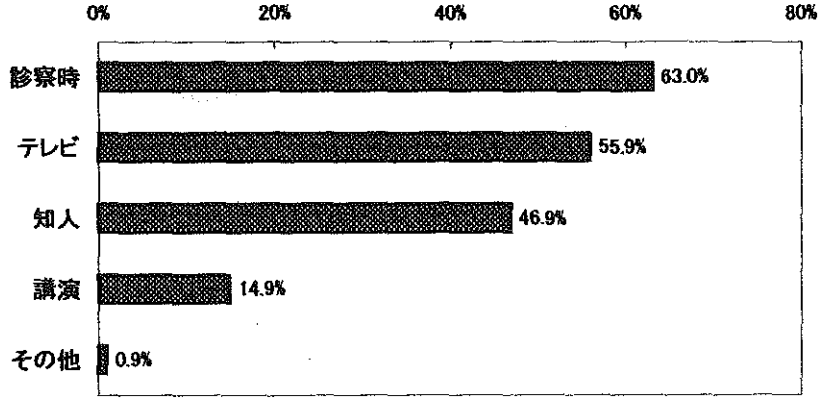


図6(1)-3健康情報を得る機会の内訳



(2) 診察時に健康情報を得る

診察時に健康情報を得る機会があるとするのは8,824人(63.0%)であった。

性別には男性7,102人のうち4,548人(63.7%)であり、女性6,867人のうちでは4,276人(62.3%)であった。診察時に健康情報を得る割合は性による違いがみられた(P<0.01)(図6(2)-1)。

年齢階級別では前期高齢期7,102人では4,298人(60.5%)であり、後期高齢期6,910人では4,526人(65.5%)であった。診察時に健康情報を得る割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図6(2)-2)。

図6(2)-1診察時に健康情報を得る機会—性別

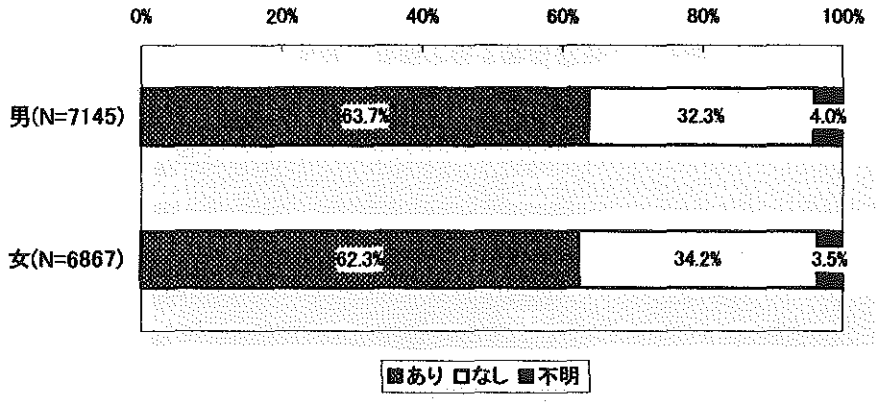
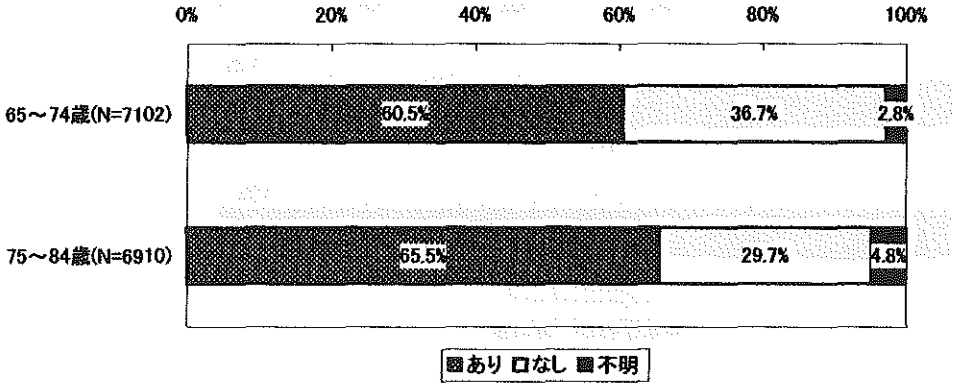


図6(2)-2診察時に健康情報を得る機会—年齢階級別



(3)テレビから健康情報を得る

テレビから健康情報を得る機会があるのは7,829人(55.9%)であった。

性別には男性7,145人のうち3,886人(54.4%)で、女性6,867人のうち3,943人(57.4%)であった。テレビから健康情報を得る割合は性別による違いがみられた(P<0.01)(図6(3)-1)。

年齢階級別には前期高齢期7,102人のうち4,210人(59.3%)であり、後期高齢期6,910人のうち3,619人(52.4%)であった。テレビから健康情報を得る割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図6(3)-2)。

図6(3)-1テレビから健康情報を得る機会—性別

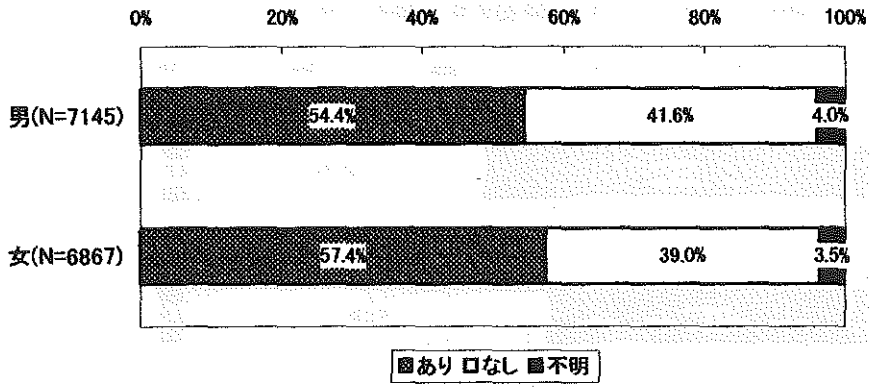
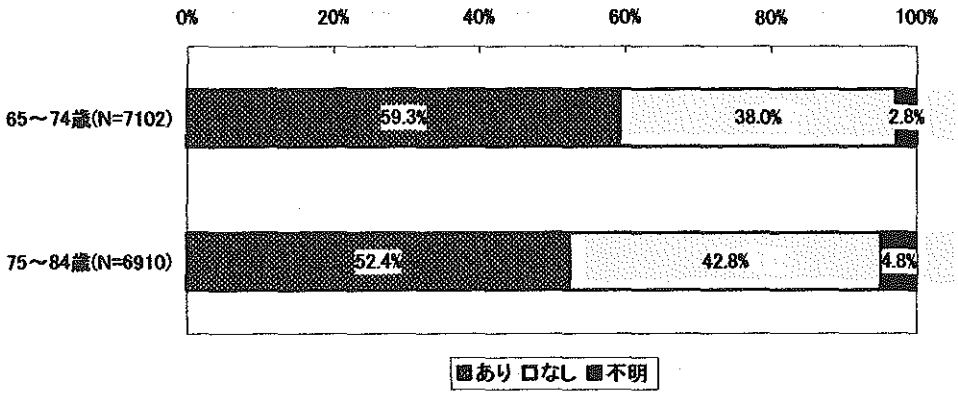


図6(3)-2テレビから健康情報を得る機会—年齢階級別



(4) 知人から健康情報を得る

知人から健康情報を得る機会があるとするのは6,537人(46.9%)であった。

性別には男性7,145人のうち3,011人(42.1%)であり、女性6,867人では3,562人(51.9%)であった。知人から情報を得る割合は性による違いがみられた(P<0.01)(図6(4)-1)。

年齢階級別で知人から健康情報をえる機会があるのは前期高齢期7,102人のうち3,536人(49.8%)であり、後期高齢期6,910人のうち3,037人(44.0%)であった。知人から健康情報を得る割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図6(4)-2)。

図6(4)-1知人から健康情報を得る機会—性別

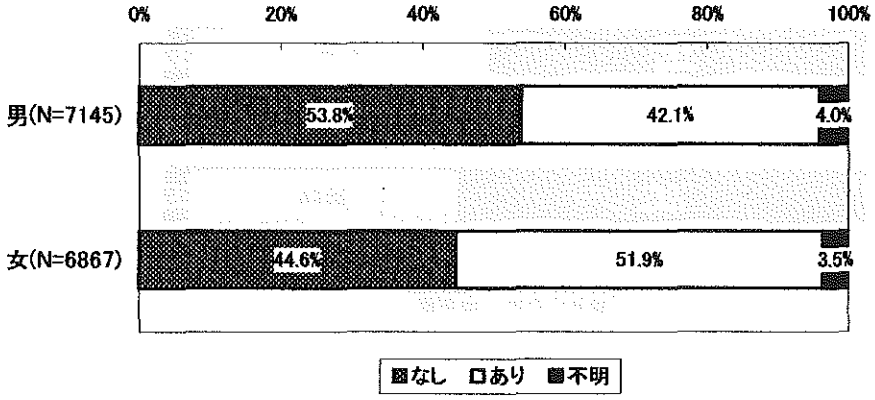
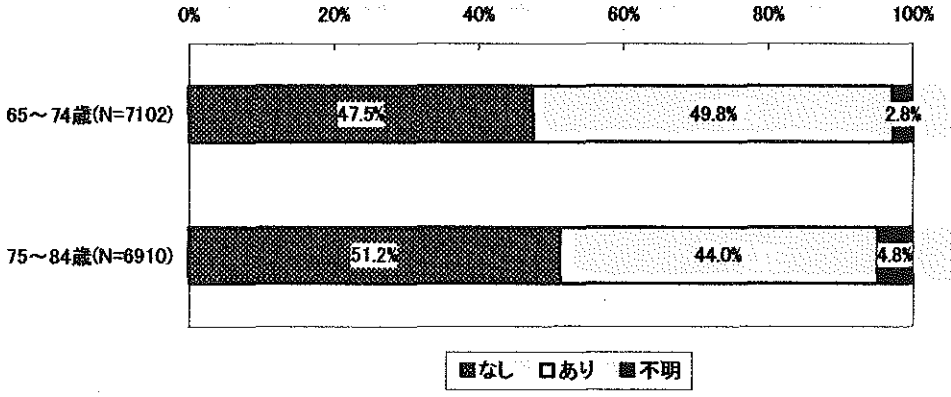


図6(4)-2知人から健康情報を得る機会—年齢階級別



(5)講演会により健康情報を得る

講演会により健康情報を得る機会があるのは14,012人のうち2,084人(14.9%)であった。

性別には男性7,145人では925人(12.9%)、女性6,867人では1,159人(16.9%)であった。講習会で健康情報を得る割合は性による違いがみられた(P<0.05)。(図6(5)-1)

年齢階級別には講演会で健康情報を得る機会があるのは前期高齢期7,102人では1、056人(14.9%)、後期高齢期6,910人では1,028人(14.9%)であった。講習会で健康情報を得る割合は年齢による違いがみられなかった(図6(5)-2)。

性別年齢階級別にみると男性では前期高齢期3,566人のうち396人(11.1%)、後期高齢期3,579人のうち529人(14.8%)であった。男性が講習会で健康情報を得る割合は年齢による違いがみられた(P<0.05)(図6(5)-3)。

女性では前期高齢期3,536人のうち660人(18.7%)、後期高齢期3,331人のうち499人(15.0%)であった。女性が講習会で健康情報を得る割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図6(5)-4)。

図6(5)-1講演会により健康情報を得る機会—性別

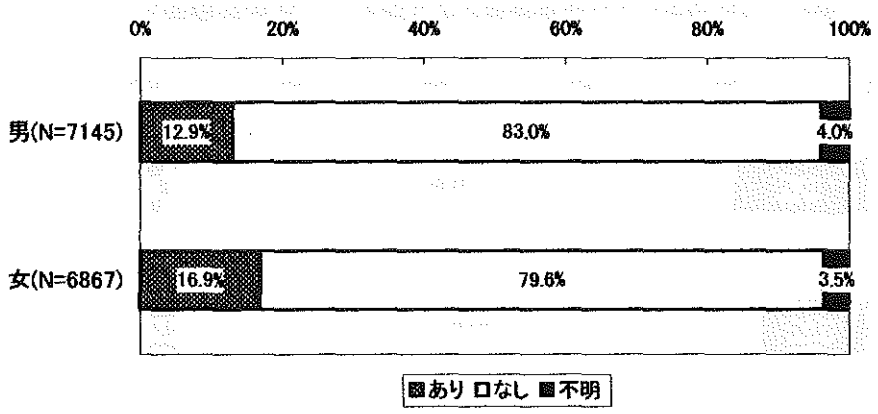


図6(5)-2講演会により健康情報を得る機会—年齢階級別

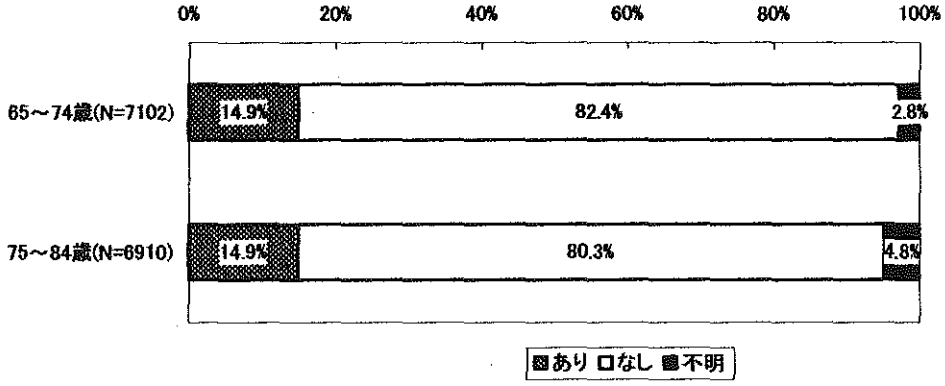


図6(5)-3講演会により健康情報を得る機会—男性年齢階級別

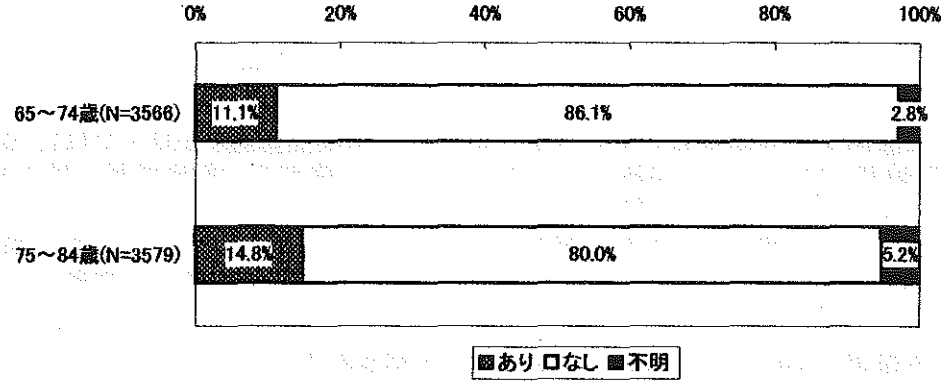
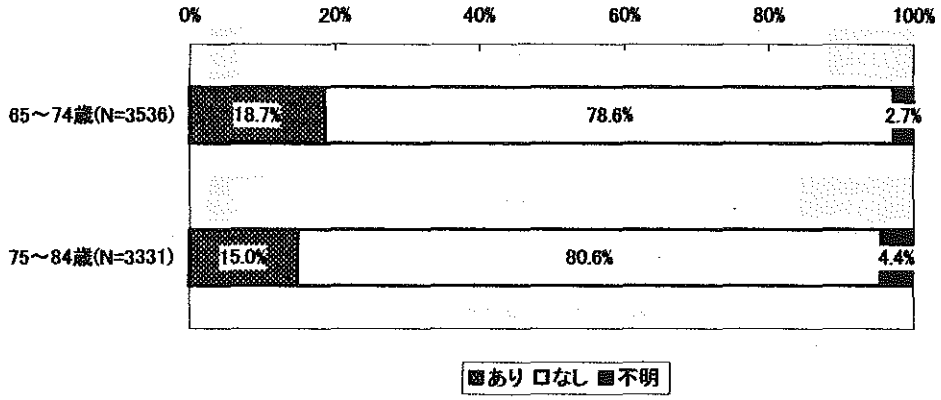


図6(5)-4講演会により健康情報を得る機会—女性年齢階級別



7　生活への満足度

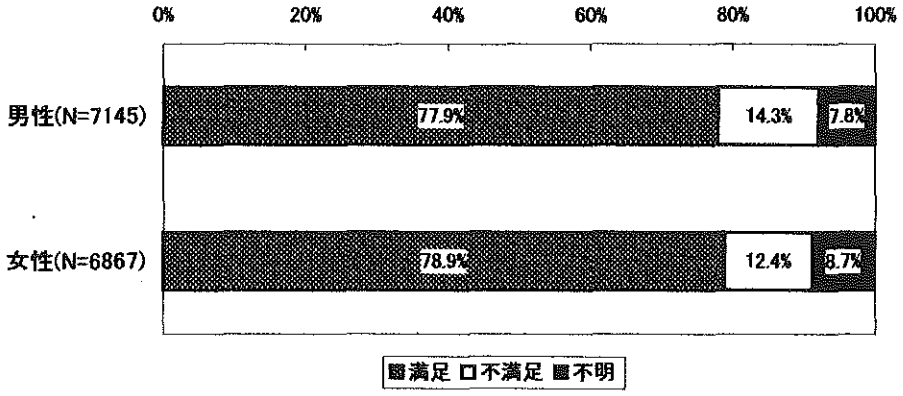
(1)生活への満足度

現在の生活に満足していると回答しているのは、14,012人のうち10,984人(78.4%)であった。不満足とするのは1,870人(13.3%)で、1,158人(8.3%)は不明であった。

<性別比較―生活への満足度>

男性7,145人のうち生活に満足しているとするのは5,565人(77.9%)、女性6,867人のうち5,419人(78.9%)であった。不満足とする男性は1,020人(14.35)、女性は850人(12.4%)であった。不明は男性560人(7.8%)、女性は598人(8.7%)であった。生活の満足度は性により違いがみられた(P<0.01)(図7(1)-1)。

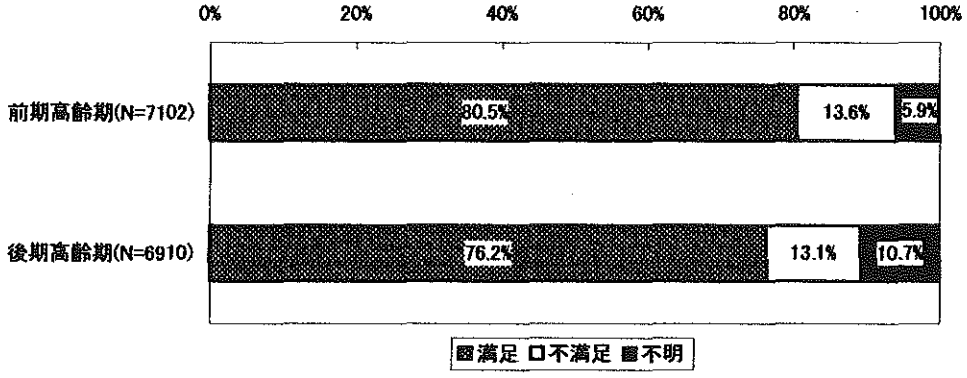
図7(1)-1生活への満足度―性別



<年齢階級別比較―生活への満足度>

前期高齢期7,102人のうち生活に満足しているとするのは5,717人(80.5%)で、後期高齢期6,910人のうちでは5,267人(76.2%)であった。生活に不満足なのは前期高齢期では965人(13.6%)、後期高齢期では905人(13.1%)であった。不明は前期高齢期では420人(5.9%)、後期高齢期では738人(10.7%)であった。生活満足度は年齢による違いはなかった(図7(1)-2)。

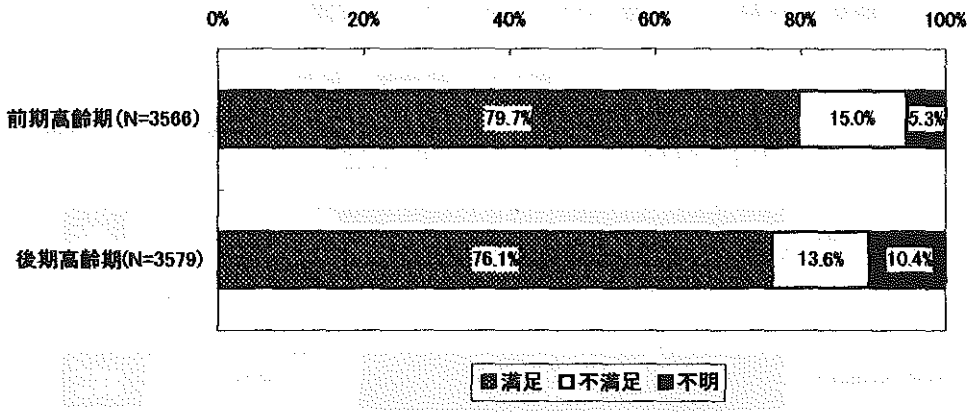
図7(1)-2生活への満足度―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―生活への満足度＞

男性の前期高齢期3,566人のうち生活に満足していると回答したのは2,842人(79.7%)、後期高齢期3,579人のうち2,723人(76.1%)であった。不満足と回答してのは前期高齢期では535人(15.0%)、後期高齢期では485人(13.6%)であった。不明は前期高齢期では189人(5.3%)、後期高齢期では371人(10.4%)であった。男性の生活への満足度は年齢による違いはみられなかった(図7(1)-3)。

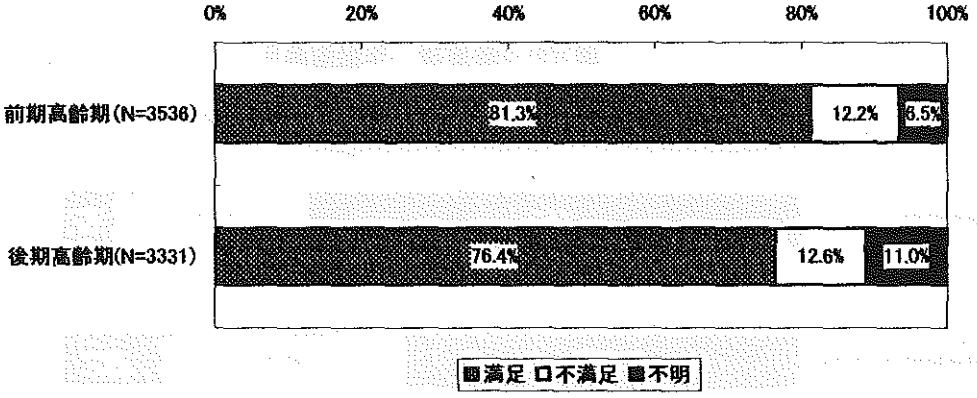
図7(1)-3生活への満足度―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―生活への満足度＞

女性の前期高齢期3,536人のうち生活に満足していると回答したのは2,875人(81.3%)、後期高齢期3,331人のうち2,544人(76.4%)であった。不満足と回答してのは前期高齢期では430人(12.2%)、後期高齢期では420人(12.6%)であった。不明は前期高齢期では231人(6.5%)、後期高齢期では367人(11.0%)であった。女性の生活への満足度は年齢による違いはみられなかった(図7(1)-4)。

図7(1)-4生活への満足度―女性年齢階級別



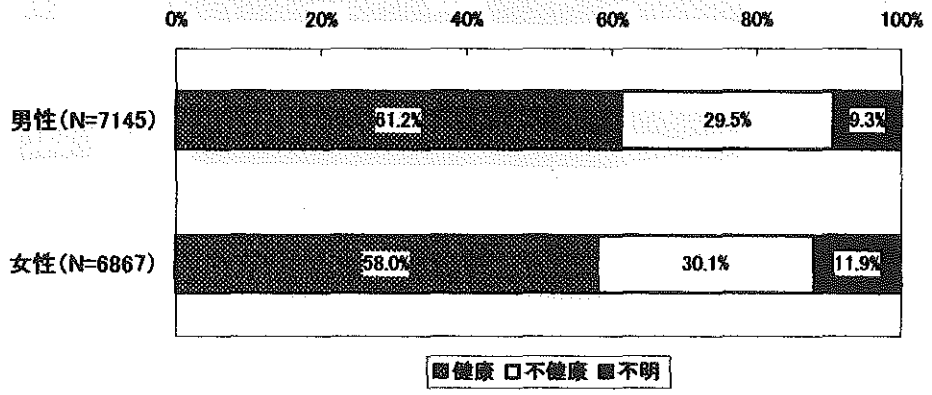
(2) 健康観

自分を健康だと考えるのは14,012人のうち8,356人(59.6%)、不健康だとするのは4,171人(29.8%)であった。不明は1,485人(10.6%)であった。

＜性別比較—健康観＞

自分を健康だとする男性7,145人のうち4,373人(61.2%)、女性6,867人のうち3,983人(58.0%)であった。不健康だとするのは男性は2,106人(29.5%)、女性は2,065人(30.1%)であった。不明は男性では666人(9.3%)、女性は819人(11.9%)であった。健康観は性による違いはみられなかった(図7(2)-1)。

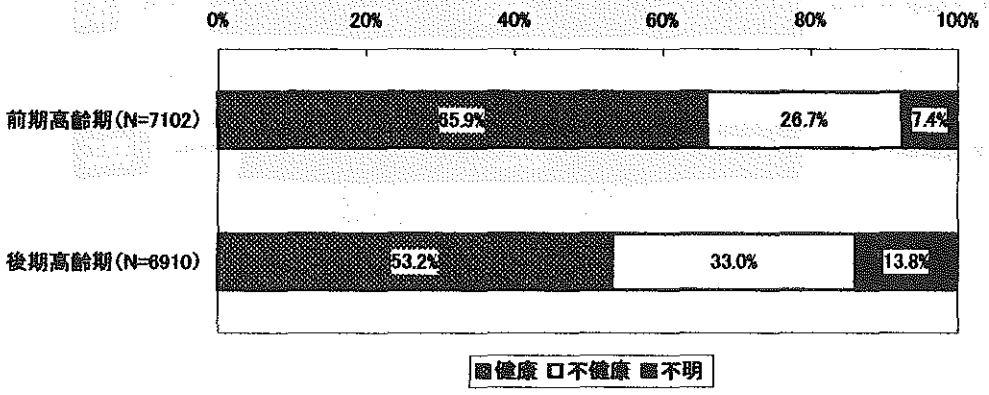
図7(2)-1健康観—性別



＜年齢階級別比較—健康観＞

前期高齢期7,102人のうち健康であるとするのは4,680人(65.9%)であり、後期高齢期6,910人のうちでは(53.2%)であった。不健康とするのは前期高齢期では1,894人(26.7%)、後期高齢期では2,277人(33.0%)であった。不明は前期高齢期では528人(7.4%)、後期高齢期では957人(13.8%)であった。健康観は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(2)-2)。

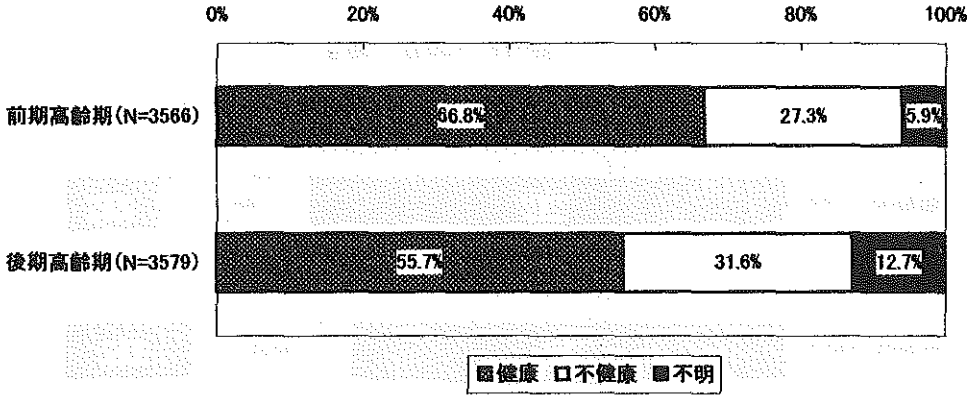
図7(2)-2健康観—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―健康観＞

男性の前期高齢期3,566人のうち健康と回答したのは2,381人(66.8%)、後期高齢期3,579人のうち1,992人(55.7%)であった。不健康と回答したのは前期高齢期では974人(27.3%)、後期高齢期では1,132人(31.6%)であった。不明は前期高齢期では211人(5.9%)、後期高齢期では455人(12.7%)であった。男性の健康観は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(2)-3)。

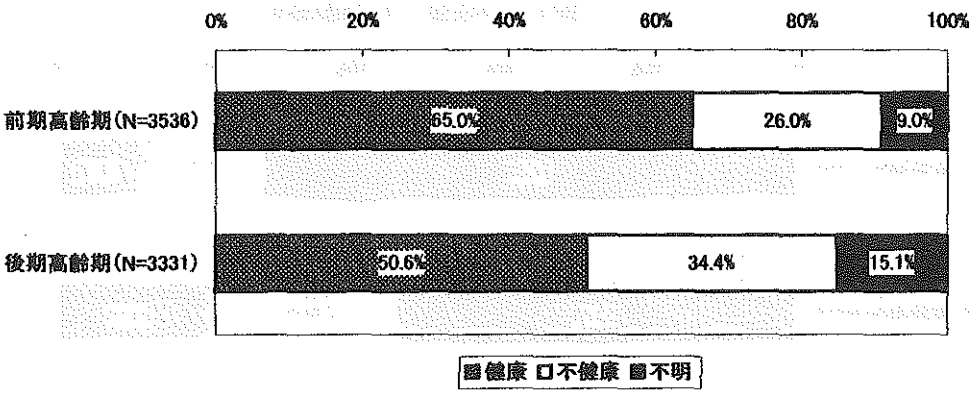
図7(2)-3健康観―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―健康観＞

女性の前期高齢期3,536人のうち健康とするものは2,299人(65.0%)であるが後期高齢期3,331人のうちでは1,684人(50.6%)であった。不健康とするものは前期高齢期920人(26.0%)、後期高齢期1,145人(34.4%)であった。不明は前期高齢期では317人(9.0%)、後期高齢期では502人(15.1%)であった。女性の健康観は年齢により違いがみられた(P<0.01)(図7(2)-4)。

図7(2)-4健康観―女性年齢階級別



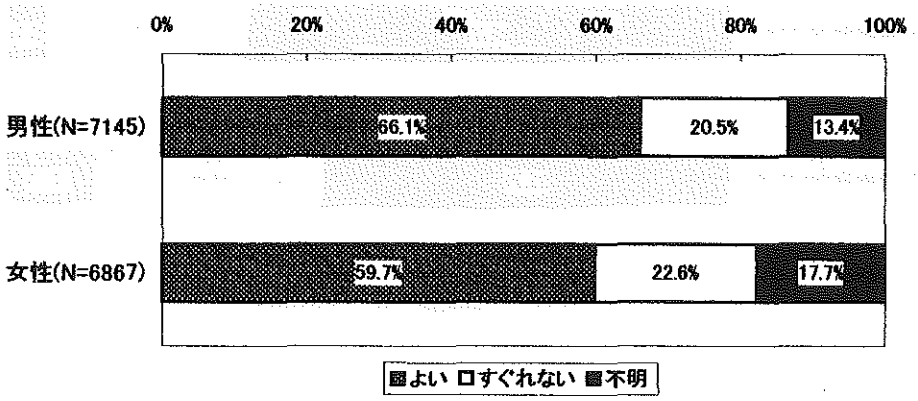
(3) 体調

14,012人のうち体調が良いとするのは8,820人(62.9%)、すぐれない599人(16.8%)であった。不明は2,171人(15.5%)であった。

＜性別比較—体調＞

男性の7,146人のうち体調が良いとするのは4,720人(66.1%)であり、女性6,867人のうちでは4,100人(59.7%)であった。体調がすぐれないとするのは男性は1,467人(20.5%)、女性は1,554人(22.6%)であった。不明は男性958人(13.4%)、女性は1,213人(17.7%)であった。体調は性別により違いがみられた(P<0.01)(図7(3)-1)。

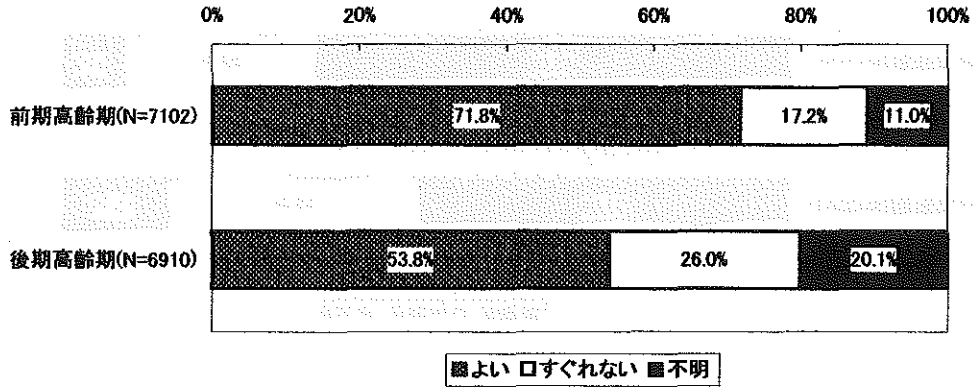
図7(3)-1体調—性別



＜年齢階級別比較—体調＞

前期高齢期7,102人のうち体調が良いとするのは5,099人(71.8%)であり、後期高齢期6,910人では3,721人(53.8%)であった。体調がすぐれないとするのは前期高齢期には1,224人(17.2%)、後期高齢期には1,797人(26.0%)であった。不明は前期高齢期では779人(11.0%)、後期高齢期では1,392人(20.1%)であった。体調は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(3)-2)。

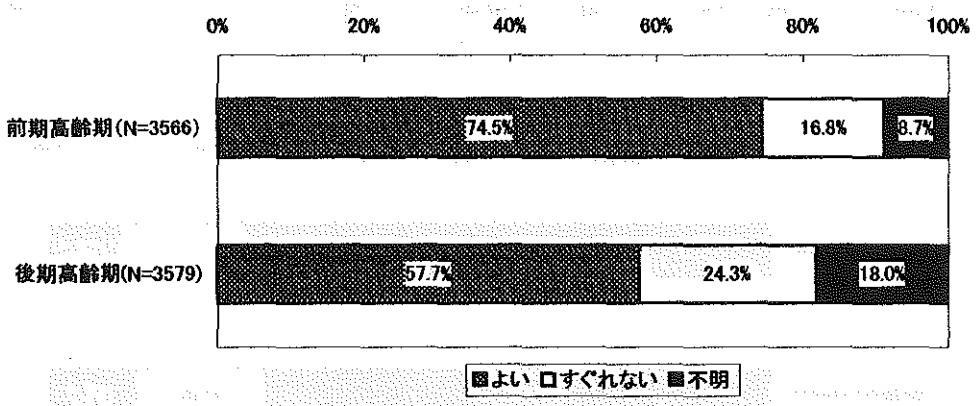
図7(3)-2体調—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―体調＞

男性の前期高齢期3,566人のうち体調が良いとするのは2,655人(74.5%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは2,065人(57.7%)であった。体調がすぐれないとするのは前期高齢期では599人(16.8%)、後期高齢期では868人(24.3%)であった。不明は前期高齢期では312人(8.7%)、後期高齢期では646人(18.0%)であった。男性の体調は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(3)-3)。

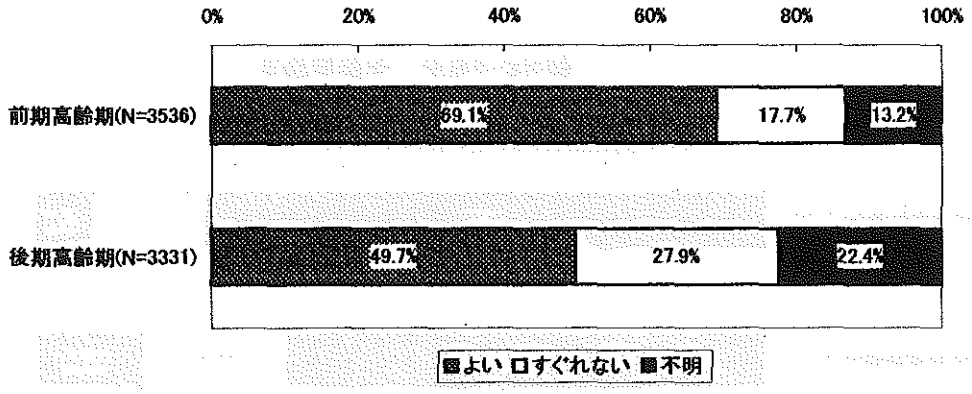
図7(3)-3体調―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―体調＞

女性の前期高齢期3,536人のうち体調が良いとするのは2,444人(69.1%)であり、後期高齢期3,331人のでは1,656人(49.7%)であった。体調がすぐれないとするのは前期高齢期には625人(17.7%)、後期高齢期には929人(27.9%)であった。不明は前期高齢期では467人(13.2%)、後期高齢期では746人(22.4%)であった。女性の体調は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(3)-4)。

図7(3)-4体調―女性年齢階級別



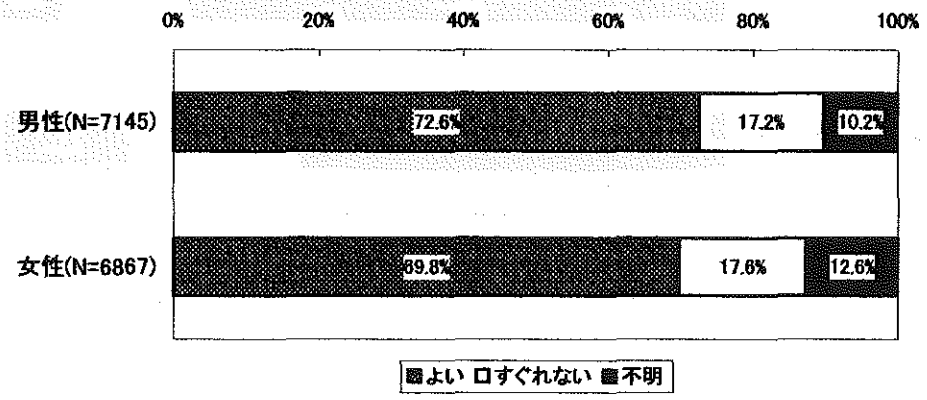
(4)気分

気分が良いとするのは14,012人のうち9,980人(71.2%)で、気分がすぐれないは2,434人(17.4%)であった。不明は1,598人(11.4%)であった。

＜性別比較―気分＞

男性の7,145人のうち気分が良いとするのは5,187人(72.6%)であり、女性6,867人のうちでは4,793人(69.8%)であった。気分がすぐれないとするのは男性は1,226人(17.2%)、女性は1,208人(17.6%)であった。不明は男性732人(10.2%)、女性は866人(12.6%)であった。気分は性別により違いがみられた(P<0.01)(図7(3)-1)。

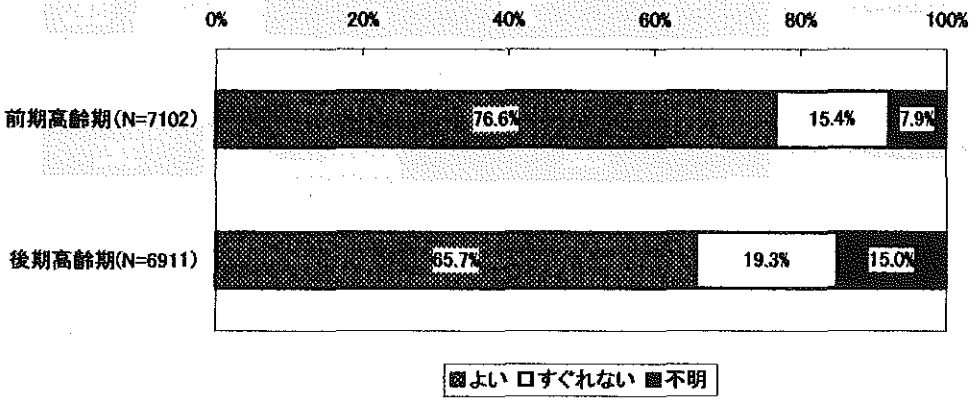
図7(4)-1気分―性別



＜年齢階級別比較―気分＞

前期高齢期7,102人のうち気分が良いとするのは5,443人(76.6%)、後期高齢期6,910人のうちでは4,537人(65.7%)であった。気分がすぐれないとするのは前期高齢期で1,097人(15.4%)、後期高齢期で1,337人(19.3%)あった。不明は前期高齢期は562人(7.9%)、後期高齢期は1,036人(15.0%)であった。気分の感じ方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(4)-2)。

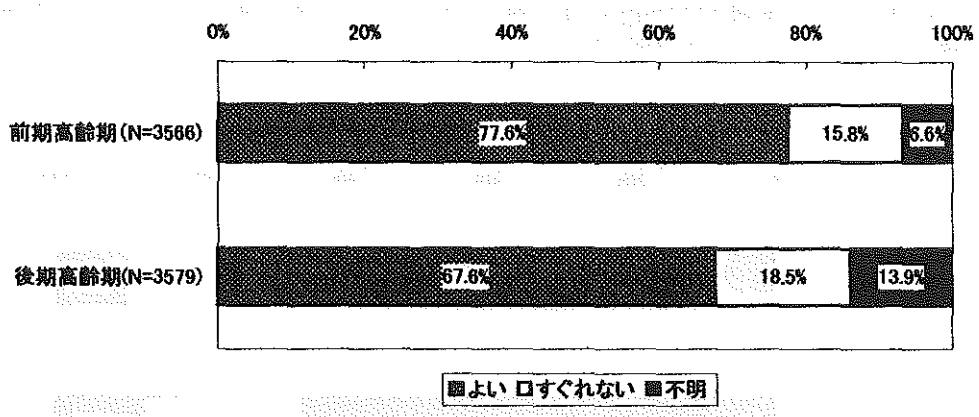
図7(4)-2気分―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―気分＞

男性の前期高齢期3,566人のうち気分が良いとするのは2,766人(77.6%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,421人(67.6%)であった。気分がすぐれないとするのは前期高齢期では564人(15.8%)、後期高齢期662人(18.5%)であった。不明は前期高齢期は236人(6.6%)、後期高齢期は496人(13.9%)であった。男性の気分の感じ方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(4)-3)。

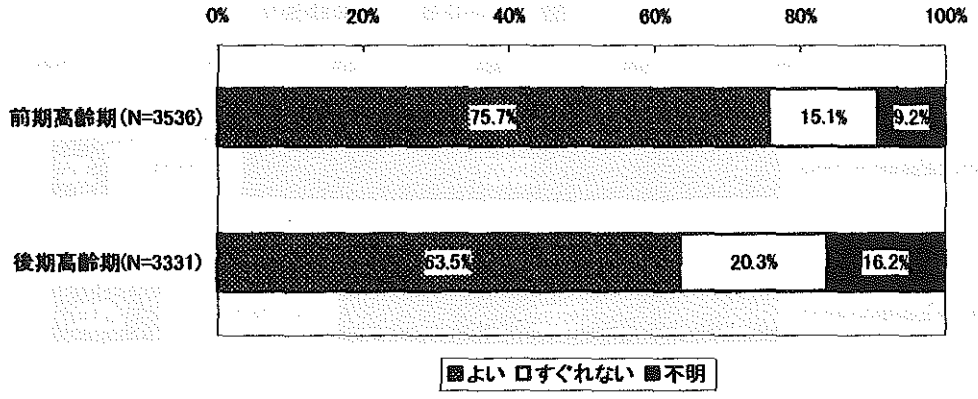
図7(4)-3気分―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―気分＞

女性の前期高齢期3,536人のうち気分が良いとするのは2,677人(75.7%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは2,116人(63.5%)であった。すぐれないとするのは前期高齢期533人(15.1%)、後期高齢期で675人(20.3%)あった。不明は前期高齢期は326人(9.2%)、後期高齢期は540人(16.2%)であった。女性の気分の感じ方には年齢による違いがあった(P<0.01)(図7(4)-4)。

図7(4)-4気分―女性年齢階級別



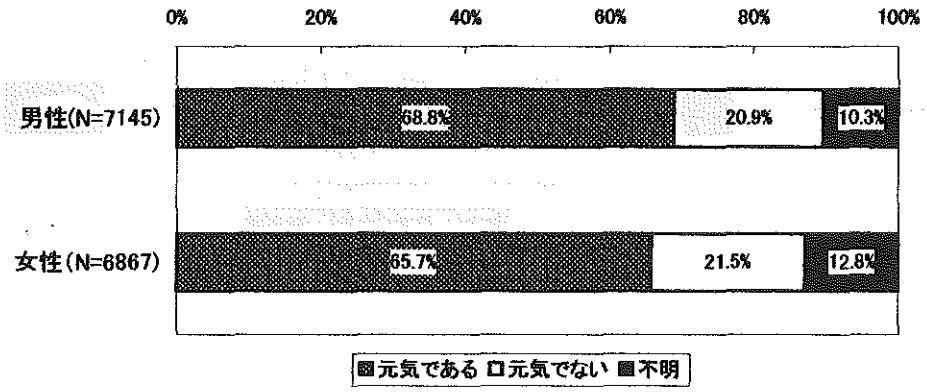
(5)元気

自分を元気であると感じているのは、14,012人のうち、9,427人(67.3%)であり、元気でないとするのは2,967人(21.2%)であった。不明は1,618人(11.5%)であった。

＜性別比較―元気＞

男性7,145人のうち元気であるとするのは4,918(68.8%)であった。女性では6,867人のうち4,509人(65.7%)が元気であるとしていた。元気でないとするのは男性では1,491人(20.9%)、女性では1,476人(21.5%)であった。不明は男性では736人(10.3%)、女性では882人(12.8%)であった。元気と感じるか否かには性による違いはみられなかった(図7(5)-1)。

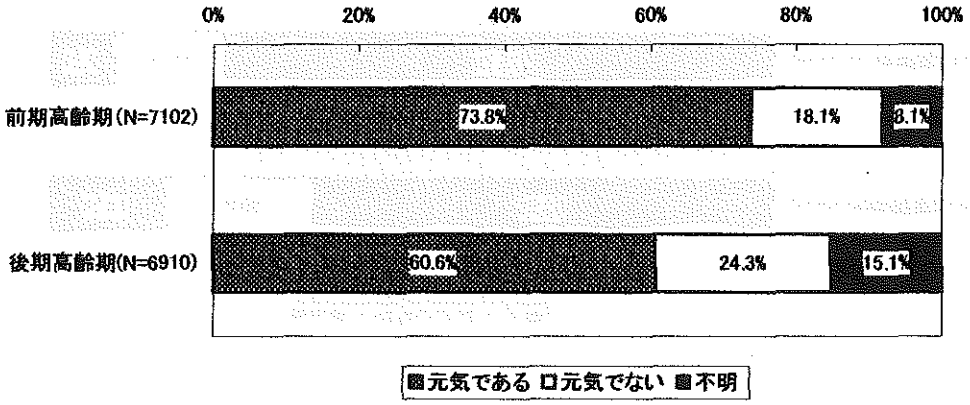
図7(5)-1元気―性別



＜年齢階級別比較―元気＞

前期高齢期7,102人のうち5,241人(73.8%)が元気であるとしており、後期高齢期6,910人のうち4,186人(60.6%)であった。元気でないとするのは前期高齢期では1,287人(18.1%)、後期高齢期では1,680人(24.3%)であった。不明は前期高齢期では574人(8.1%)、後期高齢期では1,044人(15.1%)であった。元気と感じるか否かには年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(5)-2)。

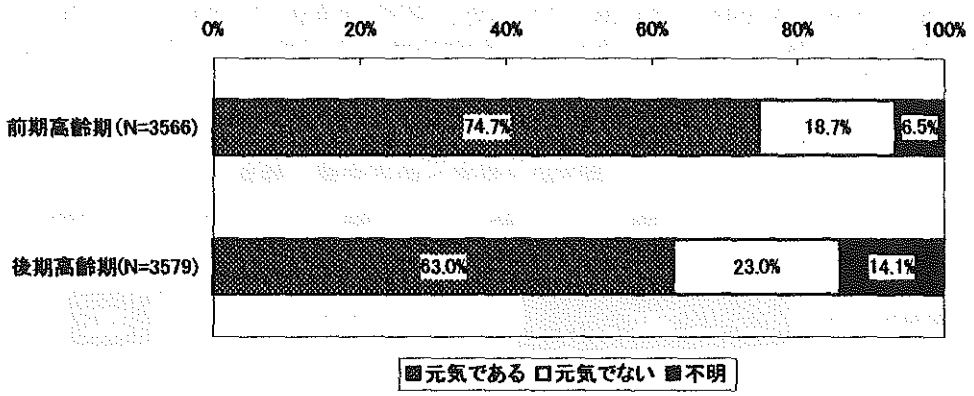
図7(5)-2元気―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―元気＞

男性の前期高齢期3,566人のうち元気であるとするのは2,665人(74.7%)であり、後期高齢期では3,579人のうち2,253人(63.0%)であった。元気でないとするのは前期高齢期では668人(18.7%)、後期高齢期では823人(23.0%)であった。不明は前期高齢期では233人(6.5%)、後期高齢期では503人(14.1%)であった。男性の元気と感じるか否かは年齢による違いがみられた(P<0.05)(図7(5)-3)。

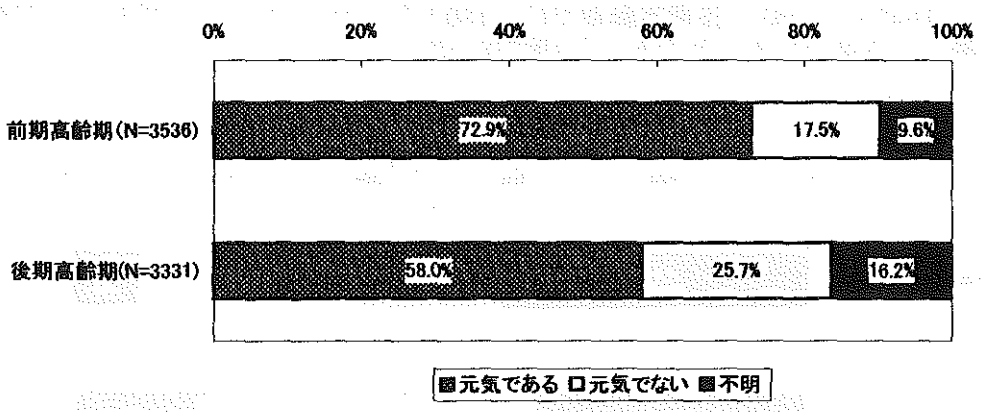
図7(5)-3元気―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―元気＞

女性の前期高齢期3,536人のうち2,576人(72.9%)が元気であるとしており、後期高齢期3,331人のうちでは1,933人(58.0%)であった。元気でないとするのは前期高齢期には619人(17.5%)、後期高齢期では857人(25.7%)であった。不明は前期高齢期では341人(9.6%)、後期高齢期では541人(16.2%)であった。女性が元気と感じるか否かには年齢による違いがみられた(P<0.05)(図7(5)-4)。

図7(5)-4元気―女性年齢階級別



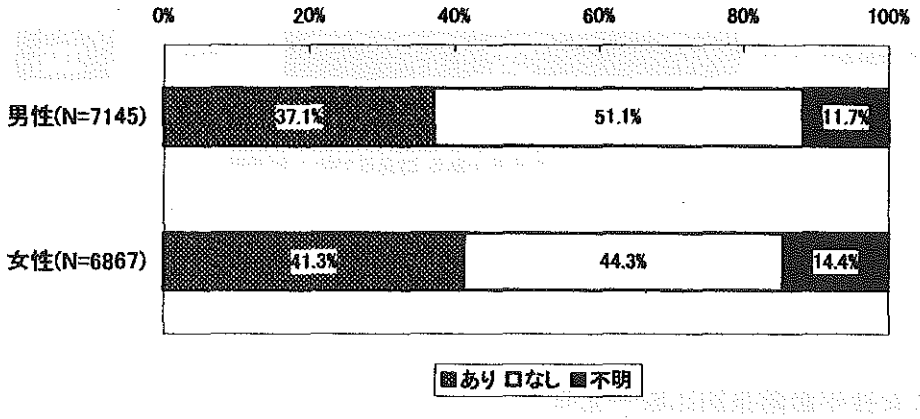
(6)将来への不安

将来への不安があるとするのは14,012人のうち5,487人(39.2%)で、不安がないとするのは6,698人(47.8%)、不明は1,827人(13.0%)であった。

<性別比較—将来への不安>

男性7,145人で将来に不安があるとしているのは2,653人(37.1%)、女性6,867人では、2,834人(41.3%)であった。不安がないとしているのは男性では3,654人(51.1%)、女性は3,044人(44.3%)であった。不明は男性では838人(11.7%)、女性では989人(14.4%)であった。将来への不安の感じ方は性により違いがみられた(P<0.01)(図7(6)-1)。

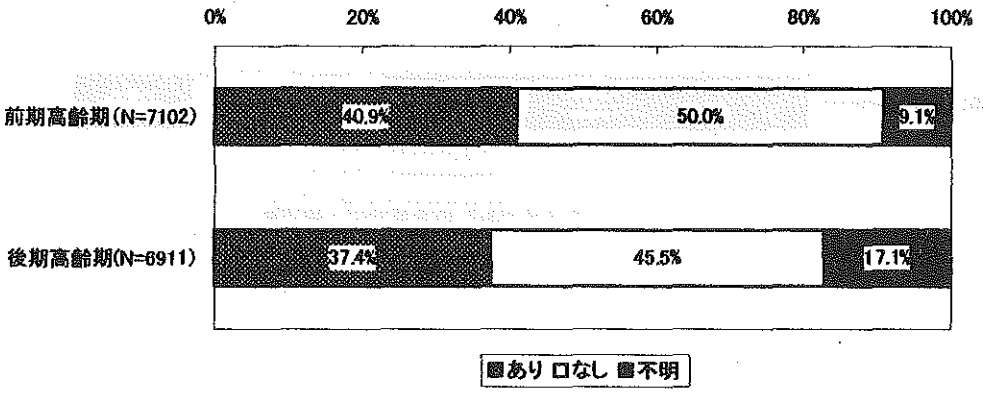
図7(6)-1将来への不安感—性別



<年齢階級別比較—将来への不安>

前期高齢期7,102人のうち不安があるとするのは2,904人(40.9%)であり、後期高齢期6,910人では2,583人(37.4%)であった。不安がないとするのは前期高齢期では3,551人(50.0%)、後期高齢期では3,147人(45.5%)であった。不明は前期高齢期では647人(9.1%)、後期高齢期では1,180人(17.1%)であった。将来への不安は年齢による違いはみられなかった(図7(6)-2)。

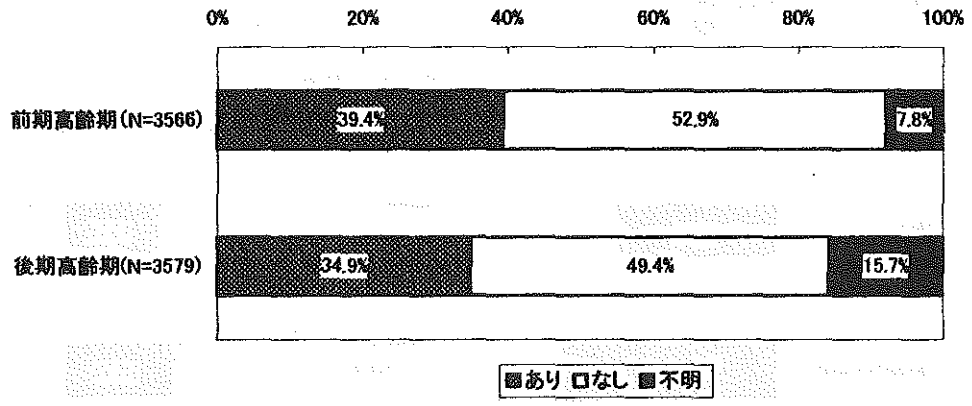
図7(6)-2将来変不安—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―将来への不安＞

男性の前期高齢期3,566人のうち将来への不安があるとするのは1,404人(39.4%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは1,249人(34.9%)であった。不安がないとするのは前期高齢期には1,885人(52.9%)、後期高齢期は1,769人(49.4%)であった。不明は前期高齢期では277人(7.8%)、後期高齢期では561人(15.7%)であった。男性の将来への不安には年齢による違いは見られなかった(図7(6)-3)。

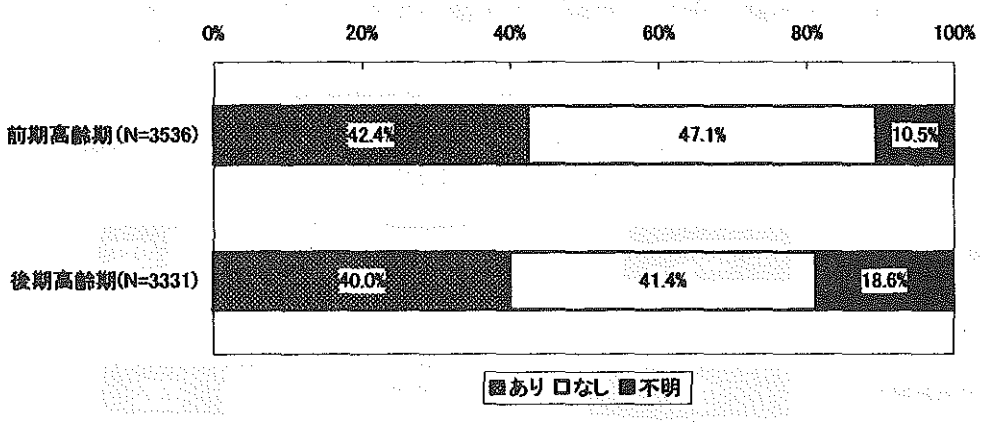
図7(6)-3将来変不安―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―将来への不安＞

女性では不安があるのは前期高齢期3,536人のうち1,500人(42.4%)であり、後期高齢期3,331人のうち1,334人(40.0%)であった。不安がないのは前期高齢期は1,666人(47.1%)、後期高齢期には1,378人(41.4%)であった。不明は前期高齢期では370人(10.5%)、後期高齢期では619人(18.6%)であった。女性の将来への不安には年齢による違いはみられなかった(図7(6)-4)。

図7(6)-4将来への不安―女性年齢階級別



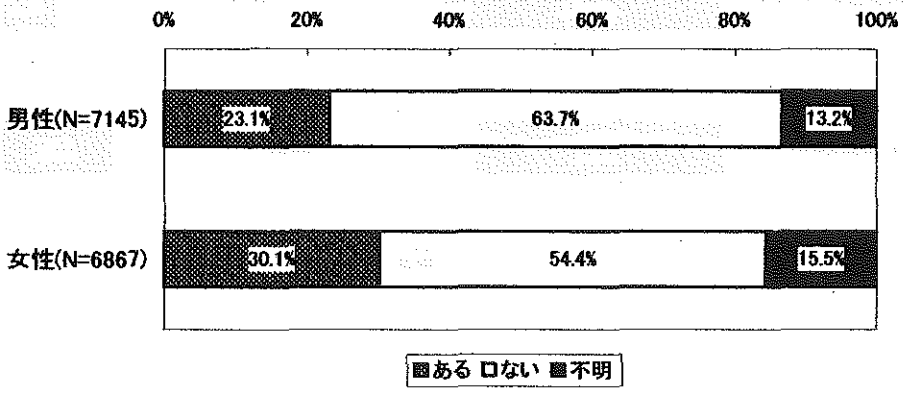
(7)寂しさ

寂しいと感じることがあるのは14,012人のうち3,719人(26.5%)で、ないのは8,284人(59.1%)、不明は2,009人(14.3%)であった。

<性別比較—寂しさ>

男性7,145人のうち寂しいと感じることがあるのは1,652人(23.1%)、女性6,867人のうち2,067人(30.1%)であった。寂しいと感じることがないのは男性では4,550人(63.7%)、女性では3,734人(13.2%)であった。不明は男性では943人(13.2%)、女性では1,066人(15.5%)であった。寂しさの感じ方には性による違いがみられた(P<0.01)(図7(7)-1)。

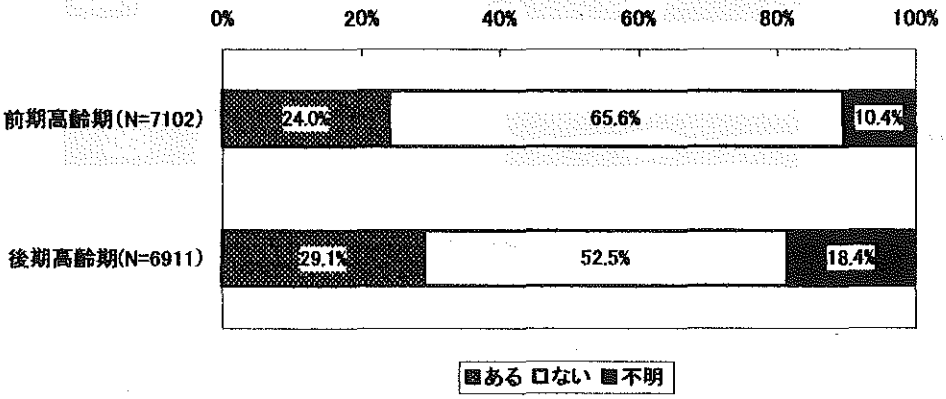
図7(7)-1寂しさ—性別



<年齢階級別比較—寂しさ>

前期高齢期7,012人のうち寂しいと感じることがあるのは、1,707人(24.0%)であり、後期高齢期6,910人のうち2,012人(29.1%)であった。寂しいと感じることがないのは前期高齢期では4,659人(65.6%)、後期高齢期では3,625人(52.5%)であった。不明は前期高齢期では736人(10.4%)、後期高齢期では1,273人(18.4%)であった。寂しさの感じ方には年齢による違いみられた(P<0.01)(図7(7)-2)。

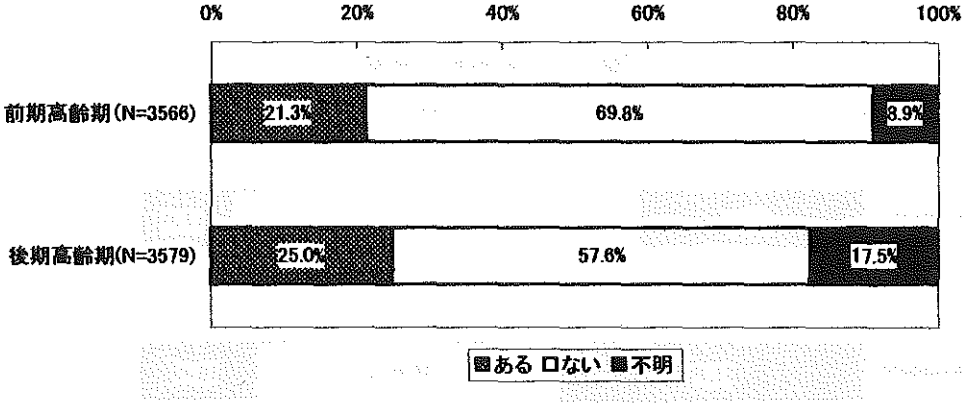
図7(7)-2寂しさ—年齢階級別



<男性年齢階級別比較—寂しさ>

男性の前期高齢期3,566人のうち寂しさを感じることがあるのは759人(21.3%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは893人(25.0%)であった。寂しさを感じることがないのは前期高齢期では2,490人(69.8%)であり後期高齢期では2,060人(57.6%)であった。不明は前期高齢期では317人(8.9%)、後期高齢期では626人(17.5%)であった。男性の寂しさの感じ方は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(7)-3)。

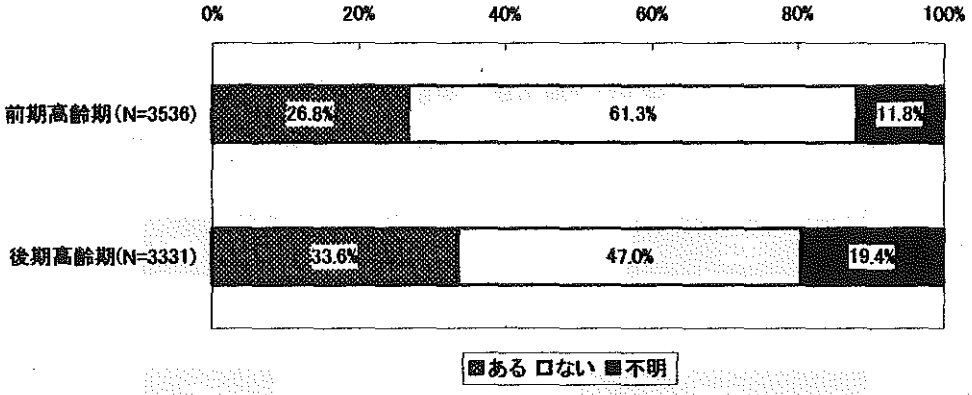
図7(7)-3寂しさ—男性年齢階級別



<女性年齢階級別比較—寂しさ>

女性の前期高齢期3,536人のうち寂しさを感じることがあるのは948人(26.8%)、後期高齢期3,331人のうちでは1,119人(33.6%)であった。寂しさを感じることがないのは前期高齢期では2,169人(61.3%)、後期高齢期1,565人(47.0%)であった。不明は前期高齢期では419人(11.8%)、後期高齢期では647人(19.4%)であった。女性の寂しさの感じ方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(7)-4)。

図7(7)-4寂しさ—女性年齢階級別



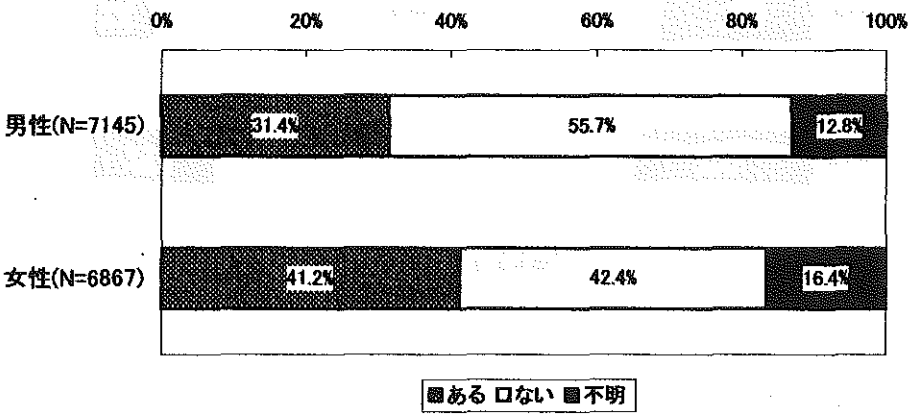
(8)無力感

無力感を感じることがあるのは14,012人のうち5,071人(36.2%)で、無力感を感じることはないとするのは6,895人(49.2%)であった。不明は2,046人(14.6%)であった。

<性別比較—無力感>

男性7,145人のうち無力感を感じることがあるのは2,245人(31.4%)、女性6,867人のうちでは2,826人(41.2%)で女性の割合が高かった。無力感を感じることがないのは男性は3,983人(55.7%)、女性では2,912人(42.4%)であった。不明は男性では917人(12.8%)、女性では1,129人(16.4%)であった。無力感の感じ方は性により違いがあった(P<0.01)(図7(8)-1)。

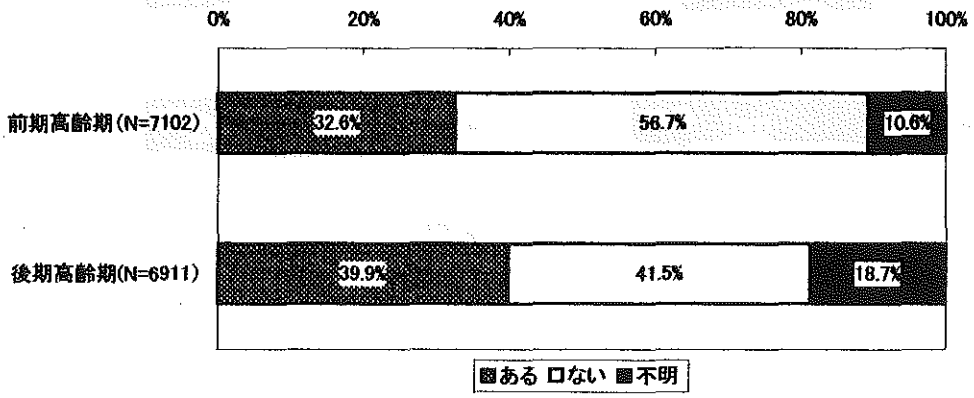
図7(8)-1無力感—性別



<年齢階級別比較—無力感>

前期高齢期7,102人のうち2,317人(32.6%)が無力感を感じ、後期高齢期6,910人のうちでは2,754人(39.9%)であった。無力感を感じないのは前期高齢期では4,029人(56.7%)、後期高齢期では2,866人(41.5%)であった。不明は前期高齢期は756人(10.6%)、後期高齢期は1,290人(18.7%)であった。無力感の有無は年齢による違いがあった(P<0.01)(図7(8)-2)。

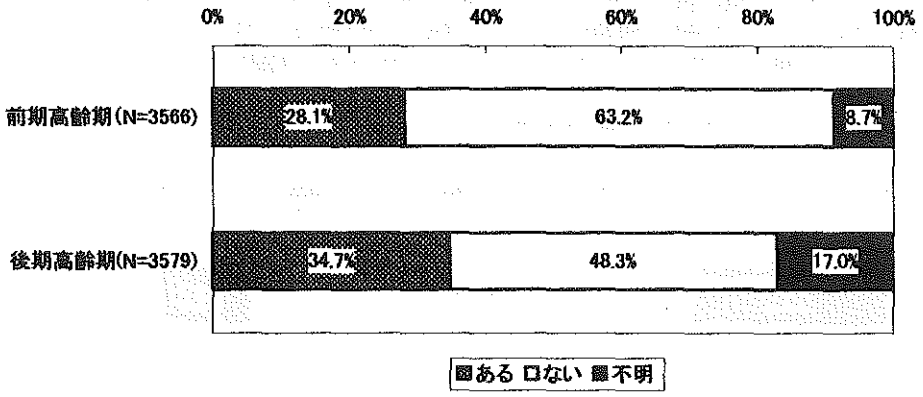
図7(8)-2無力感—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―無力感＞

男性の前期高齢期3,566人のうち1,003人(28.1%)が無力感を感じており、後期高齢期3,579人のうちでは1,242人(34.7%)であった。無力感を感じないのは前期高齢期には2,253人(63.2%)、後期高齢期には1,730人(48.3%)であった。不明は前期高齢期は310人(8.7%)、後期高齢期は607人(17.0%)であった。男性では無力感の感じ方に年齢による違いがあった(P<0.01)(図7(8)-3)。

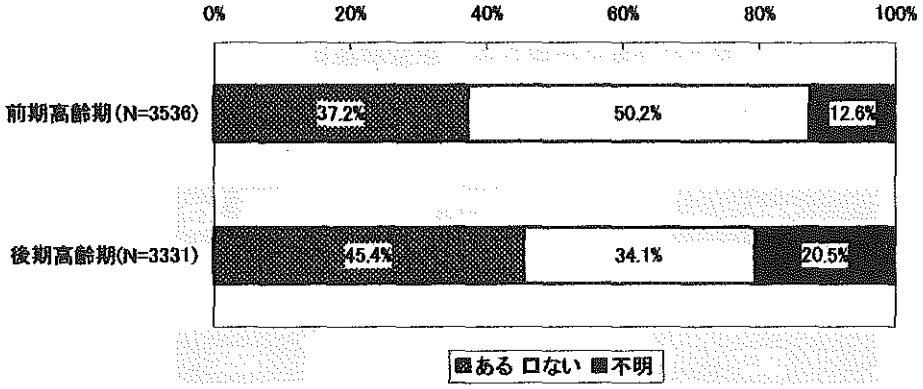
図7(8)-3無力感―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―無力感＞

女性の前期高齢期3,536人のうち1,314人(37.2%)が無力感を感じており、後期高齢期は3,331人のうちでは1,512人(45.4%)であった。無力感を感じないのは前期高齢期には1,776人(50.2%)、後期高齢期には1,136人(34.1%)であった。不明は前期高齢期は446人(12.6%)、後期高齢期は683人(20.5%)であった。女性も無力感の感じ方は年齢による違いがあった(P<0.01)(図7(8)-4)。

図7(8)-4無力感―女性年齢階級別



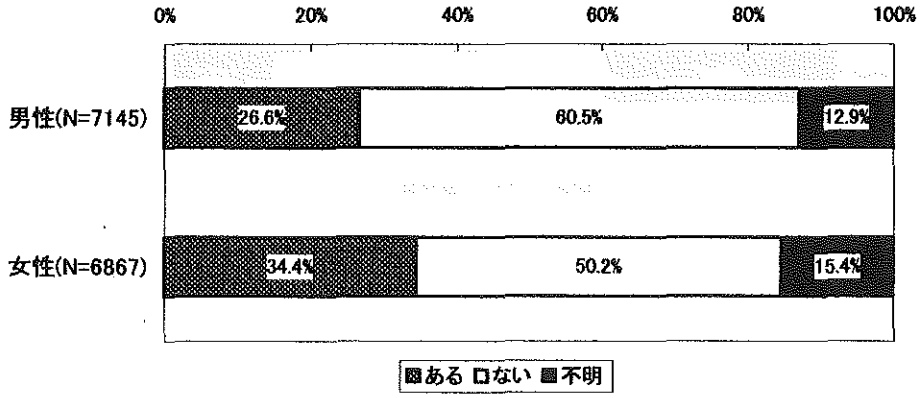
(9)気分の落込み

気分の落込みがあるとするのは14,012人のうち4,268人(30.5%)、ないのは7,766人(55.4%)、不明1,987人(14.1%)であった。

<性別比較—気分の落ち込み>

男性7,145人のうち気分の落込みがあると回答するのは1,904人(26.6%)、女性6,867人のうち2,364人(34.4%)であった。気分の落込みがないとするのは男性は4,320人(60.5%)、女性は3,446人(50.2%)であった。不明は男性では921人(12.9%)、女性では1,057人(15.4%)であった。不明は男性921人(12.9%)、女性は1,057人(15.4%)であった。気分の落込みの有無は性別による違いがあった(P<0.01)(図7(9)-1)。

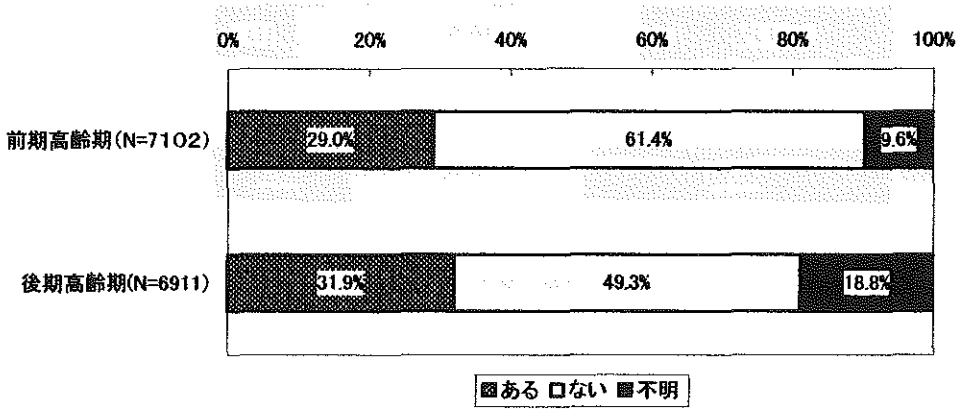
図7(9)-1気分の落込み—性別



<年齢階級別比較—気分の落ち込み>

前期高齢期7,102人のうち気分の落込みがあるとしているのは2,063人(29.0%)で、後期高齢期6,910人のうちでは2,205人(31.9%)であった。気分の落込みがないのは前期高齢期では4,358人(61.4%)で後期高齢期は3,408人(49.3%)であった。不明は前期高齢期では681人(9.6%)、後期高齢期では1,297人(18.8%)であった。気分の落込みの有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(9)-2)。

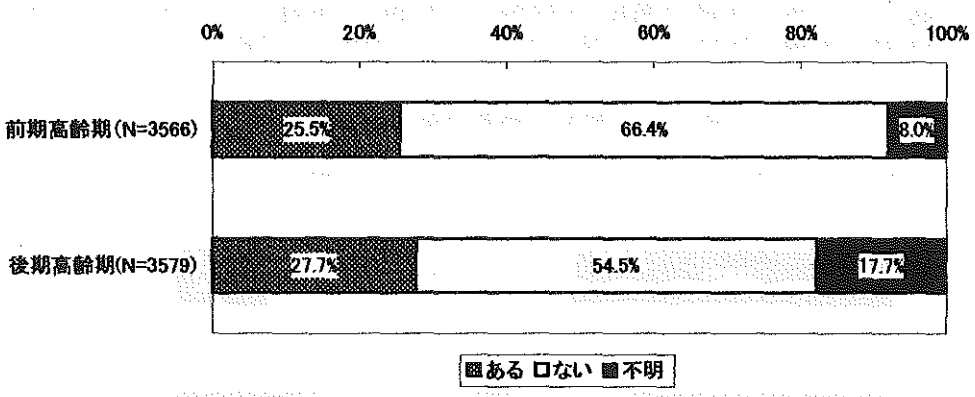
図7(9)-2気分の落込み—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―気分の落ち込み＞

男性の前期高齢期3,566人のうち気分の落込みがあるとするのは911人(25.5%)で後期高齢期3,578人のうちでは993人(27.7%)であった。気分の落込みがないのは前期高齢期では2,369人(66.4%)、後期高齢期では1,951人(54.5%)とであった。不明は前期高齢期では286人(8.0%)、後期高齢期では635人(17.7%)であった。男性の気分の落込みの有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(9)-3)。

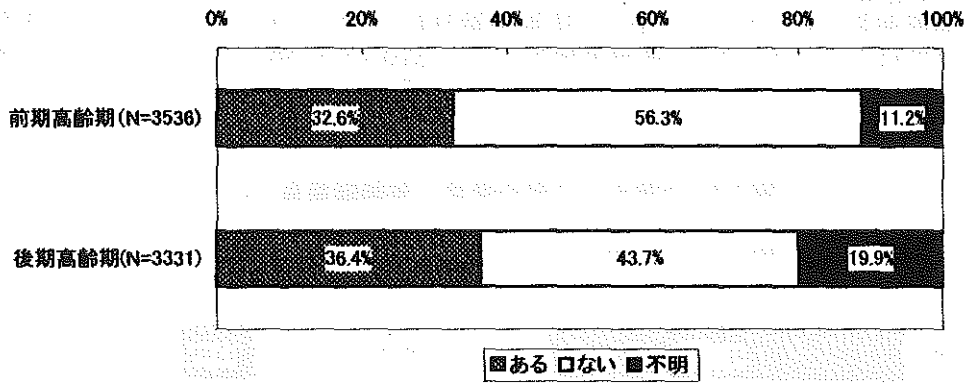
図7(9)-3気分の落込み―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―気分の落ち込み＞

女性の前期高齢期3,536人のうち気分の落込みがあるとするのは1,152人(32.6%)で、後期高齢期3,331人のうちでは1,212人(36.4%)であった。気分の落込みはないとするのは前期高齢期では1,989人(56.3%)、後期高齢期では1,457人(43.7%)であった。不明は前期高齢期では395人(11.2%)、後期高齢期では662人(19.9%)であった。女性の気分の落込みの有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(9)-4)。

図7(9)-4気分の落込み―女性年齢階級別



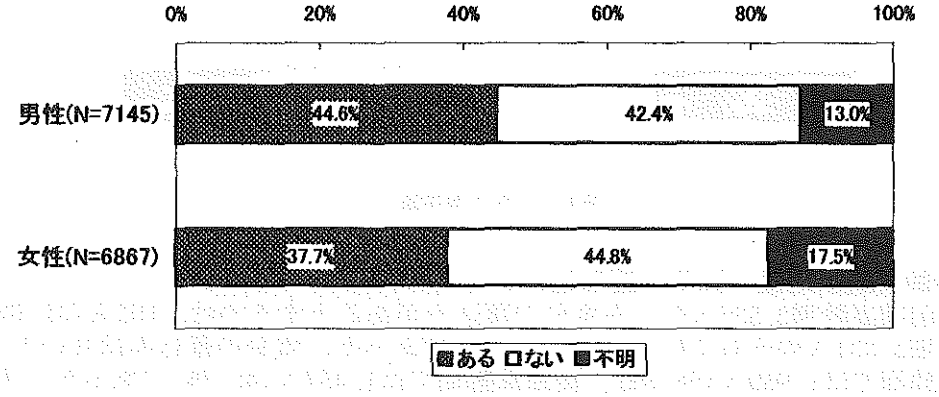
(10)将来の夢や希望

将来の夢や希望があるとするのは14,012人のうち5,778人(41.2%)で、ないとするのは6,109人(43.6%)、不明は2,125人(15.2%)であった。

<性別比較—将来の夢や希望>

男性7,145人のうち夢や希望を持っているとする者は3,188人(44.6%)、女性6,867人のうち2,590人(37.7%)であった。ないとするのは、男性では3,031人(42.4%)、女性は3,078人(44.8%)であった。不明は男性では926人(13.0%)、女性では1,199人(17.5%)であった。夢や希望の有無は性別による違いがみられた(P<0.01)(図7(10)-1)。

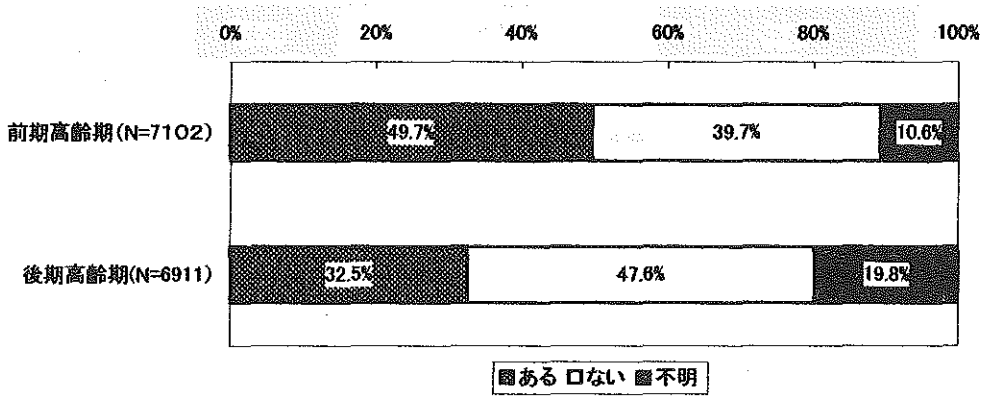
図7(10)-1将来への夢や希望—性別



<年齢階級別比較—将来の夢や希望>

前期高齢期7,102人のうち将来の夢や希望を持っていると回答したのは3,530人(49.8%)で、後期高齢期6,910人のうちでは2,248人(32.5%)であった。ないと回答しているのは前期高齢期では2,871(39.7%)、後期高齢期は3,292人(47.6%)であった。不明は前期高齢期では755人(10.6%)、後期高齢期では1,370人(19.8%)であった。将来へ夢や希望の有無と年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(10)-2)。

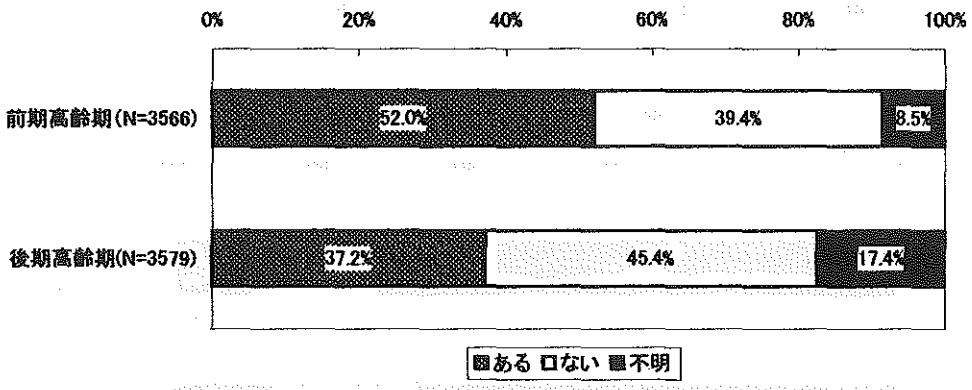
図7(10)-2将来への夢や希望—年齢階級別



＜男性別比較―将来の夢や希望＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで夢や希望があるとするのは1,856人(52.0%)で、後期高齢期3,579人のうちでは1,332人(37.2%)であった。ないとするのは前期高齢期では1,406人(39.4%)、後期高齢期では1,625人(45.4%)であった。不明は前期高齢期では304人(8.5%)、後期高齢期では622人(17.4%)であった。男性では夢や希望の有無は年齢により違いがみられた(P<0.01)(図7(10)-3)。

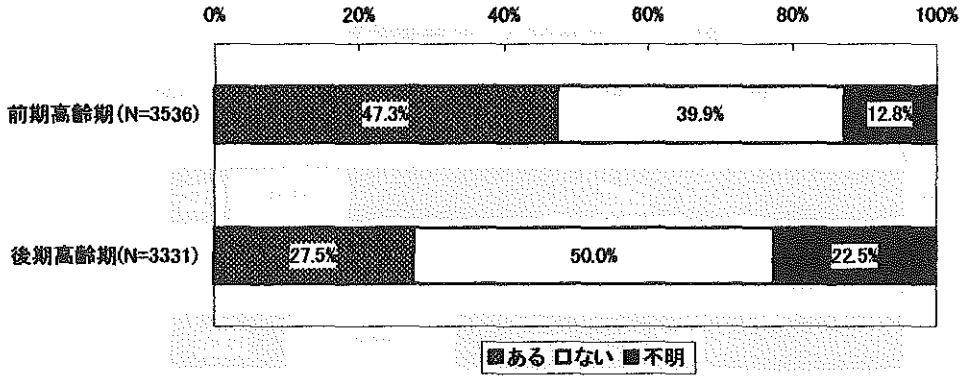
図7(10)-3将来への夢や希望―男性年齢階級別



＜女性別比較―将来の夢や希望＞

女性の前期高齢期3,536人のうち将来の夢や希望があるとするのは1,674人(47.3%)で、後期高齢期3,331人のうちでは916人(27.5%)であった。ないとするのは前期高齢期では1,411(39.9%)、後期高齢期では1,667人(50.0%)であった。不明は前期高齢期は451人(12.8%)、後期高齢期は748人(22.5%)であった。女性の将来への夢や希望の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(10)-4)。

図7(10)-4将来への夢や希望―女性年齢階級別



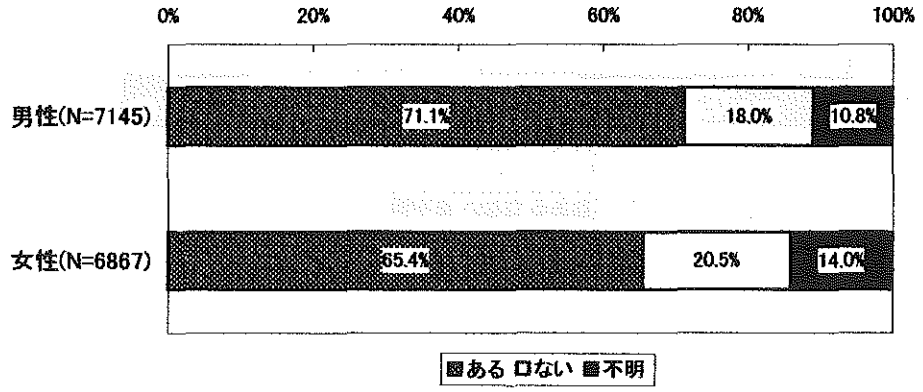
(11)生きがい

生きがいがあるとするのは14,012人のうち9,574人(68.3%)、ないとするのは2,699人(19.3%)、不明は1,739人(12.4%)であった。

<性別比較—生きがい>

男性7,145人のうち生きがいがあるとするのは5,081人(71.1%)、女性6,867人のうち4,493人(65.4%)であった。生きがいがないとするのは男性では1,289人(18.0%)、女性では1,410人(20.5%)であった。不明は男性775人(10.8%)、女性は964人(14.0%)であった。生きがいの有無は性による違いがみられた(P<0.01)(図7(11)-1)。

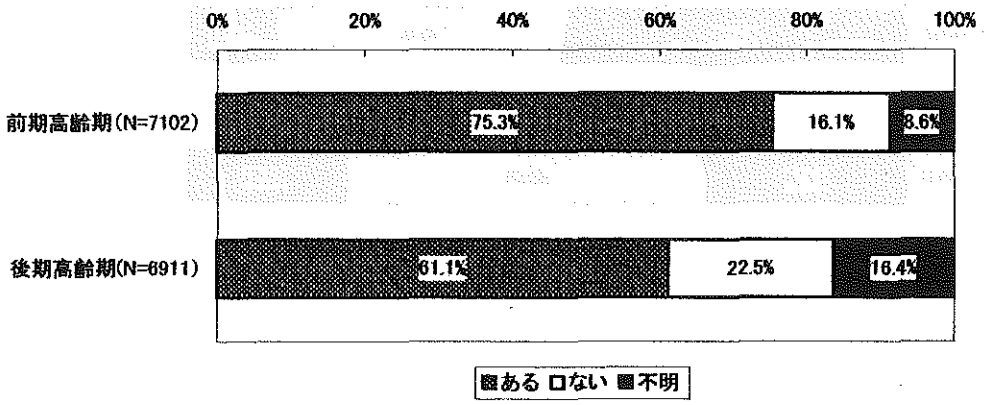
図7(11)-1生きがい—性別



<年齢階級別比較—生きがい>

前期高齢期7,102人のうち生きがいを持っているとするのは5,351人(75.3%)、後期高齢期6,910人のうちでは4,223人(61.1%)であった。生きがいがないとするのは前期高齢期では1,142人(16.1%)、後期高齢期では1,557人(22.5%)であった。不明は前期高齢期は609人(8.6%)、後期高齢期は1,130人(16.4%)であった。生きがいの有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(11)-2)。

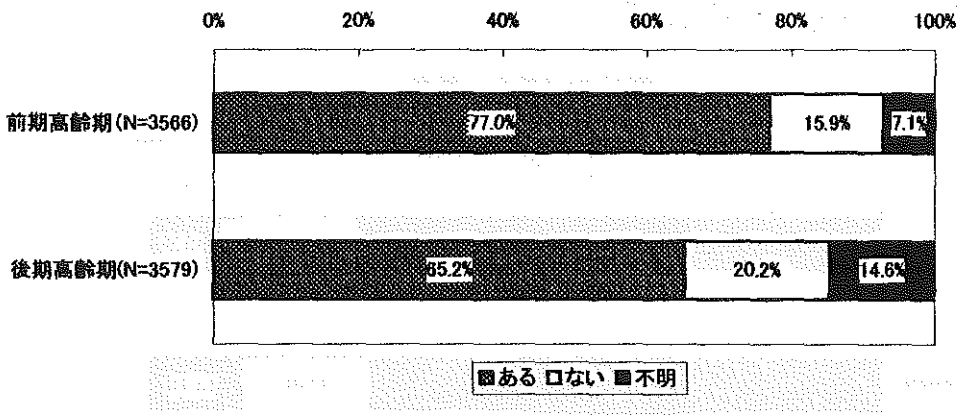
図7(11)-2生きがい—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―生きがい＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで生きがいがあるとするのは2,746人(77.0%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,335人(65.2%)であった。生きがいがないとするのは前期高齢期には566人(15.9%)、後期高齢期には723人(20.2%)であった。不明は前期高齢期は254人(7.1%)、後期高齢期は521人(14.6%)であった。男性の生きがいの有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(11)-3)。

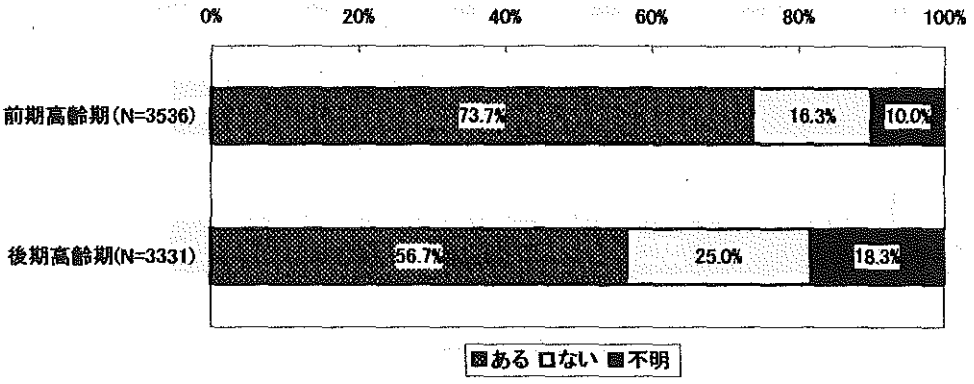
図7(11)-3生きがい―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―生きがい＞

女性の前期高齢期3,536人のうち生きがいがあるとするのは2,605人(73.7%)で、後期高齢期3,331人のうちでは1,888人(56.7%)であった。生きがいがないとするのは前期高齢期では576人(16.3%)、後期高齢期では834人(25.0%)であった。不明は前期高齢期は355人(10.0%)、後期高齢期は609人(18.3%)であった。女性の生きがいの有無も年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(11)-4)。

図7(11)-4生きがい―女性年齢階級別



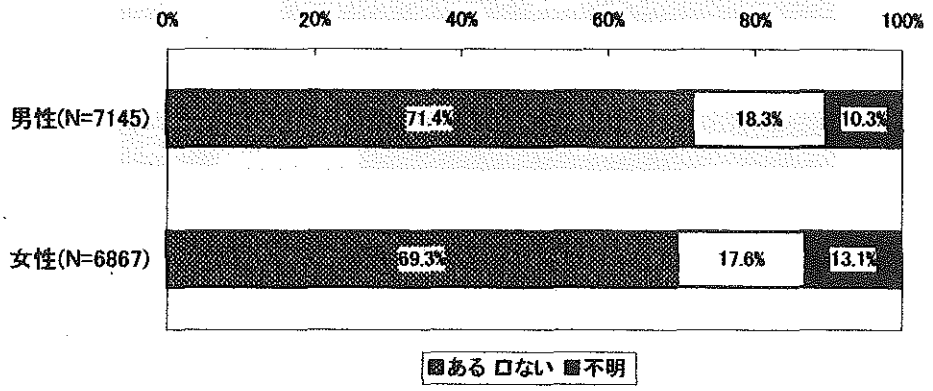
(12)気力

気力があるとするのは14,012人のうち9,863人(70.4%)で、気力がないとするのは2,518(18.0%)、不明は1,631人(11.6%)であった。

<性別比較—気力>

男性7,145人のうち気力があるとするのは5,101人(71.4%)、女性6,867人のうち4,762人(69.3%)であった。気力がないとするのは男性では1,311人(18.3%)、女性では1,207(17.6%)であった。不明は男性733人(10.3%)、女性は898人(13.1%)であった。気力の有無は性による違いがみられなかった(図7(12)-1)。

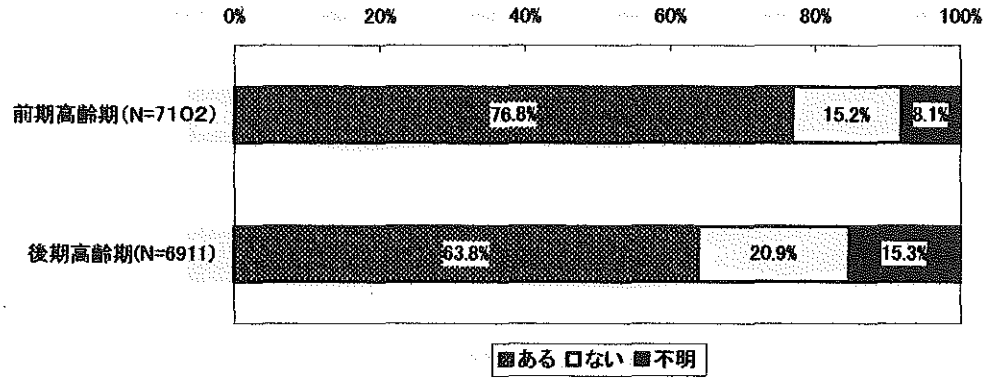
図7(12)-1気力—性別



<年齢階級別比較—気力>

前期高齢期7,102人のうち気力があるとしているのは5,453人(76.8%)、後期高齢期6,910人のうちでは4,410人(63.8%)であった。気力がないとするのは前期高齢期では1,076人(15.2%)、後期高齢期では1,442人(20.9%)であった。不明は前期高齢期は573人(8.1%)、後期高齢期は1,058人(15.3%)であった。気力の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(12)-2)。

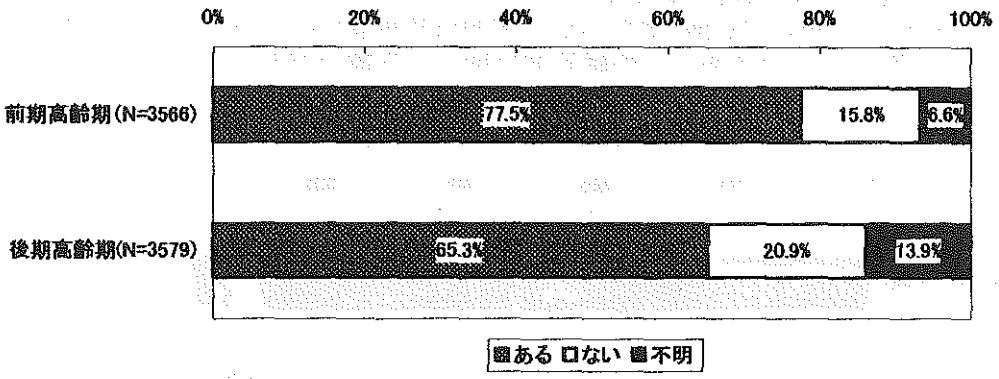
図7(12)-2気力—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較—気力＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで気力があるとするのは2,765人(77.5%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,336人(65.3%)であった。気力がないとするのは前期高齢期564人(15.8%)、後期高齢期747人(20.9%)であった。不明は前期高齢期は237人(6.6%)、後期高齢期は496人(13.9%)であった。男性の気力の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(12)-3)。

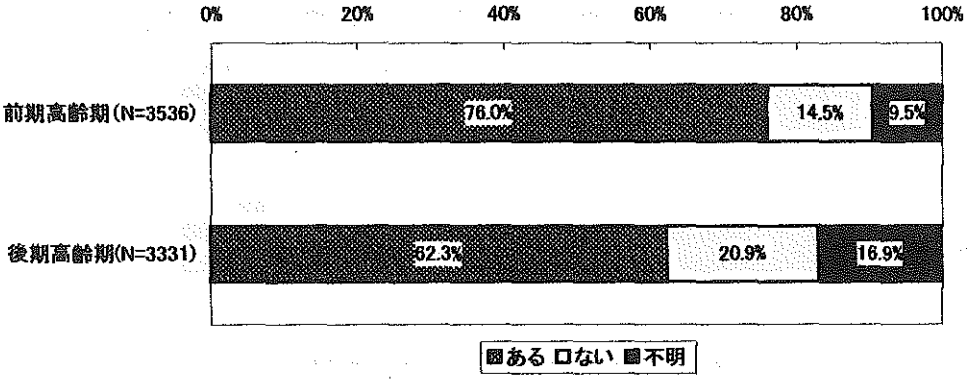
図7(12)-3気力—男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較—気力＞

女性の前期高齢期3,536人のうち気力があるとするのは2,688人(76.0%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,074人(62.3%)であった。気力がないとするのは前期高齢期では512人(14.5%)、後期高齢期では695人(20.9%)であった。不明は前期高齢期は336人(9.5%)、後期高齢期は562人(16.9%)であった。女性の気力の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図7(12)-4)。

図7(12)-4気力—女性年齢階級別



8 人間関係

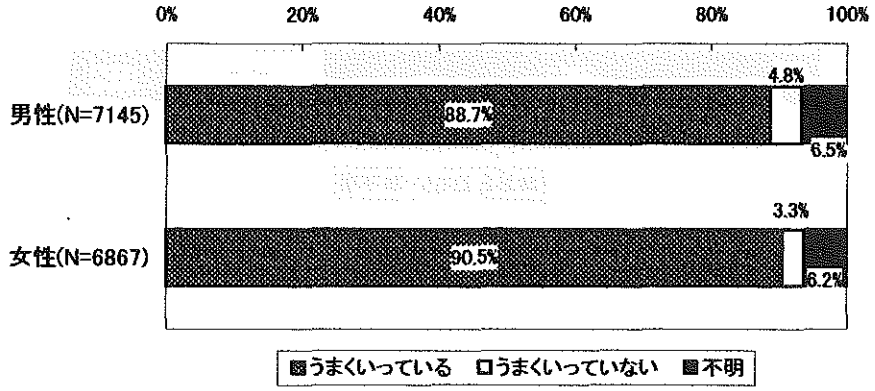
(1)周りとのつきあい

周りとのつきあいがうまくいっているとするのは14,012人のうち12,557人(89.6%)で、567人(4.0%)がうまくいていっていないと回答した。不明は888人(6.3%)であった。

＜性別比較―周りとのつきあい＞

男性7,145人のうち周りとのつきあいがうまくいいているとするのは6,341人(88.7%)、女性6,867人のうちでは6,216人(90.5%)であった。うまくいっていないとするのは男性では341人(4.8%)、女性では226人(3.3%)であった。不明は男性463人(6.5%)、女性は425人(6.2%)であった。周りとのつきあいへの感じ方は性による違いがみられた(P<0.01)(図8(1)-1)。

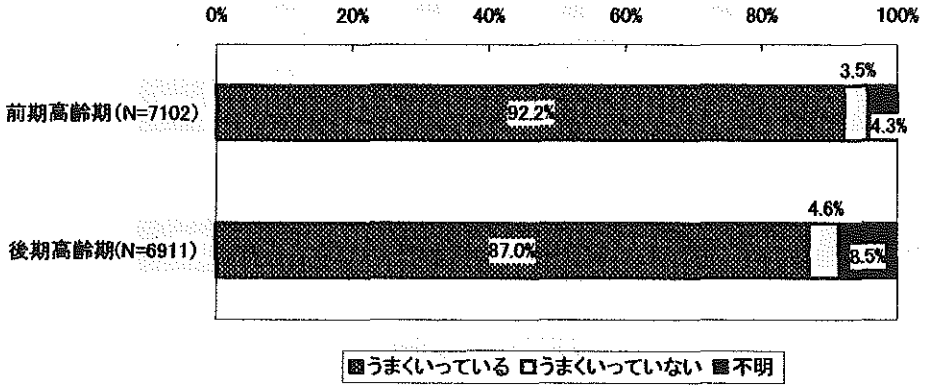
図8(1)-1周りとのつきあい―性別



＜年齢階級別比較―周りとのつきあい＞

前期高齢期7,102人のうち周りとのつきあいはうまくいっているとするのは6,547人(92.2%)、後期高齢期6,910人のうちでは6,010人(87.0%)であった。うまくいっていないとするのは前期高齢期には252人(3.5%)、後期高齢期では315人(4.6%)であった。不明は前期高齢期は303人(4.3%)、後期高齢期は585人(8.5%)であった。周りとのつきあいの感じ方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図8(1)-2)。

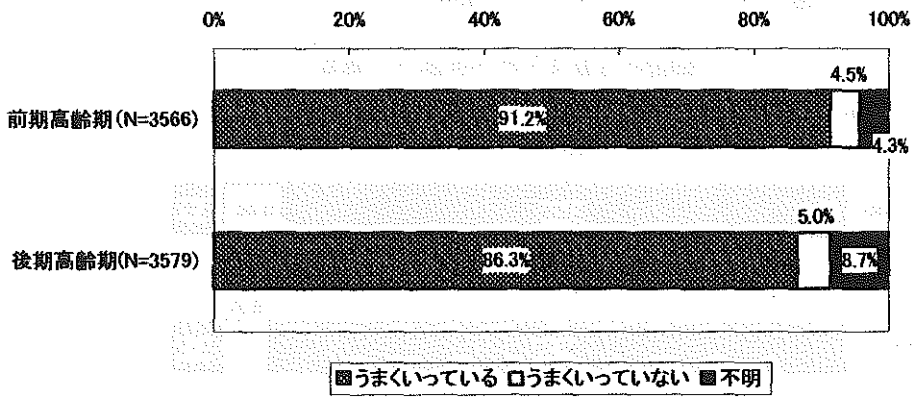
図8(1)-2周りとのつきあい―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―周りとのつきあい＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで周りとのつきあいがうまくいっているとするのは3,252人(91.2%)で、後期高齢期3,579人のうちでは3,089人(86.3%)であった。うまくいっていないとするのは前期高齢期には161人(4.5%)、後期高齢期には180人(5.0%)であった。不明は前期高齢期は153人(4.3%)、後期高齢期は310人(8.7%)であった。男性の周りとのつきあいの感じ方は年齢による違いはみられなかった(図8(1)-3)。

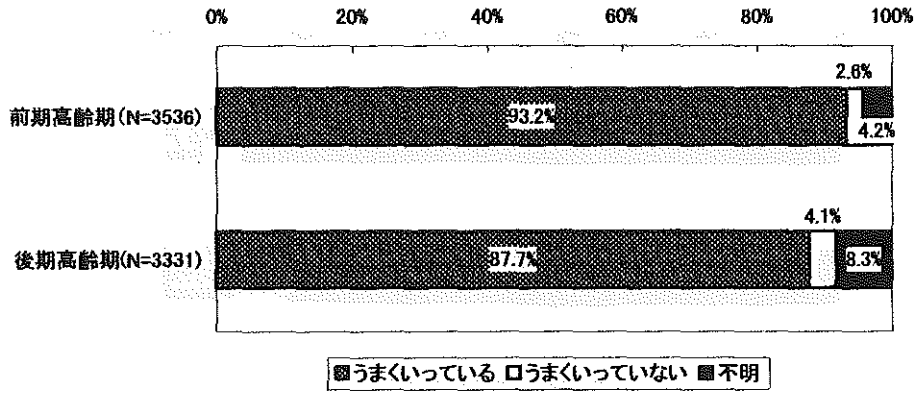
図8(1)-3周りとのつきあい―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―周りとのつきあい＞

女性の前期高齢期3,536人のうち周りとのつきあいがうまくいっているとするのは3,295人(93.2%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,921人(87.7%)であった。うまくいっていないとするのは前期高齢期は91人(2.6%)で後期高齢期では135人(4.1%)であった。不明は前期高齢期は150人(4.2%)、後期高齢期は275人(8.3%)であった。女性の周りとのつきあいの感じ方は年齢により違いがみられた(P<0.01)(図8(1)-4)。

図8(1)-4周りとのつきあい―女性年齢階級別



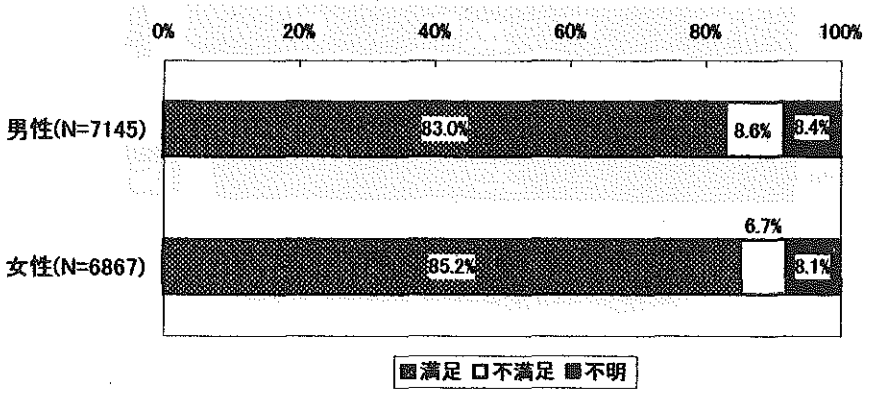
(2)友人とのつきあい

友人とのつきあいに満足しているとするのは14,012人のうち11,786人(84.1%)で1,072人(7.7%)が不満足であると回答した。不明は1,154人(8.2%)であった。

<性別比—友人とのつきあい>

男性7,145人のうちで友人とのつきあいに満足しているのは5,933人(83.0%)、女性6,867人のうち5,853人(85.2%)であった。不満足なのは男性では613人(8.6%)、女性では459人(6.7%)であった。不明は男性人599(%8.4)、女性は555人(8.1%)であった。友人とのつきあいの満足度は性による違いがみられた(P<0.01)(図8(2)-1)。

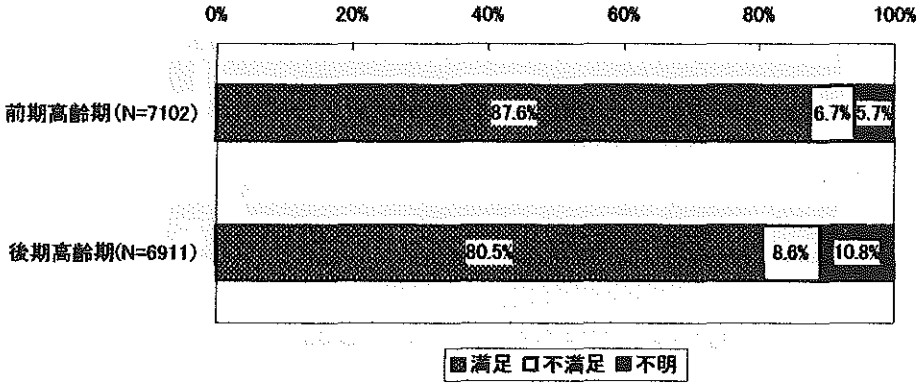
図8(2)-1友人とのつきあい—性別



<年齢階級別比較—友人とのつきあい>

前期高齢期7,102人のうち友人とのつきあいに満足しているのは6,220人(87.6%)で、後期高齢期6,910人のうちでは5,566人(80.5%)であった。不満足とするのは前期高齢期には475人(6.7%)、後期高齢期には597人(8.6%)であった。不明は前期高齢期は407人(5.7%)、後期高齢期は747人(10.8%)であった。友人とのつきあいの満足感は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図8(2)-2)。

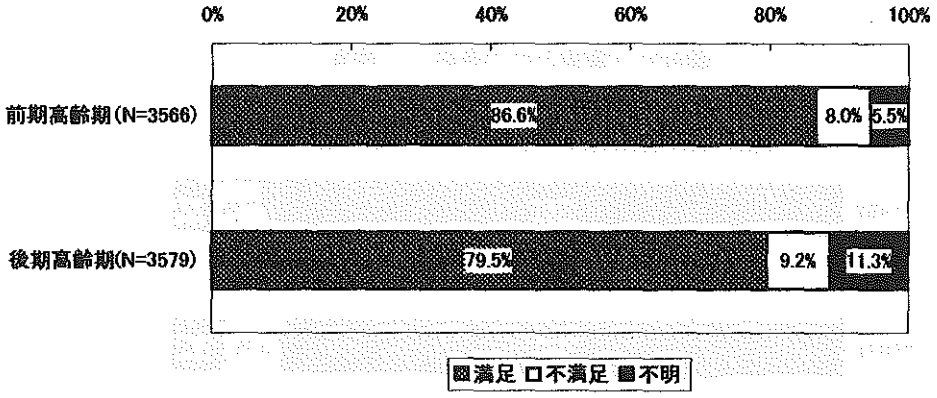
図8(2)-2友人とのつきあい—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―友人とのつきあい＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで友人とのつきあいに満足しているとするのは3,087人(86.6%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,846人(79.5%)であった。不満足とするのは前期高齢期には284人(8.0%)、後期高齢期では329人(9.2%)であった。不明は前期高齢期は195人(5.5%)、後期高齢期は404人(11.3%)であった。男性の友人とのつきあいへの満足感は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図8(2)-3)。

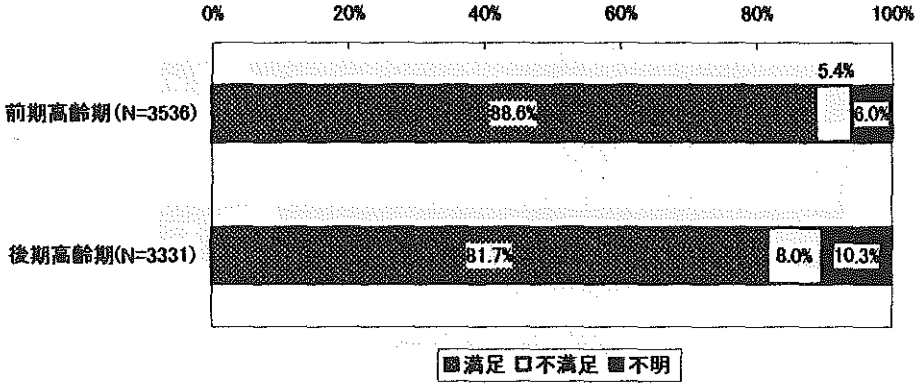
図8(2)-3友人とのつきあい―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―友人とのつきあい＞

女性の前期高齢期3,536人のうちで友人とのつきあいに満足しているのは3,133人(88.6%)で、後期高齢期6,910人のうち友人とのつきあいに満足しているのは2,720人(81.7%)であった。不満足とするのは前期高齢期では191人(5.4%)、後期高齢期では268人(8.0%)であった。不明は前期高齢期は212人(6.0%)、後期高齢期は343人(10.3%)であった。女性の友人とのつきあいへの満足感は年齢により違いがみられた(P<0.01)(図8(2)-3)。

図8(2)-4友人とのつきあい―女性年齢階級別



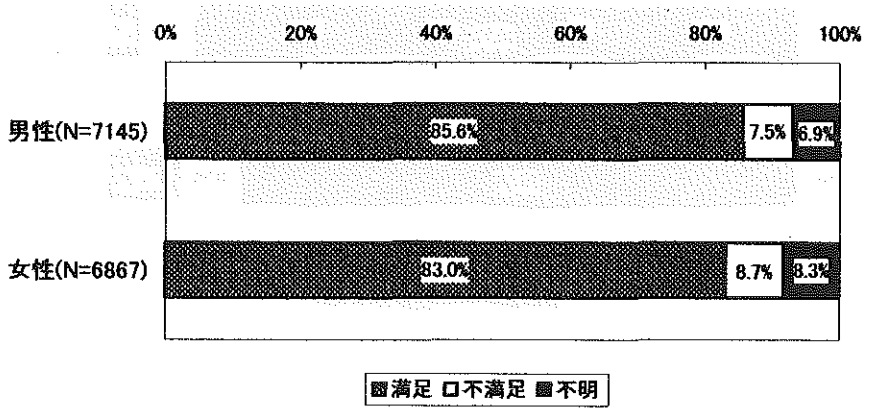
(3)家族とのつきあい

家族とのつきあいに満足しているとするのは14,012人のうち11,816人(84.3%)で、1,129人(8.1%)が不満足であると回答した。不明は1,067人(7.6%)であった。

<性別比較—家族とのつきあい>

男性7,145人のうちで家族とのつきあいに満足しているのは6,116人(85.6%)、女性では6,867人のうち5,700人(83.0%)であった。不満足なのは男性では534人(7.5%)、女性では595人(8.7%)であった。不明と答えたのは男性495人(6.9%)、女性は572人(8.3%)であった。家族とのつきあいの満足感は性による違いがみられた(P<0.01)(図8(3)-1)。

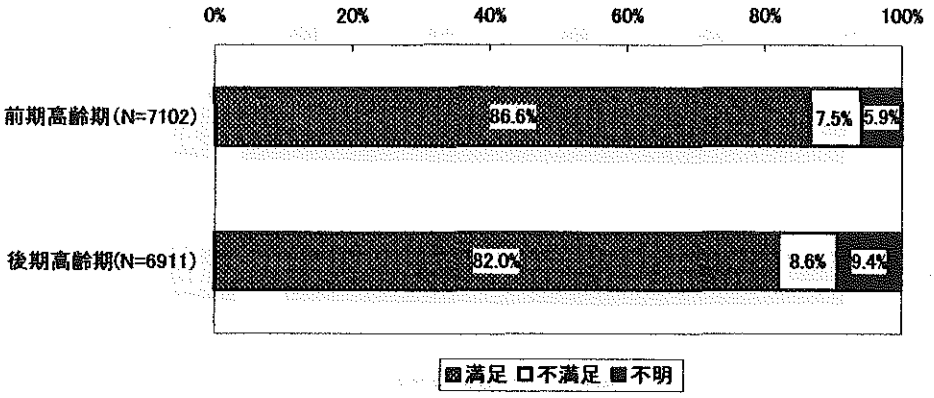
図8(3)-1家族とのつきあい—性別



<年齢階級別比較—家族とのつきあい>

前期高齢期7,102人のうち家族とのつきあいに満足していているのは6,150人(86.6%)で、後期高齢期6,910人のうちでは5,666人(82.0%)であった。不満足とするのは前期高齢期には532人(7.5%)、後期高齢期には597人(8.6%)であった。不明は前期高齢期は420人(5.9%)、後期高齢期は647人(9.4%)であった。家族とのつきあいへの満足感は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図8(3)-2)。

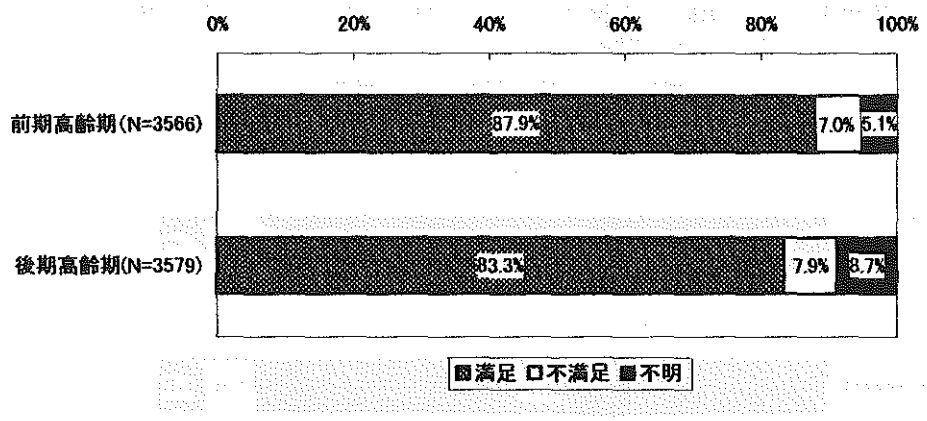
図8(3)-2家族とのつきあい—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―家族とのつきあい＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで家族とのつきあいに満足しているのは3,134人(87.9%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,982人(83.3%)であった。不満足とするのは前期高齢期には250人(7.0%)、後期高齢期には284人(7.9%)であった。不明は前期高齢期は182人(5.1%)、後期高齢期は313人(8.7%)であった。男性の家族とのつきあいへの満足感は年齢による違いがみられた(P<0.05)(図8(3)-3)。

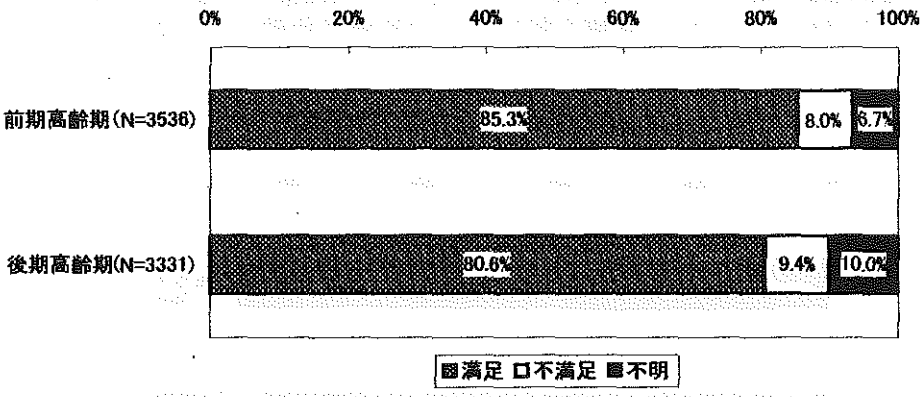
図8(3)-3家族とのつきあい―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―家族とのつきあい＞

女性の前期高齢期3,536人のうちで家族とのつきあいに満足しているのは、3,016人(85.3%)で、後期高齢期3,331人のうちでは684人(80.6%)であった。不満足なのは前期高齢期は282人(8.0%)、後期高齢期は313人(9.4%)であった。不明は前期高齢期は238人(6.7%)、後期高齢期は334人(10.0%)であった。女性の家族とのつきあいへの満足感は年齢により違いがみられた(P<0.05)(図8(3)-4)。

図8(3)-4家族とのつきあい―女性年齢階級別



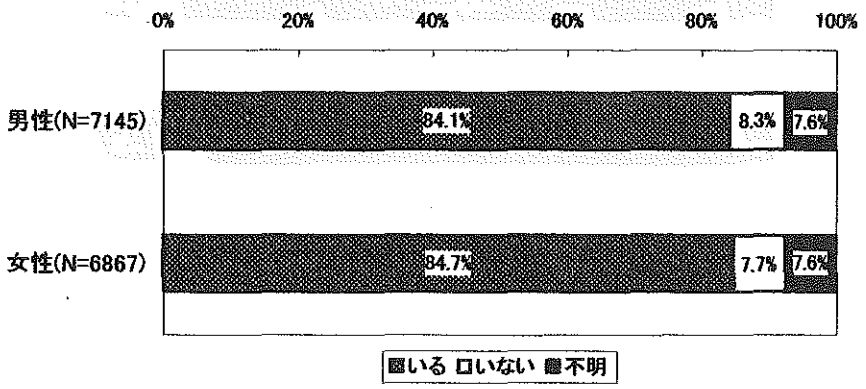
(4)用事を頼める人

周囲に用事を頼める人がいるとするのは14,012人のうち11,824人(84.4%)で1,121人(8.0%)がいないと回答した。不明は1,067人(7.6%)であった。

<性別比較—用事を頼める人>

男性7,145人のうちで用事を頼める人がいるのは6,010人(84.1%)、女性では6,867人のうち5,814人(84.7%)であった。いないのは男性では590人(8.3%)、女性では531人(7.7%)であった。不明は男性545人(7.6%)、女性は522人(7.6%)であった。用事を頼める人の有無には性による違いはみられなかった(図8(4)-1)。

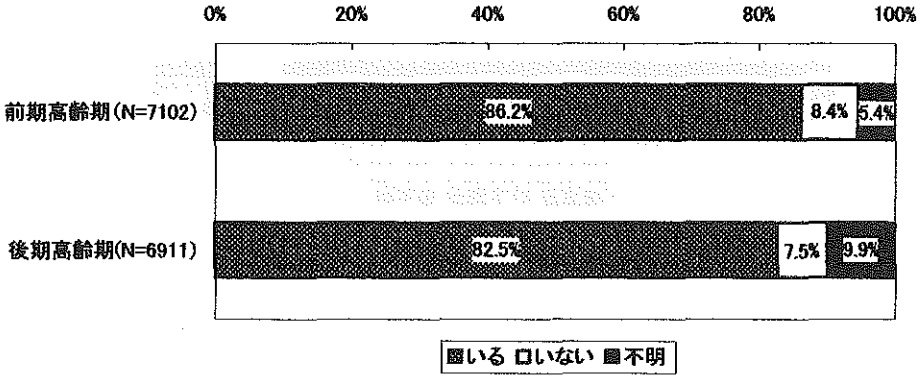
図8(4)-1用事を頼める人—性別



<年齢階級別比較—用事を頼める人>

前期高齢期7,102人のうち用事を頼める人がいるとしていたのは6,120人(86.2%)で後期高齢期6,910人のうちでは5,704人(82.5%)であった。いないと回答したのは前期高齢期には600人(8.4%)、後期高齢期には521人(7.5%)であった。不明は前期高齢期は382人(5.4%)、後期高齢期は685人(9.9%)であった。用事を頼める人の有無は年齢による違いはみられなかった(図8(4)-2)。

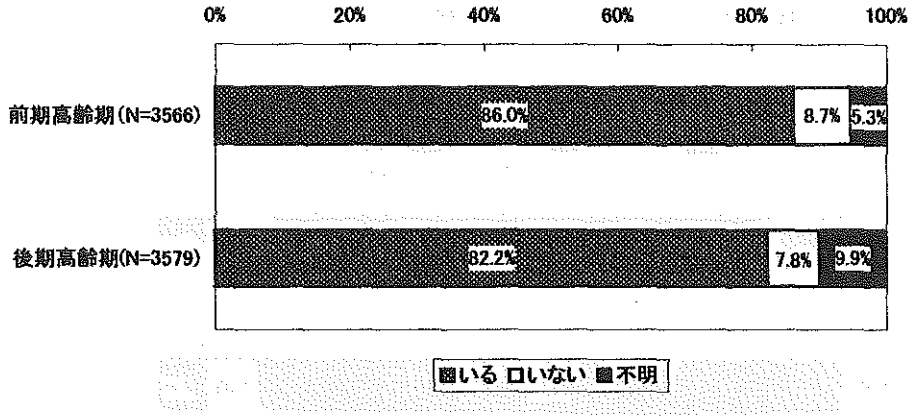
図8(4)-2用事を頼める人—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―用事を頼める人＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで用事を頼める人がいるのは3,067人(86.0%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,943人(82.2%)であった。いないと回答したのは前期高齢期には310人(8.7%)、後期高齢期には280人(7.8%)であった。不明は前期高齢期は189人(5.3%)、後期高齢期は356人(9.9%)であった。男性の用事を頼める人の有無は年齢による違いはみられなかった(図8(4)-3)。

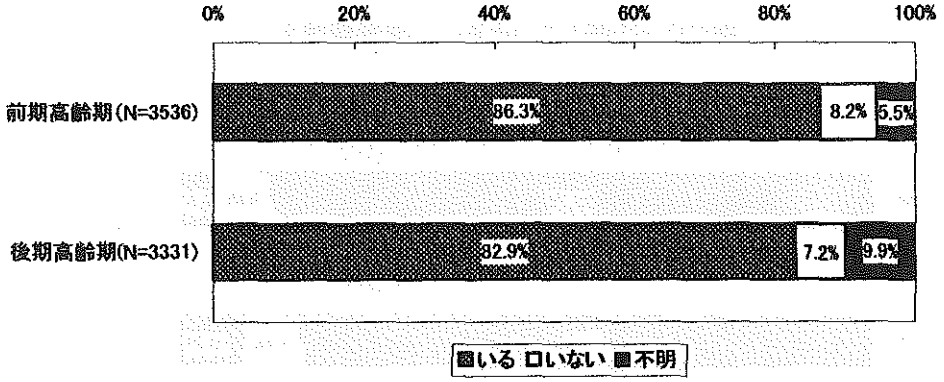
図8(4)-3用事を頼める人―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―用事を頼める人＞

女性の前期高齢期3,536人のうち、用事を頼める人がいるのは3,053人(86.3%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,761人(82.9%)であった。いないとするのは前期高齢期は290人(8.2%)、後期高齢期241人(7.2%)であった。不明は前期高齢期は193人(5.5%)、後期高齢期は329人(9.9%)であった。女性の用事を頼める人の有無は年齢による違いはみられなかった(図8(4)-4)。

図8(4)-4用事を頼める人―女性年齢階級別



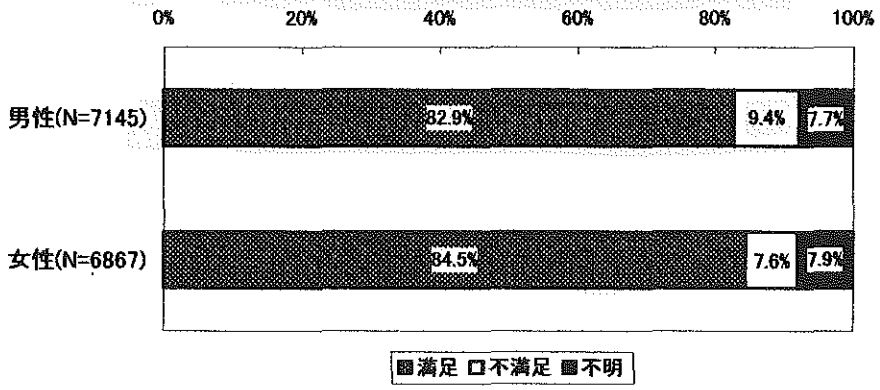
(5)近所とのつきあい

近所とのつきあいに満足しているとするのは14,012人のうち11,721人(83.6%)で1,193人(8.5%)が不満足であると回答した。不明は1,098人(7.8%)であった。

<性別比較—近所とのつきあい>

男性7,145人のうちで近所とのつきあいに満足しているのは5,920人(82.9%)、女性6,867人のうち5,801人(84.5%)であった。不満足なのは男性では672人(9.4%)、女性では521人(7.6%)であった。不明は男性553人(7.7%)、女性は545人(7.9%)であった。近所とのつきあいの満足度は性による違いがみられた(P<0.01)(図8(5)-1)。

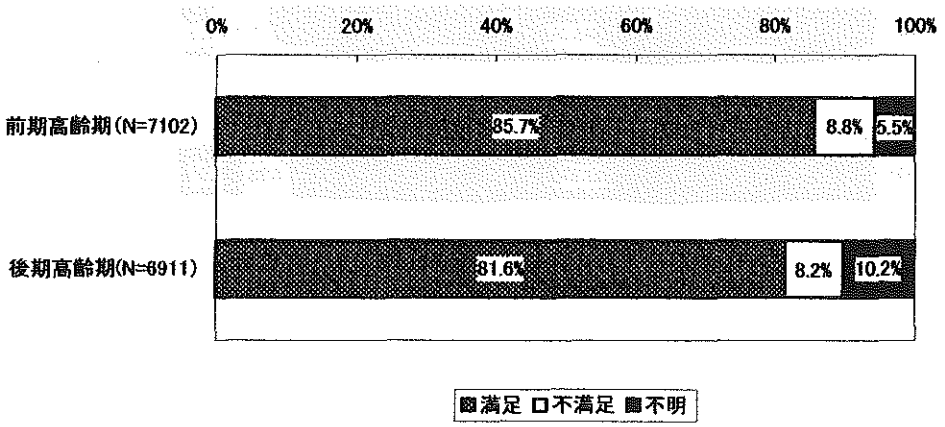
図8(5)-1近所とのつきあい—性別



<年齢階級別比較—近所とのつきあい>

前期高齢期7,102人のうち近所とのつきあいに満足しているとするのは6,085人(85.7%)で、後期高齢期6,910人のうちでは5,636人(81.6%)であった。不満足とするのは前期高齢期には623人(8.8%)、後期高齢期では570人(8.2%)であった。不明は前期高齢期は394人(5.5%)、後期高齢期は704人(10.2%)であった。近所とのつきあいの満足感は年齢による違いはなかった(図8(5)-2)。

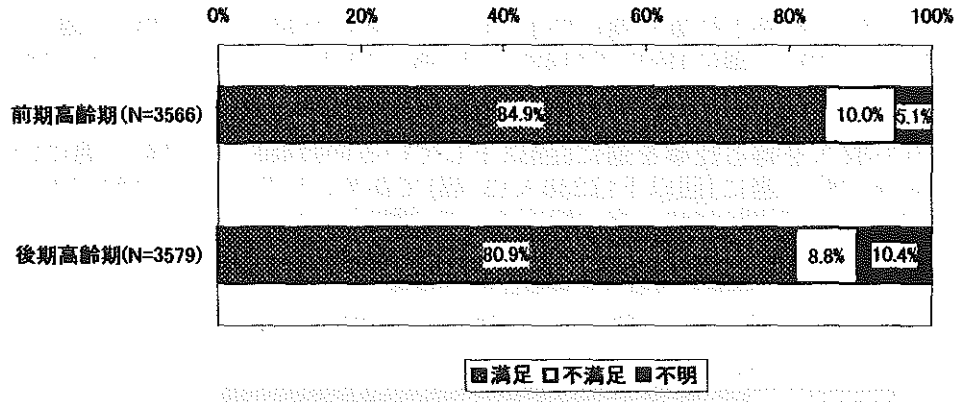
図8(5)-2近所とのつきあい—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―近所とのつきあい＞

男性の前期高齢期3,566人のうちで近所とのつきあいに満足しているとするのは3,026人(84.9%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,894人(80.9%)であった。不満足とするのは前期高齢期には358人(10.0%)、後期高齢期には314人(8.8%)であった。不明は前期高齢期は182人(5.1%)、後期高齢期は371人(10.4%)であった。男性の近所とのつきあいへの満足感は年齢による違いはみられなかった(図8(5)-3)。

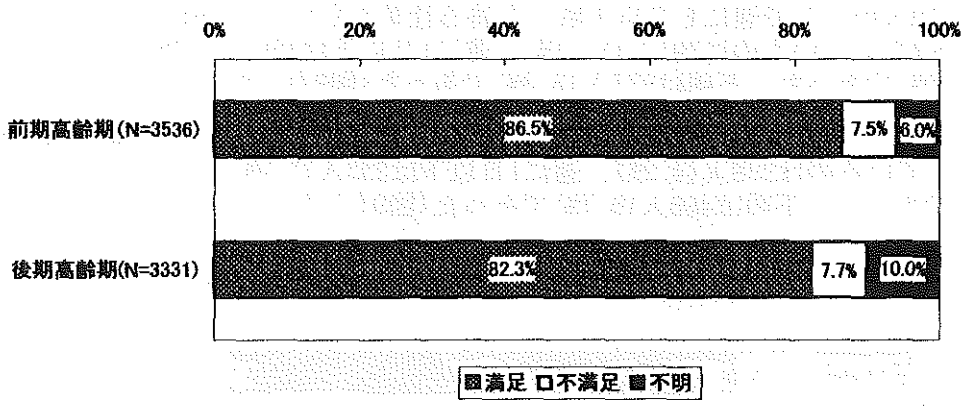
図8(5)-3近所とのつきあい―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―近所とのつきあい＞

女性の前期高齢期3,536人のうちで友人とのつきあいに満足しているのは3,059人(86.5%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,742人(82.3%)であった。不満足なのは前期高齢期は265人(7.5%)で後期高齢期では256人(7.7%)であった。不明は前期高齢期は212人(6.0%)、後期高齢期は333人(10.0%)であった。女性の友人とのつきあいへの満足感は年齢による違いはみられなかった(図8(5)-4)。

図8(5)-4近所とのつきあい―女性年齢階級別



9 社会活動

(1)収入を得る仕事

収入を得る仕事をしているのは3,115人(22.2%)であった。週に5日以上しているのは、14,012人のうち1,378人(9.8%)、週に2～4日では1,079人(7.7%)、週に1日以下は658人(4.7%)であった。ないと回答したのは10,054人(71.8%)で、843人(6.0%)は不明であった。

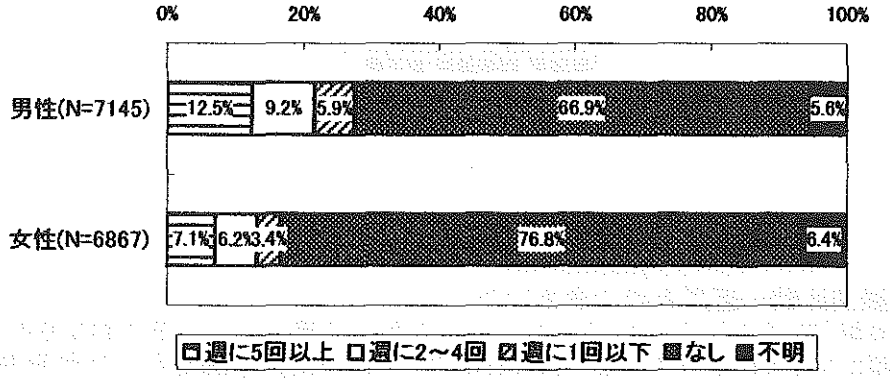
＜性別比較―収入を得る仕事＞

男性7,145人のうち何らかの収入を得る仕事をしているのは1,967人(27.5%)、女性6,867人のうちでは1,148人(16.7%)であった。ないのは男性4,777人(66.9%)、女性5,277人(76.8%)であった。収入を得る仕事の有無は性による違いがみられた(P<0.01)。

男性7,145人のうち収入を得る仕事を週に5回以上しているのは890人(12.5%)、週に2～4日しているのは655人(9.2%)、週に1回以下は422人(5.9%)であり、4,777人(66.9%)は収入を得る仕事をしていなかった。不明は401人(5.6%)であった(図9(1)-1)。

女性6,867人のうち収入を得る仕事を週に5回以上しているのは488人(7.1%)、週に2～4日しているのは424人(6.2%)、週に1回以下は236人(3.4%)であり、5,277人(76.8%)は収入を得る仕事はしていなかった。不明は442人(6.4%)であった(図9(1)-1)。

図9(1)-1収入を得る仕事―性別



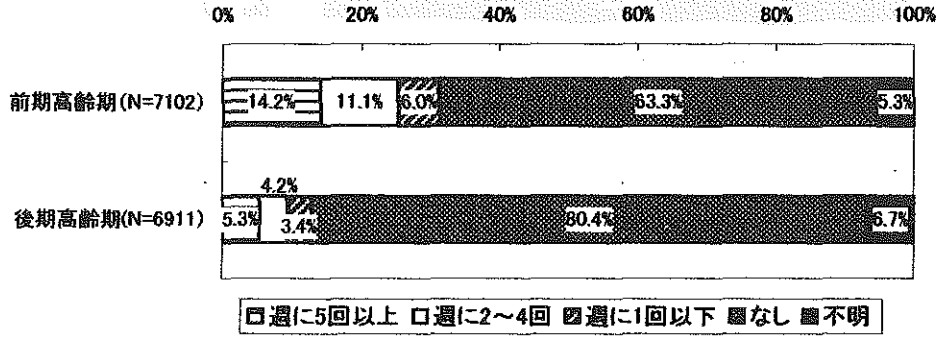
＜年齢階級別比較―収入を得る仕事＞

前期高齢期7,102人のうち何らかの収入を得る仕事をしているのは2,226人(31.3%)、後期高齢期6,910人のうちでは、889人(12.9%)であった。収入を得る仕事をしていないのは前期高齢期では4,499人(63.3%)、後期高齢期では5,555人(80.4%)であった。収入を得る仕事の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)。

前期高齢期7,102人のうちで週に5日以上収入を得る仕事をしているのは1,010人(14.2%)、週に2～4日しているのは791人(11.1%)、週に1日以下は425人(6.0%)、していないのは4,499人(63.3%)であった。不明は377人(5.3%)であった(図9(1)-2)。

後期高齢期6,910人のうちで週に5日以上収入を得る仕事をしているのはの368人(5.3%)で、週に2～4日しているのは288人(4.2%)、週に1日以下は233人(3.4%)、していないのは5,555人(80.4%)であった。不明は466人(6.7%)であった(図9(1)-2)。

図9(1)-2収入を得る仕事―年齢階級別



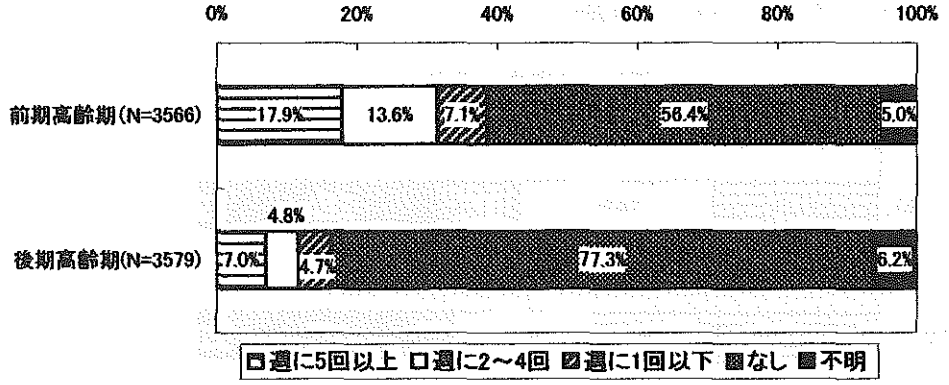
＜男性の年齢階級別比較―収入を得る仕事＞

男性では前期高齢期3,566人のうち何らかの収入を得る仕事をしているのは1,377人(38.6%)で、後期高齢期3,579人のうちでは590人(16.5%)であった。仕事をしていないのは前期高齢期2,010人(56.4%)、後期高齢期2,767人(77.3%)であった。男性の収入を得る仕事の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

男性の前期高齢期3,566人のうちで、週に5日以上収入を得る仕事をしているのは640人(17.9%)で、週に2～4日しているのは484人(13.6%)、週に1日以下は253人(7.1%)、していないのは2,010人(56.3%)であった。不明は179人(5.0%)であった(図9(1)-3)。

男性の後期高齢期3,579人のうちで、週に5日以上収入を得る仕事をしているのは250人(7.0%)で、週に2～4日しているのは171人(4.8%)、週に1日以下は169人(4.7%)、していないのは2,767人(77.3%)であった。不明は222人(6.2%)であった(図9(1)-3)。

図9(1)-3収入を得る仕事―男性年齢階級別



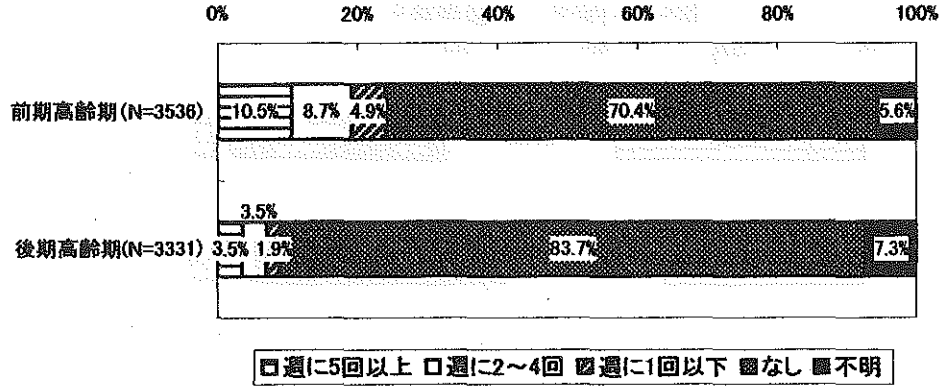
＜女性の年齢階級別比較―収入を得る仕事＞

女性の前期高齢期3,536人のうち何らかの収入を得る仕事をしているのは849人(24.0%)で、後期高齢期3,331人のうちでは299人(16.5%)であった。仕事をしていないのは前期2,489人(70.4%)、後期高齢期2,788人(83.7%)であった。女性の収入を得る仕事の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうちで、週に5日以上収入を得る仕事をしているのは370人(10.5%)で、週に2～4日しているのは307人(8.7%)、週に1日以下は172人(4.9%)、していないのは2,489人(70.4%)であった。不明は198人(5.6%)であった(図9(1)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうちで、週に5日以上収入を得る仕事をしているのは118人(3.5%)で、週に2～4日しているのは117人(3.5%)、週に1日以下は64人(1.9%)、していないのは2,788人(83.7%)であった。不明は244人(7.3%)であった(図9(1)-4)。

図9(1)-4収入を得る仕事―女性年齢階級別



(2)家事

家事をしているのは14,012人のうち9,224人(65.8%)であった。週に5日以上しているのは、4、589人(32.8%)、週に2～4日では3,408人(24.3%)、週に1日以下は1,227人(8.8%)であった。ないと回答したのは3,838人(27.4%)で、950人(6.8%)は不明であった。

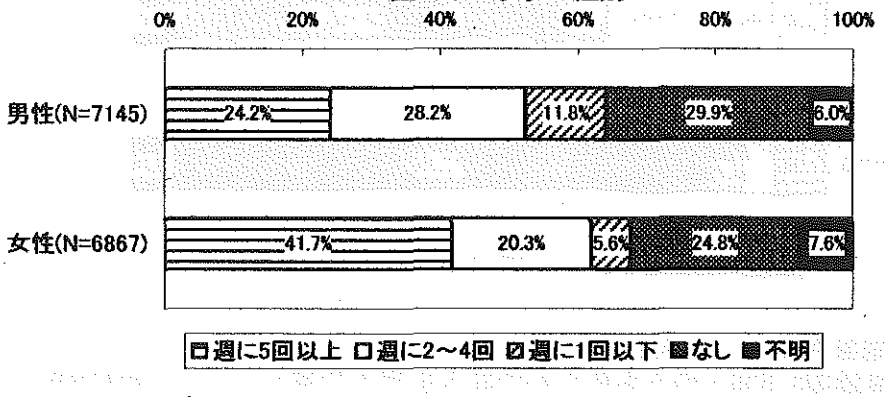
＜性別比較―家事＞

男性7,145人のうち何らかの家事をしているのは4,583人(64.1%)、女性6,867人のうち4,641人(67.6%)であった。家事をしないのは男性2,134人(29.9%)、女性1,704人(24.8%)であった。家事の実施状況は性による違いがみられた(P<0.01)。

男性7,145人のうち家事を週に5回以上しているのは1,726人(24.2%)、週に2～4日しているのは2,016人(28.2%)、週に1回以下は841人(11.8%)であり、2,134人(29.9%)は家事をしていなかった。不明は428人(6.0%)であった(図9(2)-1)。

女性6,867人のうち家事を週に5回以上しているのは2,863人(41.7%)、週に2～4日しているのは1392人(20.3%)、週に1回以下は386人(5.6%)であり、1,704人(24.8%)は家事をしていなかった。不明は522人(7.6%)であった(図9(2)-1)。

図9(2)-1家事―性別



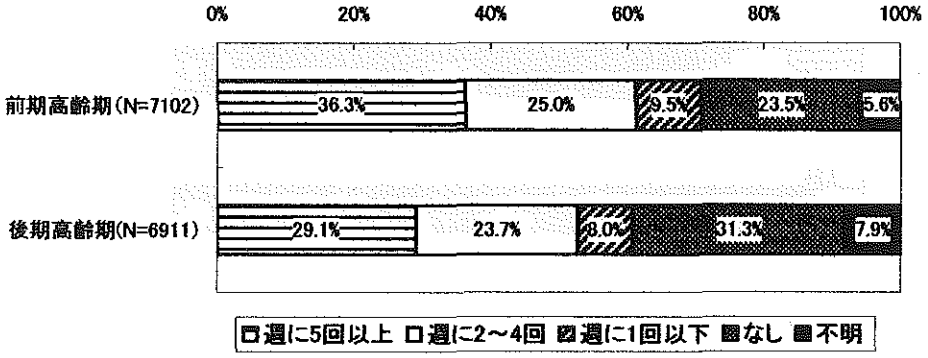
＜年齢階級別比較―家事＞

前期高齢期7,102人のうち何らかの家事をしているのは5,029人(70.8%)、後期高齢期6,910人のうち、4,195人(60.7%)であった。家事をしていないのは前期高齢期では1,672人(23.5%)、後期高齢期では2,166人(31.3%)であった。家事の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)。

前期高齢期7,102人のうち週に5日以上家事をしているのは2,580人(36.3%)で、週に2～4日しているのは1,772人(25.0%)、週に1日以下は677人(9.5%)、していないのは1,672人(23.5%)であった。不明は401人(5.6%)であった(図9(2)-2)。

後期高齢期6,910人のうち週に5日以上家事をしているのは2,009人(29.1%)で、週に2～4日しているのは1,636人(23.7%)、週に1日以下は550人(8.0%)、していないのは2,166人(31.3%)であった。不明は549人(7.9%)であった(図9(2)-2)。

図9(2)-2家事―年齢階級別



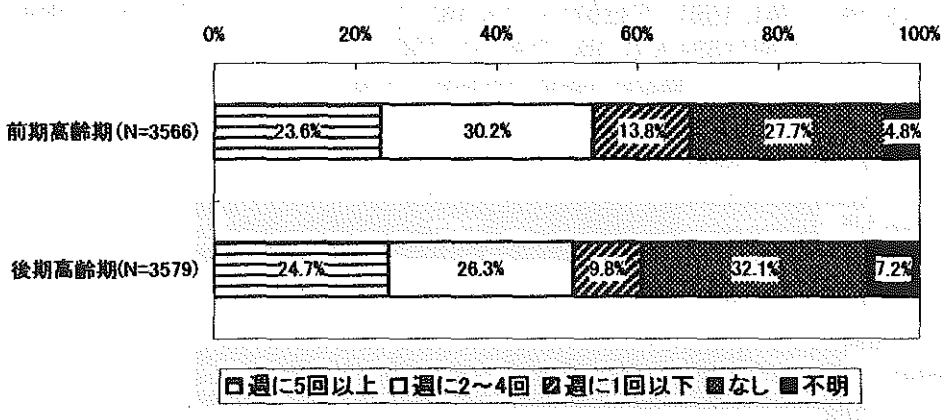
＜男性の年齢階級別比較―家事＞

男性の前期高齢期3,566人のうち家事をしているのは2,410人(67.6%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,173人(60.7%)であった。家事をしていないのは前期高齢期986人(27.7%)、後期高齢期1,148人(32.1%)であった。男性の家事の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

男性の前期高齢期で、週に5日以上家事をしているのは3,566人のうち842人(23.6%)で、週に2～4日しているのは1,076人(30.2%)、週に1日以下は492人(13.8%)、していないのは986人(27.7%)であった。不明は170人(4.8%)であった(図9(2)-3)。

男性の後期高齢期3,579人のうち、週に5日以上家事をしているのは884人(24.7%)で、週に2～4日しているのは940人(26.3%)、週に1日以下は349人(9.8%)、していないのは1,148人(32.1%)であった。不明は258人(7.2%)であった(図9(2)-3)。

図9(2)-3家事―男性年齢階級別



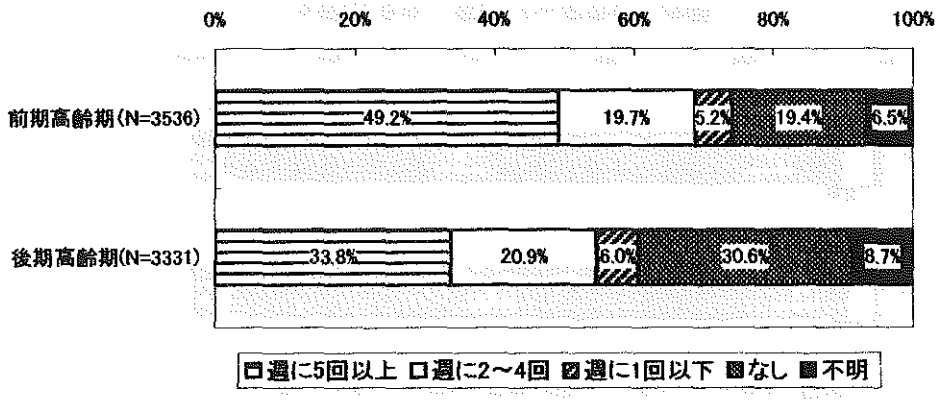
＜女性の年齢階級別比較―家事＞

女性の前期高齢期3,536人のうち何らかの家事をしているのは2,619人(74.1%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,022人(60.7%)であった。家事をしていないのは前期高齢期686人(19.4%)、後期高齢期1,018人(30.6%)であった。女性の家事の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうち週に5日以上家事をしているのは1,738人(49.2%)で、週に2～4日しているのは696人(19.7%)、週に1日以下は185人(5.2%)、していないのは686人(19.4%)であった。不明は231人(6.5%)であった(図9(2)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうち、週に5日以上家事をしているのは1,125人(33.8%)で、週に2～4日しているのは696人(20.9%)、週に1日以下は201人(6.0%)、していないのは1,018人(30.6%)であった。不明は291人(8.7%)であった(図9(2)-4)。

図9(2)-4家事―女性年齢階級別



(3)地域での活動

地区の役員やボランティア活動をしているのは3,200人(22.8%)であった。週に5日以上しているのは、14,012人のうち117人(0.8%)、週に2～4日では654人(4.7%)、週に1日以下は2,429人(17.3%)であった。ないと回答したのは9.863人(70.4%)で、949人(6.8%)は不明であった。

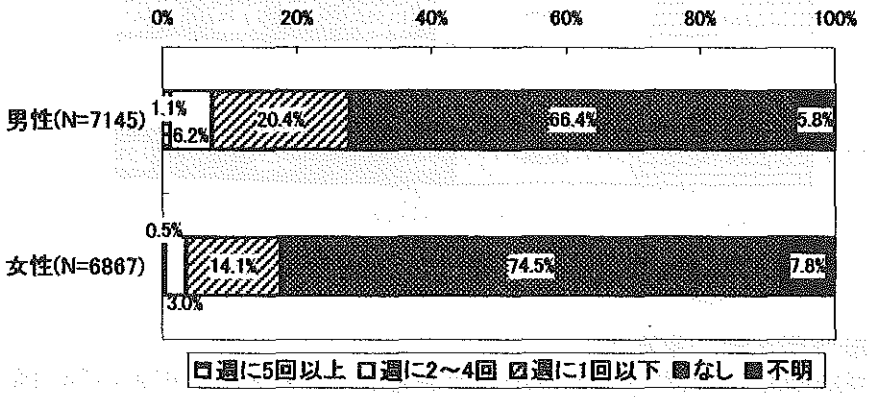
＜性別比較―地域での活動＞

男性7,145人のうち地域での活動をしているのは1,985人(27.8%)、女性6,867人のうち1,215人(17.7%)であった。地域での活動がないのは男性4,745人(66.4%)、女性5,188人(74.5%)であった。地域での活動の実施状況は性による違いがみられた(P<0.01)。

男性7,145人のうち地域活動を週に5回以上しているのは82人(1.1%)、週に2～4日しているのは445人(6.2%)、週に1回以下は1,458人(20.4%)であり、4,745人(66.4%)は地域での活動をしていなかった。不明は415人(5.8%)であった(図9(3)-1)。

女性6,867人のうち地域での活動を週に5回以上しているのは35人(0.5%)、週に2～4日しているのは209人(3.0%)、週に1回以下は971人(14.1%)であり、5,118人(74.5%)は地域での活動はしていなかった。不明は534人(7.8%)であった(図9(3)-1)。

図9(3)-1地域での活動―性別



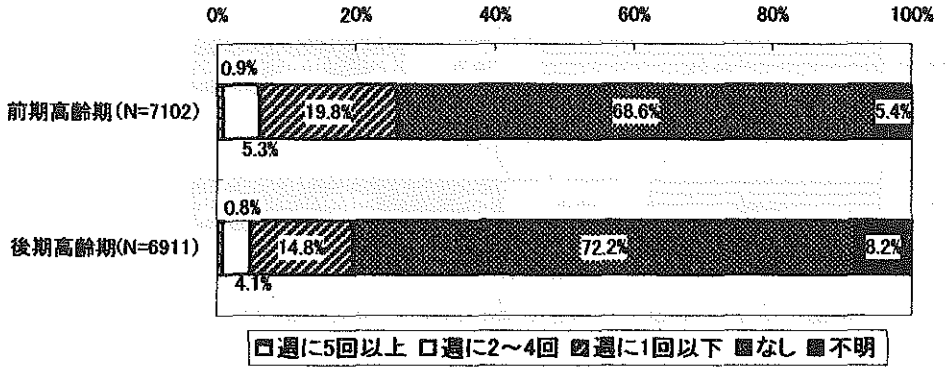
＜年齢階級別比較―地域での活動＞

前期高齢期7,102人のうち地域での活動をしているのは1,843人(26.0%)、後期高齢期6,910人のうちでは、1,357人(19.6%)であった。地域での活動をしていないのは前期高齢期では4,875人(68.6%)、後期高齢期では4,988人(72.2%)であった。

前期高齢期7,102人のうちで週に5日以上地域での活動をしているのは62人(0.9%)で、週に2～4日しているのは374人(5.3%)、週に1日以下は1,407人(19.8%)、していないのは4,875人(68.6%)であった。不明は384人(5.4%)であった(図9(3)-2)。

後期高齢期6,910人のうち、週に5日以上地域での活動をしているのは55人(0.8%)、週に2～3日しているのは280人(4.1%)、週1日以下は1,022人(14.8%)、していないのは4,988人(72.2%)であった。不明は565人(8.2%)であった(図9(3)-2)。

図9(3)-2地域での活動―年齢階級別



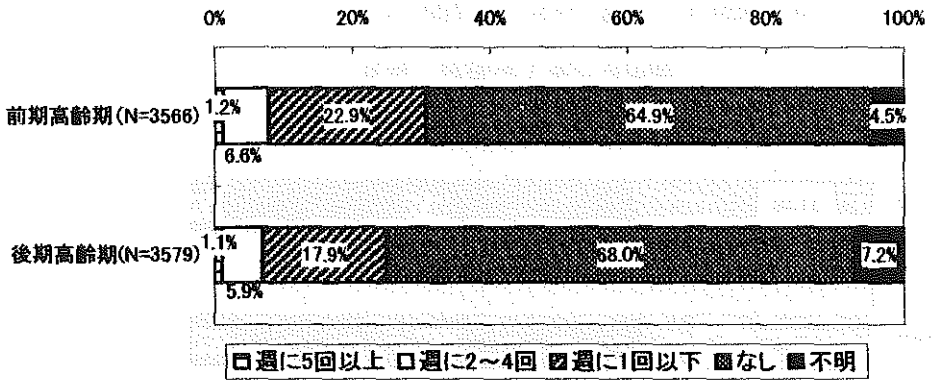
＜男性年齢階級別比較―地域での活動＞

男性の前期高齢期3,566人のうち地域での活動をしているのは1,094人(30.7%)で、後期高齢期3,579人のうちでは891人(24.9%)であった。地域での活動をしていないのは前期2,313人(64.9%)、後期高齢期2,432人(68.0%)であった。男性の地域での活動の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

男性の前期高齢期3,566人のうち、週に5日以上地域での活動をしているのは43人(1.2%)で、週に2～4日しているのは235人(6.6%)、週に1日以下は816人(22.9%)、していないのは2,313人(64.9%)であった。不明は159人(4.5%)であった(図9(3)-3)。

男性の後期高齢期3,579人のうち、週に5日以上地域での活動をしているのは39人(1.1%)で、週に2～4日しているのは210人(5.9%)、週に1日以下は642人(17.9%)、していないのは2,432人(68.0%)であった。不明は256人(7.2%)であった(図9(3)-3)。

図9(3)-3地域での活動―男性年齢階級別



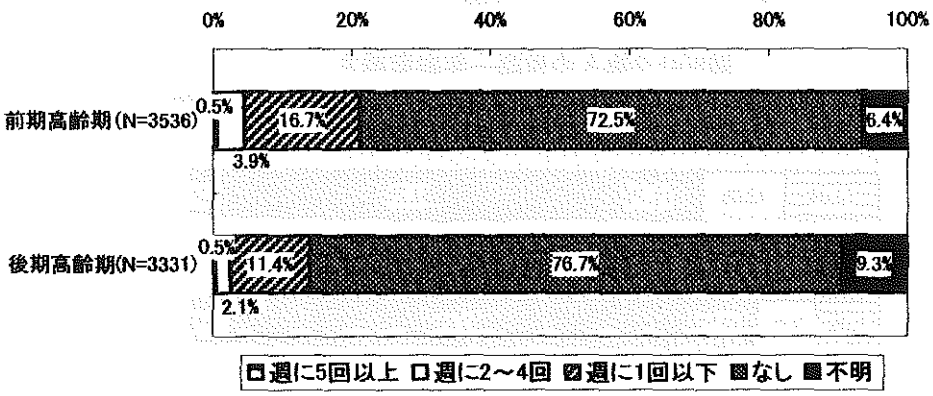
＜女性年齢階級別比較―地域での活動＞

女性の前期高齢期3,536人のうち地域での活動をしているのは749人(21.2%)で、後期高齢期3,331人のうちでは466人(14.0%)であった。地域での活動をしていないのは前期高齢期2,562人(72.5%)、後期高齢期2,556人(76.7%)であった。女性の地域の活動の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうち週に5日以上地域での活動をしているのは19人(0.5%)で、週に2～4日しているのは139人(3.9%)、週に1日以下は591人(16.7%)、していないのは2,562人(72.5%)であった。不明は225人(6.4%)であった(図9(3)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうち、週に5日以上地域での活動をしているのは16人(0.5%)で、週に2～4日しているのは70人(2.1%)、週に1日以下は380人(11.4%)、していないのは2,556人(76.7%)であった。不明は309人(9.3%)であった(図9(3)-4)。

図9(3)-4地域での活動―女性年齢階級別



(4)他人の世話

他人の世話をしているのは4,837人(34.5%)であった。週に5日以上しているのは、14,012人のうち1,589人(11.3%)、週に2～4日では1,448人(10.3%)、週に1日以下は1,800人(12.8%)であった。ないと回答したのは8,241人(58.8%)で、934人(6.7%)は不明であった。

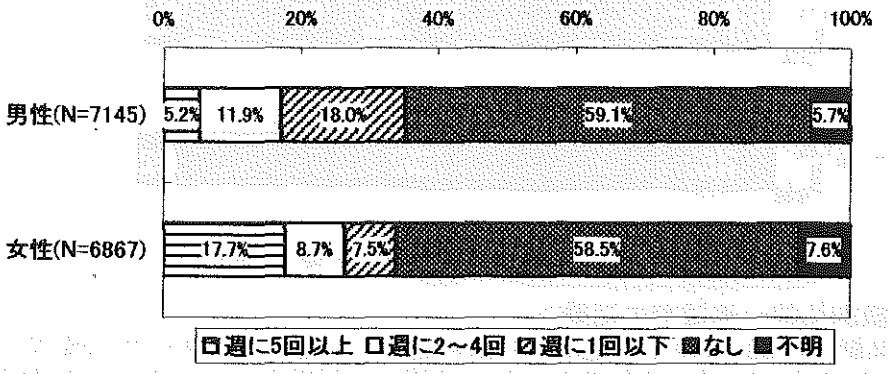
＜性別比較―他人の世話＞

男性7,145人のうち他人の世話をしているのは2,511人(35.1%)、女性では6,867人のうち2,326人(33.9%)であった。ないのは男性4,225人(59.1%)、女性4,016人(58.5%)であった。他人の世話の状況は性による違いはみられなかった。

男性7,145人のうち他人の世話を週に5回以上しているのは374人(5.2%)、週に2～4日しているのは851人(11.9%)、週に1回以下は1,286人(18.0%)であり、4,225人(59.1%)は他人の世話はしていなかった。不明は409人(5.7%)であった(図9(4)-1)。

女性6,867人のうち他人の世話を週に5回以上しているのは1,215人(17.7%)、週に2～4日しているのは597人(8.7%)、週に1回以下は514人(7.5%)であり、4,016人(58.5%)は他人の世話をしていなかった。不明は525人(7.6%)であった(図9(4)-1)。

図9(4)-1他人の世話―性別



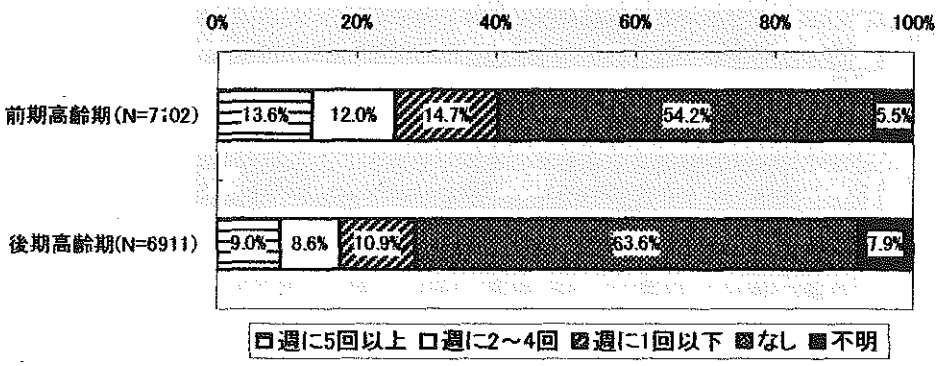
＜年齢階級別比較―他人の世話＞

前期高齢期7,102人のうち他人の世話をしているのは2,864人(40.3%)、後期高齢期6,910人のうちでは、1,973人(28.6%)であった。他人の世話をしていないのは前期高齢期では3,849人(54.2%)、後期高齢期では4,392人(63.6%)であった。他人の世話の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)。

前期高齢期7,102人のうちで週に5日以上他人の世話をしているのは964人(13.6%)で、週に2～4日しているのは853人(12.0%)、週に1日以下は1,047人(14.7%)、していないのは3,849人(54.2%)であった。不明は389人(5.5%)であった(図9(4)-2)。

後期高齢期6,910人のうちで週に5日以上他人の世話をしているのは625人(9.0%)で、週に2～4日しているのは595人(8.6%)、週に1日以下は753人(10.9%)、していないのは4,392人(63.6%)であった。不明は545人(7.9%)であった(図9(4)-2)。

図9(4)-2他人の世話―年齢階級別



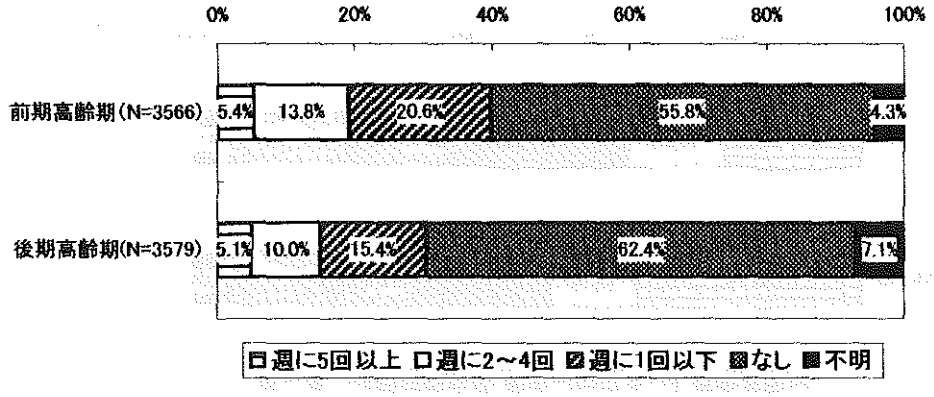
＜男性年齢階級別比較—他人の世話＞

男性では前期高齢期3,566人のうち他人の世話をしているのは1,420人(39.8%)で、後期高齢期3,579人のうちでは1,091人(30.5%)であった。他人の世話をしていないのは前期高齢期1,991人(55.8%)、後期高齢期2,234人(62.4%)であった。男性の他人の世話の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

男性の前期高齢期で、週に5日以上他人の世話をしているのは3,566人のうち192人(5.4%)で、週に2～4日しているのは493人(13.8%)、週に1日以下は735人(20.6%)、していないのは1,991人(55.8%)であった。不明は155人(4.3%)であった(図9(4)-3)。

男性の後期高齢期で、週に5日以上他人の世話をしているのは3,579人のうち182人(5.1%)で、週に2～4日しているのは358人(10.0%)、週に1日以下は551人(15.4%)、していないのは2,234人(62.4%)であった。不明は254人(7.1%)であった(図9(4)-3)。

図9(4)-3他人の世話—男性年齢階級別



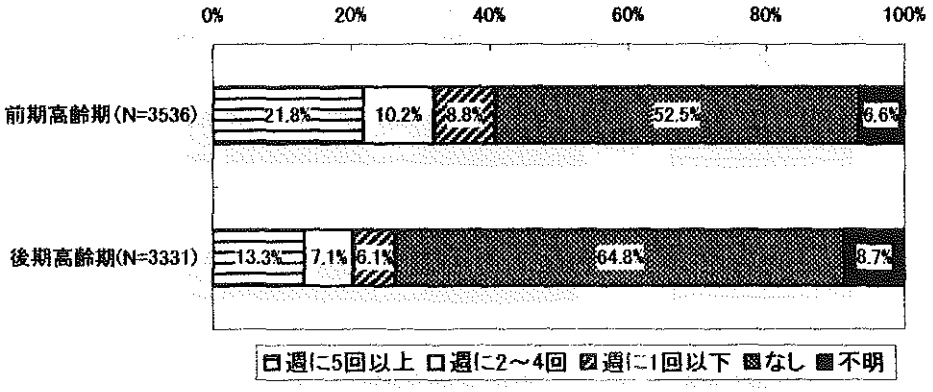
＜女性年齢階級別比較—他人の世話＞

女性の前期高齢期3,536人のうち他人の世話をしているのは1,444人(40.8%)で、後期高齢期3,331人のうちでは882人(26.5%)であった。他人の世話をしていないのは前期高齢期1,858人(52.5%)、後期高齢期2,158人(64.8%)であった。女性の他人の世話の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期6,910人のうちで週に5日以上他人の世話をしているのは772人(21.8%)、週に2～4日しているのは360人(10.2%)、週に1日以下は312人(8.8%)、していないのは1,858人(52.5%)であった。不明は234人(6.6%)であった(図9(4)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうちで、週に5日以上他人の世話をしているのは443人(13.3%)で、週に2～4日しているのは237人(7.1%)、週に1日以下は202人(6.1%)、していないのは2,158人(64.8%)であった。不明は291人(8.7%)であった(図9(4)-4)。

図9(4)-4他人の世話—女性年齢階級別



(5)市民講座の受講

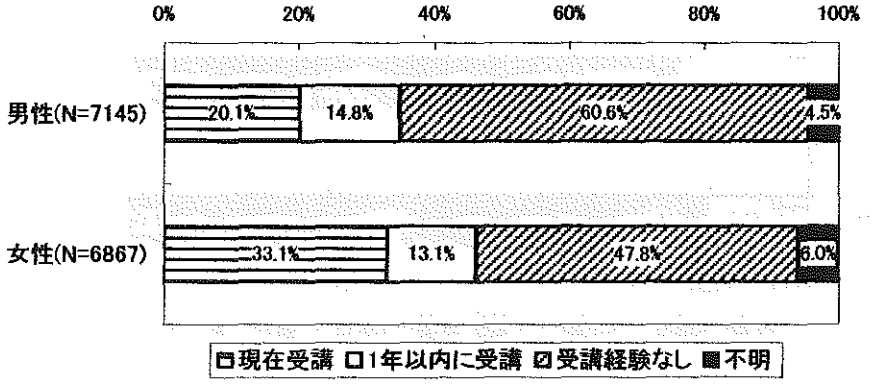
これまでに市民講座を受講したことがあるのは5,667人(40.4%)であった。現在参加しているのは14,012人のうち3,707人(26.5%)、現在は参加していないが1年以内に参加したことがあるのは1,960人(14.0%)であった。ないと回答したのは7,609人(54.3%)で、736人(5.3%)は不明であった。

<性別比較—市民講座の受講>

男性7,145人のうち、現在受講しているのは1,437人(20.1%)、1年以内に受講したことがあるのは1,058人(14.8%)、受講したことがないのは4,329人(60.6%)であった。不明は321人(4.5%)であった(図9(5)-1)。

女性6,867人のうち、現在受講しているのは2,270人(33.1%)1年以内に受講したことがあるのは902人(13.1%)、受講したことがないのは3,280人(47.8%)であった。不明は415人(6.0%)であった(図9(5)-1)。

図9(5)-1市民講座の受講—性別



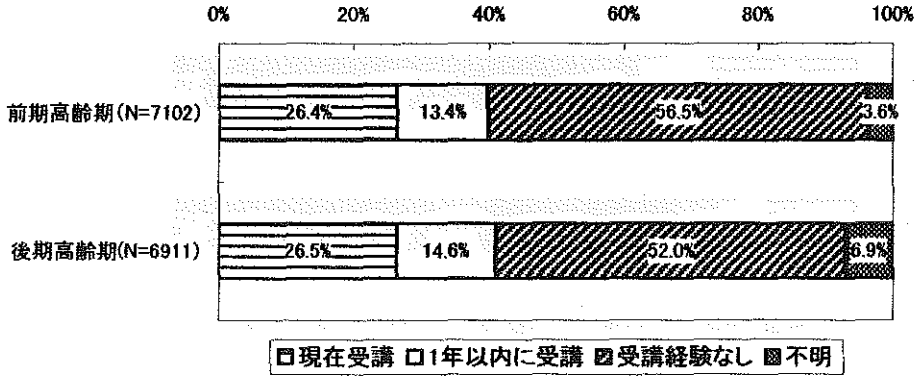
<年齢階級別比較—市民講座の受講>

前期高齢期7,102人のうち市民講座を受講したことがあるのは(現在受講している+1年以内に受講)2,829人(39.8%)、後期高齢期6,910人のうちでは2,838人(41.1%)であった。ないのは前期高齢期では4,014人(56.5%)、後期高齢期では3,595人(52.0%)であった。市民講座の受講には年齢による違いがみられた($P<0.01$)。

前期高齢期7,102人のうち市民講座を現在受講しているのは1,878人(26.4%)、1年以内に受講したことがあるのは951人(13.4%)、4,014人(56.5%)は受講の経験がなかった。不明は259人(3.6%)であった(図9(5)-2)。

後期高齢期6,910人のうち現在受講しているのは1,829人(26.5%)、1年以内に受講したことがあるのは1,009人(14.6%)で、3,595人(52.0%)は受講の経験がなかった。不明は477人(6.9%)であった(図9(5)-2)。

図9(5)-2市民講座の受講—年齢階級別



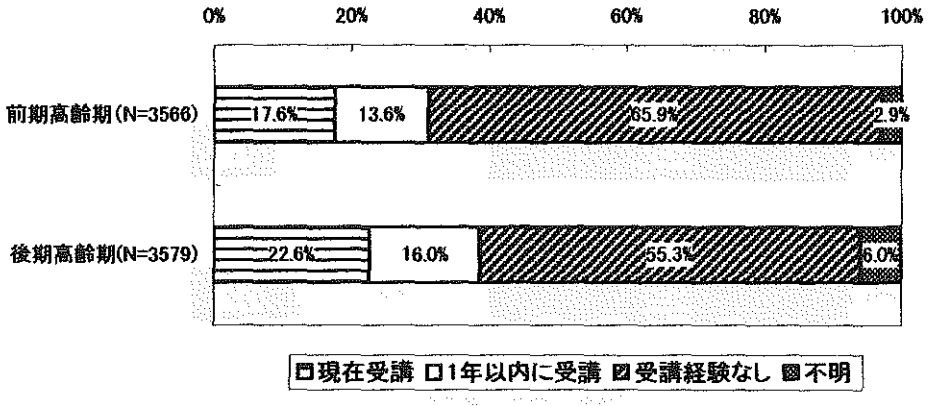
＜男性年齢階級別比較―市民講座の受講＞

男性の前期高齢期3,566人のうち市民講座を受講したことがある(現在受講している+1年以内に受講)のは1,111人(31.2%)であり、後期高齢期では3,579人のうち1,384人(38.7%)であった。受講したことがないのは、前期高齢期では2,350人(65.9%)、後期高齢期では1,979人(55.3%)であった。男性の市民講座の受講には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

男性の前期高齢期3,566人のうち市民講座を現在の受講しているのは627人(17.6%)、1年以内に受講したことがあるのは484人(13.6%)で、2,350人(65.9%)は受講の経験がなかった。不明は105人(2.9%)であった(図9(5)-3)。

後期高齢期3,579人のうち現在受講しているのは810人(22.6%)、1年以内に受講したことがあるのは574人(16.0%)で、1,979人(55.3%)は受講の経験がなかった。不明は216人(6.0%)であった(図9(5)-3)。

図9(5)-3市民講座の受講―男性年齢階級別



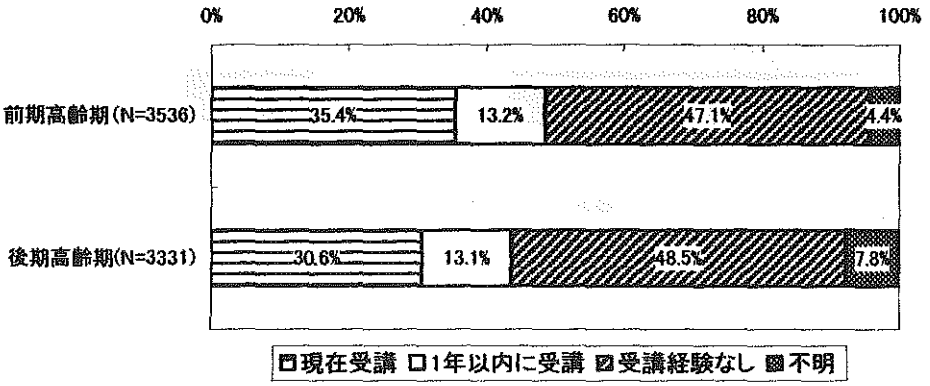
＜女性年齢階級別比較―市民講座の受講＞

女性の前期高齢期3,536人のうち市民講座を受講したことがある(現在受講している+1年以内に受講)のは1,718人(48.6%)、後期高齢期3,331人のうち1,454人(43.7%)であった。受講したことがないのは、前期高齢期では1,664人(47.1%)、後期高齢期では1,616人(48.5%)であった。女性の市民講座の受講には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうち市民講座を現在の受講しているのは1,251人(35.4%)、1年以内に受講したことがあるのは467人(13.2%)で、1,664人(47.1%)は受講の経験がなかった。

後期高齢期3,331人のうち現在受講しているのは1,019人(30.6%)、1年以内に受講したことがあるのは435人(13.1%)で、1,616人(48.5%)は受講の経験がなかった。不明は前期高齢期は154人(4.4%)、後期高齢期は261人(7.8%)であった(図9(5)-4)。

図9(5)-4市民講座の受講―女性年齢階級別



10　経済

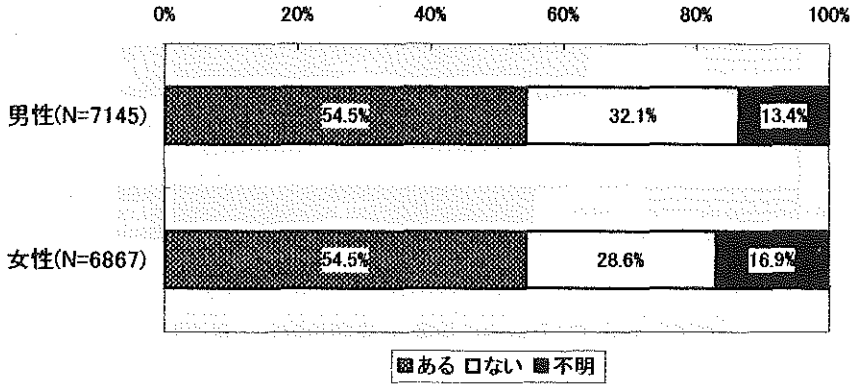
(1)経済的余裕

経済的余裕があるとするのは、14,012人のうち7,635人(54.5%)であった。ないと回答したのは4,253人(30.4%)で、2,124人(15.2%)は不明であった。

＜性別比較―経済的余裕＞

経済的余裕があるとするには男性7,145人のうち3,894人(54.5%)、女性6,867人のうち3,741人(54.5%)であった。経済的余裕はないとするのは男性は2,290人(32.1%)、女性は1,963人(28.6%)であった。不明は男性961人(13.4%)、女性は1,163人(16.9%)であった。経済的余裕の考え方には性により違いがみられた(P<0.01)(図10(1)-1)。

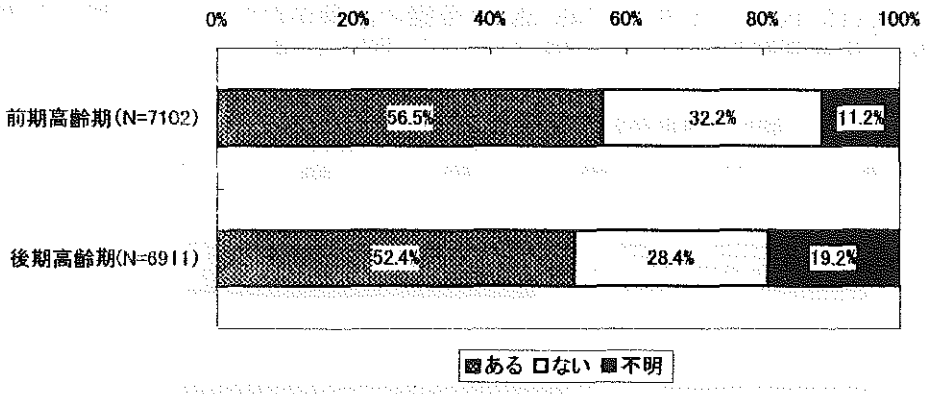
図10(1)-1経済的余裕―性別



＜年齢階級別比較―経済的余裕＞

前期高齢期7,102人のうち経済的余裕があるとするのは4,015人(56.5%)で、後期高齢期6,910人のうち3,620人(52.4%)であった。経済的余裕がないと回答したのは前期高齢期では2,290人(32.2%)、後期高齢期では1,963人(28.4%)であった。不明は前期高齢期797人(11.2%)、後期高齢期1,327人(19.2%)であった。経済的余裕の考え方には年齢による違いはみられなかった(図10(1)-2)。

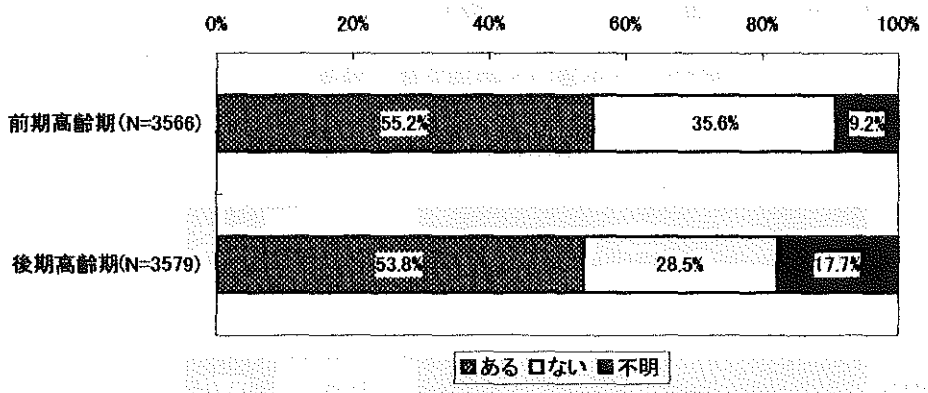
図10(1)-2経済的余裕―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較—経済的余裕＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、経済的に余裕があるとするのは1,968人(55.2%)であり、後期高齢期3,579人のうち1,926人(53.8%)であった。経済的余裕はないとするのは前期は1,271人(35.6%)、後期は1,019人(28.5%)であった。不明は前期高齢期は327人(9.2%)、後期高齢期は634人(17.7%)であった。男性の経済的余裕の感じ方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図10(1)-3)。

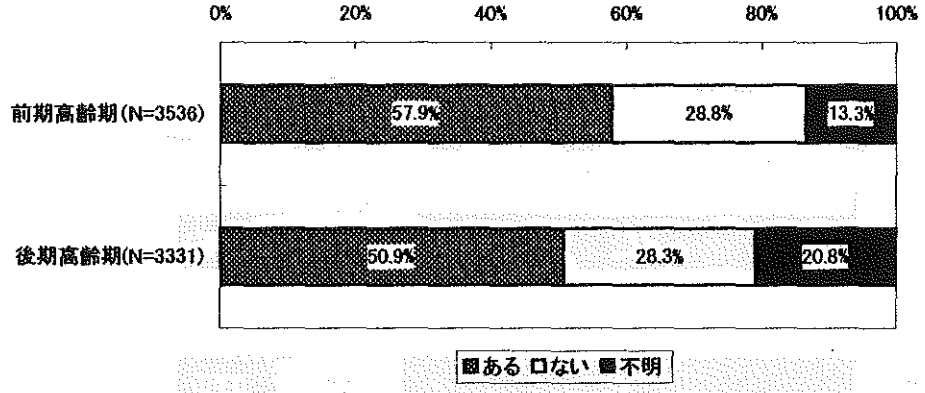
図10(1)-3経済的余裕—男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較—経済的余裕＞

女性の前期高齢期3,536人のうち経済的に余裕があるとするのは2,047人(57.9%)であり、後期高齢期3,331人のうち1,694人(50.9%)であた。経済的余裕がないのは前期高齢期は1,019人(28.8%)、後期高齢期には944人(28.3%)であった。不明は前期高齢期は470人(13.3%)、後期高齢期は693人(20.8%)であった。女性の経済的余裕の考え方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図10(1)-4)。

図10(1)-4経済的余裕—女性年齢階級別



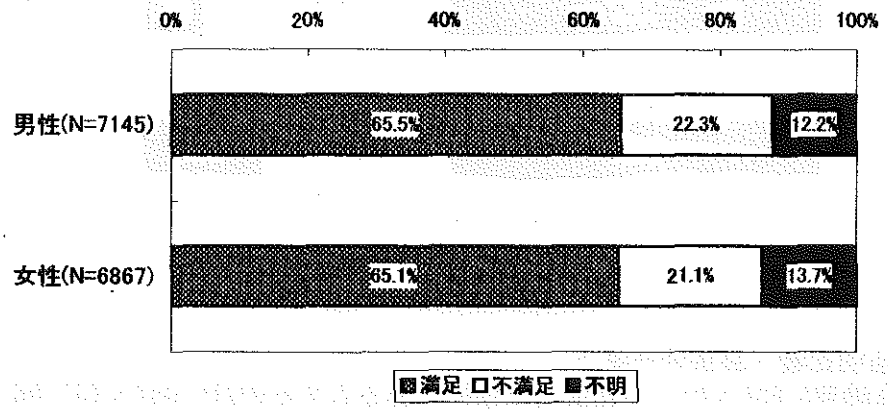
(2) 小遣いへの満足度

小遣いに満足しているとするのは、14,012人のうち9,156人(65.3%)であった。不満足と回答したの3,043人(21.7%)で、1,813人(12.9%)は不明であった。

＜性別比較—小遣いへの満足度＞

男性7,145人のうち小遣いに満足しているとするのは4,683人(65.5%)、女性6,867人のうちでは4,473人(65.1%)であった。小遣いに不満足とするのは男性は1,592人(22.3%)、女性は1,451人(21.1%)であった。不明は男性870人(12.2%)、女性は943人(13.7%)であった。小遣いへの満足の仕方は性による違いはなかった(図10(2)-1)。

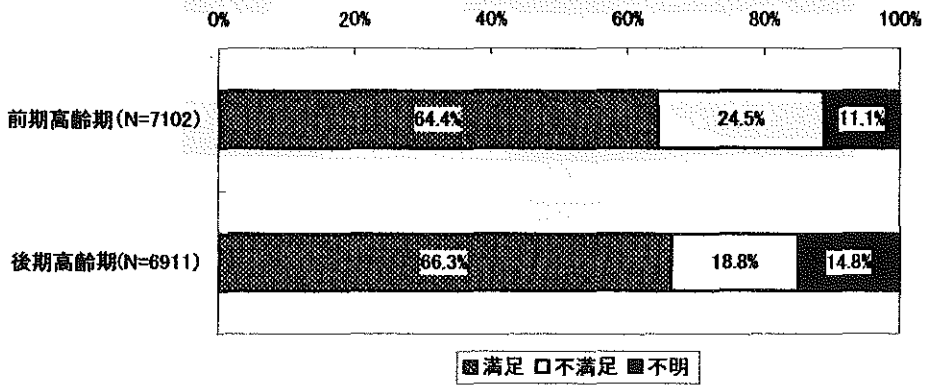
図10(2)-1小遣いへの満足度—性別



＜年齢階級別比較—小遣いへの満足度＞

前期高齢期7,102人のうち小遣いに満足しているとするのは4,572人(64.4%)で、後期高齢期6,910人のうち4.584人(66.3%)であった。不満足と回答したのは前期高齢期では1,743人(24.5%)、後期高齢期では1,300人(18.8%)であった。不明は前期高齢期では787人(11.1%)、後期高齢期は1,026人(14.8%)であった。小遣いへの満足度には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図10(2)-2)。

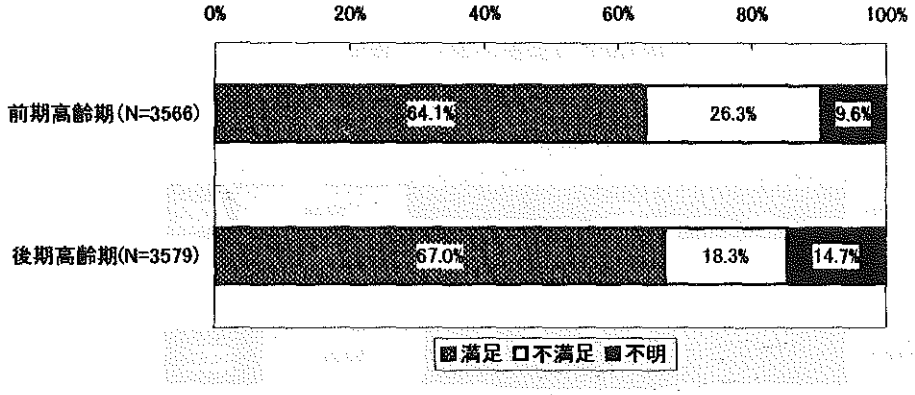
図10(2)-2小遣いへの満足度—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―小遣いへの満足度＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、小遣いに満足しているとするのは2,285人(64.1%)であり、後期高齢期3,579人のうち2,398人(67.0%)であった。不満足と回答したのは前期高齢期は937人(26.3%)、後期高齢期は655人(18.3%)であった。不明は前期高齢期は344人(9.6%)、後期高齢期は526人(14.7%)であった。男性の小遣いの満足度には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図10(2)-3)。

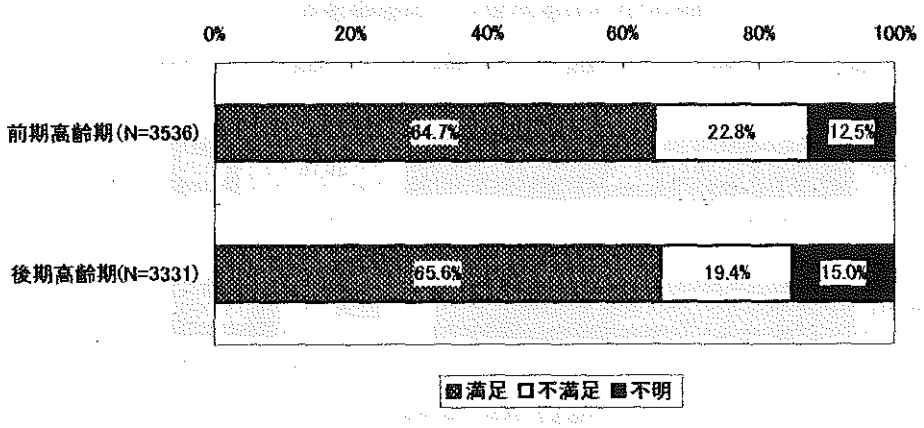
図10(2)-3小遣いへの満足度―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―小遣いへの満足度＞

女性の前期高齢期3,536人のうちでは小遣いに満足しているとするのは2,287人(64.7%)であり、後期高齢期3,331人のうち2,186人(65.6%)であった。不満足とするのは前期高齢期は806人(22.8%)、後期高齢期には645人(19.4%)であった。不明は前期高齢期は443人(12.5%)、後期高齢期は500人(15.0%)であった。女性の小遣いへの満足度は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図10(2)-4)。

図10(2)-4小遣いへの満足度―女性年齢階級別



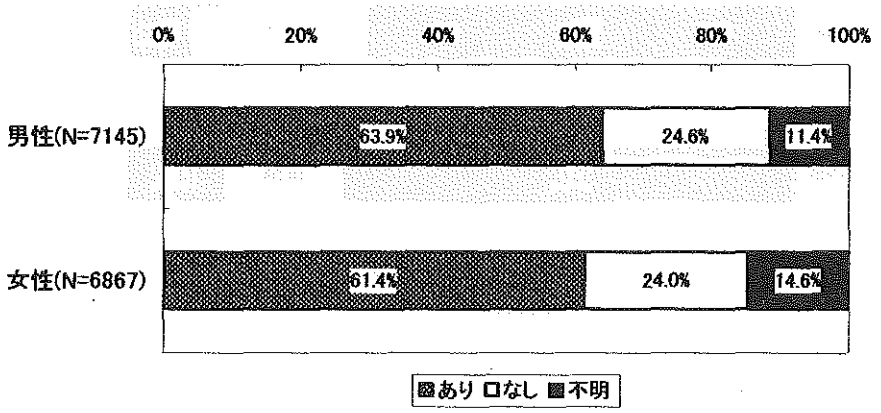
(3)お金の蓄え

お金の蓄えがあるとするのは、14,012人のうち8,781人(62.7%)であった。ないと回答したのは3,409人(24.3%)で、1,822人(13.0%)は不明であった。

＜性別比較―お金の蓄え＞

男性7,145人のうちお金の蓄えがあるとするのは4,567人(63.9%)、女性6,867人のうち4,214人(61.4%)であった。お金の蓄えがないとするのは男性は1,761人(24.6%)、女性は1,648人(24.0%)であった。不明は男性817人(11.4%)、女性は1,005人(14.6%)であった。お金の蓄えに関する感じ方には性による違いはみられなかった(P<0.01)(図10(3)-1)。

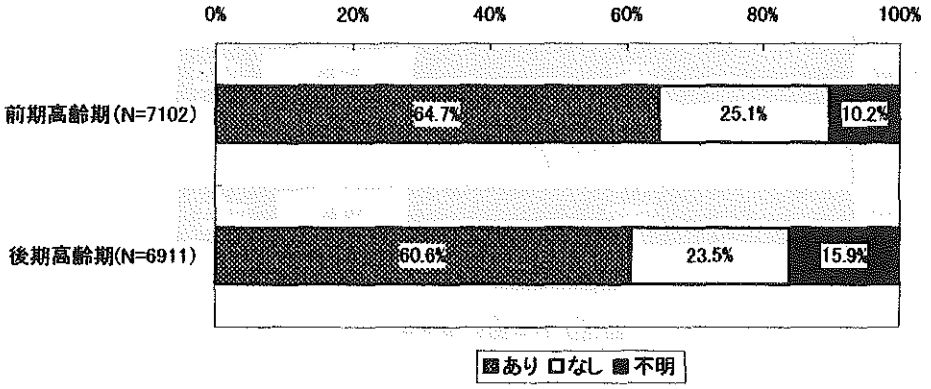
図10(3)-1お金の蓄え―性別



＜年齢階級別比較―お金の蓄え＞

前期高齢期7,102人のうちお金の蓄えがあるとするのは4,593人(64.7%)で、後期高齢期6,910人のうち4,188人(60.6%)と後期高齢期になると割合が減少していた。蓄えはないと回答したのは前期高齢期では1,786人(25.1%)、後期では1,623人(23.5%)であった。不明は前期高齢期は723人(10.2%)、後期高齢期は1,099人(15.9%)であった。お金の蓄えに関する感じ方には年齢による違いはみられなかった(図10(3)-2)。

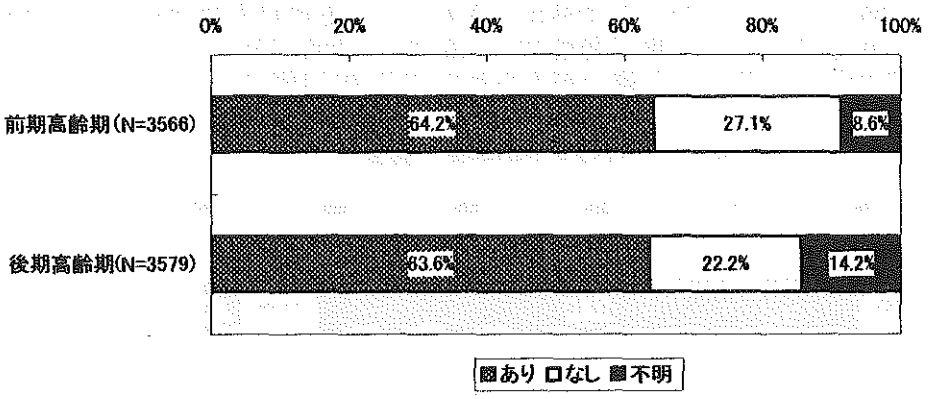
図10(3)-2お金の蓄え―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―お金の蓄え＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、経済的に余裕があるとするのは2,291人(64.2%)であり、後期高齢期3,579人のうち2,276人(63.6%)であった。蓄えはないとするのは前期高齢期は968人(27.1%)、後期高齢期は793人(22.2%)であった。不明は前期高齢期は307人(8.6%)、後期高齢期は510人(14.2%)であった。男性のお金の蓄えに関する考え方には年齢による違いがみられた(P<0.05)(図10(3)-3)。

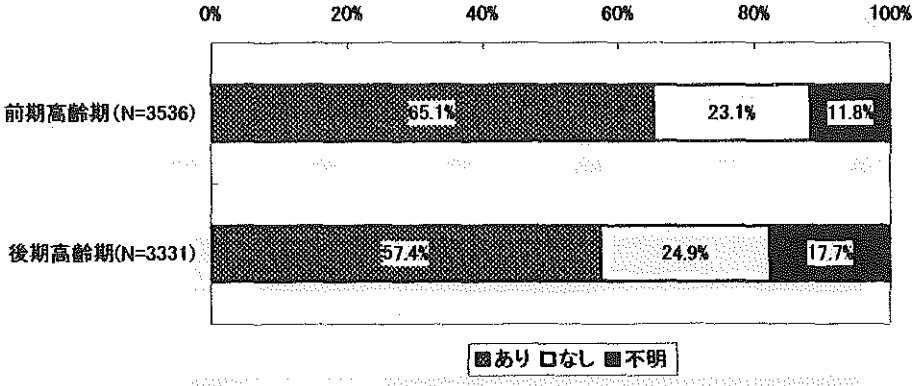
図10(3)-3お金の蓄え―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―お金の蓄え＞

女性の前期高齢期3,536人のうち経済的に余裕があるとするのは2,302人(65.1%)であり、後期高齢期3,331人のうち1,912人(57.4%)であった。蓄えはないとするのは前期高齢期は818人(23.1%)、後期高齢期には830人(24.9%)であった。不明は前期高齢期は416人(11.8%)、後期高齢期は589人(17.7%)であった。女性のお金の蓄えに関する考え方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図10(3)-4)。

図10(3)-4お金の蓄え―女性年齢階級別



11　生活

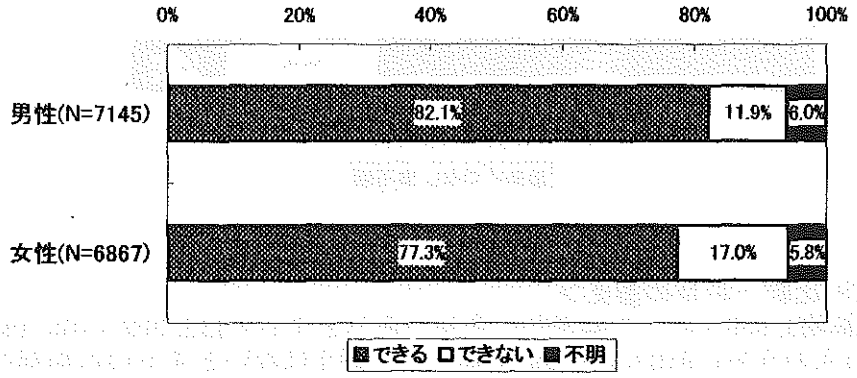
(1)ひとりでの外出

ひとりで外出できると回答しているのは、14,012人のうち11,173人(79.7%)であった。できないと回答したのは2,016人(14.4%)で、823人(5.9%)は不明であった。

<性別比較—ひとりでの外出>

男性は7,145人のうち、ひとりで外出ができるとするのは5,866人(82.1%)、女性6,867人のうち5,307人(77.3%)であった。ひとりで外出できないとするのは男性は852人(11.9%)、女性は1,164人(17.0%)であった。不明は男性427人(6.0%)、女性は396人(5.8%)であった。ひとりで外出できるか否かは性により違いがみられた(P<0.01)(図11(1)-1)。

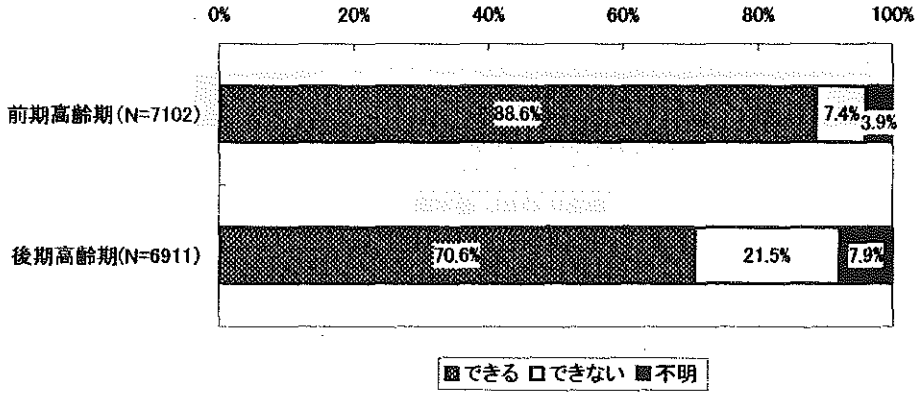
図11(1)-1ひとりでの外出—性別



<年齢階級別比較—ひとりでの外出>

前期高齢期7,102人のうちひとりで外出できるとするのは6,295人(88.6%)で、後期高齢期6,910人のうち4,878人(70.6%)であった。外出できないと回答したのは前期高齢期では528人(7.4%)、後期高齢期では1,488人(21.5%)であった。不明は前期高齢期は279人(3.9%)、後期高齢期は544人(7.9%)であった。ひとりで外出できるか否かは年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(1)-2)。

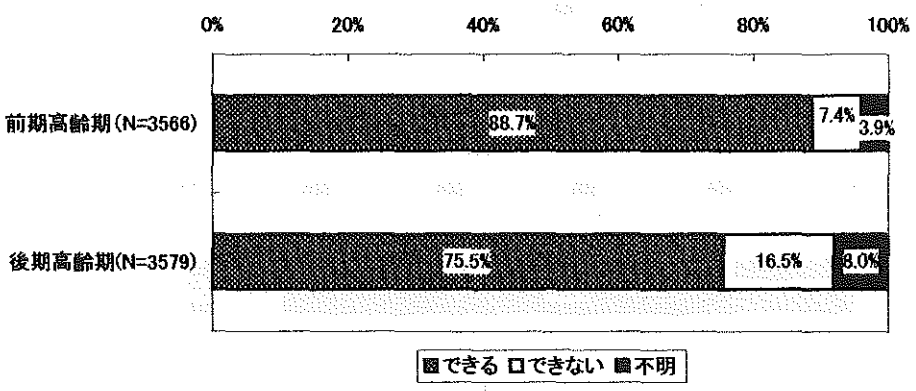
図11(1)-2ひとりでの外出—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―ひとりでの外出＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、ひとりで外出できるとするのは3,163人(88.7%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは2,703人(75.5%)であった。ひとりで外出できないとするのは前期高齢期は263人(7.4%)、後期高齢期は589人(16.5%)であった。不明は前期高齢期は140人(3.9%)、後期高齢期は287人(8.0%)であった。男性がひとりで外出できるか否かは年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(1)-3)。

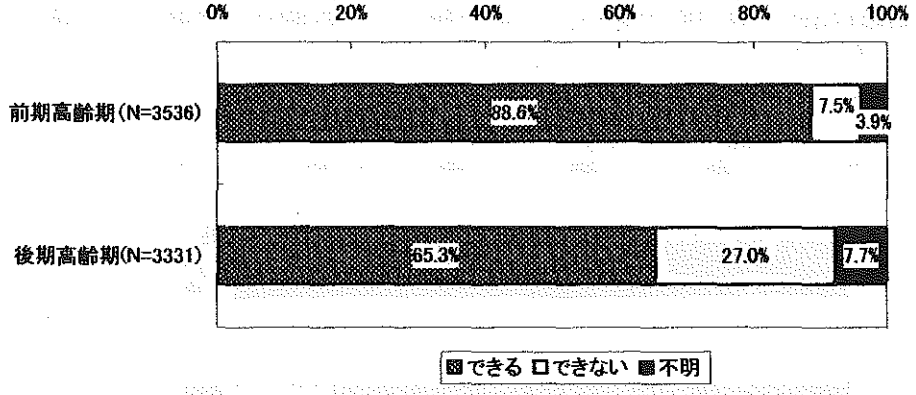
図11(1)-3ひとりでの外出―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―ひとりでの外出＞

女性の前期高齢期3,536人のうちひとりで外出できるのは3,132人(88.6%)であり、後期高齢期3,331人のうち2,175人(65.3%)であった。ひとりで外出できないのは前期高齢期には265人(7.5%)、後期高齢期には899人(27.0%)であった。不明は前期高齢期は139人(3.9%)、後期高齢期は257人(7.7%)であった。女性がひとりで外出できるか否かは年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(1)-4)。

図11(1)-4ひとりでの外出―女性年齢階級別



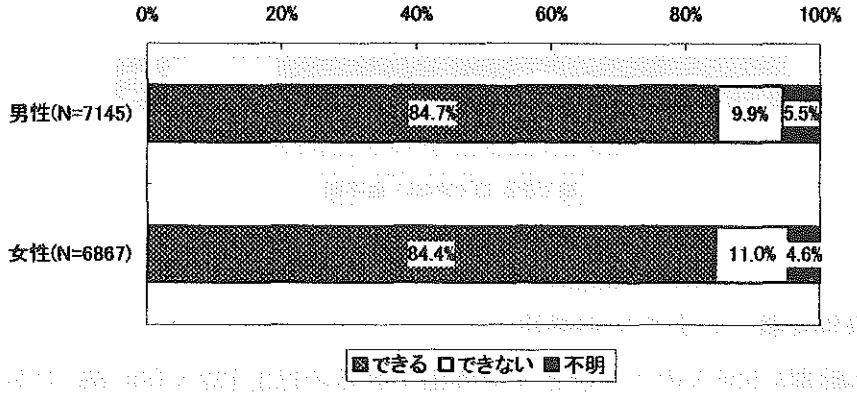
(2)買い物

買い物ができると回答しているのは、14,012人のうち11,845人(84.5%)であった。できないと回答したのは1,459人(10.4%)で、708人(5.1%)は不明であった。

＜性別比較―買い物＞

男性は7,145人のうち買い物ができるとするのは6,050人(84.7%)、女性6,867人のうち5,795人(84.4%)であった。買い物はできないとするのは男性は705人(9.9%)、女性は754人(11.0%)であった。不明は男性390人(5.5%)、女性は318人(4.6%)であった。買い物ができる割合は性により違いがみられた(P<0.05)(図11(2)-1)。

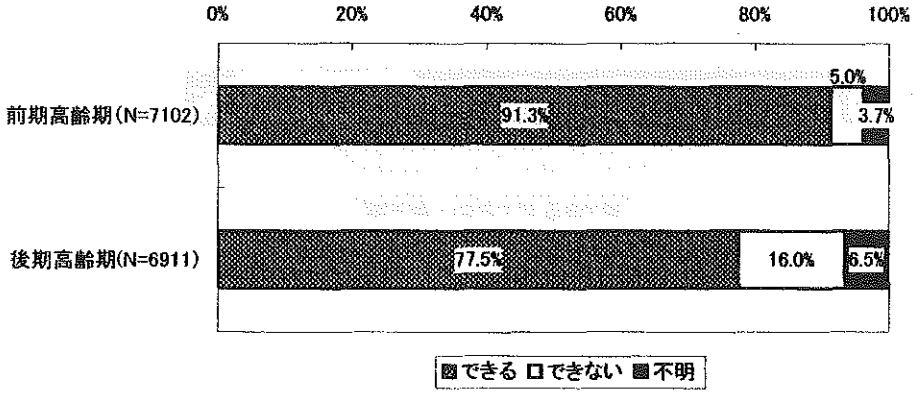
図11(2)-1買い物―性別



＜年齢階級別比較―買い物＞

前期高齢期7,102人のうちで買い物ができるとするのは6,487人(91.3%)で、後期高齢期6,910人のうちでは5,358人(77.5%)であった。買い物はできないと回答したのは前期高齢期では355人(5.0%)、後期高齢期では1,104人(16.0%)であった。不明は前期高齢期は260人(3.7%)、後期高齢期は448人(6.5%)であった。買い物ができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(2)-2)。

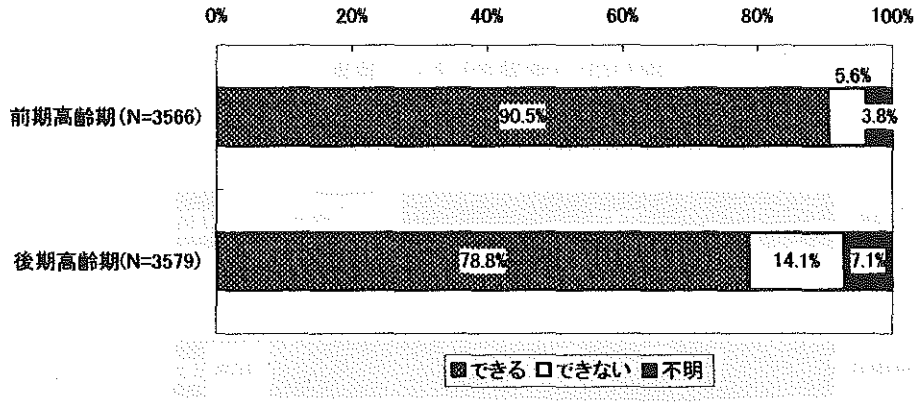
図11(2)-2買い物―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―買い物＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、買い物ができるとするのは3,228人(90.5%)であり、後期高齢期3,579人のうち2,822人(78.8%)であった。買い物はできないとするのは前期高齢期には201人(5.6%)、後期高齢期には504人(14.1%)であった。不明は前期高齢期は137人(3.8%)、後期高齢期は253人(7.1%)であった。男性が買い物ができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(2)-3)。

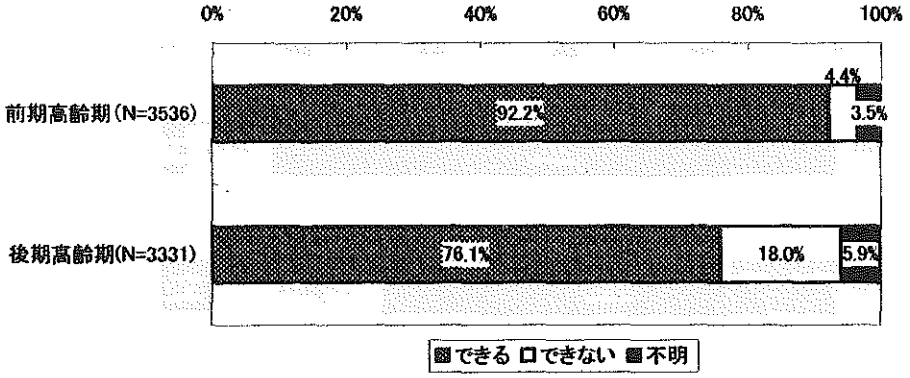
図11(2)-3買い物―男性年齢階級別



＜年齢階級別比較―買い物＞

女性の前期高齢期3,536人のうちでは買い物ができるのは3,259人(92.2%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは2,536人(76.1%)であった。買い物ができないのは前期高齢期では154人(4.4%)、後期高齢期には600人(18.0%)であった。不明は前期高齢期は123人(3.5%)、後期高齢期は195人(5.9%)であった。女性が買い物できる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(2)-4)。

図11(2)-4買い物―女性年齢階級別



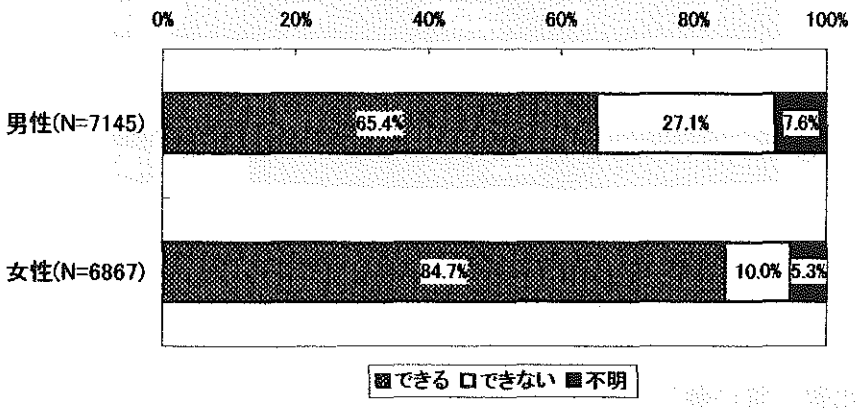
(3)食事のしたく

食事のしたくができると回答しているのは、14,012人のうち10,488人(74.9%)であった。できないと回答したのは2,621人(18.7%)で、903人(6.4%)は不明であった。

<性別比較—食事のしたく>

男性は7,145人のうち食事のしたくができるとするのは4,670人(65.4%)、女性6,867人のうち5,818人(84.7%)であった。食事のしたくはできないとするのは男性は1,935人(27.1%)、女性は686人(10.0%)であった。不明は男性540人(7.6%)、女性は363人(5.3%)であった。食事のしたくができる割合は性により違いがみられた(P<0.01)(図11(3)-1)。

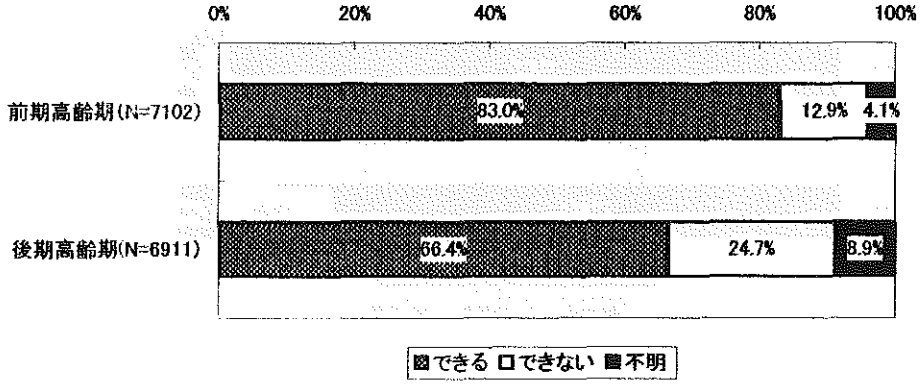
図11(3)-1食事のしたく—性別



<年齢階級別比較—食事のしたく>

前期高齢期7,102人のうちで食事のしたくができるとするのは5,897人(83.0%)で、後期高齢期6,910人のうち4,591人(66.4%)であった。買い物はできないと回答したのは前期高齢期では916人(12.9%)、後期高齢期では1,705人(24.7%)であった。不明は前期高齢期は289人(4.1%)、後期高齢期は614人(8.9%)であった。食事のしたくができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(3)-2)。

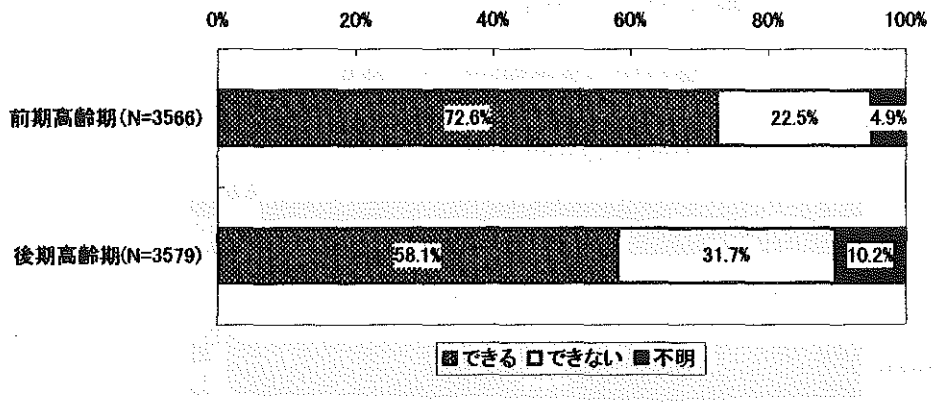
図11(3)-2食事のしたく—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―食事のしたく＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、食事のしたくができるとするのは2,589人(72.6%)であり、後期高齢期3,579人のうち2,081人(58.1%)であった。食事のしたくはできないとするのは前期高齢期は802人(22.5%)、後期高齢期は1,133人(31.7%)であった。不明は前期高齢期は175人(4.9%)、後期高齢期は365人(10.2%)であった。男性が食事のしたくができる割合には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(3)-3)。

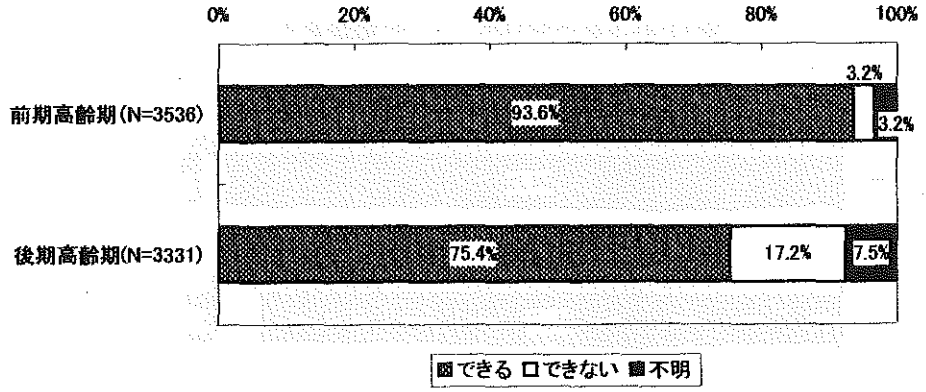
図11(3)-3食事のしたく―男性年齢階級別



＜年齢階級別比較―食事のしたく＞

女性の前期高齢期3,536人のうち食事のしたくができるのは3,308人(93.6%)であり、後期高齢期3,331人のうち2,510人(75.4%)であった。食事のしたくができないのは前期高齢期は114人(3.2%)、後期高齢期には572人(17.2%)であった。不明は前期高齢期は114人(3.2%)、後期高齢期は249人(7.5%)であった。女性が食事のしたくができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(3)-4)。

図11(3)-4食事のしたく―女性年齢階級別



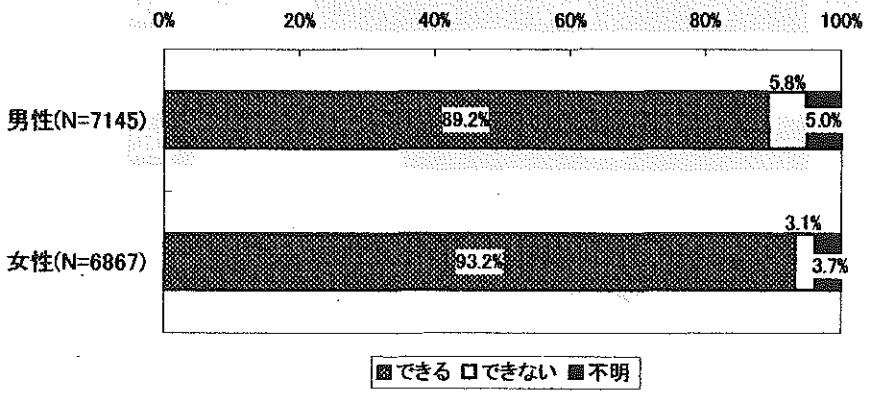
(4)身の回りのこと

身の回りのことができると回答しているのは、14,012人のうち12,773人(91.2%)であった。できないと回答したのは631人(4.5%)で、608人(4.3%)は不明であった。

<性別比較—身の回りのこと>

男性7,145人のうち身の回りのことができるとするのは6,374人(89.2%)、女性6,867人のうちでは6,399人(93.2%)であった。身の回りのことができないとするのは男性は415人(5.8%)、女性は216人(3.1%)であった。不明は男性356人(5.0%)、女性は252人(3.7%)であった。身の回りのことができる割合は性により違いがみられた(P<0.01)(図11(4)-1)。

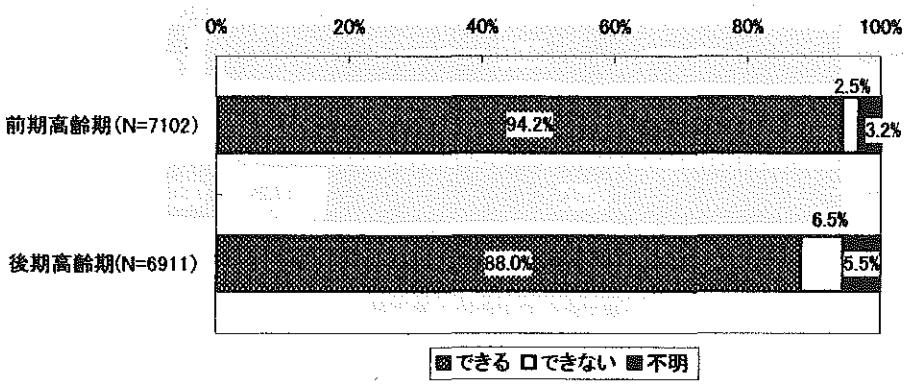
図11(4)-1身の回りのこと—性別



<年齢階級別比較—身の回りのこと>

前期高齢期7,102人のうち身の回りのことができるとするのは6,691人(94.2%)で、後期高齢期6,910人のうち6,082人(88.0%)であった。身の回りのことはできないと回答したのは前期高齢期では181人(2.5%)、後期高齢期では450人(6.5%)であった。不明は前期高齢期は230人(3.2%)、後期高齢期は378人(5.5%)であった。身の回りのことができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(4)-2)。

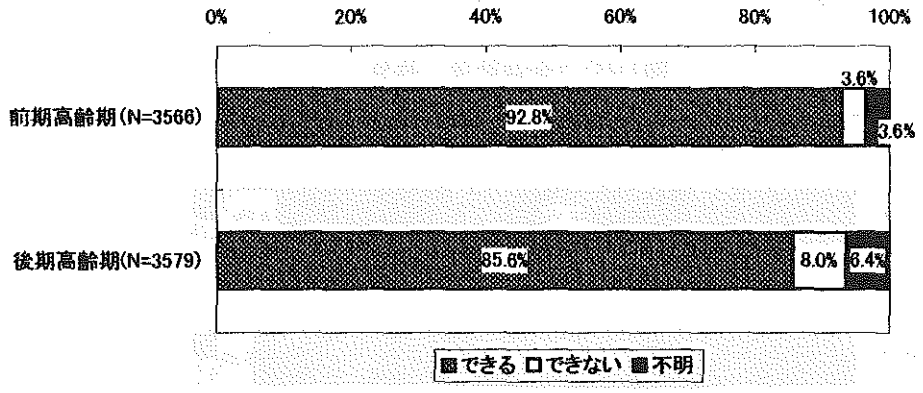
図11(4)-2身の回りのこと—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較—身の回りのこと＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、身の回りのことができるとするのは3,310人(92.8%)であり、後期高齢期3,579人のうち3,064人(85.6%)であった。身の回りのことはできないとするのは前期高齢期には129人(3.6%)、後期高齢期には286人(8.0%)であった。不明は前期高齢期は127人(3.6%)、後期高齢期は229人(6.4%)であった。男性が身の回りのことができる割合には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(4)-3)。

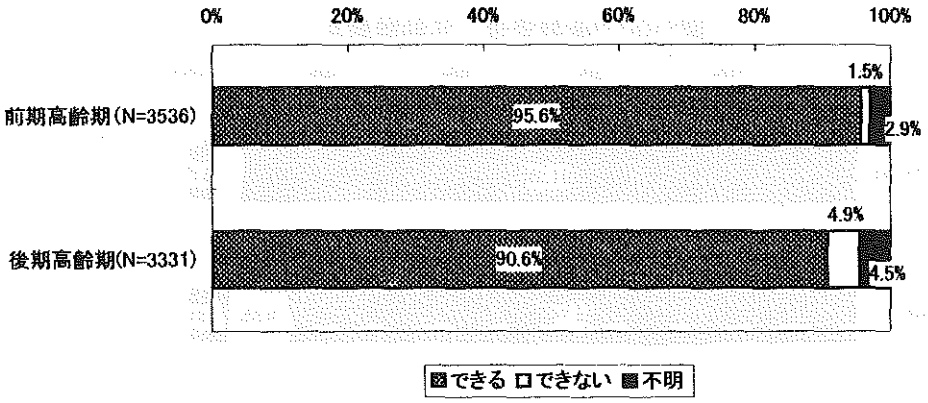
図11(4)-3身の回りのこと—男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較—身の回りのこと＞

女性の前期高齢期3,536人のうちで身の回りのことができるのは3,381人(95.6%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは3,018人(90.6%)であった。身の回りのことはできないとするのは前期高齢期は52人(1.5%)、後期高齢期には164人(4.9%)であった。不明は前期高齢期は103人(2.9%)、後期高齢期は149人(4.5%)であった。女性が身の回りのことができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(4)-4)。

図11(4)-4身の回りのこと—女性年齢階級別



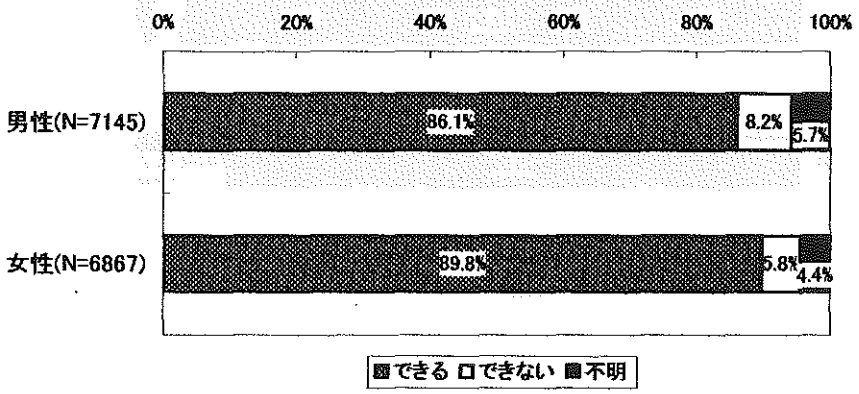
(5)金銭の管理

金銭管理ができると回答しているのは、14,012人のうち12,320人(87.9%)であった。できないと回答したのは981人(7.0%)で、711人(5.1%)は不明であった。

<性別比較—金銭の管理>

男性7,145人のうち金銭管理ができるとするのは6,152人(86.1%)、女性6,867人のうちでは6,168人(89.8%)であった。金銭の管理ができないとするのは男性は584人(8.2%)、女性は397人(5.8%)であった。不明は男性409人(5.7%)、女性は302人(4.4%)であった。金銭管理ができる割合は性により違いがみられた(P<0.01)(図11(5)-1)。

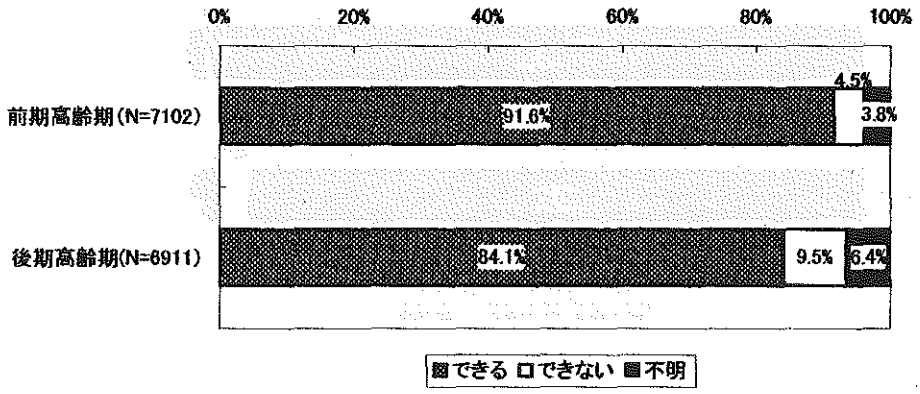
図11(5)-1金銭管理—性別



<年齢階級別比較—金銭の管理>

前期高齢期7,102人のうち金銭管理ができるとするのは6,508人(91.6%)で、後期高齢期6,910人のうち5,812人(84.1%)であった。金銭管理ができないと回答したのは前期高齢期では323人(4.5%)、後期では658人(9.5%)であった。不明は前期高齢期は271人(3.8%)、後期高齢期は440人(6.4%)であった。金銭管理ができる割合は年齢による違いが見られた(P<0.01)(図11(5)-2)。

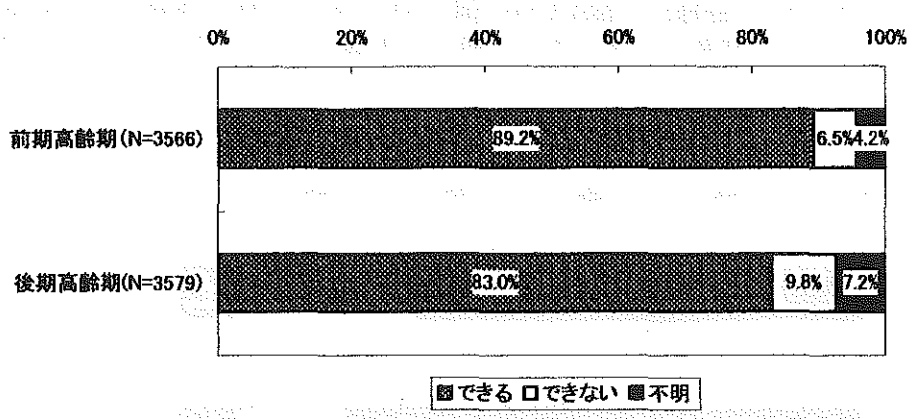
図11(5)-2金銭管理—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―金銭の管理＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、金銭管理ができるとするのは3,182人(89.2%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは2,970人(83.0%)であった。金銭管理はできないとするのは前期は233人(6.5%)、後期は351人(9.8%)であった。不明は前期高齢期は151人(4.2%)、後期高齢期は258人(7.2%)であった。男性が金銭管理ができる割合には年齢による違いはみられなかった(図11(5)-3)。

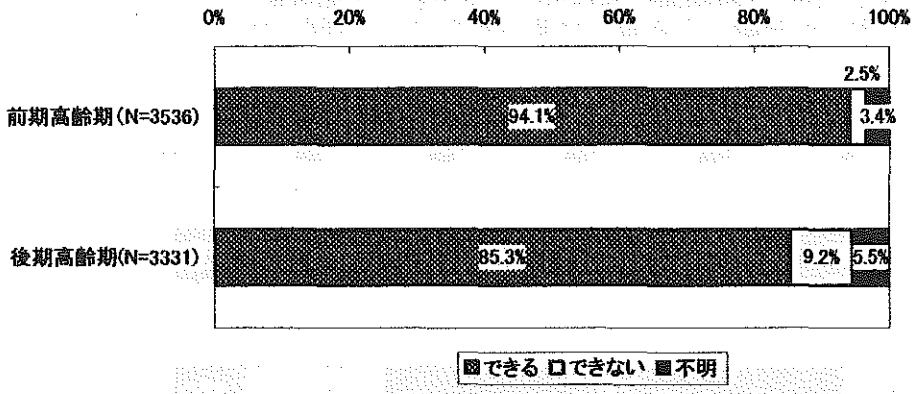
図11(5)-3金銭管理―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―金銭の管理＞

女性の前期高齢期には3,536人のうち金銭管理ができるのは3,326人(94.1%)であり、後期高齢期には3,331人のうちでは2,842人(85.3%)であった。金銭管理はできないとするのは前期高齢期は90人(2.5%)、後期高齢期には307人(9.2%)であった。不明は前期高齢期は120人(3.4%)、後期高齢期は182人(5.5%)であった。女性が金銭管理ができる割合は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(5)-4)。

図11(5)-4金銭管理―女性年齢階級別



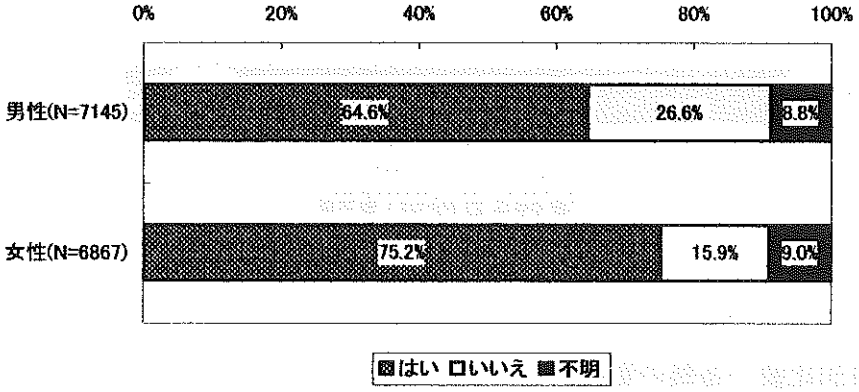
(6)宗教心

宗教心を大切にしていると回答しているのは、14,012人のうち9,777人(69.8%)であった。「いいえ」と回答したのは2,993人(21.4%)で、1,242人(8.9%)は不明であった。

＜性別比較―宗教心＞

男性は7,145人のうち宗教心を大切にしているとしたのは4,615人(64.6%)、女性6,867人のうち5,162人(75.2%)であった。宗教心を大切にするかとの問いに「いいえ」と回答したのは男性は1,904人(26.6%)、女性は1,089人(15.9%)であった。不明は男性626人(8.8%)、女性は616人(9.0%)であった。宗教への考え方には性により違いがみられた(P<0.01)(図11(6)-1)。

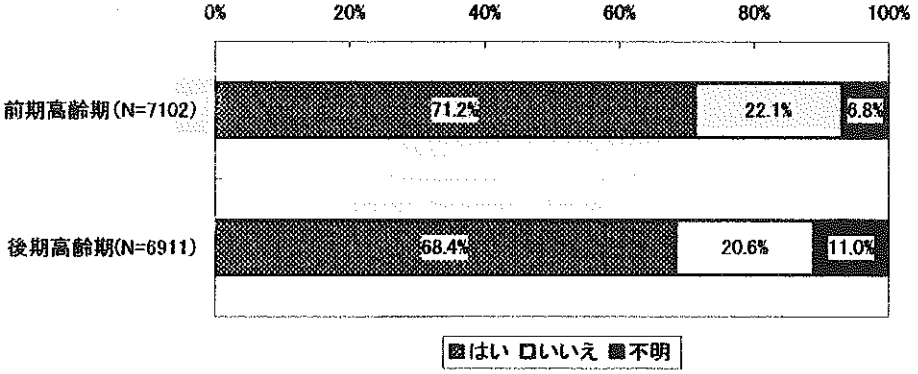
図11(6)-1宗教心を大切にしていますか―性別



＜年齢階級別比較―宗教心＞

年齢階級別には前期高齢期7,102人のうち宗教心を大切にしているとするのは5,054人(71.2%)で、後期高齢期6,910人のうち4,723人(68.4%)であった。宗教心を大切にするかとの問いに「いいえ」と回答したのは前期高齢期では1,567人(22.1%)、後期高齢期では1,426人(20.6%)であった。不明は前期高齢期は481人(6.8%)、後期高齢期は761人(11.0%)であった。宗教への考え方には年齢による違いは見られなかった(図11(6)-2)。

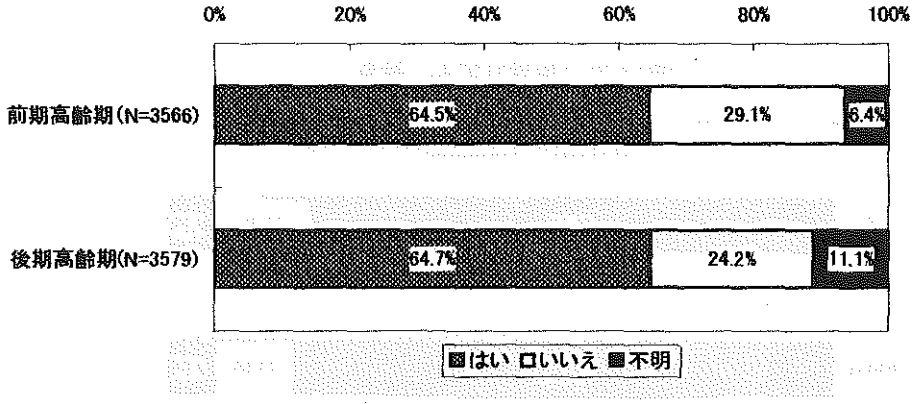
図11(6)-2宗教心を大切にしていますか―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―宗教心＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、宗教心を大切にすると回答したのは2,300人(64.5%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは2,315人(64.7%)であった。宗教心を大切にするかとの問いに「いいえ」とするのは前期は1,039人(29.1%)、後期は865人(24.2%)であった。不明は前期高齢期は227人(6.4%)、後期高齢期は399人(11.1%)であった。男性の宗教への考え方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(6)-3)。

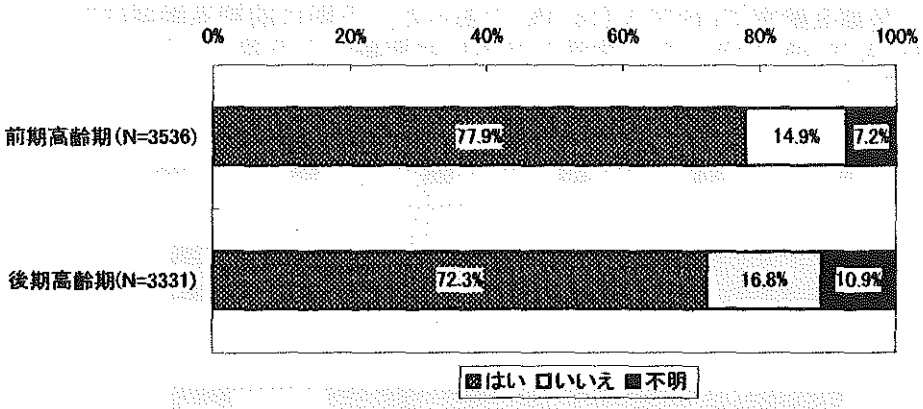
図11(6)-3宗教心を大切にしていますか―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―宗教心＞

女性の前期高齢期3,536人のうちでは宗教心を大切にしているとするのは2,754人(77.9%)であり、後期高齢期3,331人のうち2,408人(72.3%)であった。「いいえ」とするのは前期高齢期は528人(14.9%)、後期高齢期には561人(16.8%)であった。不明は前期高齢期は254人(7.2%)、後期高齢期は362人(10.9%)であった。女性の宗教への考え方には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(6)-4)。

図11(6)-4宗教心を大切にしていますか―女性年齢階級別



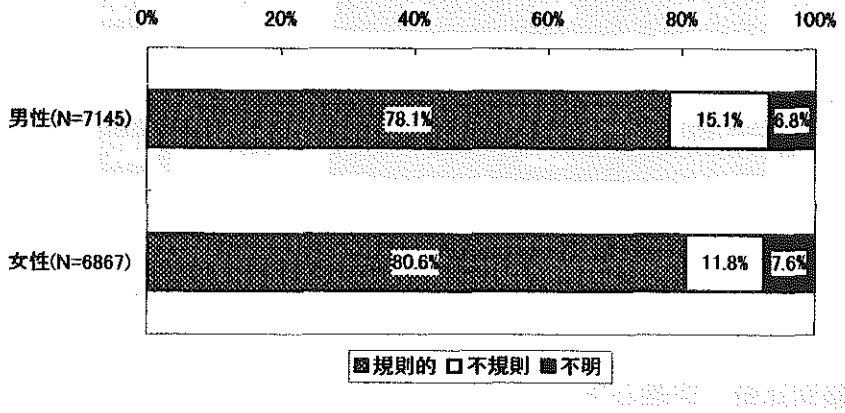
(7)生活リズム

生活リズムは規則的であると回答しているのは、14,012人のうち11,115人(79.3%)であった。不規則と回答したのは1,891人(13.5%)で、1,006人(7.2%)は不明であった。

<性別比較—生活リズム>

男性7,145人のうち生活が規則的なのは5,579人(78.1%)、女性6,867人のうちでは5,536人(80.6%)であった。不規則と回答したのは、男性は1,080人(15.1%)、女性は811人(11.8%)であった。不明は男性486人(6.8%)、女性は520人(7.6%)であった。生活リズムには性による違いがみられた(P<0.01)(図11(7)-1)。

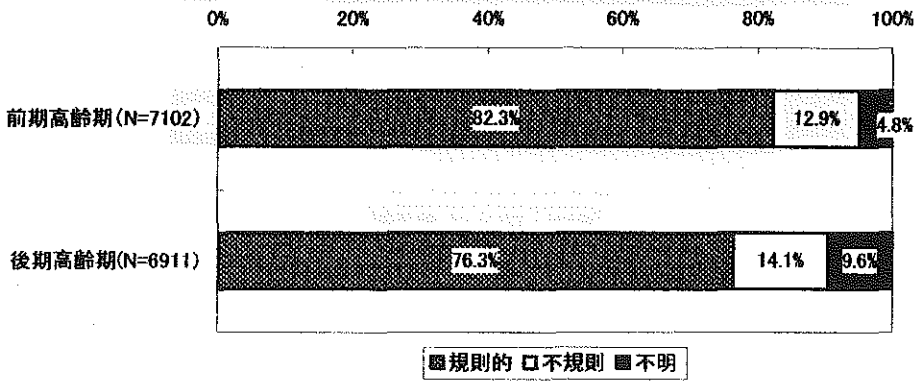
図11(7)-1生活リズム—性別



<年齢階級別比較—生活リズム>

前期高齢期7,102人のうち、生活リズムが規則的と回答したのは5,843人(82.3%)で、後期高齢期6,910人のうちでは5,272人(76.3%)であった。不規則と回答したのは前期高齢期では915人(12.9%)、後期高齢期では976人(14.1%)であった。不明は前期高齢期は344人(4.8%)、後期高齢期は662人(9.6%)であった。生活リズムには年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(7)-2)。

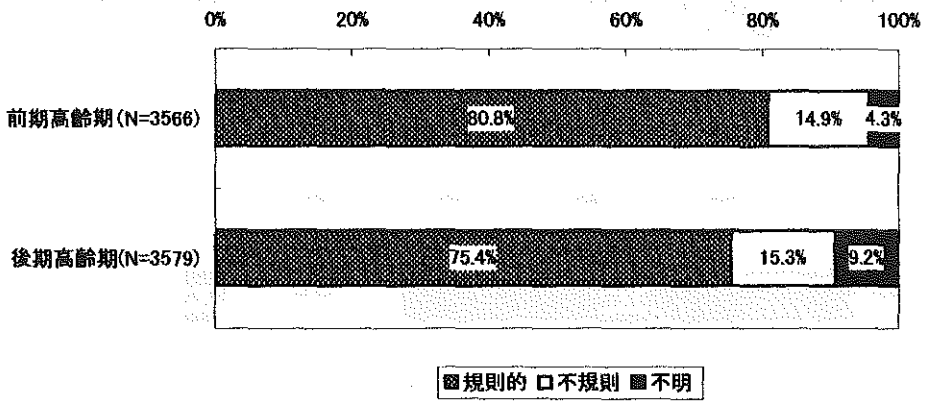
図11(7)-2生活リズム—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―生活リズム＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、生活が規則的だと回答したのは2,880人(80.8%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは2,699人(75.4%)であった。不規則とするのは前期高齢期は531人(14.9%)、後期高齢期は549人(15.3%)であった。不明は前期高齢期は155人(4.3%)、後期高齢期は331人(9.2%)であった。男性の生活リズムには年齢による違いはみられなかった(P<0.01)(図11(7)-3)。

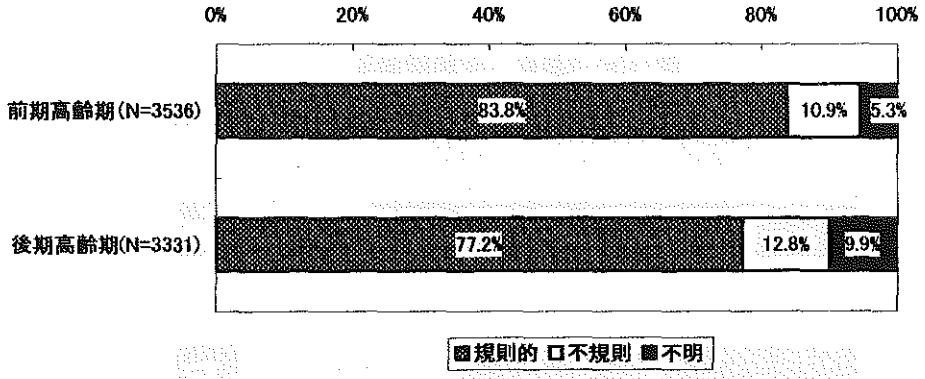
図11(7)-3生活リズム―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―生活リズム＞

女性の前期高齢期3,536人のうち生活リズムが規則的なのは2,963人(83.8%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは2,573人(77.2%)であった。不規則とするのは前期高齢期は384人(10.9%)、後期高齢期は427人(12.8%)であった。不明は前期高齢期は189人(5.3%)、後期高齢期は331人(9.9%)であった。女性の生活リズムには年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(7)-4)。

図11(7)-4生活リズム―女性年齢階級別



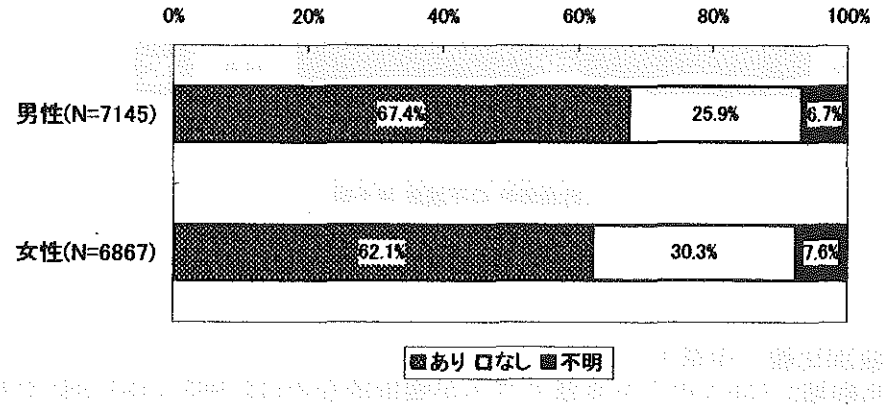
(8)趣味

趣味があると回答しているのは、14,012人のうち9,082人(64.8%)であった。ないとしているのは3,927人(28.0%)で、1,003人(7.2%)は不明であった。

＜性別比較―趣味＞

男性7,145人のうち趣味があるとするのは4,819人(67.4%)、女性6,867人のうちでは4,263人(62.1%)であった。趣味がないとするのは男性は1,847人(25.9%)、女性は2,080人(30.3%)であった。不明は男性479人(6.7%)、女性は524人(7.6%)であった。趣味の有無は性による違いがみられた(P<0.01)(図11(8)-1)。

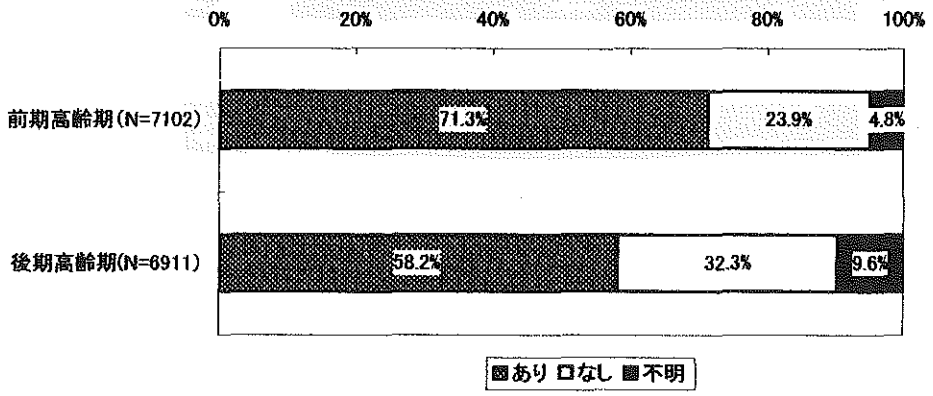
図11(8)-1趣味―性別



＜年齢階級別比較―趣味＞

前期高齢期7,102人のうち趣味があると回答したのは、5,062人(71.3%)で、後期高齢期6,910人のうちでは4,020人(58.2%)であった。趣味はないと回答したのは前期高齢期では1,698人(23.9%)、後期高齢期では2,229人(32.3%)であった。不明は前期高齢期は342人(4.8%)、後期高齢期は661人(9.6%)であった。趣味の有無は年齢により違いがみられた(P<0.01)(図11(8)-2)。

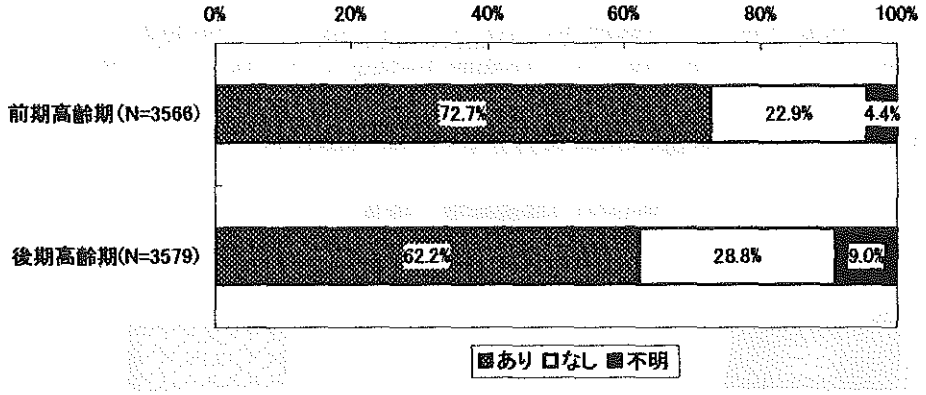
図11(8)-2趣味―年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―趣味＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、趣味があると回答したのは2,592人(72.7%)であり、後期高齢期には3,579人のうちでは2,227人(62.2%)っであった。趣味はないとするのは前期は817人(22.9%)、後期は1,030人(28.8%)であった。不明は前期高齢期は157人(4.4%)、後期高齢期は322人(9.0%)であった。男性の趣味の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(8)-3)。

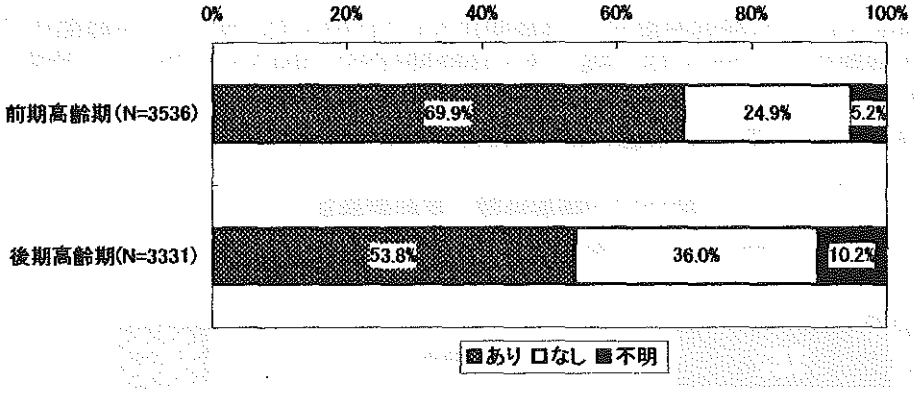
図11(8)-3趣味―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―趣味＞

女性の前期高齢期に3,536人のうち趣味があるのは2,470人(69.9%)であり、後期高齢期3,331人のうち1,793人(53.8%)であった。趣味はないとするのは前期高齢期は881人(24.9%)、後期高齢期には1,199人(36.0%)であった。不明は前期高齢期は185人(5.2%)、後期高齢期は339人(10.2%)であった。女性の趣味の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図11(8)-4)。

図11(8)-4趣味―女性年齢階級別



12　睡眠

(1)睡眠時間

睡眠時間は13,225人のうち7～8時間代が7,304人(55.2%)で、5～6時間代が3,271人(24.7%)、9～10時間代が2,066人(15.6%)であった。1～4時間代が374人(2.8%)、11時間以上は210人(1.6%)であった。

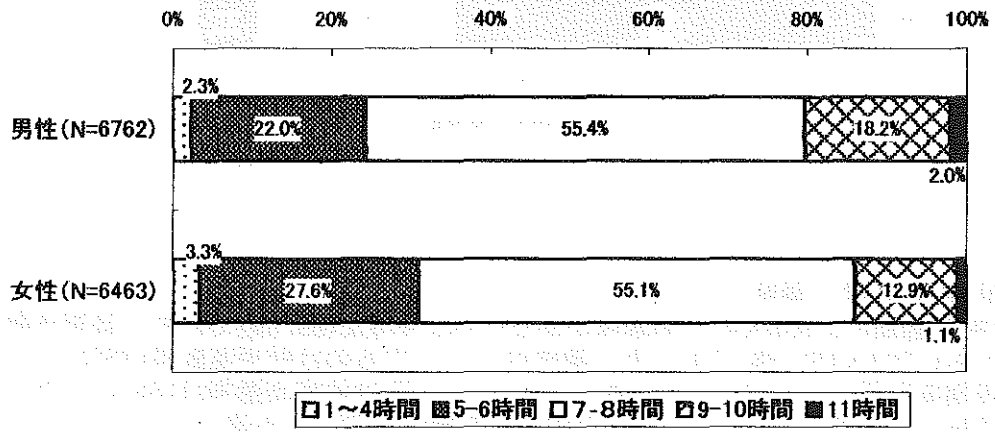
＜性別比較―睡眠時間＞

男性6,762人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは158人(2.3%)、5～6時間代は1,488人(22.0%)、7～8時間代は3,744人(55.4%)、9～10時間代が1,234人(18.2%)、11時間以上は138人(2.0%)であった。

女性6,463人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは216人(3.3%)、5～6時間代は1,783人(27.6%)、7～8時間代は3,560人(55.1%)、9～10時間代が832人(12.9%)、11時間以上は72人(1.1%)であった。

各睡眠時間の割合には性による違いがみられた(P<0.01)(図12(1)-1)。

図12(1)-1睡眠時間－性別



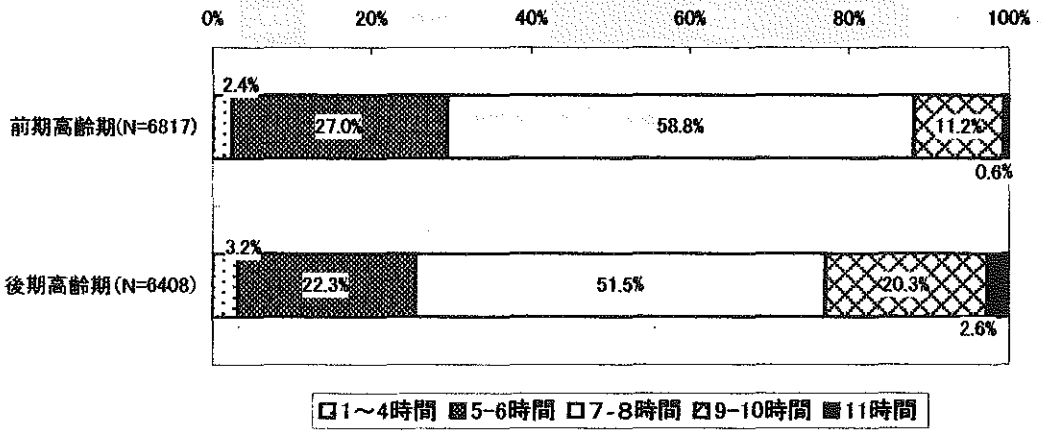
＜年齢階級別比較―睡眠時間＞

前期高齢期6,817人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは167人(2.4%)、5～6時間代は1,840人(27.0%)、7～8時間代は4,005人(58.8%)、9～10時間代が762人(11.2%)、11時間以上は43人(0.6%)であった。

後期高齢期6,408人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは207人(3.2%)、5～6時間代は1,431人(22.3%)、7～8時間代は3,299人(51.5%)、9～10時間代が1,304人(20.3%)、11時間以上は167人(2.6%)であった。

各睡眠時間の割合には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(1)-2)。

図12(1)-2睡眠時間－年齢階級別



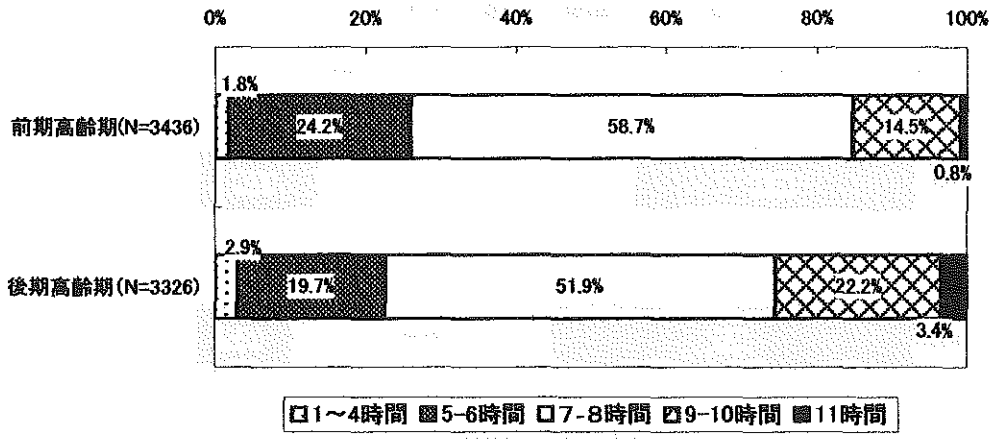
＜男性年齢階級別比較―睡眠時間＞

男性の前期高齢期3,436人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは62人(1.8%)、5～6時間代は833人(24.2%)、7～8時間代は2,018人(58.7%)、9～10時間代が497人(14.5%)、11時間以上は26人(0.8%)であった。

男性の後期高齢期3,326人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは96人(2.9%)、5～6時間代は655人(19.7%)、7～8時間代は1,726人(51.9%)、9～10時間代が737人(22.2%)、11時間以上は112人(3.4%)であった。

男性の各睡眠時間の割合には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(1)-3)。

図12(1)-3睡眠時間－男性年齢階級別



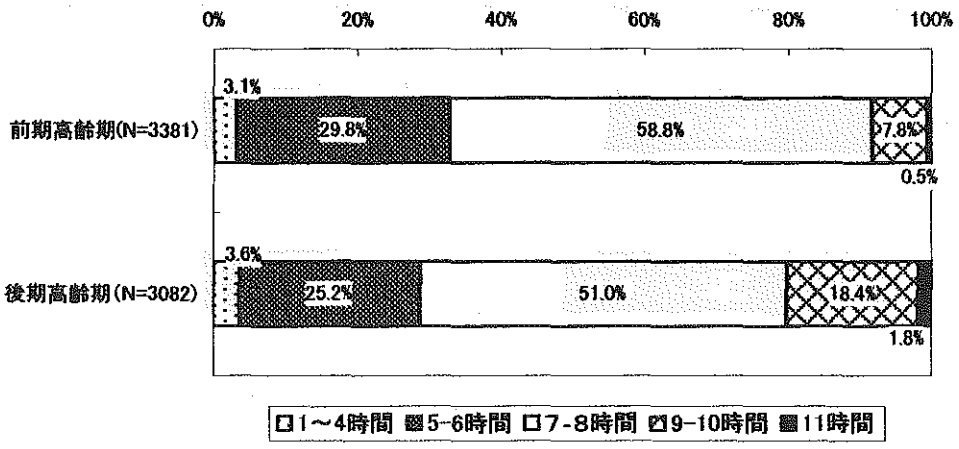
＜女性年齢階級別比較―睡眠時間＞

女性の前期高齢期3,381人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは105人(3.1%)、5～6時間代は1,007人(29.8%)、7～8時間代は1,987人(58.8%)、9～10時間代が265人(7.8%)、11時間以上は17人(0.5%)であった。

女性の後期期高齢期3,802人のうち睡眠時間が1～4時間代なのは111人(3.6%)、5～6時間代は776人(25.2%)、7～8時間代は1.573人(51.0%)、9～10時間代が567人(18.4%)、11時間以上は55人(1.8%)であった。

女性の各睡眠時間の割合には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(1)-4)。

図12(1)-4睡眠時間－女性年齢階級別



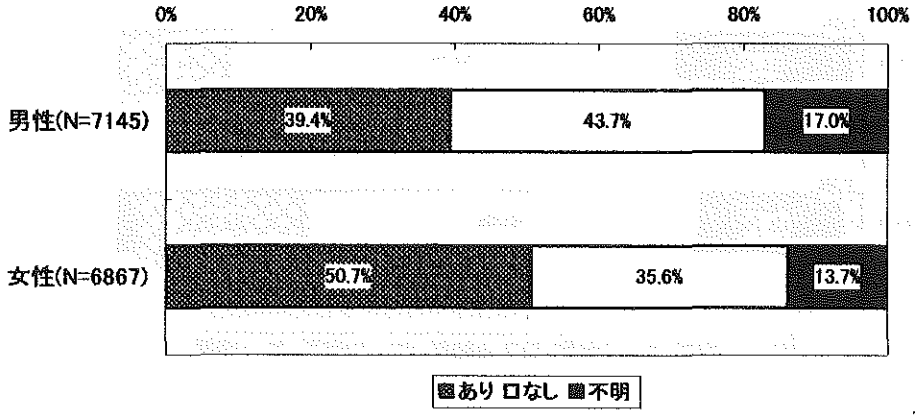
(2) 睡眠の問題

何らかの睡眠の問題があるとするのは、14,012人のうち6,297人(44.9%)であった。ないと回答したのは5,561人(39.7%)で、2,154人(15.4%)は不明であった。

＜性別比較—睡眠の問題＞

睡眠の問題があるとする男性7,145人のうち2,814人(39.4%)、女性6,867人のうち3,483人(50.7%)であった。睡眠の問題はないとするのは男性は3,119人(43.7%)、女性は2,442人(35.6%)であった。不明は男性1,212人(17.0%)、女性は942人(13.7%)であった。睡眠の問題の有無は性により違いがみられた(P<0.01)(図12(2)-1)。

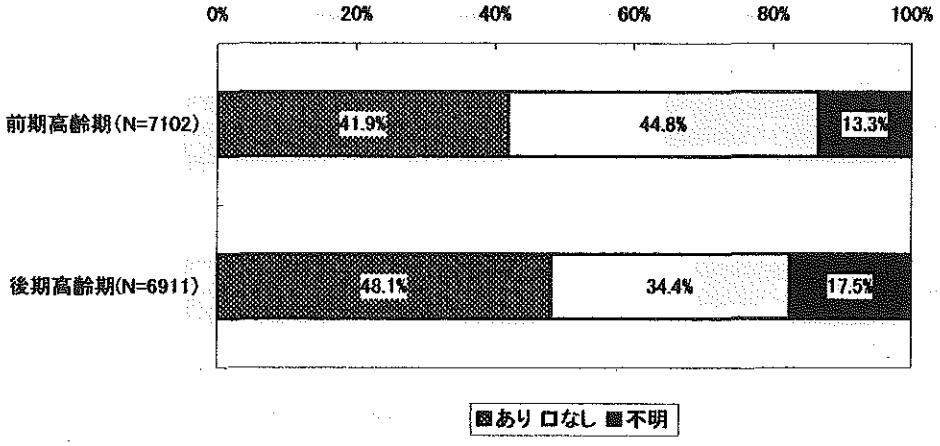
図12(2)-1睡眠の問題—性別



＜年齢階級別比較—睡眠の問題＞

前期高齢期7,102人のうち睡眠の問題があるとするのは2,973人(41.9%)で、後期高齢期6,910人のうち3,324人(48.1%)であった。睡眠の問題がないと回答したのは前期高齢期では3,184人(44.8%)、後期高齢期では2,377人(34.4%)であった。不明は前期高齢期は945人(13.3%)、後期高齢期は1,209人(17.5%)であった。睡眠の問題の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(2)-2)。

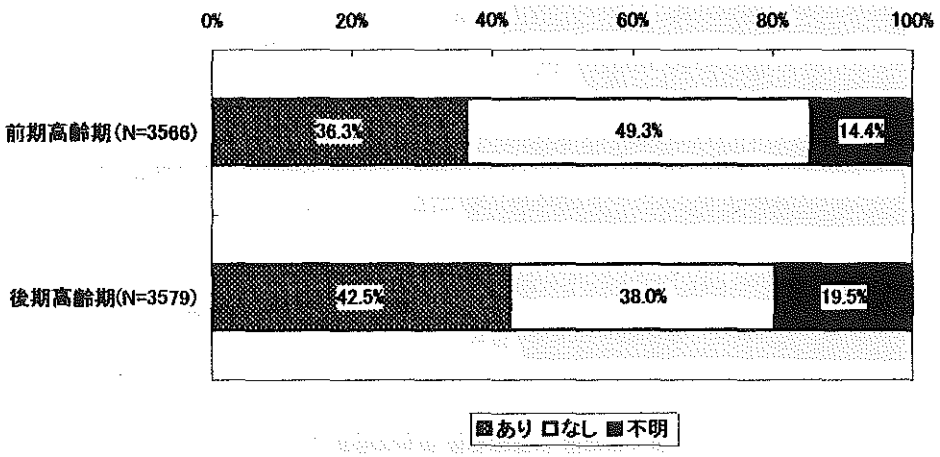
図12(2)-2睡眠の問題—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―睡眠の問題＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、睡眠の問題があるのは1,294人(36.3%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは1,520人(42.5%)であった。睡眠に関する問題がないとするのは前期高齢期は1,759人(49.3%)で、後期高齢期には1,360人(38.0%)であった。不明は前期高齢期は513人(14.4%)、後期高齢期は699人(19.5%)であった。男性の睡眠に関する問題の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(2)-3)。

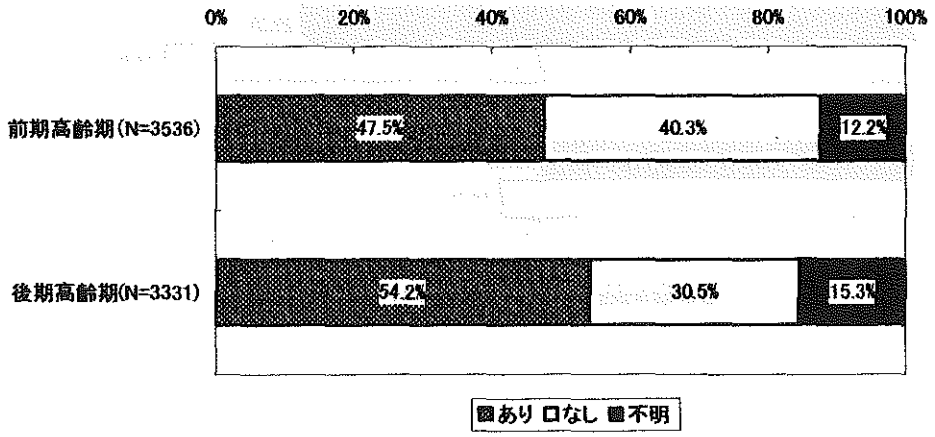
図12(2)-3睡眠の問題―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―睡眠の問題＞

女性の前期高齢期3,536人のうち睡眠に関して問題があるとするのは1,679人(47.5%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは1,804人(54.2%)であった。睡眠の問題がないのは前期高齢期では1,425人(40.3%)で、後期高齢期には1,017人(30.5%)であった。不明は前期高齢期は432人(12.2%)、後期高齢期は510人(15.3%)であった。女性の睡眠の問題の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(2)-4)。

図12(2)-4睡眠の問題―女性年齢階級別



＜睡眠の問題の内訳＞

睡眠の問題を「入眠時の問題(入眠困難)」、「夜間覚醒」、「早期覚醒」について性別にみると、多いのは男女とも「夜間覚醒」、次に「入眠困難」、「早朝覚醒」であった。前期高齢期・後期高齢期とも同じ傾向であり、どの問題も後期高齢期になると割合が増加していた(図12(2)-5)(図12(2)-6)。

図12(2)-5睡眠の問題の内訳(割合)―性別

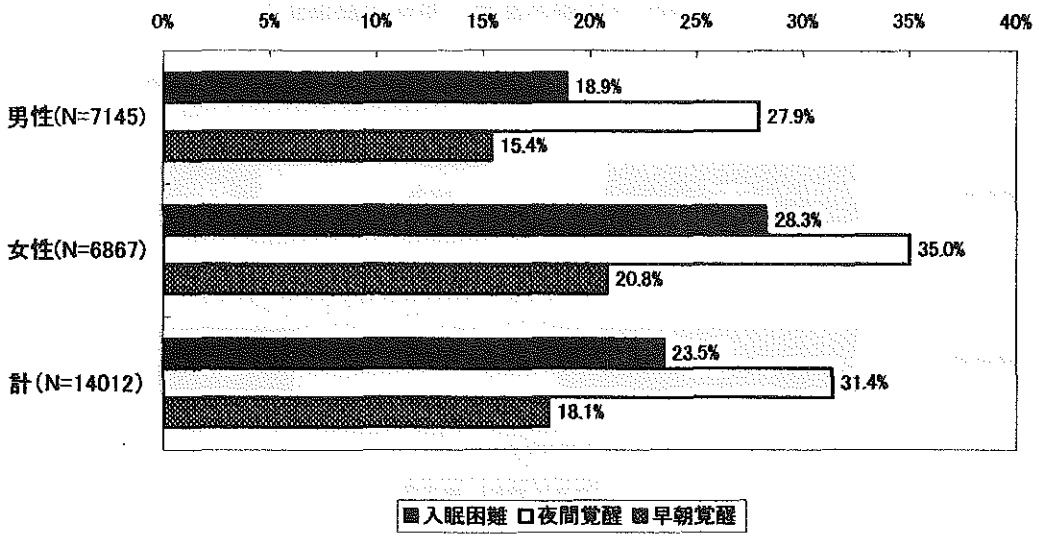
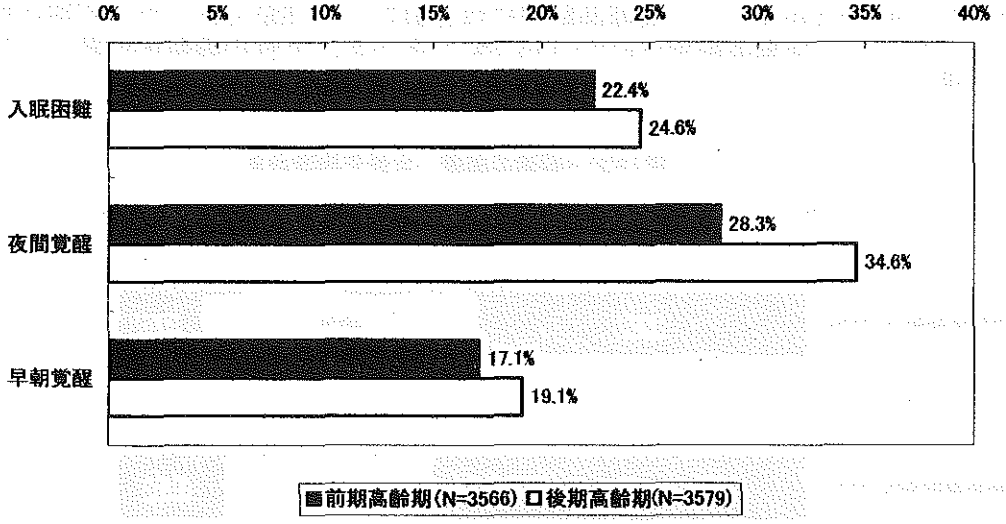


図12(2)-6睡眠の問題の内訳(割合)―年齢階級別



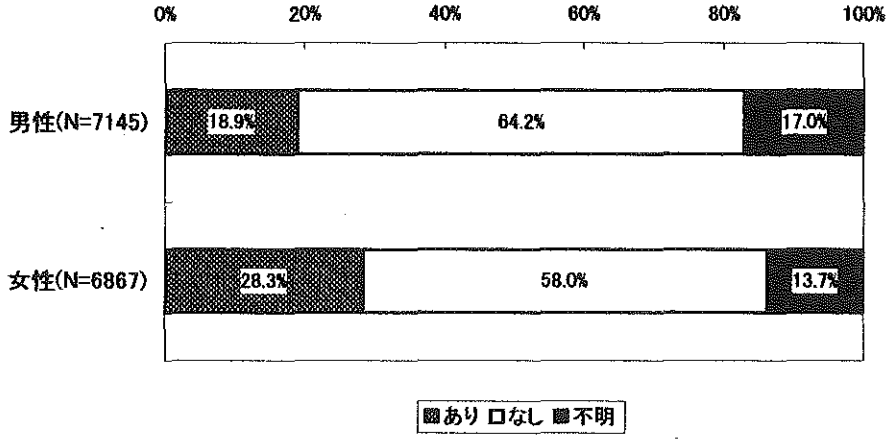
(3)入眠時の問題

入眠時に問題がないとするのは、14,012人のうち8,567人(61.1%)であった。あると回答したのは3,290人(23.5%)で、2,155人(15.4%)は不明であった。

<性別比較－入睡時の問題>

男性は7,145人のうち入眠時の問題があるとするのは1,348人(18.9%)、女性6,867人のうちでは1,942人(28.3%)であった。入眠時の問題はないとするのは男性は4,584人(64.2%)、女性は3,983人(58.0%)であった。不明は男性1,213人(17.0%)、女性は942人(13.7%)であった。入眠時の問題の有無は性により違いがみられた(P<0.01)(図12(3)-1)。

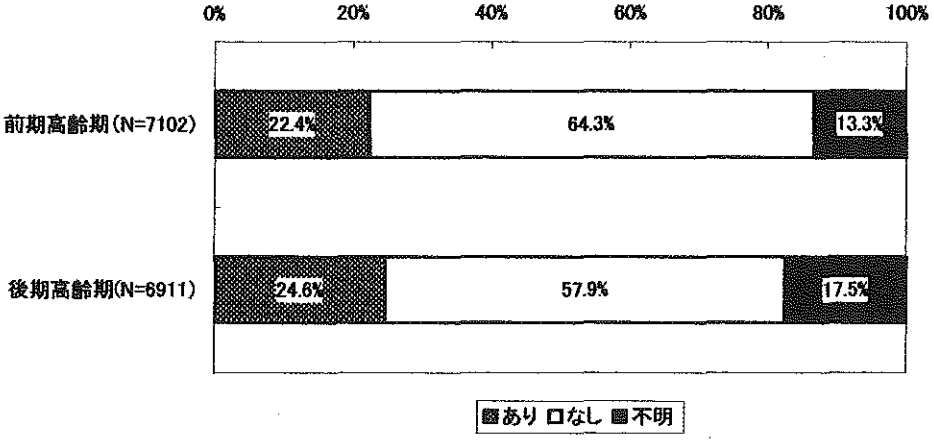
図12(3)-1入眠時の問題—性別



<年齢階級別比較－入睡時の問題>

前期高齢期7,102人のうち入眠時の問題があるとするのは1,589人(22.4%)で、後期高齢期6,910人のうちでは1,701人(24.6%)であった。入眠の問題がないとするのは前期高齢期では4,568人(64.3%)で、後期高齢期では3,999人(57.9%)であった。不明は前期高齢期は945人(13.3%)、後期高齢期は1,210人(17.5%)であった。入眠時の問題の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(3)-2)。

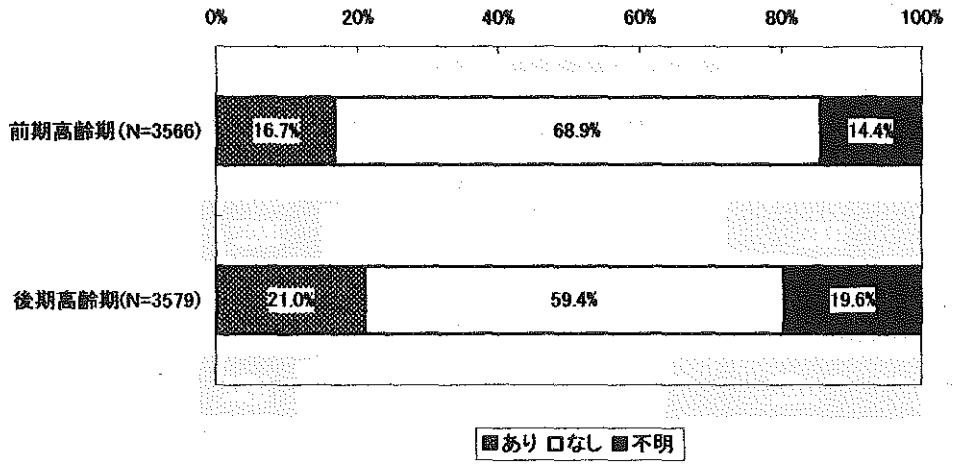
図12(3)-2入眠時の問題—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較－入睡時の問題＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、入眠時の問題があるとするのは596人(16.7%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは752人(21.0%)であった。入眠時の問題がないとするのは前期高齢期には2,457人(68.9%)で、後期高齢期には2,127人(59.4%)であった。不明は前期高齢期は513人(14.4%)、後期高齢期は700人(19.6%)であった。男性の入眠時の問題の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(3)-3)。

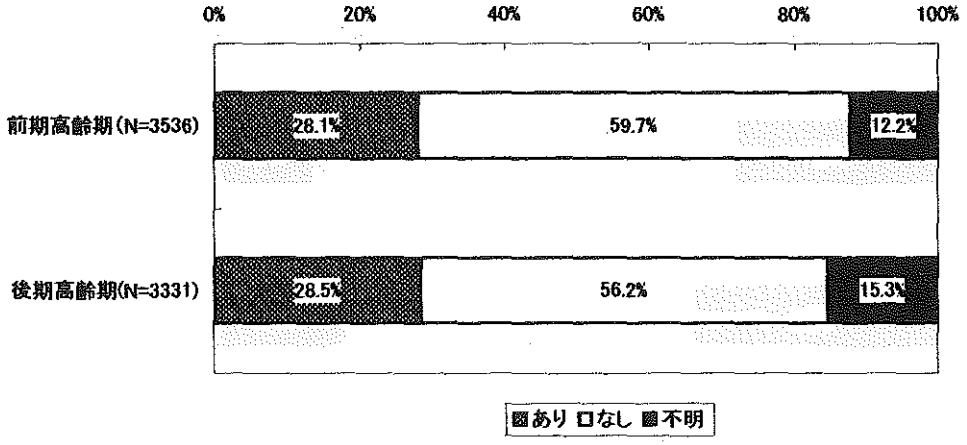
図12(3)-3入眠時の問題—男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較－入睡時の問題＞

女性の前期高齢期3,536人のうち入眠時に問題があるとするのは993人(28.1%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは949人(28.5%)であった。睡眠の問題がないのは前期高齢期は2,111人(59.7%)、後期高齢期には1,872人(56.2%)であった。不明は前期高齢期は432人(12.2%)、後期高齢期は510人(15.3%)であった。女性の入眠時の問題の有無には年齢による違いはみられなかった(図12(3)-4)。

図12(3)-4入眠時の問題—女性年齢階級別



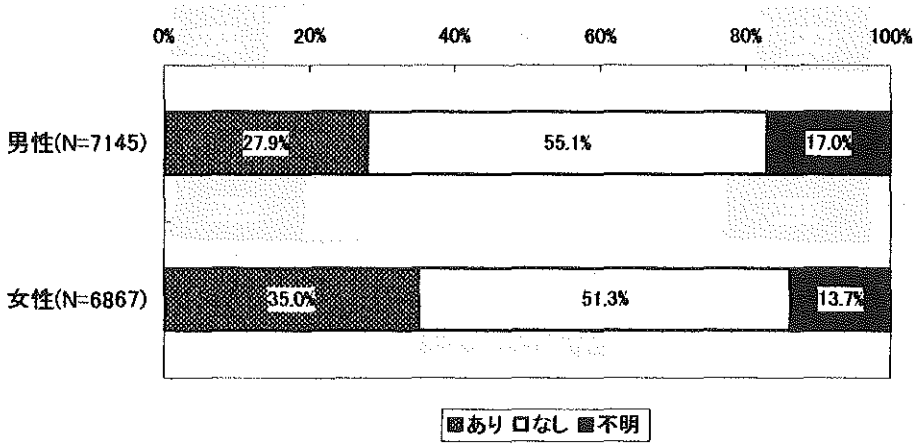
(4)夜間覚醒

夜間覚醒があるとするのは、14,012人のうち4,400人(31.4%)であった。ないと回答したのは7,458人(53.2%)で、2,154人(15.4%)は不明であった。

<性別比較—夜間覚醒>

男性は7,145人のうち夜間覚醒があるとするのは1,997人(27.9%)、女性6,867人のうち2,403人(35.0%)であった。夜間覚醒はないとするのは男性は3,936人(55.1%)、女性は3,522人(51.3%)であった。不明は男性1,212人(17.0%)、女性は942人(13.7%)であった。夜間覚醒の有無は性により違いがみられた(P<0.01)(図12(4)-1)。

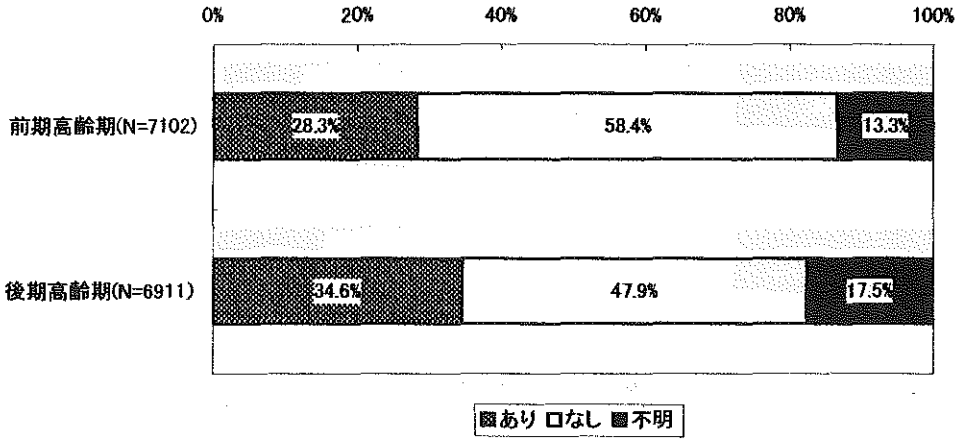
図12(4)-1夜間覚醒—性別



<年齢階級別比較—夜間覚醒>

前期高齢期7,012人のうち夜間覚醒があるとするのは2,007人(28.3%)で、後期高齢期6,910人のうちでは2,393人(34.6%)であった。夜間覚醒がないとするのは前期高齢期では4150人(58.4%)、後期高齢期では3,308人(47.9%)であった。不明は前期高齢期は945人(13.3%)、後期高齢期は1,209人(17.5%)であった。夜間覚醒の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(4)-2)。

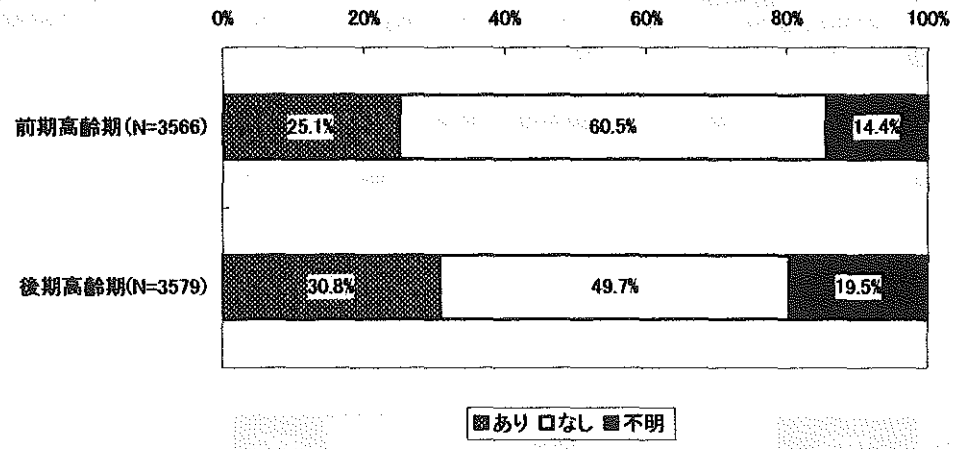
図12(4)-2夜間覚醒—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―夜間覚醒＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、夜間覚醒があるのは894人(25.1%)であり、後期高齢期3,579人のうちでは1,103人(30.8%)であった。夜間覚醒がないとするのは前期高齢期は2,159人(60.5%)、後期高齢期は1,777人(49.7%)であった。不明は前期高齢期は513人(14.4%)、後期高齢期は699人(19.5%)であった。男性の夜間覚醒の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(4)-3)。

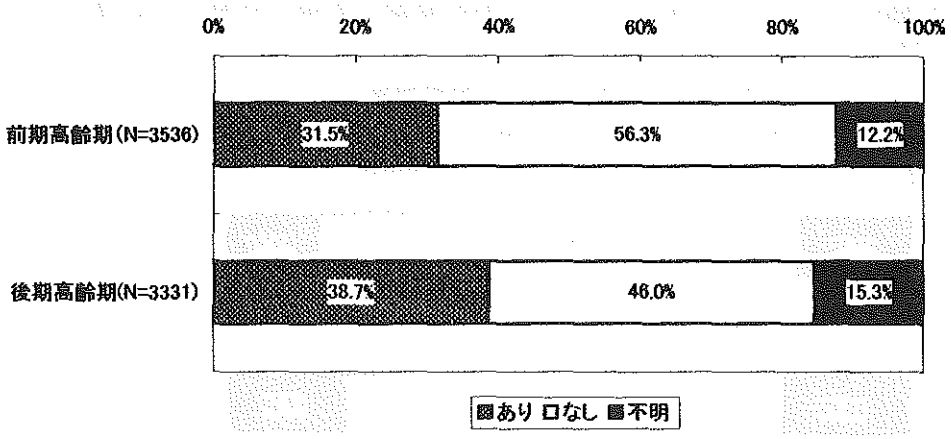
図12(4)-3夜間覚醒―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―夜間覚醒＞

女性の前期高齢期3,536人のうち夜間覚醒があるとするのは1,113人(31.5%)であり、後期高齢期3,331人のうち1,290人(38.7%)であった。夜間覚醒がないのは前期高齢期は1,991人(56.3%)、後期高齢期には1,531人(46.0%)であった。不明は前期高齢期は432人(12.2%)、後期高齢期は510人(15.3%)であった。女性の夜間覚醒の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(4)-4)。

図12(4)-4夜間覚醒―女性年齢階級別



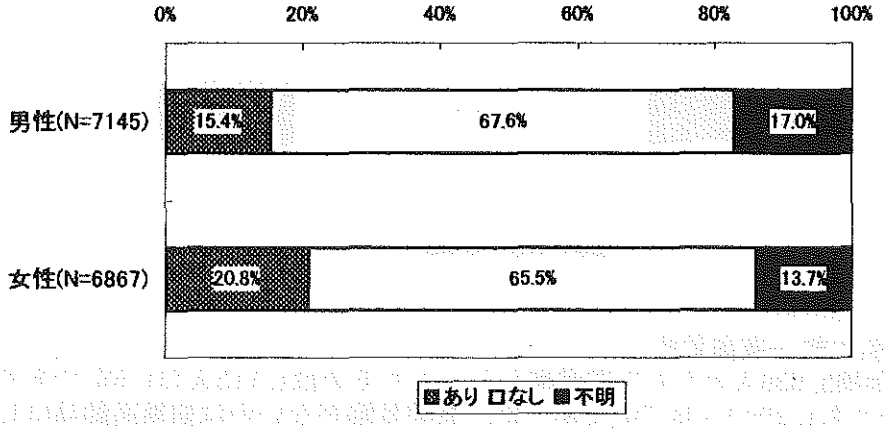
(5) 早朝覚醒

早朝覚醒があるとするのは、14,012人のうち2,530人(18.1%)であった。ないと回答したのは9,328人(66.6%)で、2,154人(15.4%)は不明であった。

＜性別比較—早期覚醒＞

男性7,145人のうち早朝覚醒があるとするのはのは1,101人(15.4%)、女性6,867人のうち1,429人(20.8%)であった。早朝覚醒がないとするのは男性は4,832人(67.6%)、女性は4,496人(65.5%)であった。不明は男性1,212人(17.0%)、女性は942人(13.7%)であった。早朝覚醒の有無は性により違いがみられた(P<0.01)(図12(5)-1)。

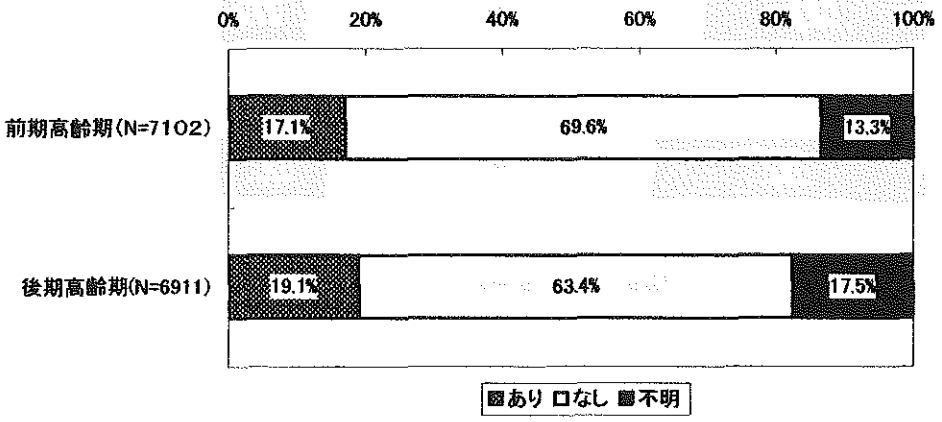
図12(5)-1早朝覚醒—性別



＜年齢階級別比較—早期覚醒＞

前期高齢期7,102人のうち早期覚醒があるとするのは1,211人(17.1%)で、後期高齢期6,910人のうちでは1,319人(19.1%)であった。早朝覚醒がないするのは前期高齢期では4,946人(69.3%)、後期高齢期では4,382人(63.4%)であった。不明は前期高齢期は945人(13.3%)、後期高齢期は1,209人(17.5%)であった。早朝覚醒の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(5)-2)。

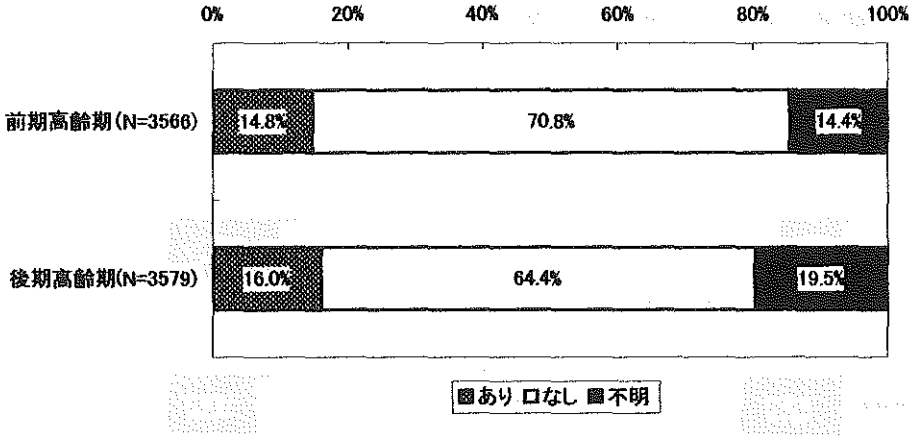
図12(5)-2早朝覚醒—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―早朝覚醒＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、早朝覚醒があるのは527人(14.8%)であり、後期高齢期3,579人のうち574人(16.0%)であった。早朝覚醒がないとするのは前期高齢期は2,526人(70.8%)、後期高齢期は2,306人(64.4%)であった。不明は前期高齢期は513人(14.4%)、後期高齢期は699人(19.5%)であった。男性の早朝覚醒の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(5)-3)。

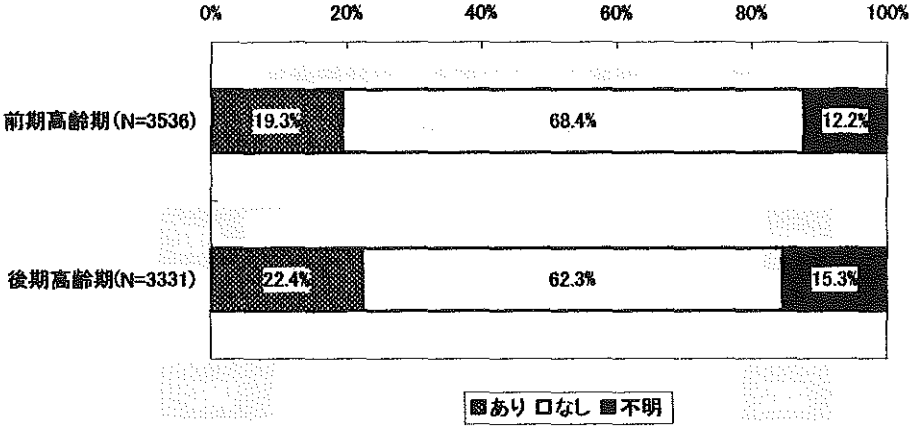
図12(5)-3早朝覚醒―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―早朝覚醒＞

女性の前期高齢期3,536人のうち早朝覚醒があるとするのは684人(19.3%)であり、後期高齢期3,331人のうち745人(22.4%)であった。早朝覚醒がないのは前期高齢期には2,420人(68.4%)、後期高齢期には2,076人(62.3%)であった。不明は前期高齢期は432人(12.2%)、後期高齢期は510人(15.3%)であった。女性の早朝覚醒の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(5)-4)。

図12(5)-4早朝覚醒―女性年齢階級別



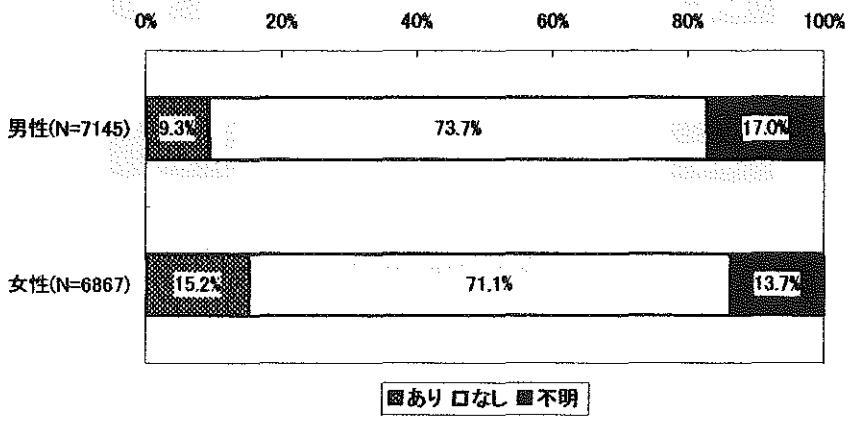
(6)睡眠のための服薬

睡眠のために服薬しているのは、14,012人のうち1,708人(12.2%)であった。ないと回答したのは10,149人(72.4%)で、2,155人(15.4%)は不明であった。

<性別比較—睡眠のための服薬>

男性7,145人のうち睡眠のための服薬をしているのは667人(9.3%)、女性6,867人のうち1,041人(15.2%)であった。睡眠のための服薬をしていないのは男性は5,265人(73.7%)、女性は4,884人(71.1%)であった。不明は男性1,213人(17.0%)、女性は942人(13.7%)であった。睡眠のための服薬の有無には性により違いがみられた(P<0.01)(図12(6)-1)。

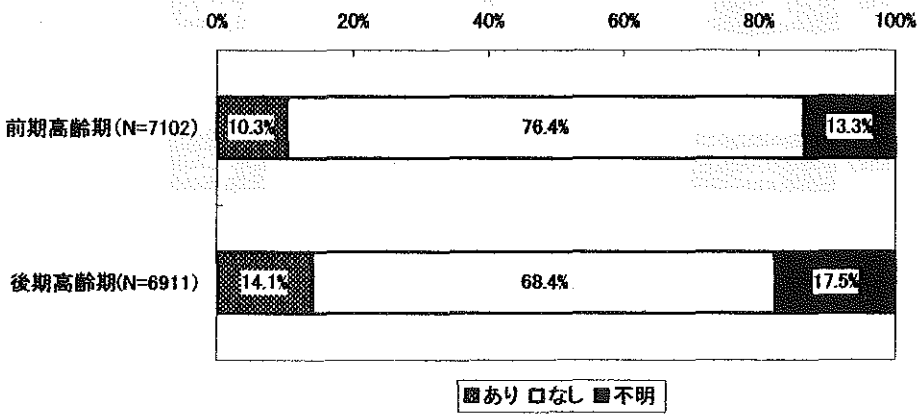
図12(6)-1睡眠のための服薬状況—性別



<年齢階級別比較—睡眠のための服薬>

前期高齢期7,102人のうち睡眠のための服薬をしているのは733人(10.3%)で、後期高齢期6,910人のうちでは975人(14.1%)であった。服薬をしていないとしたのは前期高齢期では5,424人(76.4%)、後期高齢期では4,725人(68.4%)であった。不明は前期高齢期は945人(13.3%)、後期高齢期は1,210人(17.5%)であった。睡眠のための服薬の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(6)-2)。

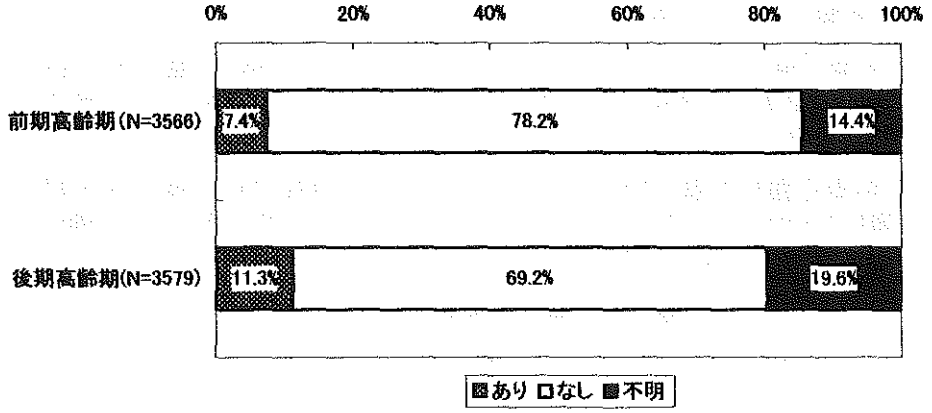
図12(6)-2睡眠のための服薬—年齢階級別



＜男性年齢階級別比較―睡眠のための服薬＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、睡眠のための服薬をしているのは264人(7.4%)であり、後期高齢期3,579人のうち403人(11.3%)であった。服薬はしないとするのは前期高齢期は2,789人(78.2%)、後期高齢期は2,476人(69.2%)であった。不明は前期高齢期は513人(14.4%)、後期高齢期は700人(19.6%)であった。男性の睡眠のための服薬の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(6)-3)。

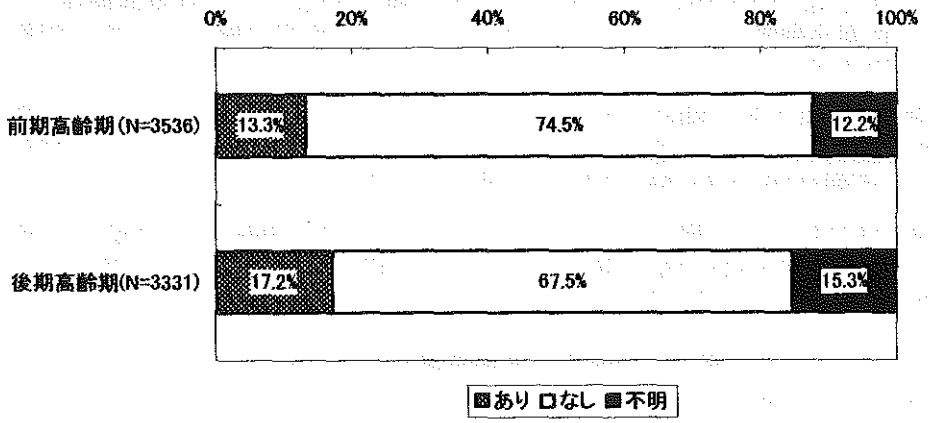
図12(6)-3睡眠のための服薬―男性年齢階級別



＜女性年齢階級別比較―睡眠のための服薬＞

女性の前期高齢期3,536人のうちで睡眠のための服薬をしているのは469人(13.3%)であり、後期高齢期3,331人のうち572人(17.2%)であった。服薬していないのは前期高齢期では2,635人(74.5%)、後期高齢期には2,249人(67.5%)であった。不明は前期高齢期は432人(12.2%)、後期高齢期は510人(15.3%)であった。女性の睡眠のための服薬の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図12(6)-4)。

図12(6)-4睡眠のための服薬―女性年齢階級別



13　運動

(1)歩行

1週間のうち1日30分以上歩く日数について、14,012人のうち5日以上とするものは、4,252人(30.3%)、週に3～4日では2,278人(16.3%)、週に1～2日は3,066人(21.9%)であった。ないと回答したのは3,459人(24.7%)で、957人(6.8%)は不明であった。

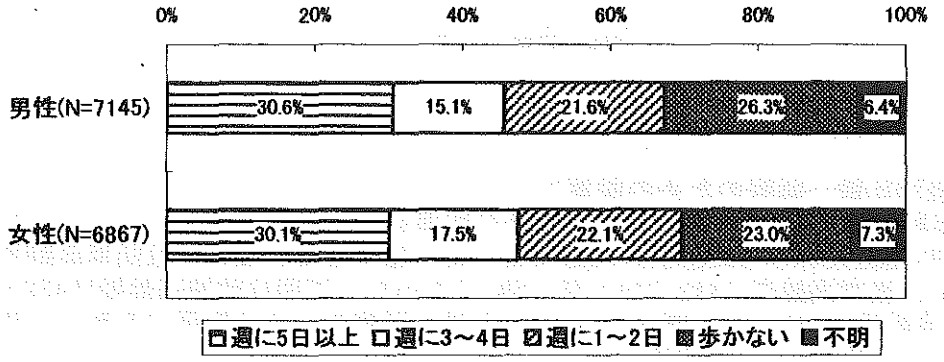
＜性別比較―歩行＞

男性7,145人のうち週に1日以上は歩く機会があるのは4,807人(67.3%)、女性では6,867人のうち4,789人(69.7%)であった。ないのは男性1,880人(26.3%)、女性1,579人(23.0%)であった。歩く機会の有無は性による違いがみられた(P<0.01)。

男性7,145人のうち歩く機会が週に5日以上あるのは2,185人(30.6%)、週に３～4日は1,076人(15.1%)、週に1～2日は1,546人(21.6%)であり、1,880人(26.3%)は歩く機会はなかった。不明は458人(6.4%)であった(図13(1)-1)。

女性6,867人のうち歩く機会が週に5日以上あるのは2,067人(30.1%)、週に３～4日は1,202人(17.5%)、週に1～2日は1,520人(22.1%)であり、1,579人(23.0%)は歩く機会はなかった。不明は499人(7.3%)であった(図13(1)-1)。

図13(1)-1歩行―性別



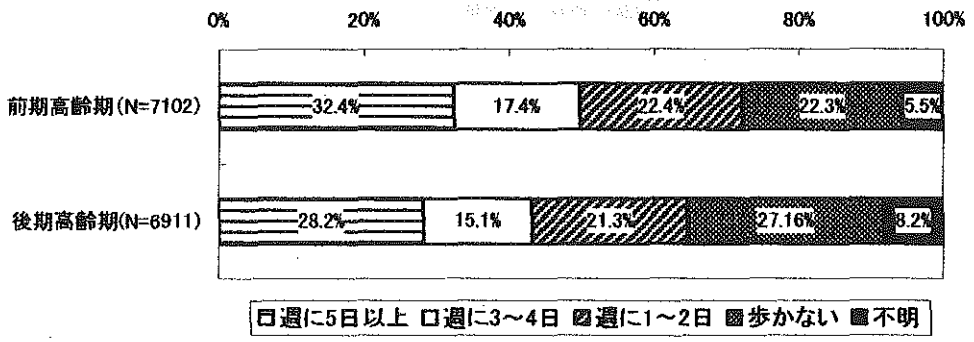
＜年齢階級別比較―歩行＞

年齢階級別には前期高齢期7,102人のうち歩く機会があるのは5,129人(72.2%)、後期高齢期6,910人のうちでは、4,467人(64.6%)であった。歩く機会がないのは前期高齢期では1,582人(22,3%)、後期高齢期では1,877人(27.2%)であった。歩行の機会の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)。

前期高齢期で週に5日以上歩く機会があるのは7,102人のうち2,303人(32.4%)で、週に3～4日しているのは1,235人(17.4%)、週に1～2日は1,591人(22.4%)、歩かないのは1,582人(22.3%)であった。不明は391人(5.5%)であった(図13(1)-2)。

後期高齢期で週に5日以上歩く機会があるのは6,910人のうち1,949人(28.2%)で、週に３～4日歩いているのは1,043人(15.1%)、週に1～２日は1,475人(21.3%)、歩く機会がないのは1,877人(27.2%)であった。不明は566人(8.2%)であった(図13(1)-2)。

図13(1)-2歩行―年齢階級別



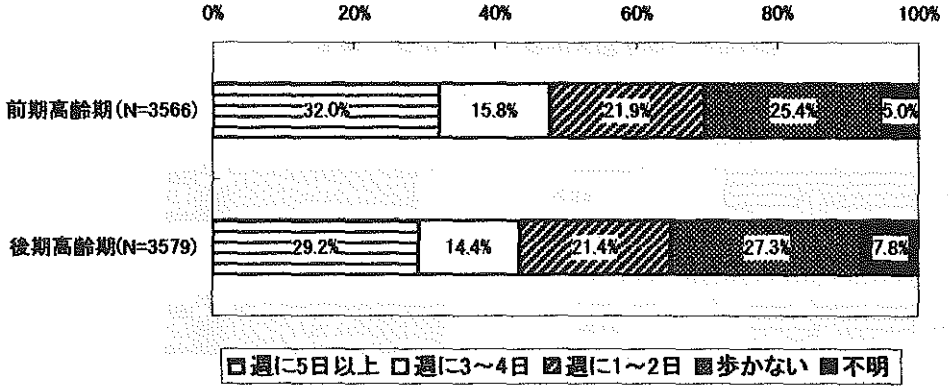
＜男性年齢階級別比較―歩行＞

男性では前期高齢期3,566人のうち歩く機会があるのは2,483人(69.6%)、後期高齢期3,579人のうちでは2,324人(64.9%)であった。歩く機会がないのは前期高齢期904人(25.4%)、後期高齢期976人(27.3%)であった。男性の歩く機会の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)。

男性の前期高齢期3,566人のうちで、週に5日以上歩いているのは1,141人(32.0%)で、週に3～4日歩いているのは562人(15.8%)、週に1～2日は780人(21.9%)、歩かないのは904人(25.4%)であった。不明は179人(5.0%)であった(図13(1)-3)。

男性の後期高齢期3,579人のうちで、週に5日以上歩く機会があるのは1,044人(29.2%)、週に3～4日歩いているのは514人(14.4%)、週に1～2日は766人(21.4%)、歩いていないのは976人(27.3%)であった。不明は279人(7.8%)であった(図13(1)-3)。

図13(1)-3歩行―男性年齢階級別



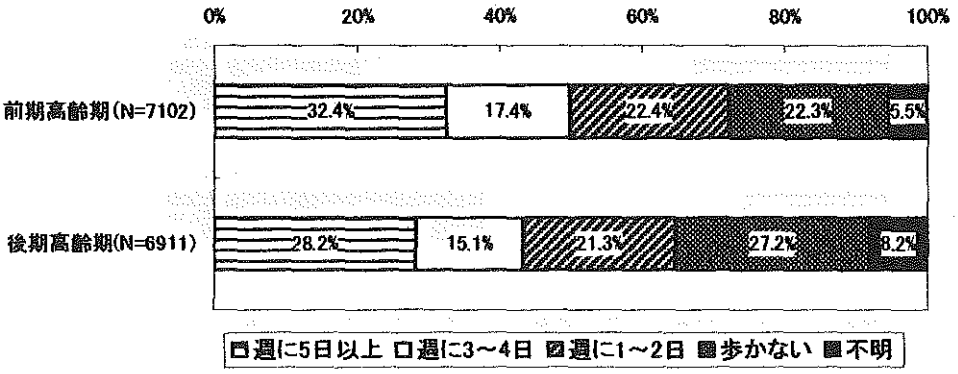
＜女性年齢階級別比較―歩行＞

女性は前期高齢期3,536人のうち歩く機会があるのは2,646人(74.8%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,143人(64.3%)であった。歩かないのは前期高齢期678人(19.2%)、後期高齢期901人(27.0%)であった。女性の歩く機会の有無には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうちで週に5日以上歩く機会があるのは1,162人(32.9%)、週に3～4日歩いているのは673人(19.0%)、週に1～2日は811人(22.9%)、歩かないのは678人(19.2%)であった。不明は212人(6.0%)であった(図13(1)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうちで、週に5日以上歩く機会があるのは905人(27.2%)、週に3～4日歩いているのは529人(15.9%)、週に1～2日は709人(21.3%)、歩かないのは901人(27.0%)であった。不明は287人(8.6%)であった(図13(1)-4)。

図13(1)-4歩行―女性年齢階級別



(2)他人と比較した歩く速さ

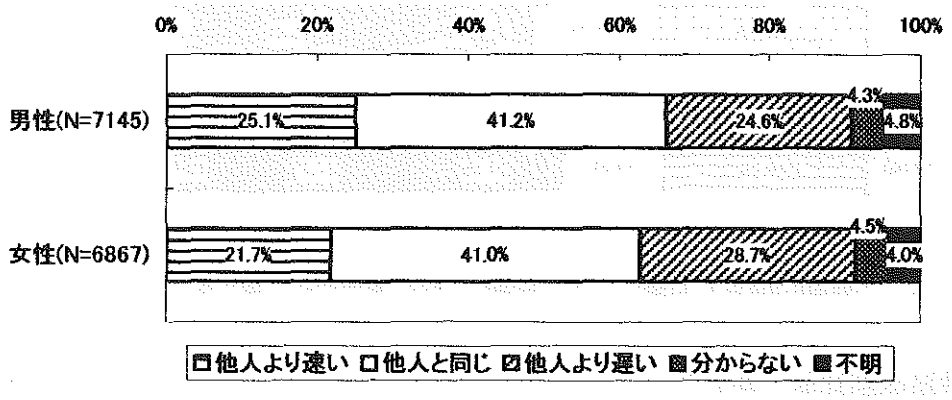
他人に比較した自分の歩く速さについて、速いと感じているのは14,012人のうち3,282人(23.4%)、同じくらいの速さだとい感じているのは5,763人(41.1%)、遅いと感じているのは3,729人(26.6%)であった。分からないと回答したのは620人(4.4%)、不明は618人(4.4%)であった。

＜性別比較―歩く速さの他人との比較＞

男性7,145人のうち自分が他人より速く歩いているとするのは1,791人(25.1%)、同じくらいは2,945人(41.2%)、遅いのは1,758人(24.6%)であった。

女性6,867人のうち自分は他の人より速く歩いているとするのは1,491人(21.7%)、同じは2,818人(41.0%)、遅いは1,971人(28.7%)であった。男性の不明は342人(4.8%)、分からないは309人(4.3%)、女性の不明は276人(4.0%)、分からないは311人(4.5%)であった。他人と比較した歩く速さの感じ方には性差がみられた(P<0.01)(図13(2)-1)。

図13(2)-1歩く速さの他人との比較―性別

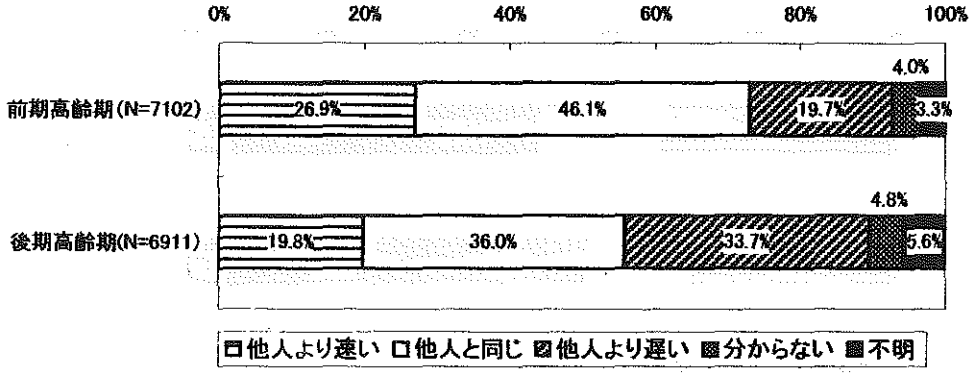


＜年齢階級別比較―歩く速さの他人との比較＞

前期高齢期7,102人のうち自分が他人より速く歩くと感じているのは1,913人(26.9%)、同じは3,273人(46.1%)、遅いは1,399人(19.7%)であった。

後期高齢期6,910人のうち自分が他人より速く歩くと感じているのは1,369人(19.8%)、同じは2,490人(36.0%)、遅いは2,330人(33.7%)であった。前期高齢期の不明は232人(3.3%)、分からないは285人(4.0%)、後期高齢期の不明は386人(5.6%)、分からないは335人(4.8%)であった。他人と比較した歩く速さの感じ方は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図13(2)-2)。

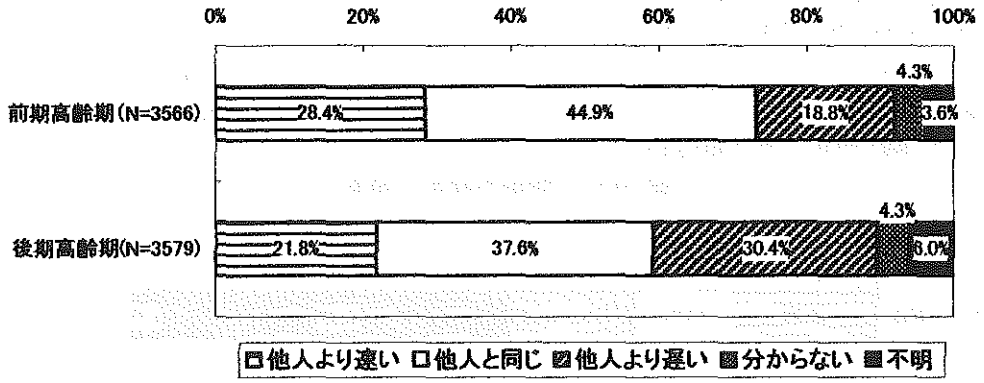
図13(2)-2歩く速さの他人との比較―年齢階級別



＜男性の年齢階級別比較―歩く速さの他人との比較＞

男性の前期高齢期3,566人のうち、他人より速く歩いているとするのは1,012人(28.4%)、同じは1,601人(44.9%)、遅いは670人(18.8%)であった。後期高齢期では他人より速く歩いているとするのは779人(21.8%)、同じは1,344人(37.6%)、遅いは1,088人(30.4%)であった。男性の前期高齢期の不明は128人(3.6%)、分からないは155人(4.3%)、後期高齢期の不明は214人(6.0%)、分からないは154人(4.3%)であった。男性の歩く速さの感じ方は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図13(2)-3)。

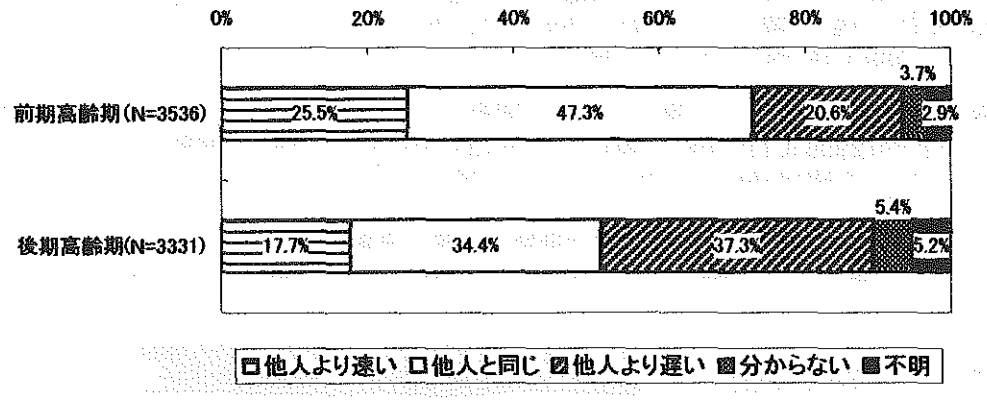
図13(2)-3歩く速さの他人との比較―男性年齢階級別



＜女性の年齢階級別比較―歩く速さの他人との比較＞

女性のは前期高齢期3,536人のうち、他人より速く歩いているとするのは901人(25.5%)、同じは1,672人(47.3%)、遅いは729人(20.6%)であった。後期高齢期では他人より速く歩いているとするのは590人(17.7%)、同じは1,146人(34.4%)、遅いは1,242人(37.3%)であった。女性の前期高齢期の不明は104人(2.9%)、分からないは130人(3.7%)、後期高齢期の不明は172人(5.2%)、分からないは181人(5.4%)であった。女性の歩く速さの感じ方は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図13(2)-4)。

図13(2)-4歩く速さの他人との比較―女性年齢階級別



(3) 運動

1週間のうちの1日30分以上の運動をする頻度について週5日以上あると回答したのは、14,012人のうち2,385人(17.0%)、週に3～4日では1,758人(12.5%)、週に1～2日は2,408人(17.2%)であった。ないと回答したのは6,537人(46.7%)で、924人(6.6%)は不明であった。

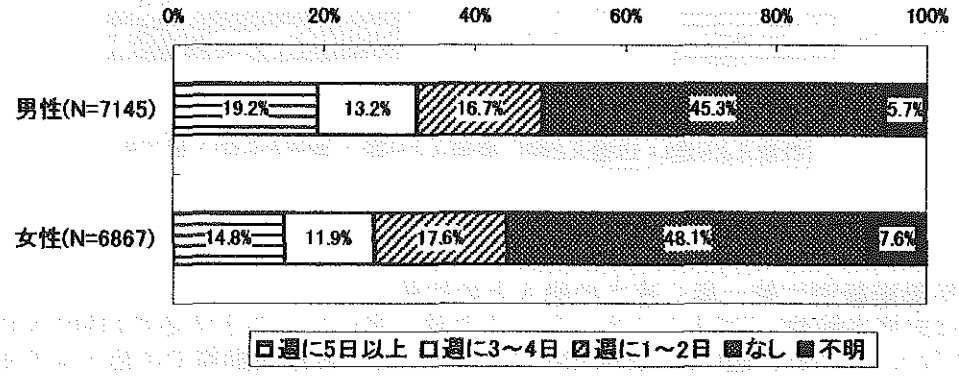
＜性別比較―運動＞

男性7,145人のうち週に1日以上は運動をしているのは3,506人(49.1%)、女性6,867人のうち3,045人(44.3%)であった。ないのは男性3,235人(45.3%)、女性3,302人(48.1%)であった。運動の実施には性による違いがみられた(P<0.01)。

男性7,145人のうち運動を週に5日以上しているのは1,370人(19.2%)、週に３～4日は940人(13.2%)、週に1～2日は1,196人(16.7%)であり、3,235人(45.3%)は運動の機会がなかった。不明は404人(5.7%)であった(図13(3)-1)。

女性6,867人の運動の機会が週に5日以上あるのは1,015人(14.8%)、週に3～4日は818人(11.9%)、週に1～2日は1,212人(17.6%)であり、3,302人(48.1%)は運動をしていなかった。不明は520人(7.6%)であった(図13(3)-1)。

図13(3)-1運動の状況―性別



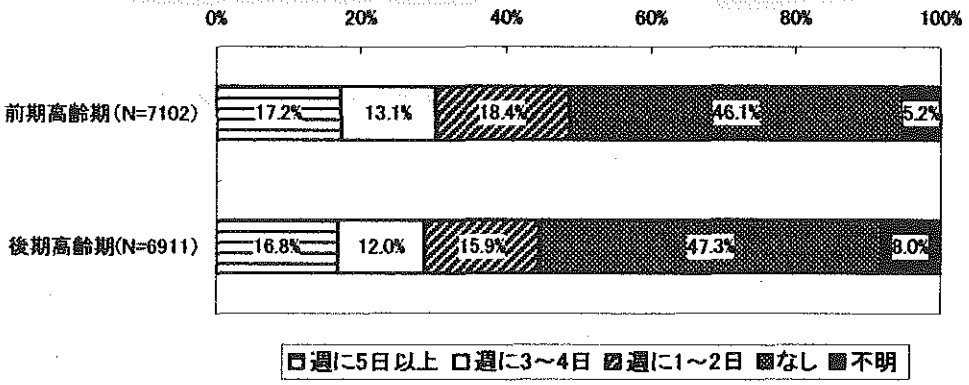
＜年齢階級別比較―運動の状況＞

前期高齢期7,102人のうち運動をしているのは3,462人(48.7%)、後期高齢期6,910人のうちでは、3,089人(44.7%)であった。運動をしていないのは前期高齢期では3,272人(46.1%)、後期高齢期では3,267人(47.3%)であった。運動の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)。

前期高齢期7,102人のうちで週に5日運動しているのは1,224人(17.2%)、週に3～4日しているのは932人(13.1%)、週に1～2日は1,306人(18.4%)、していないのは3,272人(46.1%)であった。不明は368人(5.2%)であった(図13(3)-2)。

後期高齢期6,910人のうちで、週に5日以上運動しているのは1,161人(16.8%)、週に3～4日運動しているのは826人(12.0%)、週に1～2日は1,102人(15.9%)、運動しないのは3,265人(47.3%)であった。不明は556人(8.0%)であった(図13(3)-2)。

図13(3)-2運動の状況―年齢階級別



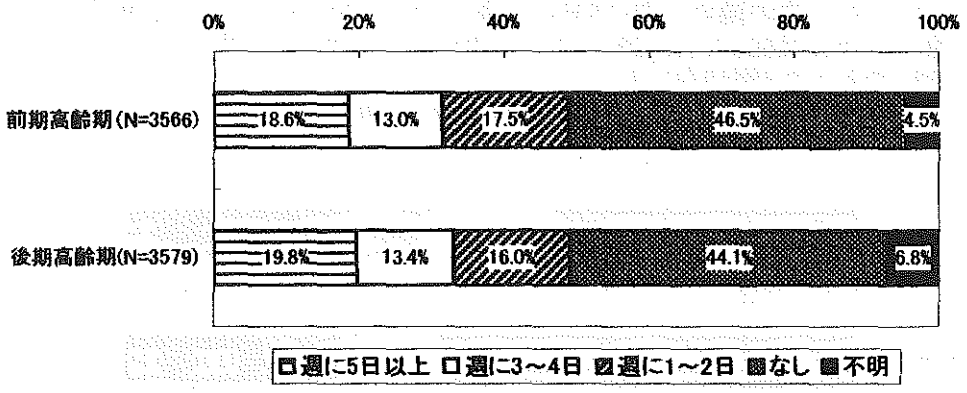
＜男性の年齢階級別比較―運動の状況＞

男性の前期高齢期3,566人のうち運動しているのは1,748人(49.0%)で、後期高齢期3,579人のうちでは1,758人(49.1%)であった。運動していないのは前期高齢期1,658人(46.5%)、後期高齢期1,577人(44.1%)であった。男性の運動の実施は年齢による違いがみられなかった。

男性の前期高齢期3,566人のうちで、週に5日以上運動しているのは663人(18.6%)、週に3～4日は462人(13.0%)、週に1～2日は623人(17.5%)、運動しないのは1,658人(46.5%)であった。不明は160人(4.5%)であった(図13(3)-3)。

男性の後期高齢期3,579人のうちで、週に5日以上運動しているのは707人(19.8%)、週に3～4日運動しているのは478人(13.4%)、週に1～2日は573人(16.0%)、していないのは1,577人(44.1%)であった。不明は244人(6.8%)であった(図13(3)-3)。

図13(3)-3運動の状況―男性年齢階級別



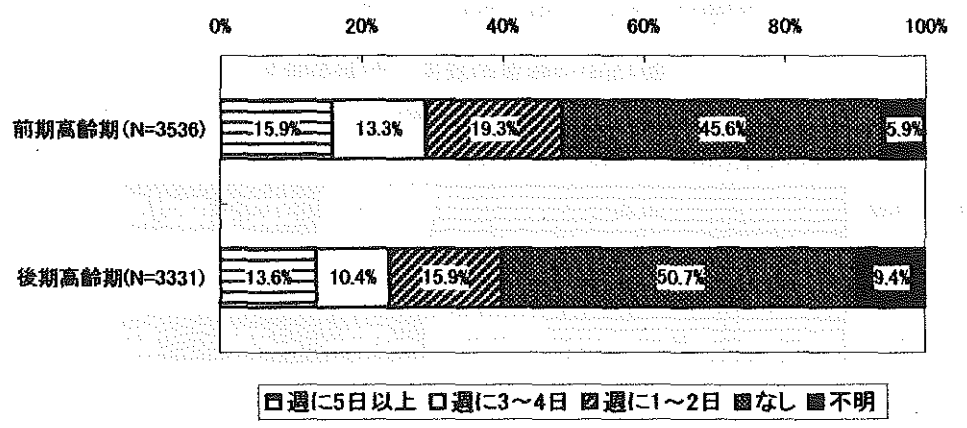
＜女性の年齢階級別比較―運動の状況＞

女性は前期高齢期3,536人のうち運動をしているのは1,714人(48.5%)で、後期高齢期3,331人のうちでは1,331人(40.0%)であった。運動しないのは前期1,614人(45.6%)、後期1,688人(50.7%)であった。女性の運動の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうちで、週に5日以上運動しているのは561人(15.9%)で、週に3～4日運動しているのは470人(13.3%)、週に1～2日683人(19.3%)、歩かないのは1,614人(45.6%)であった。不明は208人(5.9%)であった(図13(3)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうちで、週に5日以上運動をしているのは454人(13.6%)、週に3～4日は348人(10.4%)、週に1～2日は529人(15.9%)、歩かないのは1,688人(50.7%)であった。不明は312人(9.4%)であった(図13(3)-4)。

図13(3)-4運動の状況―女性年齢階級別



(4)作業

1週間のうちの1日30分以上の体を使う作業をする頻度について週5日以上あると回答したのは、14,012人のうち6,860人(49.0%)、週に3～4日では2,245人(16.0%)、週に1～2日は1,884人(13.4%)であった。ないと回答したのは2,201人(15.7%)で、822人(5.9%)は不明であった。

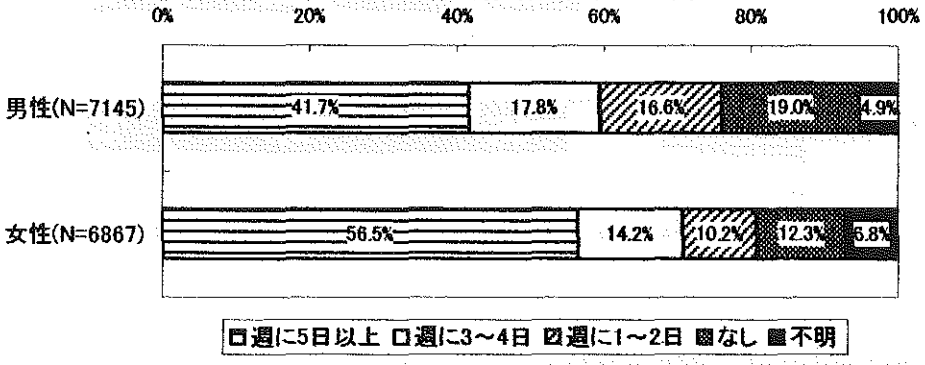
＜性別比較―作業の状況＞

男性7,145人のうち週に1日以上は作業をしているのは5,437人(76.1%)、女性6,867人のうち5,552人(80.9%)であった。ないのは男性1,356人(19.0%)、女性845人(12.3%)であった。作業の実施には性による違いがみられた(P<0.01)(図13(4)-1)。

男性7,145人のうち作業を週に5日以上しているのは2,980人(41.7%)、週に3～4日は1,271人(17.8%)、週に1～2日は1,186人(16.6%)であり、1,356人(19.0%)は作業をしていなかった。不明は352人(4.9%)であった(図13(4)-1)。

女性6,867人のうち作業の機会が週に5日以上あるのは3,880人(56.5%)、週に3～4日は974人(14.2%)、週に1～2日は698人(10.2%)であり、845人(12.3%)は作業をしていなかった。不明は470人(6.8%)であった(図13(4)-1)。

図13(4)-1作業の状況―性別



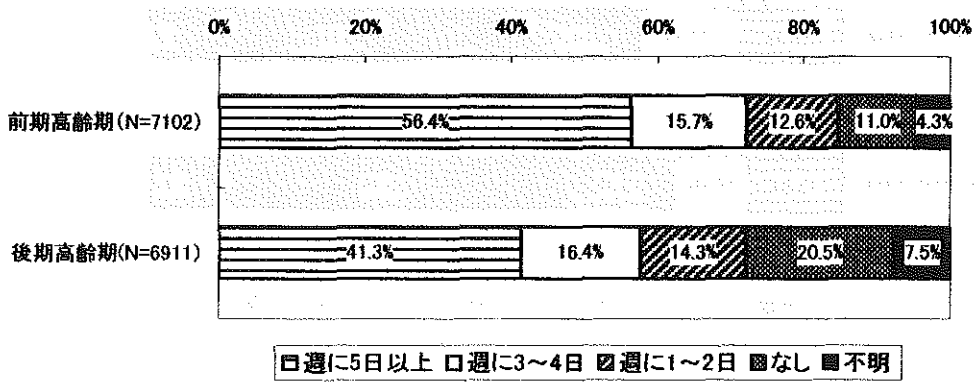
＜年齢階級別比較―作業の状況＞

前期高齢期7,102人のうち作業をしているのは6,014人(84.7%)、後期高齢期6,910人のうちでは、4,975人(72.0%)であった。作業をしていないのは前期高齢期では782人(11.0%)、後期高齢期では1,419人(20.5%)であった。作業の運動の有無は年齢による違いがみられた(P<0.01)

前期高齢期7,102人のうちで週に5日作業をしているのは4,005人(56.4%)、週に3～4日しているのは1,114人(15.7%)、週に1～2日は895人(12.6%)、していないのは782人(11.0%)であった。不明は306人(4.3%)であった(図13(4)-2)。

後期高齢期6,910人のうちで、週に5日以上作業をしているのは2,855人(41.3%)、週に3～4日作業しているのは1,131人(16.4%)、週に1～2日は989人(14.3%)、作業はしないのは1,419人(20.5%)であった。不明は516人(7.5%)であった(図13(4)-2)。

図13(4)-2作業の状況―年齢階級別



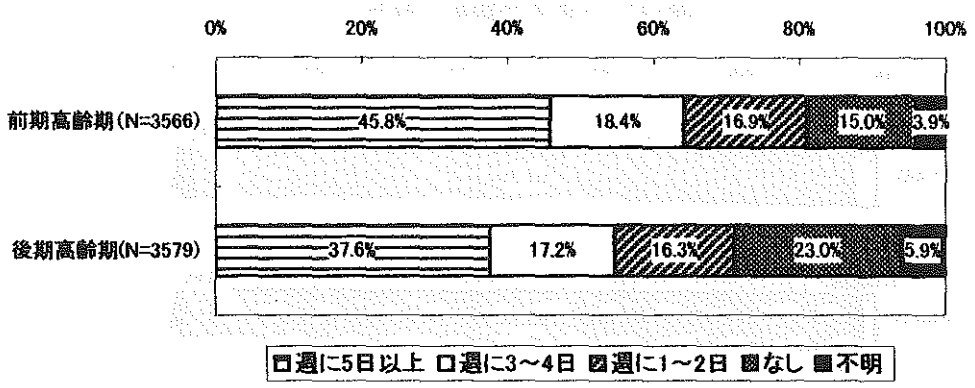
＜男性年齢階級別比較—作業の状況＞

男性では前期高齢期3,566人のうち作業をしているのは2,892人(81.1%)で、後期高齢期3,579人のうちでは2,545人(71.1%)であった。作業をしていないのは前期高齢期534人(15.0%)、後期高齢期822人(23.0%)であった。男性の作業の実施は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図13(4)-3)。

男性の前期高齢期3,566人のうちで、週に5日以上作業をしているのは1,634人(45.8%)、週に3～4日は656人(18.4%)、週に1～2日は602人(16.9%)、作業をしないのは534人(15.0%)であった。不明は140人(3.9%)であった(図13(4)-3)。

男性の後期高齢期3,579人のうちで、週に5日以上作業をしているのは1,346人(37.6%)、週に3～4日作業をしているのは615人(17.2%)、週に1～2日は584人(16.3%)、していないのは822人(23.0%)であった。不明は212人(5.9%)であった(図13(4)-3)。

図13(4)-3作業の状況—男性年齢階級別



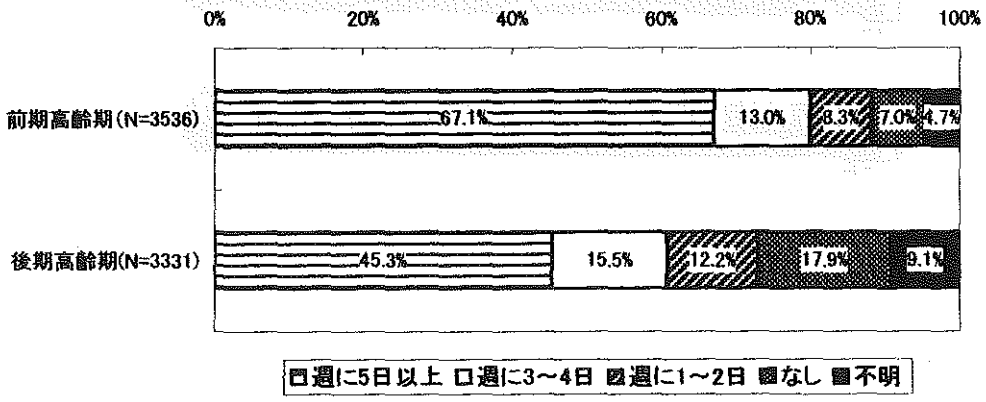
＜女性年齢階級別比較—作業の状況＞

女性の前期高齢期3,536人のうち作業をしているのは3,122人(88.3%)で、後期高齢期3,331人のうちでは2,430人(73.0%)であった。作業をしないのは前期高齢期248人(7.0%)、後期高齢期597人(17.9%)であった。女性の作業の実施には年齢による違いがみられた(P<0.01)。

女性の前期高齢期3,536人のうちで、週に5日以上作業しているのは2,371人(67.1%)で、週に3～4日作業しているのは458人(13.0%)、週に1～2日は293人(8.3%)、作業はしないのは248人(7.0%)であった。不明は166人(4.7%)であった(図13(4)-4)。

女性の後期高齢期3,331人のうちで、週に5日以上作業しているのは1,509人(45.3%)で、週に3～4日作業しているのは516人(15.5%)、週に1～2日は405人(12.2%)、作業はしないのは597人(17.9%)であった。不明は304人(9.1%)であった(図13(4)-4)。

図13(4)-4作業の状況—女性年齢階級別



14 食事

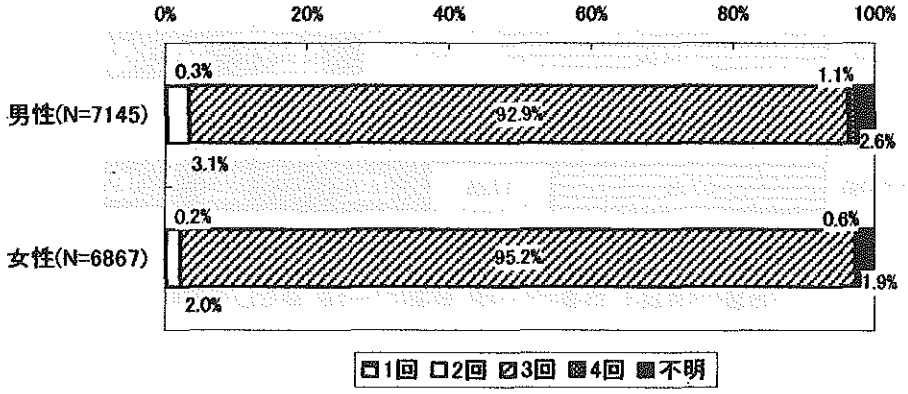
(1)食事の回数

食事の回数はほとんどが3回で13,177人(94.0%)であった。1回は32人(0.2%)、2回は364人(2.6%)、4回は119人(0.8%)であった。320人(2.3%)は不明であった。

<性別比較―食事の回数>

男性7,145人のうち、食事回数が1日1回は19人(0.3%)、2回は224人(3.1%)、3回は6,639人(92.9%)、4回は76人(1.1%)であった。女性は食事回数が1日1回は13人(0.2%)、2回は140人(2.0%)、3回は6,538人(95.2%)、4回は43人(0.6%)であった。不明は男性187人(2.6%)、女性は133人(1.9%)であった。食事の回数が3回と他の回数には性による違いがみられた(P<0.01)(図14(1)-1)。

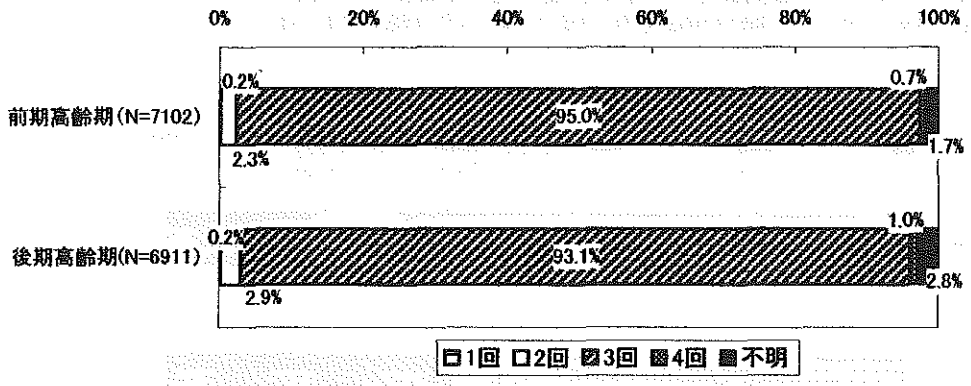
図14(1)-1食事の回数―性別



<年齢階級別比較―食事の回数>

前期高齢期7,102人のうち食事回数が1日1回は15人(0.2%)、2回は166人(2.3%)、3回は6,746人(95.0%)、4回は51人(0.7%)であった。後期高齢期6,910人のうちでは1日3回は17人(0.2%)、2回は198人(2.9%)、3回は6,431人(94.0%)、4回は68人(1.0%)であった。不明は前期高齢期は124人(1.7%)、後期高齢期は196人(2.8%)であった。食事の回数が3回と他の回数には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(1)-2)。

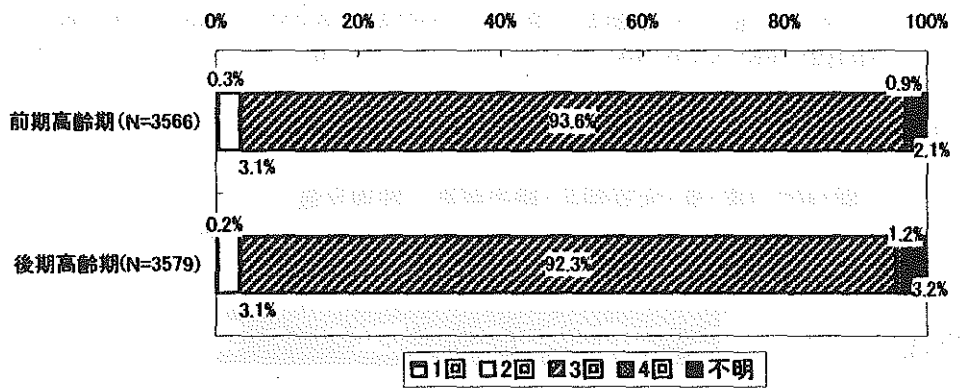
図14(1)-2食事の回数―年齢階級別



＜男性の年齢階級別比較―食事の回数＞

男性の前期高齢期3,566人のうち食事回数が1日1回は11人(0.3%)、2回は112人(3.1%)、3回は3,336人(93.6%)、4回は33人(0.9%)であった。後期高齢期3,579人では食事回数が1日1回は8人(0.2%)、2回は112人(3.1%)、3回は3,303人(92.3%)、4回は43人(1.2%)であった。不明は前期高齢期は74人(2.1%)、後期高齢期は113人(3.2%)であった。男性の食事の回数3回と他の回数には年齢による違いはみられなかった(図14(1)-3)。

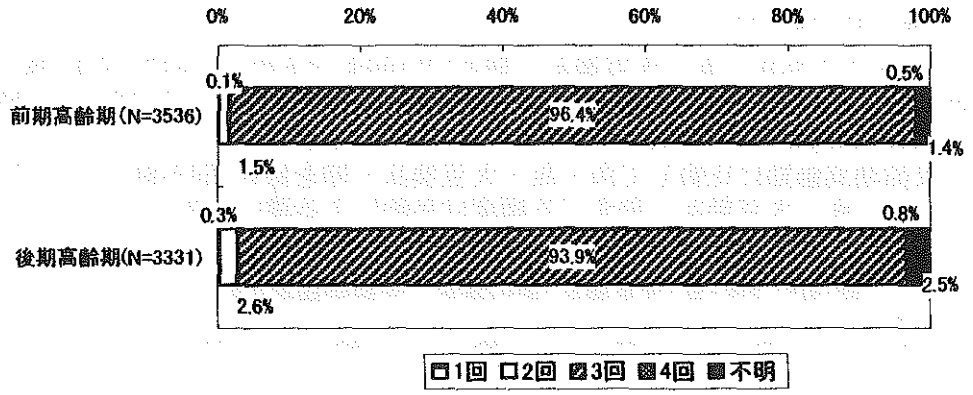
図14(1)-3食事の回数―男性年齢階級別



＜女性の年齢階級別比較―食事の回数＞

女性の前期高齢期3,536人のうち食事回数が1日1回は4人(0.1%)、2回は54人(1.5%)、3回は3,410人(96.4%)、4回は18人(0.5%)であった。後期高齢期3,331人では食事回数が1日1回は9人(0.3%)、2回は86人(2.6%)、3回は3,128人(93.9%)、4回は25人(0.8%)であった。不明は前期高齢期は50人(1.4%)、後期高齢期は83人(2.5%)であった。女性の食事3回と他の回数には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(1)-4)。

図14(1)-4食事の回数―女性年齢階級別



(2)肉・魚・大豆製品・卵の摂取

肉・魚・大豆製品・卵などを1日のうちに食べている頻度は、1日1回が、3,912人(27.9%)、2回が4,020人(28.7%)、3回が5,562人(39.7%)であった。ほとんど食べないのは82人(0.6%)で、436人(3.1%)は不明であった。

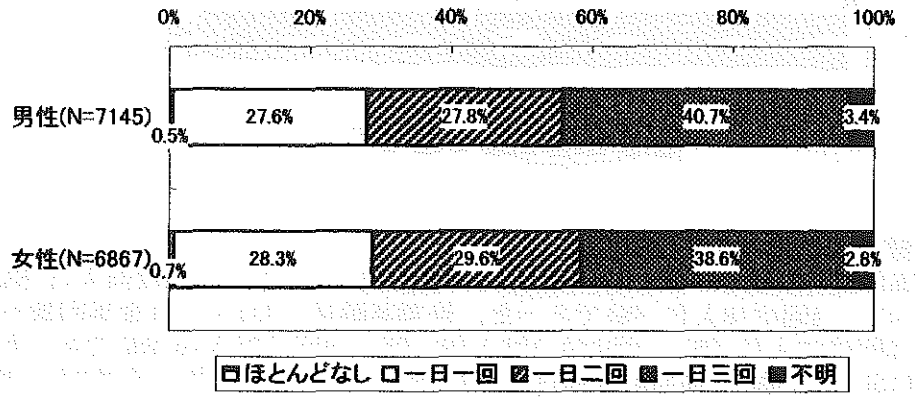
＜性別比較―肉・魚・大豆製品・卵の摂取＞

男性7,145人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは1,972人(27.6%)、2回は1,987人(27.8%)、3回は2,909人(40.7%)であった。ほとんど食べないのは36人(0.5%)であった。不明は241人(3.4%)であった。

女性では6,867人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは1,940人(28.3%)、2回は2,033人(29.6%)、3回は2,653人(38.6%)であった。ほとんど食べないのは46人(0.7%)であった。不明は195人(2.8%)であった。

肉・魚・大豆製品・卵を食べる頻度には性による違いはみられなかった(図14(2)-1)。

図14(2)-1肉・魚・大豆製品・卵の摂取―性別比較



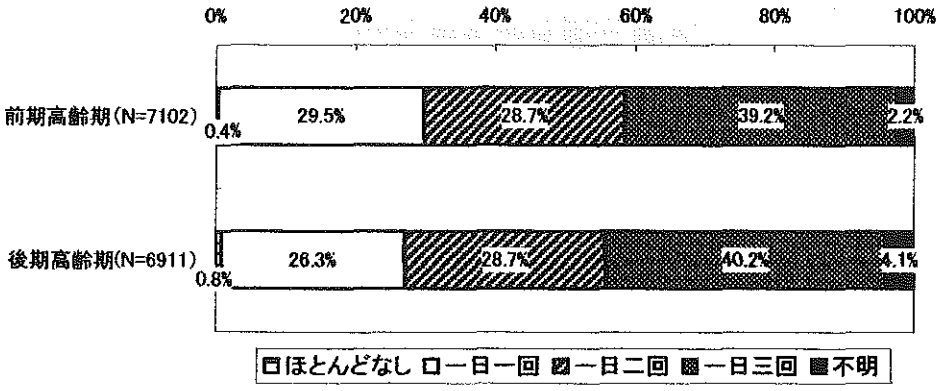
＜年齢階級別比較―肉・魚・大豆製品・卵の摂取＞

前期高齢期7,102人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは2,095人(29.5%)、2回は2,039人(28.7%)、3回は2,786人(39.2%)であった。ほとんど食べないのは26人(0.4%)であった。不明は156人(2.2%)であった。

後期高齢期6,910人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは1,817人(26.3%)、2回は1,981人(28.7%)、3回は2,776人(40.2%)であった。ほとんど食べないのは56人(0.8%)であった。不明は280人(4.1%)であった。

後期高齢者では前期高齢期に比較して肉・魚・大豆製品・卵を毎日1回が減少し、1日3回が増加していた。肉・魚・大豆製品・卵食べる頻度は年齢による違いが見られた($P<0.01$)(図14(2)-2)。

図14(2)-2肉・魚・大豆製品・卵の摂取―年齢階級別比較



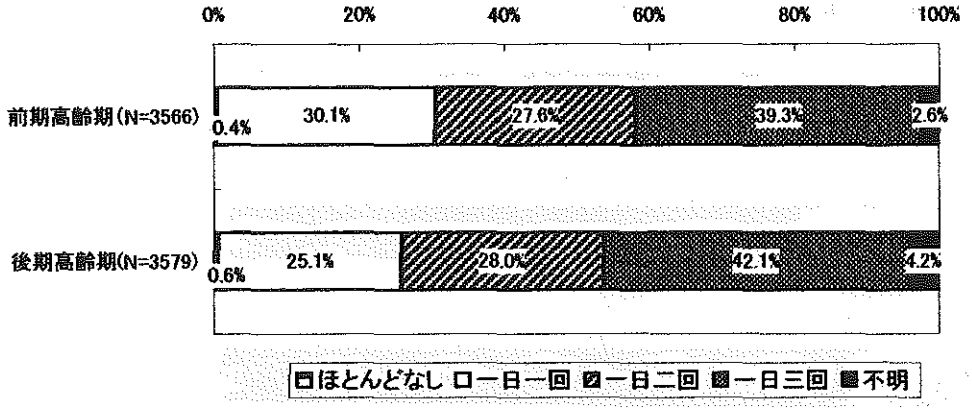
＜男性年齢階級別比較―肉・魚・大豆製品・卵の摂取＞

男性の前期高齢期3,566人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは1,042人(30.1%)、2回は985人(27.6%)、3回は1,403人(39.3%)であった。ほとんど食べないのは14人(0.4%)であった。不明は92人(2.6%)であった。

男性の後期高齢期3,579人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは900人(25.1%)、2回は1,002人(28.0%)、3回は1,506人(42.1%)であった。ほとんど食べないのは22人(0.6%)であった。不明は149人(4.2%)であった。

男性の肉・魚・大豆製品・卵の摂取状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(2)-3)。

図14(2)-3肉・魚・大豆製品・卵の摂取―男性年齢階級別比較



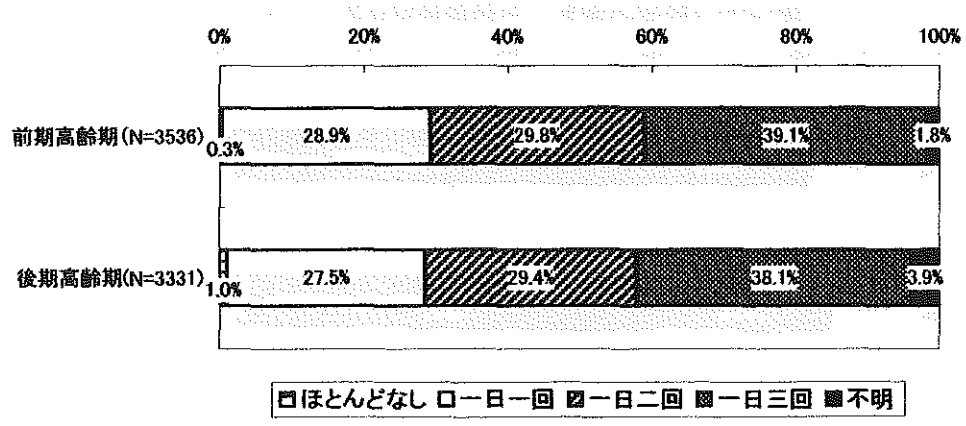
＜女性年齢階級別比較―肉・魚・大豆製品・卵の摂取＞

女性の前期高齢期3,536人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは1,023人(28.9%)、2回は1,054人(29.8%)、3回は1,383人(39.1%)であった。ほとんど食べないのは12人(0.3%)であった。不明は64人(1.8%)であった。

女性の後期高齢期3,331人のうち肉・魚・大豆製品・卵を1日1回食べるのは917人(27.5%)、2回は979人(29.4%)、3回は1,270人(38.1%)であった。ほとんど食べないのは34人(1.0%)であった。不明は131人(3.9%)であった。

女性の肉・魚・大豆製品・卵の摂取状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(2)-4)。

図14(2)-4肉・魚・大豆製品・卵の摂取―女性年齢階級別比較



(3)野菜の摂取

野菜を1日のうちに食べている頻度は14,012人のうち1日1回が、2,196人(15.7%)、2回が3,418人(24.4%)、3回が7,944人(56.7%)であった。ほとんど食べないのは117人(0.8%)で、337人(2.4%)は不明であった。

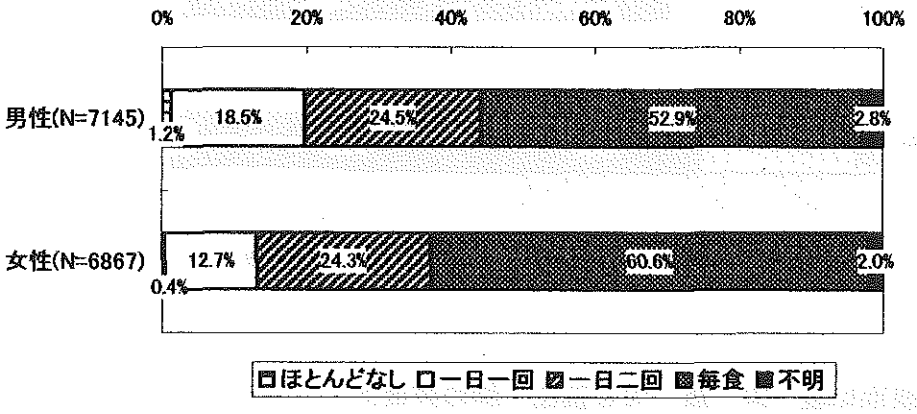
＜性別比較—野菜の摂取＞

男性7,145人のうち野菜を1日1回食べるのは1,325人(18.5%)、2回は1,745人(24.5%)、3回は3,782人(52.9%)であった。ほとんど食べないは88人(1.2%)であった。不明は199人(2.8%)であった。

女性6,867人のうち野菜を1日1回食べるのは871人(12.7%)、2回は1,667人(24.3%)、3回は4,162人(60.6%)であった。ほとんど食べないのは29人(0.4%)であった。不明は138人(2.0%)であった。

野菜を食べる頻度には性による違いがみられなかった(P<0.01)(図14(3)-1)。

図14(3)-1野菜の摂取—性別比較



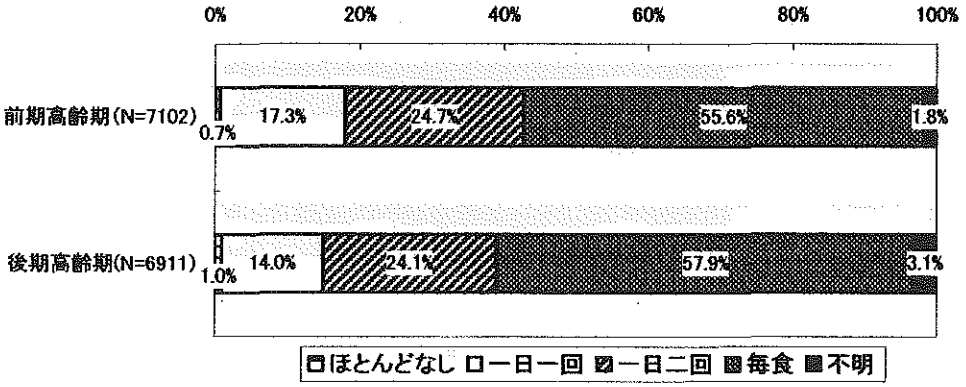
＜年齢階級別比較—野菜の摂取＞

前期高齢期7,102人のうち野菜を1日1回食べるのは1,228人(17.3%)、2回は1,754人(24.7%)、3回は3,946人(55.6%)であった。ほとんど食べないのは49人(0.7%)であった。不明は125人(1.8%)であった。

後期高齢期6,910人のうち野菜を1日1回食べるのは968人(14.0%)、2回は1,664人(24.1%)、3回は3,998人(57.9%)であった。ほとんど食べないのは68人(1.0%)であった。不明は212人(3.1%)であった。

後期高齢者では前期高齢期に比較して野菜を1日3回食べる者が増加していた。野菜を食べる頻度は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(3)-2)。

図14(3)-2野菜の摂取—年齢階級別比較



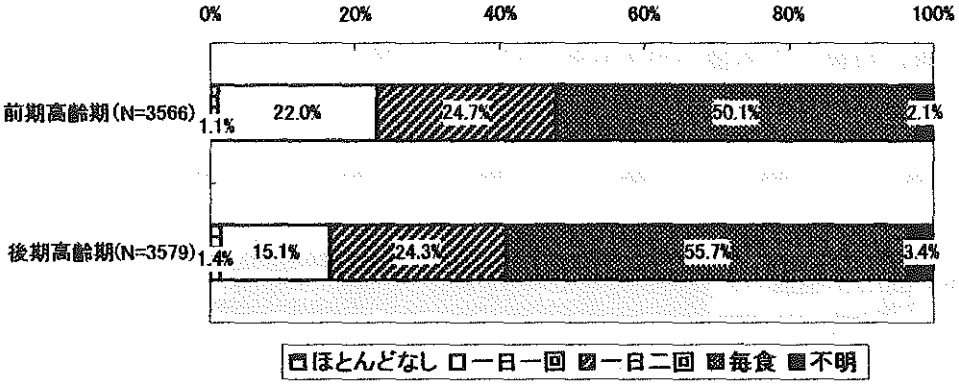
＜男性年齢階級別比較—野菜の摂取＞

男性の前期高齢期3,566人のうち野菜を1日1回食べるのは783人(22.0%)、2回は881人(24.7%)、3回は1,788人(50.1%)であった。ほとんど食べないのは38人(1.1%)であった。不明は76人(2.1%)であった。

男性の後期高齢期3,579人のうち野菜を1日1回食べるのは542人(15.1%)、2回は870人(24.3%)、3回は1,994人(55.7%)であった。ほとんど食べないのは50人(1.4%)であった。不明は123人(3.4%)であった。

男性の野菜の摂取状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(3)-3)。

図14(3)-3野菜の摂取—男性年齢別比較



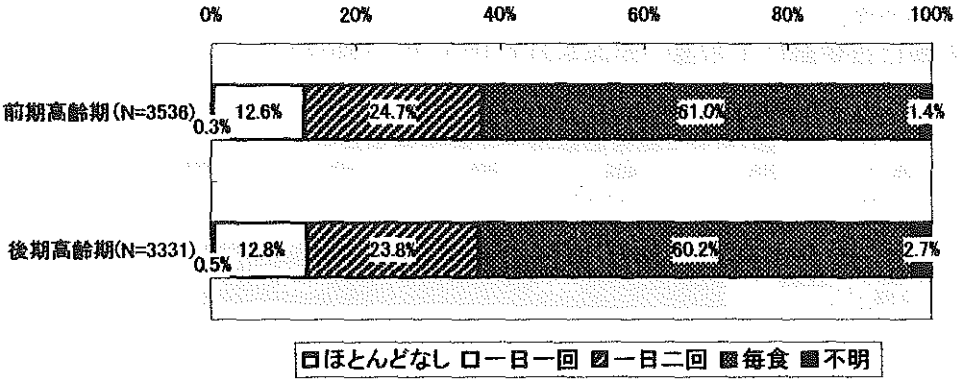
＜女性年齢階級別比較—野菜の摂取＞

女性の前期高齢期3,536人のうち野菜を1日1回食べるのは445人(12.6%)、2回は873人(24.7%)、3回は2,158人(61.0%)であった。ほとんど食べないのは11人(0.3%)であった。不明は49人(1.4%)であった。

女性の後期高齢期3,331人のうち野菜を1日1回食べるのは426人(12.8%)、2回は794人(23.8%)、3回は2,004人(60.2%)であった。ほとんど食べないのは18人(0.5%)であった。不明は89人(2.7%)であった。

女性の野菜の摂取状況には年齢による違いはみられなかった(P<0.01)(図14(3)-4)。

図14(3)-4野菜の摂取—女性年齢別比較



(4)緑茶の飲用

緑茶を飲む回数は14,012人のうち1日に1～3杯が、3,438人(24.5%)、4～6杯は6,566人(46.9%)、7杯以上は3,267人(23.3%)であった。飲まないのは376人(2.7%)で、365人(2.6%)は不明であった。

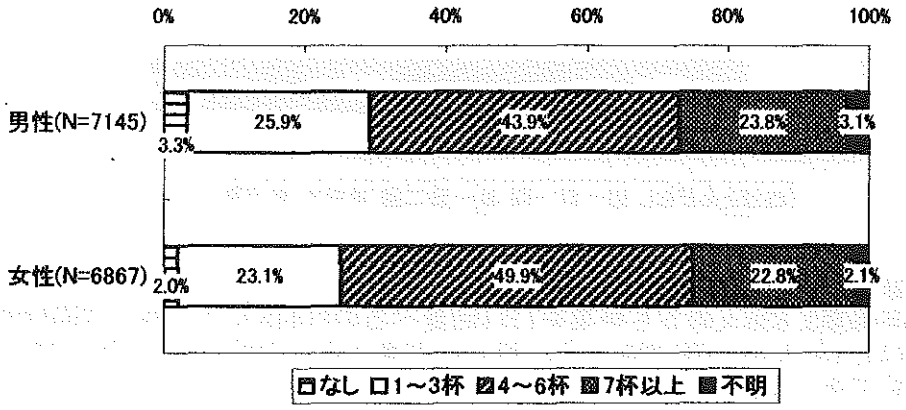
＜性別比較―緑茶の飲用＞

男性7,145人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、1,853人(25.9%)、4～6杯は3,137人(43.9%)、7杯以上は1,698人(23.8%)であった。飲まないのは236人(3.3%)で、221人(3.1%)は不明であった。

女性6,867人のうち緑茶を1日に飲む回数は1～3杯が、1,585人(23.1%)、4～6杯は3,429人(49.9%)、7杯以上は1,569人(22.8%)であった。飲まないのは140人(2.0%)で、144人(2.1%)は不明であった。

緑茶の飲用回数には性による違いがみられた(P<0.01)(図14(4)-1)。

図14(4)-1緑茶の飲用―性別比較



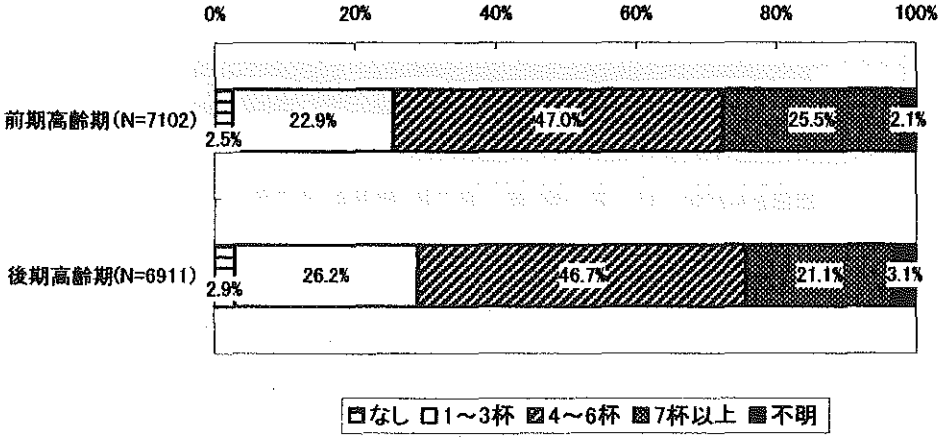
＜年齢階級別比較―緑茶の飲用＞

前期高齢期7,102人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、1,629人(22.9%)、4～6杯は3,338人(47.0%)、7杯以上は1,808人(25.5%)であった。飲まないのは178人(2.5%)で、149人(2.1%)は不明であった。

後期高齢期6,910人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、1,809人(26.2%)、4～6杯は3,228人(46.7%)、7杯以上は1,459人(21.1%)であった。飲まないのは198人(2.9%)で、216人(3.1%)は不明であった。

緑茶の飲用回数には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(4)-2)。

図14(4)-2緑茶の飲用―年齢階級別比較



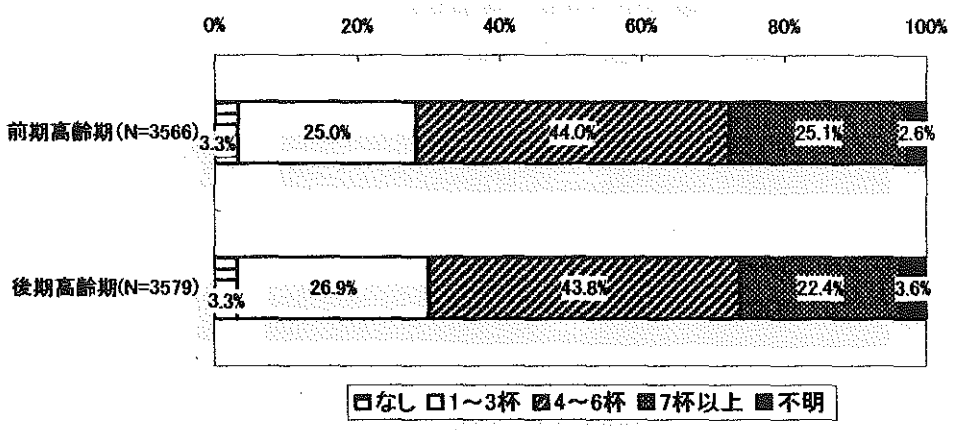
＜男性年齢階級別比較—緑茶の飲用＞

男性の前期高齢期3,566人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、892人(25.0%)、4～6杯は1,568人(44.0%)、7杯以上は896人(25.1%)であった。飲まないのは119人(3.3%)で、91人(2.6%)は不明であった。

男性の後期高齢期3,579人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、961人(26.9%)、4～6杯は1,569人(43.8%)、7杯以上は802人(22.4%)であった。飲まないのは117人(3.3%)で、130人(3.6%)は不明であった。

男性では緑茶の飲用状況には年齢による違いがみられなかった(P<0.01)(図14(4)-3)。

図14(4)-3緑茶の摂取—男性年齢階級別比較



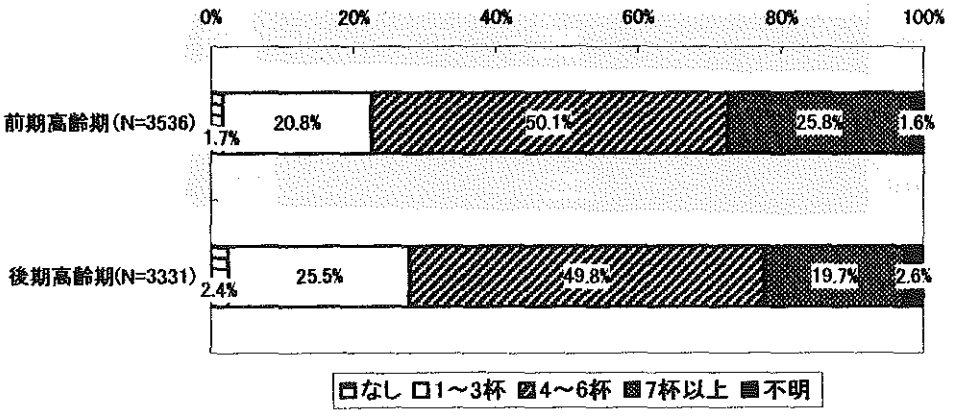
＜女性年齢階級別比較—緑茶の摂取＞

女性の前期高齢期3,536人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、737人(20.8%)、4～6杯は1,770人(50.1%)、7杯以上は912人(25.8%)であった。飲まないのは59人(1.7%)で、58人(1.6%)は不明であった。

女性の後期高齢期3,331人のうち緑茶を1日に1～3杯飲むのは、848人(25.5%)、4～6杯は1,659人(49.8%)、7杯以上は657人(19.7%)であった。飲まないのは81人(2.4%)で、86人(2.6%)は不明であった。

女性の緑茶の飲用状況には年齢による違いがみられた(P<0.01)(図14(4)-4)。

図14(4)-4緑茶の摂取—女性年齢階級別比較



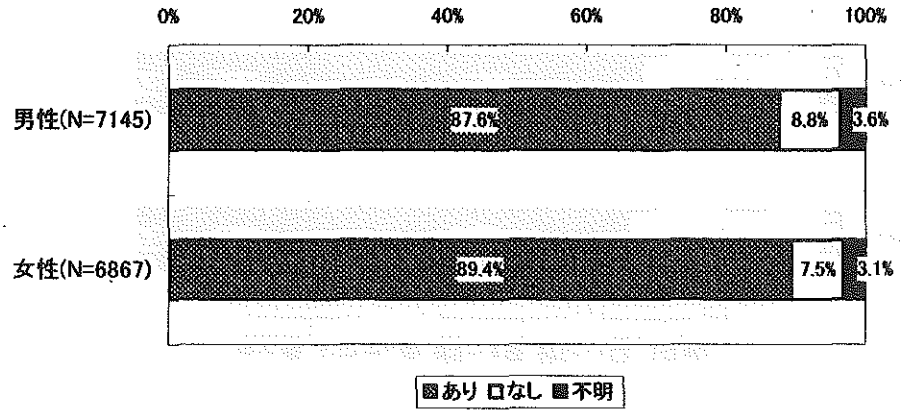
(5)食欲

食欲があるとするのは14,012人のうち、12,395人(88.5%)で、ないとするのは1,145人(8.2%)であった。472人(3.4%)が不明であった。

＜性別比較―食欲＞

男性7,145人のうち食欲があるとするの6,258人(87.6%)で、女性6,867人のうちでは6,410人(89.4%)であった。食欲がないとするのは男性では631人(8.8%)、女性では514人(7.5%)であった。不明は男性256人(3.6%)、女性は216人(3.1%)であった。食欲の有無は性による違いが見られた(P<0.01)(図14(5)-1)。

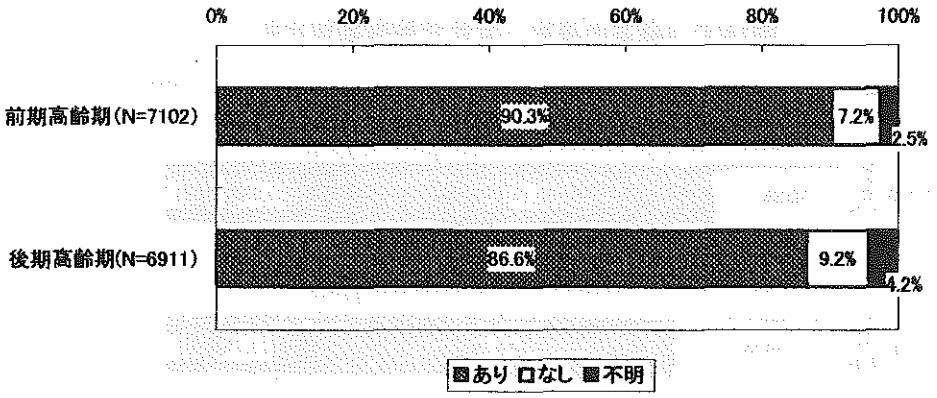
図14(5)-1食欲―性別比較



＜年齢階級別比較―食欲＞

前期高齢期7,102人のうち食欲があるとするのは6,410人(90.3%)であり、後期高齢期6,910人のうちでは5,985人(86.6%)であった。食欲はないとするのは前期高齢期では511人(7.2%)、後期高齢期では634人(9.2%)であった。不明は前期高齢期は181人(2.5%)、後期高齢期は291人(4.2%)であった。食欲の有無は年齢による違いが見られた(P<0.01)(図14(5)-2)。

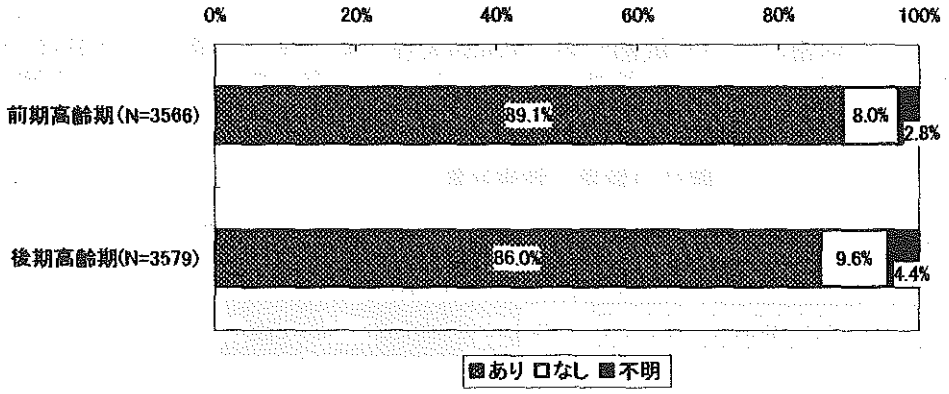
図14(5)-2食欲―年齢階級別比較



＜男性年齢階級別比較―食欲＞

男性の前期高齢期3,566人のうち食欲があるとするのは3,179人(89.1%)であり、後期高齢期3,579人のうち3,079人(86.0%)であった。食欲が無いとするのは前期高齢期では287人(8.0%)で、後期高齢期では344人(9.6%)であった。不明は前期高齢期は100人(2.8%)、後期高齢期は156人(4.4%)であった。男性の食欲の有無は年齢による違いは見られなかった(図14(5)-3)。

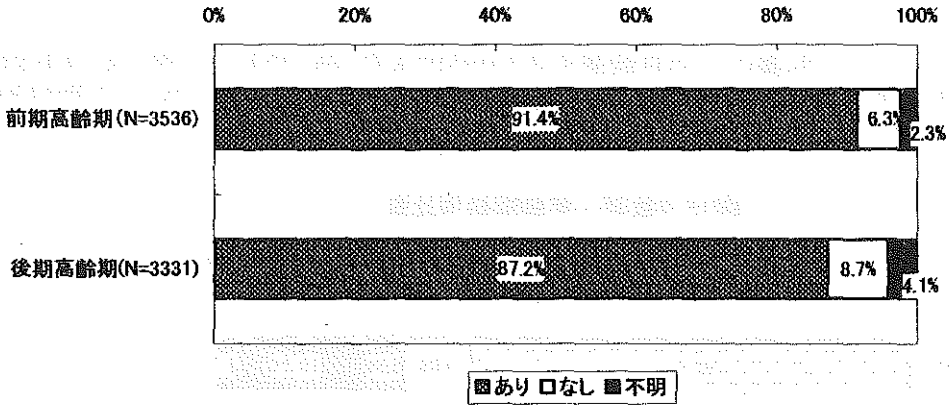
図14(5)-3食欲―男性年齢階級別比較



＜女性年齢階級別比較―食欲＞

女性の前期高齢期3,536人のうち食欲があるとするのは3,231人(91.4%)であり、後期高齢期3,331人のうちでは2,906人(87.2%)であった。食欲がないとするのは前期高齢期では224人(6.3%)、後期高齢期では290人(8.7%)であった。不明は前期高齢期は81人(2.3%)、後期高齢期は135人(4.1%)であった。女性の食欲の有無は年齢による違いが見られた(P<0.01)(図14(5)-4)。

図14(5)-4食欲―女性年齢階級別比較



15　飲酒

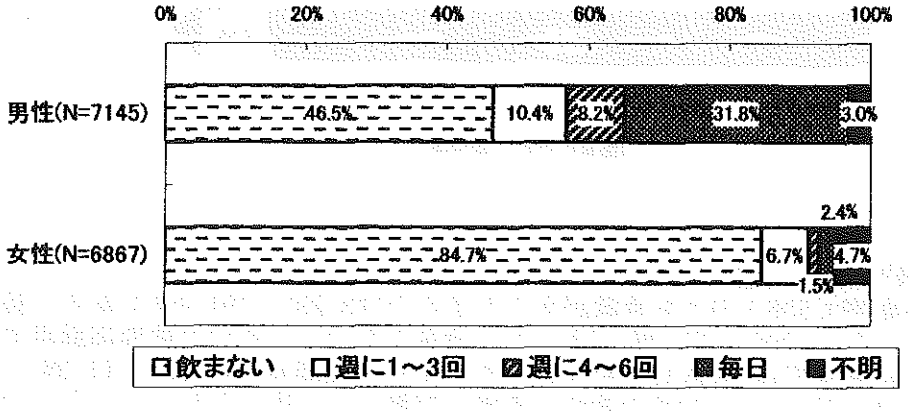
飲酒の状況は14,012人のうち週に1～3日飲酒するのは1,201人(8.6%)であり、週に4～6日は695人(5.0%)、毎日は2,439人(17.4%)であった。飲酒しないのは9,137人(65.2%)、540人(3.9%)は不明であった。

＜性別比較―飲酒＞

男性7,145人のうち週に1～3日飲酒するのは742人(10.4%)であり、週に4～6日は589人(8.2%)、毎日は2,274人(31.8%)であった。飲酒しないのは3,323人(46.5%)であった。不明は217人(3.0%)であった。

女性では6,867人のうち週に1～3日飲酒するのは459人(6.7%)であり、週に4～6日は106人(1.5%)、毎日は165人(2.4%)であった。飲酒しないのは5,814人(84.7%)であった。不明は323人(4.7%)であった(図15-1)。

図15-1飲酒―性別比較

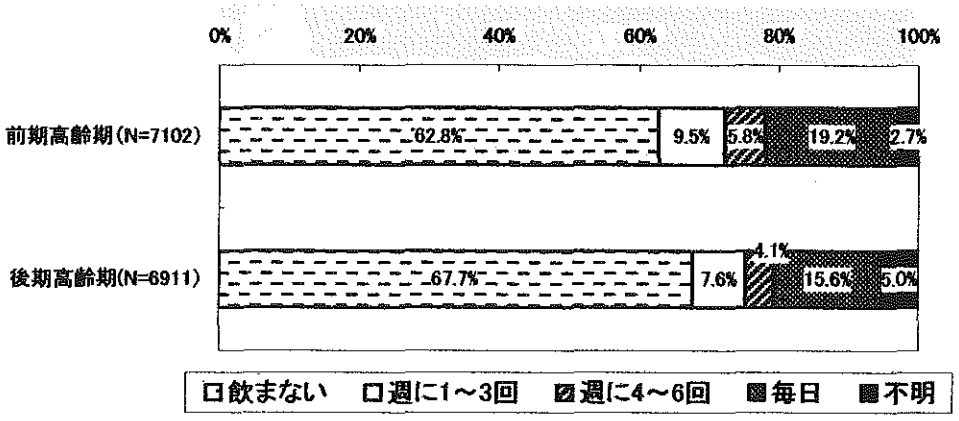


＜年齢階級別比較―飲酒＞

前期高齢期7,102人のうち週に1～3日飲酒するのは674人(9.5%)であり、週に4～6日は412人(5.8%)、毎日は1,363人(19.2%)であった。飲酒しないのは4,461人(62.8%)、不明は192人(2.7%)であった。

後期高齢期6,910人のうち週に1～3日飲酒するのは527人(7.6%)であり、週に4～6日は283人(4.1%)、毎日は1,076人(15.6%)であった。飲酒しないのは4,676人(67.7%)、不明は348人(5.0%)であった(図15-2)。

図15-2飲酒―年齢階級別比較



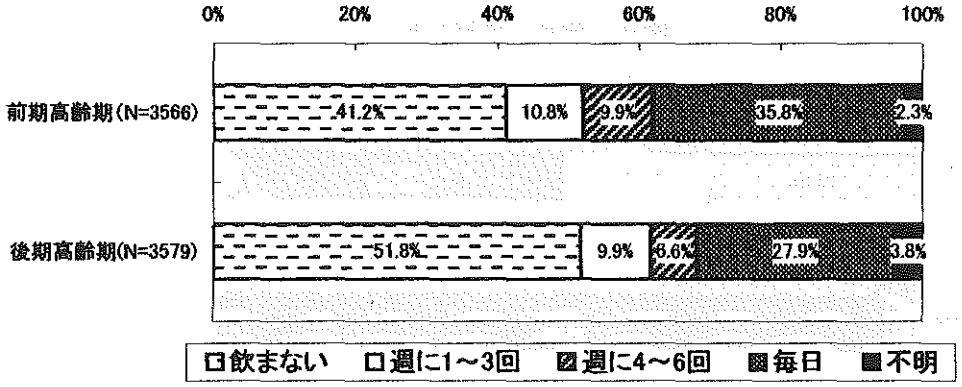
＜男性年齢階級別比較—飲酒＞

男性の前期高齢期3,566人のうち週に1～3日飲酒するのは386人(10.8%)であり、週に4～6日は354人(9.9%)、毎日は1,275人(35.8%)であった。飲酒しないのは1,470人(41.2%)であった。不明は81人(2.3%)であった。

男性の後期高齢期3,579人のうち週に1～3日飲酒するのは356人(9.9%)であり、週に4～6日は235人(6.6%)、毎日は999人(27.9%)であった。飲酒しないのは1,853人(51.8%)であった。不明は136人(3.8%)であった。

男性の飲酒には年齢による違いが見られた(P<0.01)(図15-3)。

図15-3飲酒—男性年齢階級別比較



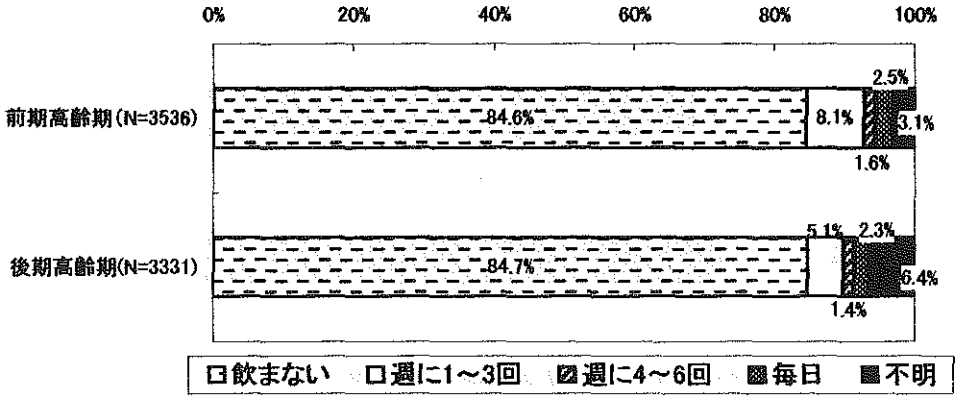
＜女性年齢階級別比較—飲酒＞

女性の前期高齢期3,536人のうち週に1～3日飲酒するのは288人(1.6%)であり、週に4～6日は58人(1.6%)、毎日は88人(2.5%)であった。飲酒しないのは2,991人(84.6%)であった。不明は111人(3.1%)であった。

女性の後期高齢期3,331人のうち週に1～3日飲酒するのは171人(5.1%)であり、週に4～6日は48人(1.4%)、毎日は77人(2.3%)であった。飲酒しないのは2,823人(84.7%)であった。不明は212人(6.4%)であった。

女性の飲酒は年齢による違いが見れらた(P<0.01)(図15-4)。

図15-4飲酒—女性年齢階級別比較



16　喫煙

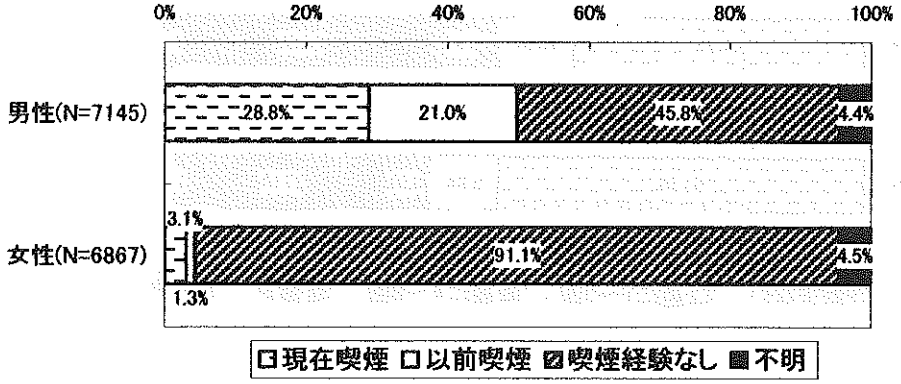
喫煙は14,012人のうち現在喫煙者は2,269人(16.2%)、以前喫煙者は1,590人(11.3%)、喫煙経験はないが9,527人(68.0%)であった。626名(4.5%)は不明であった。

＜性別比較―喫煙＞

男性7,145人のうち現在喫煙者は2,055人(28.8%)、以前喫煙者は1,502人(21.0%)、喫煙経験はないが3,273人(45.8%)であった。不明は315人(4.4%)であった。

女性の6,867人のうち現在喫煙者は214人(3.1%)、以前喫煙者は88人(1.3%)、喫煙経験はないが6,254人(91.1%)であった。不明は311人(4.5%)であった(図16-1)。

図16-1喫煙―性別比較

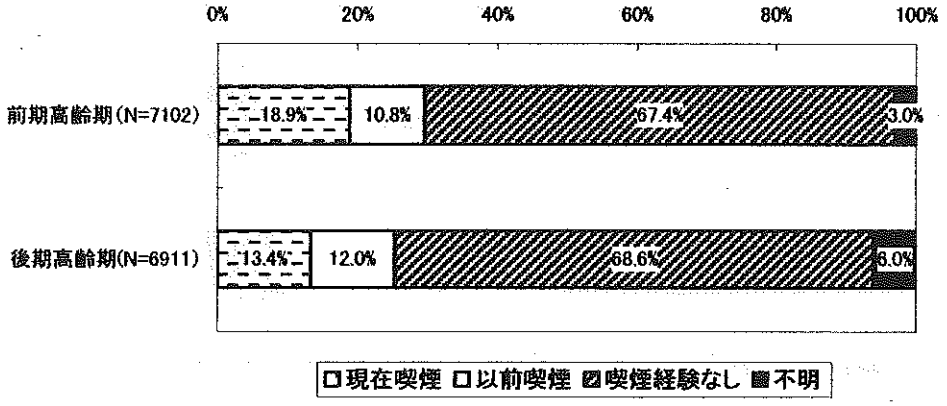


＜年齢階級別比較―喫煙＞

前期高齢期7,102人のうち現在喫煙者は1,341人(18.9%)、以前喫煙者は764人(10.8%)、喫煙経験はないが4,786人(67.4%)であった。不明は211人(3.0%)であった。

後期高齢期6,910人のうち現在喫煙者は928人(13.4%)、以前喫煙者は826人(12.0%)、喫煙経験はないが4,741人(68.6%)であった。不明は415人(6.0%)であった(図16-2)。

図16-2喫煙―年齢階級別比較



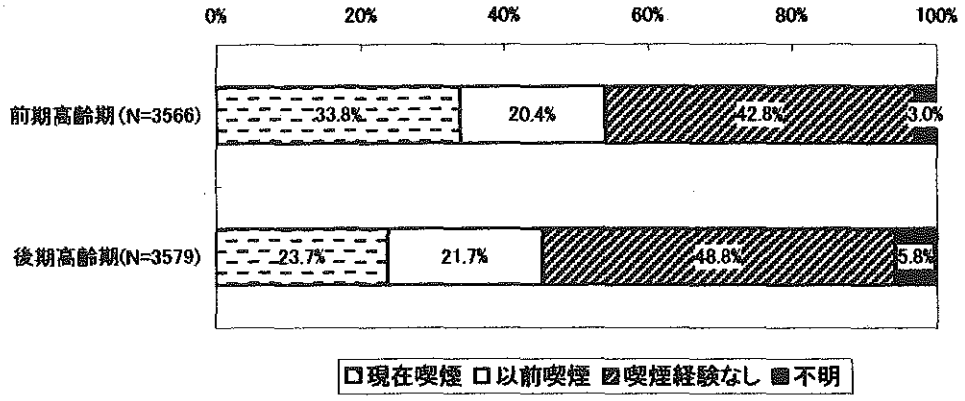
＜男性年齢階級別比較—喫煙＞

男性の前期高齢期3,566人のうち現在喫煙者は1,205人(33.8%)、以前喫煙者は727人(20.4%)、喫煙経験はないが1,527人(42.8%)であった。不明は107人(3.0%)であった。

男性の後期高齢期3,579人のうち現在喫煙者は850人(23.7%)、以前喫煙者は775人(21.7%)、喫煙経験はないが1,746人(48.8%)であった。不明は208人(5.8%)であった。

男性の喫煙は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図16-3)。

図16-3喫煙—男性年齢階級別比較

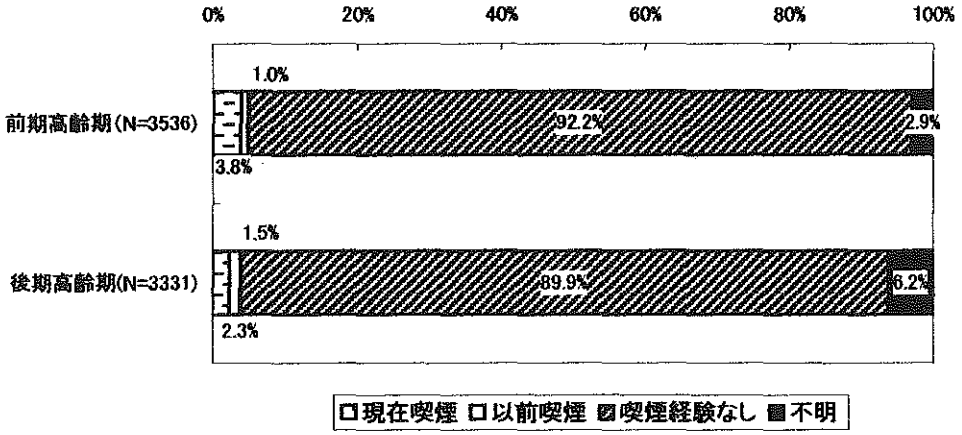


＜女性年齢階級別比較—喫煙＞

女性の前期高齢期3,536人のうち現在喫煙者は136人(3.8%)、以前喫煙者は37人(1.0%)、喫煙経験はないが3,259人(92.2%)であった。不明は104人(2.9%)であった。

女性の後期高齢期3,331人のうち現在喫煙者は78人(2.3%)、以前喫煙者は51人(1.5%)、喫煙経験はないが2,995人(89.9%)であった。不明は207人(6.2%)であった。女性の喫煙は年齢による違いがみられた(P<0.01)(図16-4)。

図16-4喫煙—女性年齢階級別比較



V　まとめ

本年度は各項目の性差、年齢差に注目して、項目ごとに検討を行った。その結果、静岡県内の高齢者の多くは、健康であると感じ、気力、いきがいを持って生活していた。健康への不安や寂しさ、無力感を感じている高齢者も3〜4割いた。

生活満足度、人間関係の満足度は健康状態、生活習慣と深く関係しており、今後はそれらの相互関係を検討することで、より健康で満足度の高い生活を送るために重要な要因を導きだすことができると考える。